

建築工事特記仕様書		章 項目	特 記 事 項	章 項目	特 記 事 項	章 項目	特 記 事 項																																																																																																				
<p>【1】 工 事 概 要</p> <p>1. 工 事 場 所 京都府宇治市宇治折居18番地</p> <p>2. 敷 地 面 積 30,237.51 m²</p> <p>3. 建築物概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>棟 名</th> <th>構 造</th> <th>階 数</th> <th>建築面積 (m²)</th> <th>延べ面積 (m²)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 事務所棟</td> <td>RC</td> <td>2</td> <td>1,007.60</td> <td>1,734.04</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 渡り廊下</td> <td>S 一部RC</td> <td>1</td> <td>111.30</td> <td>0.00</td> <td>開放廊下</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>4. そ の 他</p> <p>【2】 適 用 範 囲</p> <p>現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、標準仕様書に示す範囲とする。 すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。 上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）をいう。（以下、これを「標仕」という。） 本書に特に記載のない事項であっても、すべて、「標仕」の適用を受けるものとする。</p> <p>【3】 工 事 区 分</p> <p>設計図書による。 別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。</p> <p>【4】 工 事 仕 様</p> <p>1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「標仕」のほか別記の適用基準による。 2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。 4. 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p>		棟 名	構 造	階 数	建築面積 (m ²)	延べ面積 (m ²)	備 考	1 事務所棟	RC	2	1,007.60	1,734.04		2 渡り廊下	S 一部RC	1	111.30	0.00	開放廊下																			<p>① ③ 特別な材料の工法</p> <p>設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。</p> <p>④ 風圧力及び積雪に対する性能 (8.4.3, 8.5.3) (10.5.3) (13.2.3~13.4.3)</p> <p>⑤ 現場代理人</p> <p>本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。</p> <p>⑥ 工事工程報告</p> <p>月報は毎月末日に、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週（金）曜日に提出する。</p> <p>⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4)</p> <p>⑧ 設備工事との取合い</p> <p>⑨ 施工図等の取扱い (1.2.3)</p> <p>⑩ 工事写真 (1.2.4)</p>	<p>設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。</p> <p>建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等</p> <p>風速 (Vo) ● 3 2 (平成12年5月31日建設省告示第1454号)</p> <p>地表面粗度区分 ○ I ○ II ● III ○ IV</p> <p>多雪地域の指定 ● なし ○ あり</p> <p>本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。</p> <p>月報は毎月末日に、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週（金）曜日に提出する。</p> <p>適用する（適用事項は、現場説明書による）</p> <p>施工範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ● 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ● 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ● 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 <p>施工図（総合図）</p> <p>設備機器の位置、取合等の検討できる施工図（総合図）を作成し、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。</p> <p>工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編（最新版）（国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修）によるほかは監督職員の指示による。 下記ものを監督職員に提出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>部数(ネガ枚につき)</th> <th>分 類 ・ 規 格 原 版 の 大 き さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着 工 前</td> <td>● 2</td> <td>● カラーサービス版 ○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>工 事 中</td> <td>● 2</td> <td>● カラーサービス版 ○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">完 成 時</td> <td>屋 内</td> <td>● 2 ○ カラーサービス版 ○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>(80)箇所</td> <td>竣工アルバムに張付 ● カラーキャビネ版 ○ 60×70以上</td> </tr> <tr> <td>外 観</td> <td>● 2 ● カラーキャビネ版 ○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>(20)箇所</td> <td>夜景(10)箇所 竣工アルバムに張付 ○ カラーパネル半切 ○ 60×70以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>空 撮</td> <td>● 2 ● カラーキャビネ版</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(2)箇所</td> <td>竣工アルバムに張付</td> </tr> </tbody> </table> <p>デジタル写真の撮影にあたり、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒板の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。 完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。 ● 完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者（建築写真専門業者）とする。 撮影業者 ○ 建築完成写真撮影の実績ある業者で下記による。 ※ 監督職員の承諾 ○ 指定（ エスエス大阪 ） ○A-BOOKIV (A4版) ※ 製本アルバム（2部）※電子データJPEG（2部）</p> <p>適用する</p> <p>現場説明書による</p> <p>○引渡しを要するもの（ ） ○工事現場において再利用を図るもの、再生資源化を図るもの（ ）</p> <p>● 指定副産物の搬出（詳細は現場説明書による） ● アスファルトコンクリート塊 ● セメントコンクリート塊 ○ 建設発生土木材</p> <p>● 指定副産物の処分地（詳細は現場説明書による） ○ 指定地処分（ ） ● 自由処分（最寄りの再生資源化施設へ搬出すること）</p> <p>● 指定副産物以外の搬出 ※ 構外搬出適切処理 ○ 特別管理産業廃棄物の処理（ ）</p> <p>再生資源利用（促進）計画書、実施書の提出 詳細は現場説明書「II 特記事項14建設副産物の取扱い2）再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。 ● 建設発生土及び建設副産物処理計画書、報告書を提出すること。 ● 産業廃棄物管理票（マニフェスト）制度により、適正な処理を行うこと。 ● 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。</p>		部数(ネガ枚につき)	分 類 ・ 規 格 原 版 の 大 き さ (mm)	着 工 前	● 2	● カラーサービス版 ○ 24×36以上	工 事 中	● 2	● カラーサービス版 ○ 24×36以上	完 成 時	屋 内	● 2 ○ カラーサービス版 ○ 24×36以上	(80)箇所	竣工アルバムに張付 ● カラーキャビネ版 ○ 60×70以上	外 観	● 2 ● カラーキャビネ版 ○ 24×36以上	(20)箇所	夜景(10)箇所 竣工アルバムに張付 ○ カラーパネル半切 ○ 60×70以上		空 撮	● 2 ● カラーキャビネ版		(2)箇所	竣工アルバムに張付	<p>① 14 発生材の処理等 (7A) (A) (成形板)</p> <p>処理を行う範囲 ○ 図示（仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認） ○ 全ての室 ○ _____</p> <p>施工調査</p> <p>アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。</p> <p>(1) アスベスト成形板使用部位の確認 記載上の成形板及びその使用範囲以外についても監督職員と協議の上確認を行うこと。</p> <p>(2) アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 (3) アスベスト成形板使用数量の確認 (4) 施工範囲等の確認</p> <p>確認方法 ○ 成形板の製造年等の確認 ○ X線解析法 処理方法 「非飛散性7A) (A) 廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従い、あらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分を行うこと。</p> <p>(1.5.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工事種別</th> <th>適用する技能士の技能検定における選択作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮設工事</td> <td>● とび作業</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工事</td> <td>● 鉄筋組立作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリート工事</td> <td>● 左官作業 ● 型枠工事作業 ● コックリ圧送工事作業</td> </tr> <tr> <td>鉄骨工事</td> <td>● 構造物鉄工作業 ● とび作業</td> </tr> <tr> <td>ブロック及びALC工</td> <td>○ コックリブロック工事作業 ● ALC工 補工事作業</td> </tr> <tr> <td>カーテンウォール工事</td> <td>○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用ガラス工作業 ○ ガラス工事作業</td> </tr> <tr> <td>防水工事</td> <td>● フォルト防水工事作業 ● シーリング 防水工事作業 ● カルコム系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>○ 石張り作業</td> </tr> <tr> <td>タイル工事</td> <td>● タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>木工事</td> <td>● 大工工事作業</td> </tr> <tr> <td>屋根及びとい工事</td> <td>● 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業</td> </tr> <tr> <td>金属工事</td> <td>● 鋼製下地工事作業 ● 内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>左官工事</td> <td>● 左官作業</td> </tr> <tr> <td>塗装工事</td> <td>● 建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>建具工事</td> <td>● ビル用ガラス工作業 ● ガラス工事作業 ● 自動ドア施工作業</td> </tr> <tr> <td>内装工事</td> <td>● プラック系床仕上げ工事作業 ● ボード 仕上げ工事作業 ● カーペット系床仕上げ工事作業 ● 壁装作業</td> </tr> <tr> <td>排水工事</td> <td>● 建築配管作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>● 溶融ハイドロマーカ工事作業 ● 加熱ハイドロマーカ工事作業</td> </tr> <tr> <td>植栽工事</td> <td>● 造園工事作業</td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。</p> <p>適用する</p> <p>居室の内装および天井裏等に使用する材料は、建築基準法第28条の2に定めるものとする。なお設計図書中に特記無き場合はF☆☆☆☆級を使用する。 室内空気中の化学物質の濃度測定及び確認 ※要 ・ 不要 測定箇所数（延べ） ※ 2 時間測定 ● 仕上げによる</p> <p>① 完成図 (1.7.2)</p> <p>作成する ※詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。</p> <p>(1) ※ 完成図面 図面は施工図に合わせて受注者が修正すること（●CADデータ） 電子データの形式は監督職員の指示による（●dwg ●pdf）1式</p> <p>(2) ※ 製本図面 ●仕上りA4版-A3サイズ2つ折り製本（縮小図） 3部 ●仕上りA2版-A1サイズ2つ折り製本 1部</p> <p>(3) ● 保全に関する資料の部数 2部</p> <p>(4) ● 施工図（●構造躯体 ●仕上げ ●その他監督職員の指示するもの） 2部</p> <p>(5) ● その他 ●建築確認申請（計画変更申請書）および関係法令届出一式（仕上りA4版-A3サイズ2つ折り製本） 2部 ●総合図（仕上りA2版-A1サイズ2つ折り製本） 2部 ●地中埋設物等にかかる詳細資料 2部</p> <p>作成する（提出部数 ● 2部 ○ ___部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ● 建物の主要な構造部及び外構についての説明 ● 建物を使用する上での注意事項 ● 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ● 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ● 建物等の清掃の要点 ● 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 <p>建設大臣官庁官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」 建築保全「業務共通仕様書」を参考として作成すること。</p> <p>19 中长期保全計画書</p> <p>作成する（提出部数 ○ 2部 ○ ___部）</p>	工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業	仮設工事	● とび作業	鉄筋工事	● 鉄筋組立作業	コンクリート工事	● 左官作業 ● 型枠工事作業 ● コックリ圧送工事作業	鉄骨工事	● 構造物鉄工作業 ● とび作業	ブロック及びALC工	○ コックリブロック工事作業 ● ALC工 補工事作業	カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用ガラス工作業 ○ ガラス工事作業	防水工事	● フォルト防水工事作業 ● シーリング 防水工事作業 ● カルコム系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業	石工事	○ 石張り作業	タイル工事	● タイル張り作業	木工事	● 大工工事作業	屋根及びとい工事	● 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業	金属工事	● 鋼製下地工事作業 ● 内外装板金作業	左官工事	● 左官作業	塗装工事	● 建築塗装作業	建具工事	● ビル用ガラス工作業 ● ガラス工事作業 ● 自動ドア施工作業	内装工事	● プラック系床仕上げ工事作業 ● ボード 仕上げ工事作業 ● カーペット系床仕上げ工事作業 ● 壁装作業	排水工事	● 建築配管作業	舗装工事	● 溶融ハイドロマーカ工事作業 ● 加熱ハイドロマーカ工事作業	植栽工事	● 造園工事作業	<p>② ② 監督職員事務所 (2.3.1)</p> <p>規模 ○ 10m²程度 ○ 20m²程度 ● 35m²程度 ○ 65m²程度 ○ 100m²程度</p> <p>仕上 床 ○ 合板張り素地 ● ビニルシート敷き ○ パンチペット敷き 内壁、天井 ● 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り 屋根 ● 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り ○ 鉄板張り調合ペイント塗り 休憩室 ● 設けない ○ 設ける（畳敷き） ○ _____</p> <p>備品 ● 机 ● いす ● 保護帽 ● ゴム長靴 ● 雨がっぱ ● 衣類かか ● ノートPC（上記7品、2 人分程度） ● 書棚 ○ 製図板 ● 掛時計 ● 温度計 ● 消火器 ● 掃除具 ● 懐中電灯 ● 湯沸器 ● 加入電話機 ● 冷暖房機器 ● コピー機 ● ネット回線 ● 流し台 ● ホワイトボード ● 標仕（平成31年版） ● 建築工事監理指針（令和元年版） ● 建築工事施工チェックシート ● 建築工事標準詳細図（平成28年版） ● 工事写真撮影ガイドブック 建築工事編及び解体工事編（最新版）</p> <p>③ 工事用水</p> <p>構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる（●有償 ○無償）</p> <p>④ 工事用電力</p> <p>構内既存の施設 ● 利用できない ○ 利用できる（○有償 ○無償）</p> <p>⑤ 仮囲い等</p> <p>● 図示による ○ _____</p> <p>⑥ 設計G L</p> <p>● 図示による ○ 設計G L = 現状G L</p>	<p>③ ① 埋め戻し及び盛土 (3.2.3)</p> <p>● A種 砂質土（山砂の類）を水締め又は機器による締固め（表3.2.1） ● B種 根切り土の中の良質土を機器による締固め ○ C種 他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め ○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め ○ その他（材料 _____ 工法 _____） ○ 建設発生土（盛土材）の外部からの受入土量（ _____ m³） 発生場所（ _____）</p> <p>② 建設発生土の処理 (3.2.5)</p> <p>下記に定めるほかは、現場説明書による ● 構外指示の受入場所に処分 受入場所 ●（一財）城陽山砂利採取地整備公社 ○ _____ 土壤調査 ● 行う（受入場所指定の検査） ○ _____ ○ 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例施行規則第7条第3項13号及び第4項に規定する方法 仮置場所 ● 図示 _____</p> <p>○ 構内指示の場所に敷き均し ○ 構内指示の場所にたい積 ○ 構外搬出適切処理 ※ 中丹東土木事務所管内及び丹後土木事務所管内で、 搬出土量が少量（5.0m³以内）かつ緊急の場合等</p> <p>③ 山留めの撤去 (3.3.3)</p> <p>鋼矢板等の抜き跡の処理 ※砂で充填 ○ _____ ● 撤去する ○ 存置する</p>	<p>④ ④ 1 基礎種別 (4.2.2) ~ (4.5.8)</p> <p>（この章特記なき限り構造特記仕様書による）</p> <p>○ 杭基礎 杭の種別、本数等 構造図による 工法 構造図による 試験杭 ○ 行う（構造図による） 支持層の位置及び土質 構造図による 杭の支持地盤への掘削深さ 構造図による 杭継手 ○ _____ ○ アーク溶接 ○ 無溶接継手（工法 _____） 杭の水平方向位置ずれ精度 構造図による 杭の載荷試験 ○ 行う（構造図による） 継杭溶接部試験 ○ 行う（浸透探傷試験 _____ 本） ○ 直接基礎 載荷試験 ○ 行う（下記以外は構造図による）</p> <p>2 地盤の載荷試験 (4.2.4)</p> <p>平板載荷試験 試験箇所数 _____ 箇所（試験位置図示） 設計地耐力 _____ t/m²</p> <p>3 既製コックリ杭地業 (4.3.1) (4.3.4) (4.3.5)</p> <p>○ セメントミルク工法 根固め液及び杭周固定液の管理試験 ※標仕 4.3.4 (6)(コ)(a)から(g)による ○ _____</p> <p>○ 特定埋込杭工法</p> <p>4 鋼杭地業 (4.4.3)</p> <p>鋼杭の材料 ○ 図示による ○ _____</p> <p>5 場所打ちコックリ杭地業 (4.5.1) (4.5.5) (4.5.6)</p> <p>○ アースドリル工法 ○ リバース工法 ○ オールケーシング工法 超音波測定器による孔壁の確認 ○ 行う ○ 行わない ○ 場所打ち鋼管コックリ杭工法 ○ 拡底杭</p>
棟 名	構 造	階 数	建築面積 (m ²)	延べ面積 (m ²)	備 考																																																																																																						
1 事務所棟	RC	2	1,007.60	1,734.04																																																																																																							
2 渡り廊下	S 一部RC	1	111.30	0.00	開放廊下																																																																																																						
	部数(ネガ枚につき)	分 類 ・ 規 格 原 版 の 大 き さ (mm)																																																																																																									
着 工 前	● 2	● カラーサービス版 ○ 24×36以上																																																																																																									
工 事 中	● 2	● カラーサービス版 ○ 24×36以上																																																																																																									
完 成 時	屋 内	● 2 ○ カラーサービス版 ○ 24×36以上																																																																																																									
	(80)箇所	竣工アルバムに張付 ● カラーキャビネ版 ○ 60×70以上																																																																																																									
	外 観	● 2 ● カラーキャビネ版 ○ 24×36以上																																																																																																									
	(20)箇所	夜景(10)箇所 竣工アルバムに張付 ○ カラーパネル半切 ○ 60×70以上																																																																																																									
	空 撮	● 2 ● カラーキャビネ版																																																																																																									
	(2)箇所	竣工アルバムに張付																																																																																																									
工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業																																																																																																										
仮設工事	● とび作業																																																																																																										
鉄筋工事	● 鉄筋組立作業																																																																																																										
コンクリート工事	● 左官作業 ● 型枠工事作業 ● コックリ圧送工事作業																																																																																																										
鉄骨工事	● 構造物鉄工作業 ● とび作業																																																																																																										
ブロック及びALC工	○ コックリブロック工事作業 ● ALC工 補工事作業																																																																																																										
カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用ガラス工作業 ○ ガラス工事作業																																																																																																										
防水工事	● フォルト防水工事作業 ● シーリング 防水工事作業 ● カルコム系塗膜防水工事作業 ○ セメント系防水工事作業																																																																																																										
石工事	○ 石張り作業																																																																																																										
タイル工事	● タイル張り作業																																																																																																										
木工事	● 大工工事作業																																																																																																										
屋根及びとい工事	● 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業																																																																																																										
金属工事	● 鋼製下地工事作業 ● 内外装板金作業																																																																																																										
左官工事	● 左官作業																																																																																																										
塗装工事	● 建築塗装作業																																																																																																										
建具工事	● ビル用ガラス工作業 ● ガラス工事作業 ● 自動ドア施工作業																																																																																																										
内装工事	● プラック系床仕上げ工事作業 ● ボード 仕上げ工事作業 ● カーペット系床仕上げ工事作業 ● 壁装作業																																																																																																										
排水工事	● 建築配管作業																																																																																																										
舗装工事	● 溶融ハイドロマーカ工事作業 ● 加熱ハイドロマーカ工事作業																																																																																																										
植栽工事	● 造園工事作業																																																																																																										
竣工年月日																																																																																																											
監理者																																																																																																											
施工者																																																																																																											

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																																				
④	地業工事	6 砂利及び砂地業 (4.6.2) (4.6.3)	⑥ コンクリート工事	1 コンクリートの種類 (6.2.1)	<p>(この章特記なき限り構造特記仕様書による)</p> <p>種類 ※普通コンクリート ○ _____</p> <p>類別 ※Ⅰ類 ○Ⅱ類 (表6.2.1)</p> <p>設計基準強度 (F_c)</p> <table border="1"> <tr> <th>打設部位</th> <th>F_c (N/mm²)</th> <th>スラブ (cm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">構造体</td> <td>基礎</td> <td>○24 ○</td> <td>○15 ○18</td> </tr> <tr> <td>上部</td> <td>○24 ○</td> <td>○15 ※18 土間スラブを含む</td> </tr> <tr> <td>土間コンクリート</td> <td>○18 ○</td> <td>○15 ○18</td> <td>側溝・犬走り</td> </tr> <tr> <td>捨コンクリート</td> <td>○18 ○</td> <td>○15 ○18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート</td> <td>○21 ○</td> <td>※21 ○18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>無筋コンクリート</td> <td>※18 ○</td> <td>○15 ○18</td> <td>標仕6.14.11による</td> </tr> </table> <p>※構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [F_c +構造体強度補正值 (S)] N/mm² (6.14.11によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)</p>	打設部位	F _c (N/mm ²)	スラブ (cm)	備考	構造体	基礎	○24 ○	○15 ○18	上部	○24 ○	○15 ※18 土間スラブを含む	土間コンクリート	○18 ○	○15 ○18	側溝・犬走り	捨コンクリート	○18 ○	○15 ○18		軽量コンクリート	○21 ○	※21 ○18		無筋コンクリート	※18 ○	○15 ○18	標仕6.14.11による	⑦ 鉄骨工事	10 工作図 (7.3.2)	<p>※フレッシュコンクリートの試験 ○省略する</p> <p>11 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)</p> <p>常時土又は水に直接接する部分の使用 ○可 ○不可 種類 ○1種 ○2種 施工箇所 _____ 気乾単位容積質量 _____ t/m³</p> <p>12 寒中コンクリート (6.11.1)</p> <p>予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節 (寒中コンクリート) による。</p> <p>13 暑中コンクリート (6.12.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>日平均気温が25度を超える期間 (打設日)</th> <th>補正值</th> </tr> <tr> <td>北部地域</td> <td>7月11日~8月31日</td> <td>※6N/mm²</td> </tr> <tr> <td>中部地域</td> <td>7月21日~8月31日</td> <td>○3N/mm²</td> </tr> <tr> <td>南部地域</td> <td>7月1日~9月10日</td> <td></td> </tr> </table> <p>14 マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2)</p> <p>施工箇所 _____ セメントの種類 ○中麻熟ポルトランドセメント ○シリカセメント ○低熱ポルトランドセメント ○高炉セメントB種 ○フライアッシュセメントB種 ○普通ポルトランドセメント 混和材料 ○混和剤 ※AE減水剤又は高性能AE減水剤 (JIS A 6204) ○ _____ ○フライアッシュのⅡ種 (JIS A 6201) ○高炉スラグ微粉末の3000若しくは4000 (JIS A 6206) ○ _____ スラブ ※15cm ○ _____</p> <p>15 無筋コンクリート (6.14.1)</p> <p>コンクリートの種類 ※普通コンクリート ○ _____</p> <p>16 コクリート車等の過積載防止対策等</p> <p>受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。</p>	地域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補正值	北部地域	7月11日~8月31日	※6N/mm ²	中部地域	7月21日~8月31日	○3N/mm ²	南部地域	7月1日~9月10日	
		打設部位		F _c (N/mm ²)		スラブ (cm)	備考																																								
	構造体	基礎		○24 ○		○15 ○18																																									
		上部		○24 ○		○15 ※18 土間スラブを含む																																									
土間コンクリート	○18 ○	○15 ○18	側溝・犬走り																																												
捨コンクリート	○18 ○	○15 ○18																																													
軽量コンクリート	○21 ○	※21 ○18																																													
無筋コンクリート	※18 ○	○15 ○18	標仕6.14.11による																																												
地域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補正值																																													
北部地域	7月11日~8月31日	※6N/mm ²																																													
中部地域	7月21日~8月31日	○3N/mm ²																																													
南部地域	7月1日~9月10日																																														
7 捨てコンクリート地業 (4.6.4)	厚さ (mm) ○ 図示による ※50	2 コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)	3 セメントの類別 (6.3.1)	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○高炉セメントのB種 (適用箇所 _____) ○シリカセメント ○フライアッシュセメントのB種 (適用箇所 _____)	11 仮組 (7.3.10)	○実施する部位 () ○実施しない																																									
8 床下防湿層 (4.6.5)	ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm 重ね幅縦及び基礎梁際のみ込み150mm以上 施工範囲 ○ 図示による ●建物内の土間スラブ (土間コンクリート含む) の直下 (ピット下を除く) ○捨コンクリートの直下	3 セメントの類別 (6.3.1)	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○高炉セメントのB種 (適用箇所 _____) ○シリカセメント ○フライアッシュセメントのB種 (適用箇所 _____)	12 溶接作業における技能資格者 (7.6.3)	12 溶接作業における技能資格者 (7.6.3)	溶接作業者の技量付加試験 ※行わない ○行う 試験の要領 ○ 図示による () ○ _____																																									
9 土間断熱材	●押出法ポリスチレンフォーム3種bのスキン層付き (断熱材B) ○ _____ 厚さ ○ 25mm ● 50mm	4 骨材 (6.3.1)	粗骨材 ※砂利 (JIS A5308) , 砕石 (JIS A5005) ○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○再生骨材H 細骨材 ※砂 (JIS A5308) , 砕砂 (JIS A5005) ○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○銅スラグ ○フェロカスラグ ○再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※A (無害) ○ _____	13 溶接接合 (7.6.4) (7.6.7)	13 溶接接合 (7.6.4) (7.6.7)	開先の形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) による ○ _____ エンドタブの切断 ○有 ○無 適用箇所 ※ 図示による ○ _____ 切断面の仕上げ※グラウトにより、粗さ100μm程度以下及びリブ深さ1mm程度以下 ○ _____																																									
10 地盤改良	○現場発生土を再利用する。 ○ _____ 改良方法 _____ セメント及びセメント系固着材を使用した改良土を使用する場合、六価クロム溶出試験を実施し、土壌環境基準を勘案して必要に応じ適切な措置を講ずること。また、再利用しようとする場合は、基準以下であることを確認すること。「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」(一財)日本建築センター)を参考とすること。	5 混和材料 (6.3.1)	○混和剤 ※AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のⅠ種 (JIS A 6204) 防錆剤 ※鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) ○混和材 ※フライアッシュ (JIS A 6201) Ⅰ種、Ⅱ種若しくはⅣ種 ○コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○コンクリート用シリカフェューム (JIS A 6207) ○コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)	14 溶接部の試験 (7.6.12)	14 溶接部の試験 (7.6.12)	完全溶込溶接部の超音波探傷試験 ※行う ○行わない ○工場溶接 A0QL ○4.0% ○2.5% 検査水準 ○第6水準 (全て) ○工事現場溶接																																									
⑤	鉄筋工事	(この章特記なき限り構造特記仕様書による) (表5.2.1)	6 構造体強度補正值 (6.3.2)	※気温による構造体強度補正值 (S)	⑦ 鉄骨工事	16 耐火被覆 (7.9.2) ~ (7.9.7)																																									
		1 鉄筋の種類等 (5.2.1)	異形鉄筋	種類 記号 径 (mm) 備考			1 鉄骨の製作工場 (7.1.3)	(この章特記なき限り構造特記仕様書による)	※建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(OS OH OM OR OJ)グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ○監督職員の承諾する工場(標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)																																						
		2 溶接金網 (5.2.2)	網目の形状、寸法 100 x 100 鉄線の径 6.0 mm	7 打継ぎ (6.6.4)			位置 ※構造図による ●標仕 6.6.4 (1) による 目地の寸法 ※ 図示による ● 10mm	2 施工管理技術者 (7.1.4)	適用する																																						
		3 鉄筋の継手及び定着 (5.3.4) (5.5.2) (5.6.3)	部 位 接合方法 径 (mm) 重ね継手の長さ	8 型枠 (せき板) (6.2.5) (6.8.1) (6.8.2)			合板の規格 ※「合板の日本農林規格」の「コクリート型枠用合板の規格」による合板 合板の材種 ※広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 厚さ (mm) ※12 ○ _____	3 鋼材 (7.2.1)	種類 形状及び寸法 ※ 図示による ○ _____																																						
		4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ※構造図による ○表5.3.6による (次の2項目のかぶり厚さを除く) ○軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ○塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。	打放し仕上げのせき板 ※合板せき板を用いる場合 (表6.2.4)			打放し仕上げのせき板 ※合板せき板を用いる場合 (表6.2.4)	4 高力ボルト (7.2.2) (7.4.2)	ボルトの区分 ○トルシヤ形高力ボルト ○溶融亜鉛めっき高力ボルト ○JIS形高力ボルト ○ _____ ねじの呼び ○ _____ すべり係数試験 ○行わない ○行う 試験方法等 ○ 図示による ○ _____																																						
5 圧接完了後の試験 (5.4.10)	試験方法 ※超音波探傷試験 ○引張試験 試験方法等 ※標仕 5.4.10 (イ) (6) ①~⑥による ○ _____	コンクリートの仕上りの平たんさ	コンクリートの仕上りの平たんさ	5 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.4.2)	セットの種類 ○1種 (F8T) 相当 摩擦面の処理 ○プラスト処理 (表面粗度50μmRz以上) ○リン酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※すべり耐力試験 試験方法等 ○ 図示による ○ _____	16 アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2) (7.10.3)	適用 ○構造用アンカーボルト 種類 ○SNR400B ○ _____ アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○ _____ ○建方用アンカーボルト 種類 ○SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1) 種類 ○A種 ○B種 柱底均しモルタルの厚さ ○50mm ○30mm																																								
		スリーブの材種 (表6.8.1)	スリーブの材種 (表6.8.1)	6 普通ボルト (7.2.3) (7.3.8)	ねじの呼び ○ _____ 母屋又は胴縁の取付けに使用する普通ボルトの孔径 ○ _____ ※呼び径+1.0mm	⑦ 柱底均しモルタル (7.2.9) (7.10.3)	モルタルの種別 ※無収縮モルタル ○ _____ 材料・調合等 ※標仕 7.2.9 (2) (7) から (イ) による ○ _____ 厚さ ※ 図示による ○ _____ 工法 ※A種 ○B種																																								
		水密を要する地中部分等	水密を要する地中部分等	7 溶接材料 (7.2.5)	溶接材料 ※標準仕様書7.2.5 (1) (2) による ○ 図示による ○ _____																																										
		水密を要しない地中部分等	水密を要しない地中部分等	8 ターンバックル (7.2.6)	鋼の種類 ※割棒式 ○パイプ式 ボルトの種類 ※羽子板ボルト ○両ねじボルト ○アイボルト ねじの呼び ○ _____																																										
		上記以外の円形スリーブ	上記以外の円形スリーブ	9 デッキプレート (7.2.7) (7.7.8)	材質、形状及び寸法 ※ 図示による ○ _____ デッキプレートと鉄骨部材の溶接方法 図示による																																										

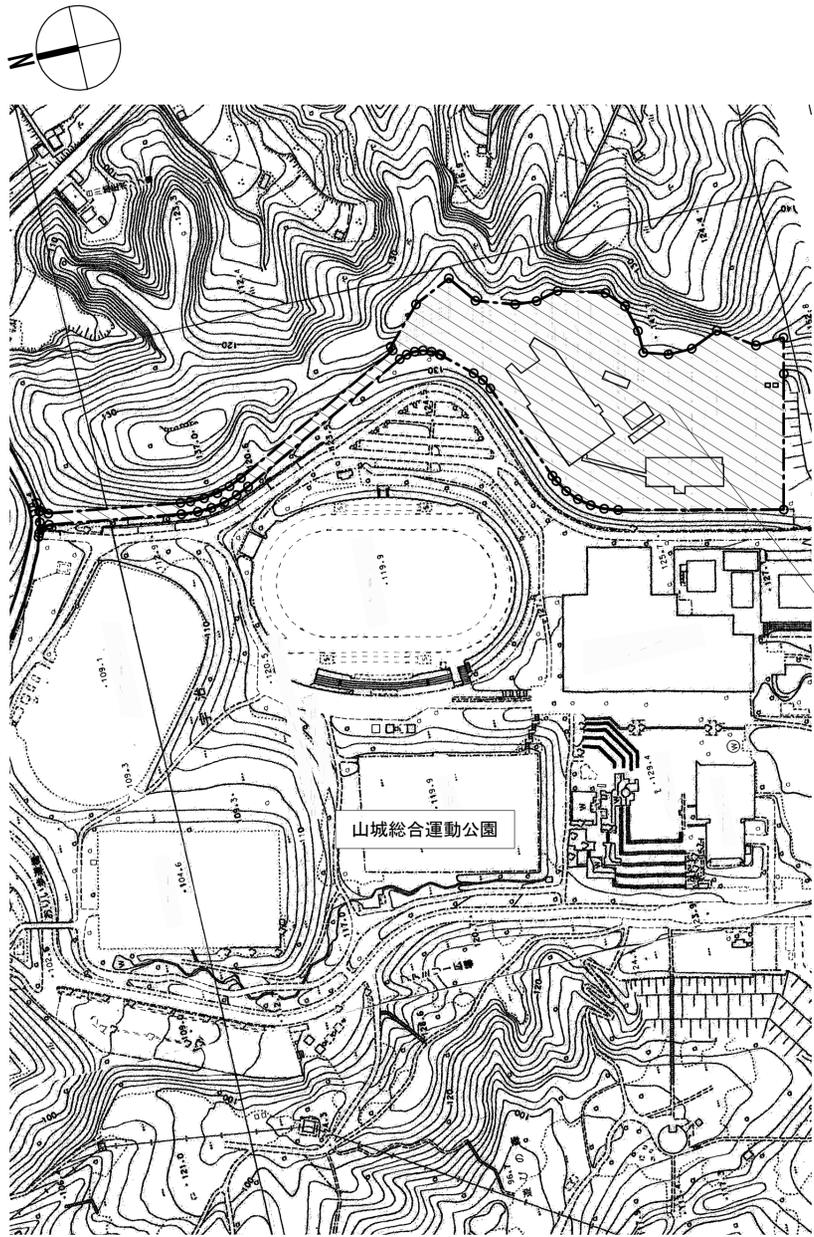
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
12	1	揮発性有機化合物対策 (12.2.1) (12.2.2) (12.2.3)	12	6	集成材 (12.2.1)	12	8	接合具等 (12.2.2)	14	1	一般事項 (14.1.3)
木工事		材料 (集成材、合板等) のホルムアルデヒド放散量 表示がある場合 ※F☆☆☆☆ ○ 表示がない場合 ※非ホルムアルデヒド系接着剤使用 (塗装していないもの) ※非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 (塗装したもの) ※非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 (化粧加工したもの) ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○	木工事		「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 ●造作用集成材 使用箇所 品名 樹種 見付材面数 寸法 見付材面の品質 図示(集成材) - タモ 図示 図示 ※1等 ○2等 ○化粧ばり造作用集成材 使用箇所 品名 樹種 寸法 化粧板厚 見付材面数 見付材面の品質 化粧材 芯材 ※1等 ○2等 ○化粧ばり構造用集成材 使用箇所 品名 樹種 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 化粧材 芯材 ○1等 ○2等 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 ○造作用集成材 使用箇所 樹種 寸法 見付材面の品質 含水率 ※15%以下 ○ ○化粧ばり造作用集成材 使用箇所 化粧樹種名 芯材樹種名 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 含水率 ※15%以下 ○ ○化粧ばり構造用集成材 使用箇所 化粧樹種名 芯材樹種名 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 含水率 ※15%以下 ○ 「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 ○造作用単板積層材 使用箇所 品名 寸法 表面の品質 防虫処理 ○表面化粧加工なし ○1等 ○2等 ○3等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工 「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 ○造作用単板積層材 使用箇所 寸法 表面の品質 含水率 防虫処理 ○表面化粧加工なし ○1等 ○2等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工 CLT (直交集成板) 使用箇所 品名 曲げ強度 種別 接着性能 樹種 寸法 普通合板 使用箇所 品名 厚さ 樹種名 接着程度 板面の品質 その他処理 ※押入れ、物入れ ※5.5mm ○ ※1類 ※2類 広葉樹 ※2等以上 ○ 針葉樹 ※C-D以上 ○ 構造用合板 使用箇所 品名 等級 厚さ 樹種名 接着程度 板面の品質 保存処理 その他処理 ※畳床下地材、フローリング張り下地材 ※2級以上 ※12mm ○ ○ ※1類 ※C-D以上 ○ ○ 防虫処理 ○強度等級 化粧ばり構造用合板 使用箇所 品名 厚さ 樹種名 接着程度 その他処理 ○1類 ○防虫処理 ○特類 天然木化粧合板 使用箇所 厚さ 樹種名 接着程度 その他処理 ○1類 ○2類 ○防虫処理 特殊加工化粧合板 使用箇所 品目 厚さ 樹種名 接着程度 化粧加工の方法 その他処理 ○1類 ○オーバーレイ ○防虫処理 ○2類 ○プリント ○塗装 ○ パーティクルボード 使用箇所 厚さ 各種区分 ※15mm ○ ※13Pタイプ又は13Mタイプ ○ 構造用パネル 使用箇所 等級 厚さ	木工事		MDF 使用箇所 厚さ 表面面の状態 曲げ強さ 接着剤による区分 難燃性による区分 造作材の化粧面の釘打ち ※ 隠し釘打ち ○ 釘頭埋め木 ○ つぶし頭釘 ○ 釘頭現し 諸金物の形状、寸法及び材質 ※ かすがい、座金、箱金物及び短冊金物は、表12.2.3から表12.2.5までに示す程度の市販品で、木材の寸法に応じた適切なものとし、コンクリート埋込部を除き、表14.2.2[鉄鋼の亜鉛めっきの種別]のF種程度の亜鉛めっきを施したもの ○ 防虫・防蟻処理 ○防虫・防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位 _____ ○薬剤の加圧注入による防虫・防蟻処理 適用部位 保存処理性能区分 ○K2 ○K3 ○K4 ○K2 ○K3 ○K4 ●薬剤の塗布による防虫・防蟻処理 適用部位 処理の方法 薬剤の種類 木材全般 ※ 標仕12.3.1(4)(b) ※ JIS K 1571に適合又は同等品 ①~④による ○ ○ ○ ○ ○薬剤の接着剤への混入による防虫・防蟻処理 適用部位 _____ 防虫処理 ※ 行う (範囲:ラワン材等 ※「製材の日本農林規格」による保存処理の性能区分K1) ○行わない ※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 (表13.2.1) 屋根葺形式 材料の種類等 厚さ(mm) 下葺材料 ○横葺 ※ JIS G 3322の屋根用コイル ●0.5 ○アファルト-フイング'940 ○瓦葺 ○ ○改質アファルト-フイング'下葺材 ○平葺 ○ 一般タイプ ●笠葺 (金属板A) ○ 複層基材タイプ ●粘着層付タイプ 専門工事業者 ※ 製造所の指定業者とする ○ ※建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定める。 形式による区分 ※ 重ね形 ○はせ締め形 ○嵌合形 山高 (mm) 耐力 山ピッチ (mm) 板厚 (mm) ※ 0.6 ○0.8 材料による区分 ※ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ○ (表13.2.1) タトフルムに使用する ○E種 鋼材の表面処理 ○直接外気の影響を受けない屋内の場合 () 軒先面戸板 ※ 有り (軒先面戸・換気面戸) ○無し けらば変形防止材 ○ 鉄鋼製 (上塗り ※折色色 ○) ○ スチール鋼製 断熱材張り ○ 行う 種別 () 厚さ () 防火性能 (30分) ※建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定める。 種類、大きさ、産地等 ※ J型 53A ○ 役物瓦の種類 雪止め瓦の使用 ○有 ○無 凍害試験 ○行う ○行わない 凍補強用芯材の材質、寸法 ※杉幅40mm×高さ30mm以上 (防虫処理を施したもの) ○ 棟補強等に使用する金物等 材種 材質 形状 寸法 留付け方法 ○ステンレス製 ○鋼製 (溶融亜鉛めっき処理) 棟木の留付け工法 棟の工法 ○7寸丸伏せ棟 ○F形用冠瓦伏せ棟 ○のし積み棟 ※建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定める。 ⑤ とい (雨水) (13.5.2) (13.5.3) ⑥ 保証書 ⑤ 性能 ⑥ 長尺金属板葺 (13.2.2) (13.2.3) 3 折板葺 (13.3.2) (13.3.3) 4 粘土瓦葺 (13.4.2) (13.4.3) 5 とい (雨水) (13.5.2) (13.5.3) 6 保証書	14	1	あと施工アンカーの引張試験 ※ 行う (箇所以上、 ___N/箇所) ○行わない ●詳細は監督職員の指示による。 種 類 施 工 箇 所 (手すり、タラップ、建具以外) ※H L程度 見掛り全て ○No.2 B程度 ○鏡面仕上げ (表14.2.1) 種 別 施 工 箇 所 (手すり、成形板、笠木、建具以外) ●BA-2種 A2 図示 ●フッ素焼付塗装 図示 F-BE 陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ○三次電解着色 ○ 色合等 (表14.2.2) 表面処理方法 種 別 試 験 施 工 箇 所 ●溶融亜鉛めっき ●A種 ○B種 ○C種 ○行う 図示による ○電気亜鉛めっき ○D種 ○E種 ○F種 ○行う 野縁等の種類 屋 内 ※19型 ○25型 (表14.4.1) 屋 外 ○19型 ※25型 屋外の野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 ___600___ mm 屋外の周辺部の端からの寸法 ___150___ mm 屋外の野縁の間隔 ___300___ mm 屋外のはずれ留め補強 ※有り ○無し 開口補強 吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※ 図示による ○ 天井のふところの補強 (1.5m以上3m以下) ※ 行う (3mを超える) ※ 行う (図示による) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○ 行う ○行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ● 行う ○行わない スタッド、ランナー等の種類 (表14.5.1) ※表14.5.1におけるスタッドの高さによる区分に応じた種類○ スタッドの高さが5mを超える場合 ※ 図示による ○ (表14.2.1) 形 状 製 法 材 種 寸 法 (mm) 表面処理 (種別) ●スバンドレ形 ●押出し ※7R=7M製 板厚 1.5 ●BA-2種 A2 ※風除害天井、屋根 ○ロール ○ 板幅 ○パネル形 ※プレス 伸縮調整継手 ○設けない ○設ける (施工箇所は図示) (表14.7.1) 種 類 板厚 (mm) 表面処理 (種別) 備 考 ●250 形 1.6 ●BA-2種 A2 コーナ部及び突当たり部等の役物は本体製造の仕様による。 ○300 形 1.8 ○350 形 2.0 ○ 建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 ※ 図示による ○ 材 料 及 び 表 面 処 理 施 工 箇 所 ○ステンレス製 SUS304 ※ H L程度 ○ ●外部 亜鉛めっき ●内部 SOP塗装 図示による ○アルミニウム製 ○ 材種 ●ステンレス製 SUS304 (表面処理 ※ 研磨なし) ○亜鉛めっき (表面処理 ※ C種) ○ ●アルミニウム製既製品 (450×450) 26 箇所 (1階) 49 箇所 (2階) ●縦線タイプ ●アルミニウム製既製品 (450×450) 5 箇所 (1階) 2 箇所 (2階) ●目地タイプ (ルーバー付き) ●アルミニウム製既製品 (600×600) 0 箇所 (1階) 4 箇所 (2階) ●目地タイプ (ルーバー付き) ●アルミニウム製既製品 (450×450) 0 箇所 (1階) 1 箇所 (2階) ●縦線タイプ (EV用) ●アルミニウム製既製品 (450×450) 1 箇所 (1階) 0 箇所 (2階) ●縦線タイプ (横引き管点検用) ●オートドア点検口 (400×1465) 4 箇所 (1階) 0 箇所 (2階) ●図示D-301 ○アルミニウム製既製品 (600×600) ___ 箇所 ●ステンレス製既製品 (600×600) ___ 3 箇所 (1階) ○鋼鉄製マンホール蓋 ___ 型 ___ φ ___ 箇所 寸法 (mm) ○φ600 ○500角 断熱材 ○有り ○無し

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
② ユニニット及びその他の工事	27 旗ポール	材質形式 地上高さ(m) 操作方法 固定方法 ※アルミニウム合金 ※テーパー型 ○6 ○10 ※ハンドル式 ○埋込式 ○同一断面型 ○8 ○ ○ ロープ式 ○ベース式 品質・規格	② 舗装工事	① 路床 (22.2.2) 路床の構成 (22.2.3) ○凍上抑制層厚さ ○ 図示による ○ (22.2.5) ○透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○150mm ○ 歩道部 ○ 図示による ○50mm ○	② 舗装工事	⑦ ブロック系舗装 (22.8.2) ○コンクリート平板舗装 (22.8.3) ※普通平板(N) ○カラー平板(C) ○300角 ※60 ※砂 ○洗出平板(W) ○縦石(S) ○ ○ ○ ○ ○モルタル 品質・規格 クッション材 ※砂 ○空練りモルタル	5 屋上緑化 (23.5.2) ○屋上緑化システム ~(23.5.4) 排水層 ○軽量骨材(厚さ) ○板状成形品 土壌層 ※改良土(厚さ) ○人工軽量土(厚さ) ○屋上緑化軽量システム 樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による	② その他	① 統括安全衛生責任者の指名 ② 他工事との調整 ③ 官公署への手続き	本事業では別途工事があるため、労働安全衛生法の定めにより、(仮称)城南衛生管理組合新事務所棟建設工事(主体工事)受注者を統括安全衛生責任者に指名する。受注者は本契約後直ちに「統括安全衛生責任者選任届(任意様式)」を提出すること。 敷地内では、工事期間内に発注される予定。 ・城南衛生管理組合新事務所棟建設工事(電気設備工事) ・城南衛生管理組合新事務所棟建設工事(機械設備工事) ・電気設備関連工事 ・新事務所棟関連工事 請負者間でお互いに連絡をとり、定期的に協議を行って、工事施工上の調整を図ること。 官公署への手続きは速やかに行い、それに要する費用はすべて受注者の負担とする。	
	28 煙突ライニング (20.2.11) 煙突用成形ライニング材及びキャスタブル耐火材 最高温度 ※400℃ ○650℃ 品質・規格	② 路盤 (22.3.2) 路盤の厚さ mm (22.3.3) 材料 ●再生クラッシュラン(RC-40,30,20) (22.3.5) ○クラッシュラン(C-40,30,20) ○クラッシュラン鉄鋼スラグ(CS-40) 路盤締固め度の試験 ※行う		⑦ インターロッキングブロック舗装 種 類 部位 形状寸法(mm) 厚さ(mm) 曲げ強度(N/mm ²) 色彩及び表面加工等 ※普通ブロック 車路 ※80 ※5.0 ※標準品 ○京エレンガ ●透水性ブロック 歩行者用通路 ● 図示による ※60 ※3.0 ●既存同等品以上 ○植生ブロック - ○60 ○80 ○100		芝・地被類の種類 ※ 図示による ○コウライシバ(※目地張り ○) ○ノシバ(※目地張り ○) ○セダム類(○カット ○ふるい ○プラグ苗 ○)					
	29 ブレキャストコンクリート (20.3.2) 補強鉄線 ○JIS G 3532 の普通鉄線 ○JIS G 3551 の溶接金網 径 (mm) 網目寸法 x コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値00kg/m ² を満足する調査強度 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する 取付け方法 ※ 図示による ○	③ アスファルト舗装 (22.4.2) ※アスファルト舗装 50 50 ※顔料混入加熱アスファルト混合物 ~(22.4.6) アスファルト ○再生アスファルト(○60~80 ○80~100) ○ストレートアスファルト 再生加熱アスファルト混合物の種類 区分 ○一般地域 ○寒冷地域 表層 ○密粒度アスファルト混合物(13) ※密粒度アスファルト混合物(13F) ○細粒度アスファルト混合物(13)		⑧ 砂利敷き (22.9.2) 通路 ※A種 ○B種 建物周囲その他 ○A種 ※B種 ※下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする		材料 ○見切り材 ○舗装材 ○水抜き管 ○マルチング材					
	30 間知石及びブロック (20.4.2) 間知石の材種 ○花こう岩 ○ コンクリート間知ブロック 面の形状 ○長方形 ○正方形 ○六角形 ○H型 質量区分 ○ブロックA ○ブロックB 地業の材料 ※再生クラッシュラン ○ 練積みの工法 ※谷積み ○布積み(目塗り ○行う) 伸縮目地材の材種、厚さ	4 コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6) 構成 コンクリートの種類 部位 厚さ(mm) 設計基準強度(N/m ²) スラップ(cm)		⑨ 白線引き		かん水装置 ○設置する() ○設置しない					
31 敷地境界石標 種別 ○花こう石類(文字記号入り) ※コンクリート製(市販品)	5 カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4) 種 類 部 位 配合その他 ※加熱系アスファルト混合物 ○車路 添加剤 ○着色骨材 ○自然石 ○歩行者 結合材 ○アスファルト ○石油樹脂(添加量)用通路 アスファルト混合物等の抽出試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ○適用する ※適用しない 舗装の厚さ mm	8 砂利敷き (22.9.2) 通路 ※A種 ○B種 建物周囲その他 ○A種 ※B種 ※下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする	支柱材 ○設置する ※杉(焼き丸太) ○竹 ○ひのき ○から松(皮はぎ) 形式 ※ 図示による ○ 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太 ○ ○設置しない								
32 車止め 形式 材質 柱径・肉厚(mm) 高さ(mm) ○上下式鎖内蔵型 ○ステンレス製(SUS304) ○φ76.3 t=2.0 ○GL+700 (○スリット付き) ○ ○φ114.3 t=2.5 ○GL+850 基礎 無筋コンクリート造350×350 H250程度	6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6) 舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ 表層の厚さの試験 ※行う ○行わない 開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ○行う ※行わない	⑩ 植栽基礎整備 (23.2.2) ~ (23.2.3) ※行う 樹木の樹高 有効土層の厚さ(cm) 工 法 整備範囲 12m以上 ※100 ○120 ○150 ※A種 ※補込み部分 7~12m未満 ※80 ○100 ○B種 ○葉張りの範囲 3~7m未満 ※60 ○80 ○C種 (樹高7m以上) 3m未満 ※50 ○60 ○D種 ○図示 芝、地被類 ※20 ※B種 ○ ※植栽範囲 ○	支柱材 ○設置する ※杉(焼き丸太) ○竹 ○ひのき ○から松(皮はぎ) 形式 ※ 図示による ○ 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太 ○ 幹巻用材料 ※幹巻き用テープ ○わら ○こも								
33 フェンス 表面仕上げ 種類 門扉の仕様 ○亜鉛めっき ○樹脂塗装 ○メッシュフェンス ○アイバンドフェンス ○片開き ○ビニル被覆 ○ ○ネットフェンス ○ ○両開き	④ コンクリート側溝 (21.2.1) 鉄筋コンクリート形のJISによる呼び名 ○250A ※250B ○ (21.2.1) コンクリート形のJISによる呼び名 ○250A ※250B ○ (21.3.1) 鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 ○240 ○300A ○360A ○ 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²) ※18 ○ スラップ(cm) ○15 ○18 ○	④ 芝等 (23.4.2) (23.4.3) 吹付けは種 種子の種類 ※洋芝類 ○ 種子の量 地被類 種類 芽立数 径 単位面積当たりの株数 株/m ²	④ 官公署への手続き								
② 排水工事	① 材料 (21.2.1) 材種(表21.2.1) 管の種類 呼び径 基床の厚さ ●遠心力鉄筋コンクリート管 ※外圧管(1種) 図示による 図示による ●硬質ポリ塩化ビニル管 ○VP ●VU 図示による 図示による ○硬質ポリ塩化ビニル管継手 ○DV ○VU継手 ○凍上抑制層に用いる材料 ○砂(○砂の粒度試験) ○	5 カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4) 種 類 部 位 配合その他 ※加熱系アスファルト混合物 ○車路 添加剤 ○着色骨材 ○自然石 ○歩行者 結合材 ○アスファルト ○石油樹脂(添加量)用通路 アスファルト混合物等の抽出試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ○適用する ※適用しない 舗装の厚さ mm	④ 芝等 (23.4.2) (23.4.3) 吹付けは種 種子の種類 ※洋芝類 ○ 種子の量 地被類 種類 芽立数 径 単位面積当たりの株数 株/m ²	④ 官公署への手続き							
	② 側溝、排水柵及びふた (21.2.1) ●側溝の形状および寸法 ※ 図示による ○ ●排水柵の種類 ※ 図示による ○ ○鋼鉄製マンホールふたの種類 種 類 適用荷重(安全荷重) ○水封形 ●密閉形(テーパーバネ式) ●T-2用(5KN) ○T-6用(115KN) ○中蓋付密閉形 ○簡易密閉形(バネ式) ○T-20用(50KN) ●グレーチングふた 種 類 材 質 形 式 適用荷重 タイプ 上面形状 ●溝ふた用 ●鋼製 受枠 ※なし ○歩行用 ○平行 ○樹ふた用 ○ステンレス製 ○あり ●T-2用 ※細目 ※凹凸形 ●嵩上げ用 ○鋼鉄製 ○図示 ○T-6用 ●U字溝用 ○樹脂製 ボルト固定※なし ○T-14用 ○図示 ●T-25用	6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6) 舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ 表層の厚さの試験 ※行う ○行わない 開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ○行う ※行わない	④ 官公署への手続き								
	③ 緑石 (21.3.1) 歩車道境界ブロックのJISによる呼び名 ※A ○ 地先境界ブロックのJISによる呼び名 ○A ○C ○ 砂利地業の厚さ ※100mm ○	6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6) 舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ 表層の厚さの試験 ※行う ○行わない 開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ○行う ※行わない	④ 芝等 (23.4.2) (23.4.3) 吹付けは種 種子の種類 ※洋芝類 ○ 種子の量 地被類 種類 芽立数 径 単位面積当たりの株数 株/m ²	④ 官公署への手続き							
	④ コンクリート側溝 (21.2.1) 鉄筋コンクリート形のJISによる呼び名 ○250A ※250B ○ (21.3.1) コンクリート形のJISによる呼び名 ○250A ※250B ○ 鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 ○240 ○300A ○360A ○ 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²) ※18 ○ スラップ(cm) ○15 ○18 ○	6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6) 舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ 表層の厚さの試験 ※行う ○行わない 開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ○行う ※行わない	④ 芝等 (23.4.2) (23.4.3) 吹付けは種 種子の種類 ※洋芝類 ○ 種子の量 地被類 種類 芽立数 径 単位面積当たりの株数 株/m ²	④ 官公署への手続き							

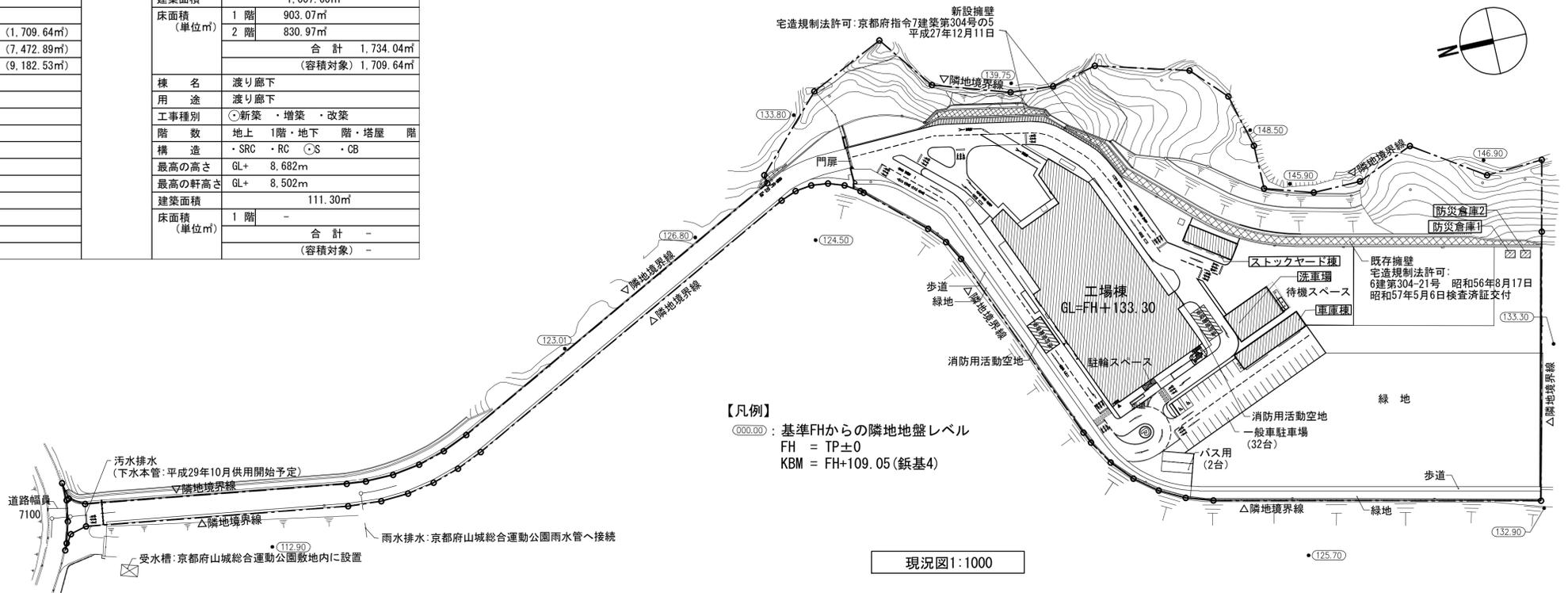
工事区分表 (本工事)

項目					項目					項目					項目				
主体	電気	機械	別途(その他)	備考	主体	電気	機械	別途(その他)	備考	主体	電気	機械	別途(その他)	備考	主体	電気	機械	別途(その他)	備考
躯体関係					仕上げ関係					屋外排水設備・外構					電気配線配管				
1. 鉄筋コンクリート造(梁・壁・床)の貫通孔・開口部					1. 鉄筋天井・壁下地					1. 雨水					機器付属の制御盤以降の配管配線(接地線共)				
2. 鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造のはり貫通孔					3. つりボルト及びインサート					3. 雑載					機器付属の制御盤との電源供給の渡り配管配線				
3. 設備機器の基礎					5. 湯沸室まわり					5. 屋外オイルタンク					配管感知から連動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線				
4. 昇降機関連					7. 便所まわり					8. 事務室まわり					注油口内アース端子よりのアース用配管配線				
5. その他					10. その他										家具の穴明け配線用スペース				

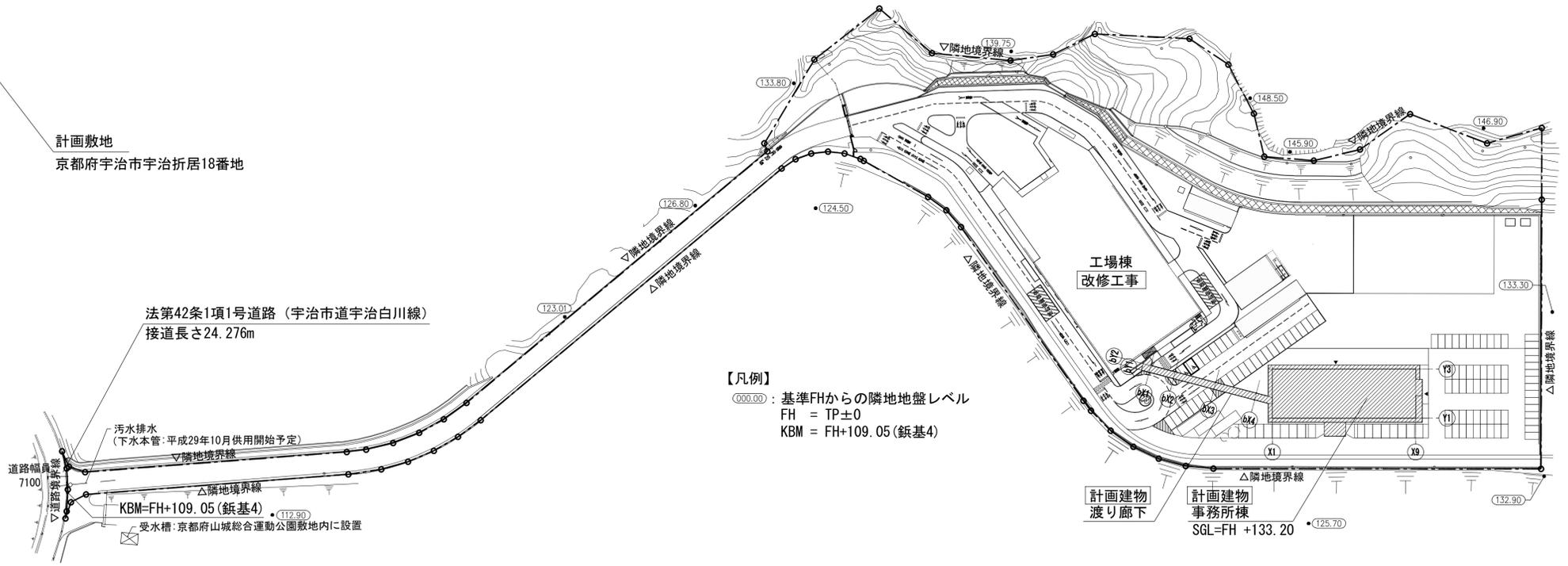
建築概要		建物概要		棟別概要	
工事名称	(仮称)城南衛生管理組合新事務所棟建設工事	主要用途	事務所、渡り廊下	棟名	事務所棟
敷地概要	地名地番	工事種別	○新築・増築・改築・移転 ・用途変更・大規模の修繕 ・大規模の模様替・解体撤去	用途	事務所
	敷地面積	建築面積	新設(増設) 1,118.90㎡ ※事務所棟 (1,007.60㎡) ※渡り廊下 (111.30㎡) 既設 3,761.90㎡ 合計 4,880.80㎡	工事種別	○新築・増築・改築
用途地域	・第1種住居専用・第2種住居専用 ・住居・近隣商業・商業・準工業 ・工業・工業専用 ○市街化調整地域 ・特別用途()・指定なし	延べ面積	新設(増設) 1,734.04㎡ (1,709.64㎡) 既設 7,731.16㎡ (7,472.89㎡) 合計 9,465.20㎡ (9,182.53㎡) (容積対象) 9,182.53㎡	階数	地上 2階・地下 階・塔屋 階
防火地域	・防火・準防火・指定なし ○法22条	建ぺい率	16.15%	構造	・SRC ○RC ・S ・CB
その他地域	・高度地区(第種)・風致地区(第種) ・高度利用地区() ・都市計画公園・駐車場整備地区 ・砂防指定地区 ○宅造成工事規制区域	容積率	30.37%	最高の高さ	GL+11.900m
基準建ぺい率(%)	・30・40・50 ○60・70・80	解体撤去面積	建築面積 ㎡ 延べ面積 ㎡	最高の軒高さ	GL+ 8.400m
基準容積率(%)	・50・60・80・100・150 ○200・300 ・400・500・600・700・800・900・1000	床面積(単位㎡)	1階 903.07㎡ 2階 830.97㎡ 合計 1,734.04㎡ (容積対象) 1,709.64㎡	棟名	渡り廊下
道路	○主前面道路(巾7.10m) ・その他前面道路	容積率	30.37%	用途	渡り廊下
壁面後退等	・都市計画道路(・有 m・無) ・壁面後退(・有 m・無)	容積率	30.37%	工事種別	○新築・増築・改築
その他		容積率	30.37%	階数	地上 1階・地下 階・塔屋 階
		容積率	30.37%	構造	・SRC ・RC ○S ・CB
		容積率	30.37%	最高の高さ	GL+ 8.682m
		容積率	30.37%	最高の軒高さ	GL+ 8.502m
		容積率	30.37%	建築面積	111.30㎡
		容積率	30.37%	床面積(単位㎡)	1階 - 合計 - (容積対象) -



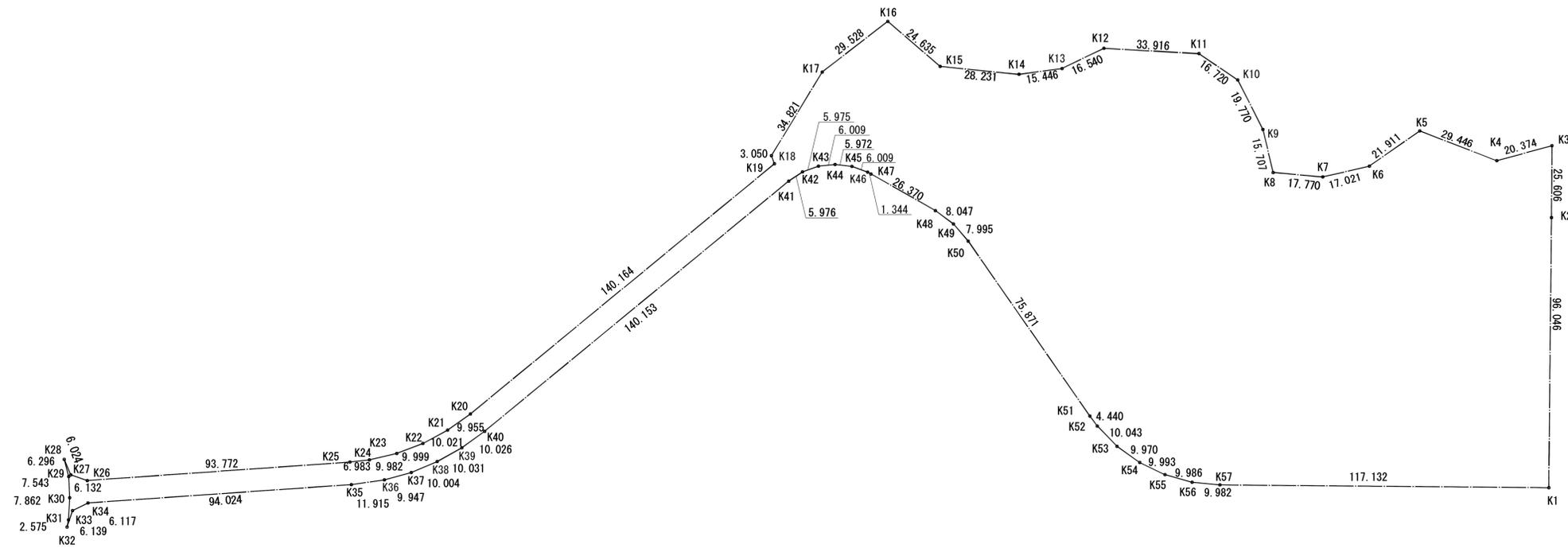
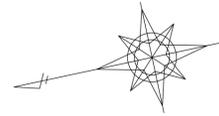
付近見取図 1/2500



現況図1/1000



配置図1/1000



測点名	X座標	Y座標	Xn+1-Xn-1	Yn(Xn+1-Xn-1)
K1	-125468.032	-17720.063	-135.351	2398428.2471
K2	-125489.048	-17626.344	-26.590	468684.4870
K3	-125494.622	-17601.352	14.768	-259936.7663
K4	-125474.280	-17602.496	44.970	-791584.2451
K5	-125449.652	-17586.354	44.832	-788431.4225
K6	-125429.448	-17594.833	37.223	-654932.4688
K7	-125412.429	-17595.152	33.990	-598059.2165
K8	-125395.458	-17589.883	17.291	-304146.6670
K9	-125395.138	-17574.179	5.407	-95023.5859
K10	-125390.051	-17555.074	16.686	-292923.9648
K11	-125378.452	-17543.031	44.306	-777261.5315
K12	-125345.745	-17534.054	48.777	-855258.5520
K13	-125329.675	-17537.969	31.474	-551990.0363
K14	-125314.271	-17536.831	42.283	-741509.8252
K15	-125287.392	-17528.197	41.787	-732450.7680
K16	-125272.484	-17508.584	41.536	-727236.5450
K17	-125245.856	-17521.347	50.530	-885353.6639
K18	-125221.954	-17546.670	23.453	-411522.0515
K19	-125222.403	-17549.687	124.060	-2177214.1692
K20	-125097.894	-17614.057	133.651	-2354136.3321
K21	-125088.752	-17617.998	18.760	-330513.6425
K22	-125079.134	-17620.813	19.504	-343676.3368
K23	-125069.248	-17622.313	19.867	-350102.4924
K24	-125059.267	-17622.501	16.932	-298384.1869
K25	-125052.316	-17621.828	99.792	-1758517.4598
K26	-124959.475	-17608.645	98.113	-1727636.9869
K27	-124954.203	-17605.512	6.469	-113890.0571
K28	-124953.006	-17599.608	0.923	-16244.4382
K29	-124953.280	-17605.899	0.910	-16021.3681
K30	-124952.096	-17613.349	3.302	-58159.2784
K31	-124949.978	-17620.921	3.124	-55047.7572
K32	-124948.972	-17623.292	-2.162	38101.5573
K33	-124952.140	-17618.033	-9.092	160183.1560
K34	-124958.064	-17616.508	-99.013	1744263.3066
K35	-125051.153	-17629.741	-104.974	1850664.4317
K36	-125063.038	-17630.586	-21.816	384628.8642
K37	-125072.969	-17630.006	-19.765	348457.0686
K38	-125082.803	-17628.166	-19.411	342180.3302
K39	-125092.380	-17625.180	-18.754	330542.6257
K40	-125101.557	-17621.141	-133.678	2355558.8866
K41	-125226.058	-17556.779	-130.065	2283522.4606
K42	-125231.622	-17554.598	-11.487	201649.6672
K43	-125237.545	-17553.808	-11.900	208890.3152
K44	-125243.522	-17554.430	-11.665	204772.4260
K45	-125249.210	-17556.368	-10.735	188467.6105
K46	-125254.257	-17559.561	-6.085	106849.9287
K47	-125255.295	-17560.415	-20.728	363992.2821
K48	-125274.985	-17577.957	-25.020	439800.4841
K49	-125280.315	-17583.986	-9.166	161174.8157
K50	-125284.151	-17591.001	-33.196	583950.8692
K51	-125313.511	-17660.961	-31.215	551286.8976
K52	-125315.366	-17664.996	-7.193	127064.3162
K53	-125320.704	-17673.503	-12.054	213036.4052
K54	-125327.420	-17680.872	-14.626	258600.4339
K55	-125335.330	-17686.979	-16.759	296416.0811
K56	-125344.179	-17691.607	-18.367	324941.7458
K57	-125353.697	-17694.615	-123.853	2191531.1516
			倍面積	60475.0359
			面積	30237.5180
			地積	30237.51

外部仕上表

Table with columns: 区分, 部位, 仕上. Rows include 仕上 (事務所棟), 外壁, 庇1, 庇2, 堅ルーパー, 建具, パラベットの仕上内容.

耐火構造リスト

Table with columns: 部位, 時間, 仕様, 凡例, 認定番号. Lists fire-resistant structures for beams, columns, exterior walls, beds, roof eaves, and stairs.

仕上材料表・図面表示凡例

Table with columns: 分類, 図面凡例, 材料・仕上・部位, 形状, 備考. Lists materials and specifications for waterproofing, stone, tiles, carpets, coatings, and acoustic materials.

内部仕上表

Table with columns: 階, 室名, 天井・高床・高スラブ高, 床, 防水, 詳細番号, 巾木, 塗装, 詳細番号, 壁・柱型, 仕上, 塗装, 詳細番号, 天井・梁型, 仕上, 塗装, 詳細番号, 廻縁, 内装制限, 化学物質検査, 備考. Lists interior finishing details for various rooms.

- 防水
S 防水・・・シート防水
M 防水・・・モルタル防水
A 防水・・・アスファルト防水
P 防水・・・塗膜防水

- 塗装仕上の略号
SOP・・・合成樹脂割合ペイント塗り
CL・・・クリヤウレタン塗り

- 下地・仕上略語
C・・・コンクリート
CB・・・コンクリートブロック

- 法定防火材料認定番号 (通則的認定抜粋)
ボード類・・・カコ内は最小厚を示す
不燃 第NM-8576号・・・石綿スレート (3)

- クロス類・・・基材との張り合せによる防火性能
不燃 第NM-9150～9841号 (壁装材料第0001号)・・・紙壁紙

- 塗料・塗壁等
不燃 第NM-8585号 (基材同等第0001号)・・・塗料塗壁

- 床仕上げ基準面
床仕上げ基準面は床仕上げ面をFLとする。ただし屋上は、FLを水下とする。
仕上上げの記入
本仕上上げは、各室各部分の仕上上げについて記入してある。

Table with columns: 床仕上げ基準面, 仕上上げの記入, 床仕上げ下地, 柱・梁の仕上げ, コンクリート打放し, プライドボックス (B-BOX), 床見切金物, 鉄部の仕上げ. Contains notes on floor standards and construction details.

Project information form including: 竣工年月日, 監理者, 施工者, 城南海衛生管理組合, 株式会社 大建設計, DATE: 2022. 3, PROJ. NO: 0-2021-056, PROJ. TITLE: 城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事), 仕上表 (1), SCALE: NS (A1), NS (A3), DRW. NO: 014.

内部仕上表

Table with columns: 階, 室名, 天井高, 床, 巾木, 壁・柱型, 天井・梁型, 廻縁, 内装制限, 備考. Rows include 2階ホール, 大会議室, 倉庫4, 控室, 小会議室1, 小会議室2, 事務室, 個室1, 個室2, 個室3, 電算室, 金庫室, 女性更衣室.

内部仕上表

Table with columns: 階, 室名, 天井高, 床, 巾木, 壁・柱型, 天井・梁型, 廻縁, 内装制限, 備考. Rows include 共通 屋上デッキ, 階段, 屋外階段, EV, 男性便所, 女性便所, 多機能便所, 給湯室, 授乳室, PS, EPS, DS, ビット.

■防水
S 防水・・・シート防水
M 防水・・・モルタル防水
A 防水・・・アスファルト防水
P 防水・・・塗膜防水

■塗装仕上の略号
SOP・・・合成樹脂調合ベント塗り
CL・・・クリヤフッカー塗り

■下地・仕上略語
C・・・コンクリート
CB・・・コンクリートブロック

■法定防火材料認定番号(通則的認定抜粋)
ボード類・・・カコ内は最小厚を示す
不燃 第NM-8576号・・・石綿スレート (3)

不燃 第NM-8577号・・・化粧石綿スレート (3)
化粧石綿セメントバーライト板 (6)
化粧石綿セメント板 (4)

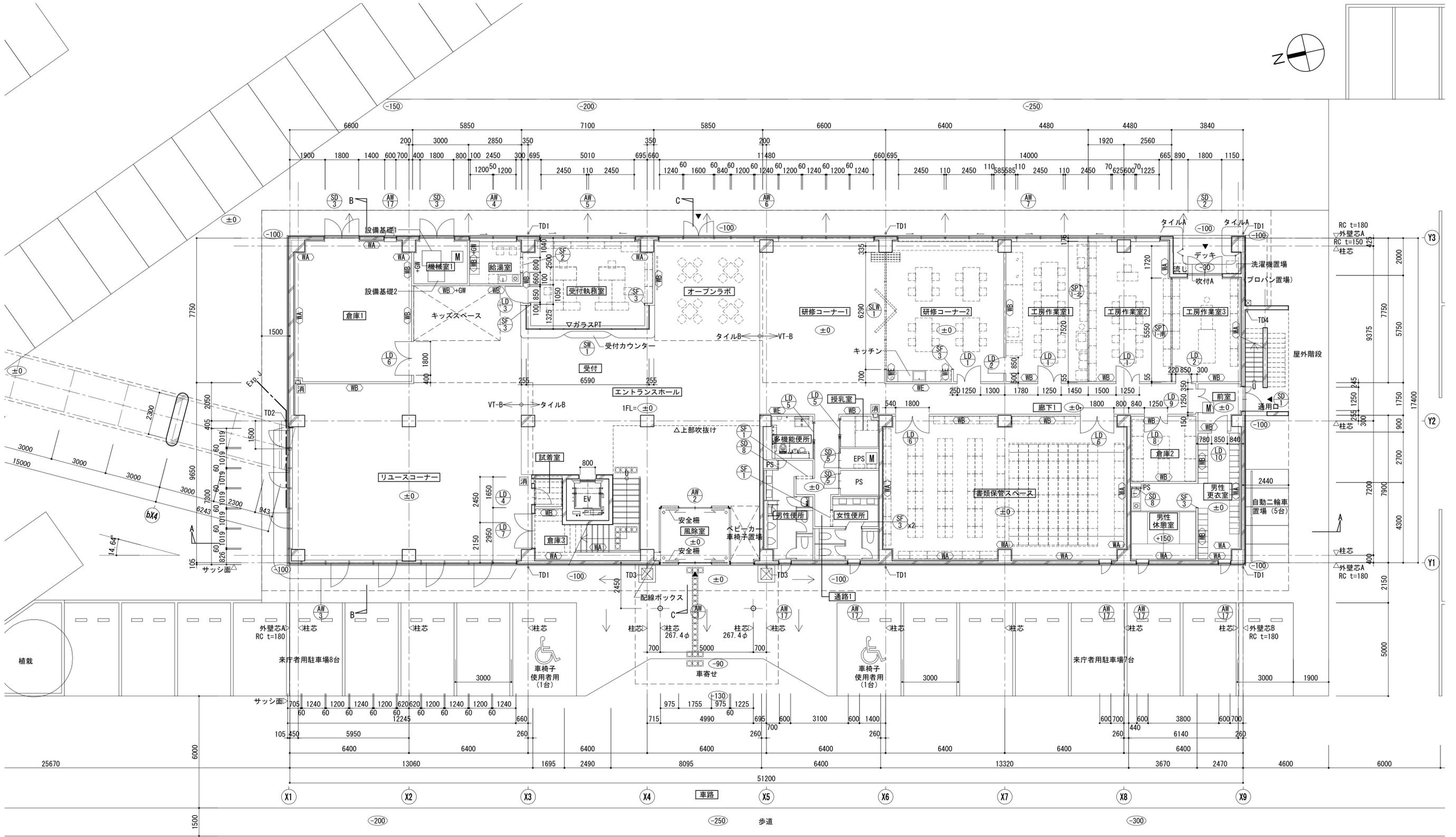
不燃 第NM-8612・8616号・・・せっこうボード (12.5)
不燃 第NM-8613号・・・不燃せっこう積層板 (9.5)
不燃 第NM-8614号・・・化粧せっこうボード (12.)

クロス類・・・基材との張り合せによる防火性能
不燃 第NM-9750～9841号 (壁装材料第0001号)・・・紙壁紙

不燃 第NM-8585号 (基材同等第0001号)・・・塗料塗装
不燃 第NM-8571号 (基材同等第0003号)・・・無機質砂壁状吹付材塗り

■特記事項
床仕上基準面 床仕上基準面は床仕上面をFLとする。ただし屋上は、FLを水下とする。
仕上げの記入 本仕上げは、各室各部分の仕上げについて記入してある。

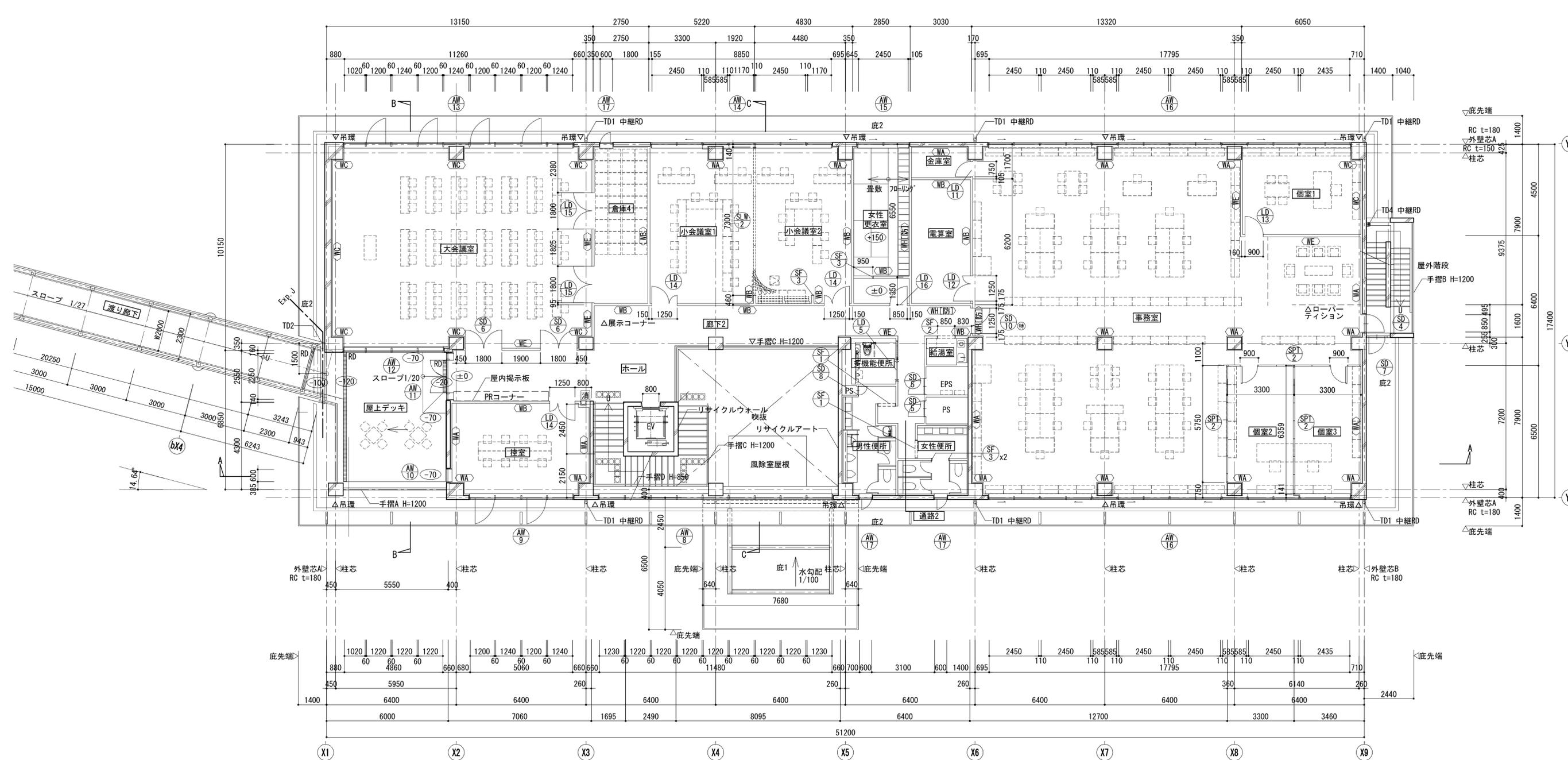
F-01A	コンクリート直均し	S=1: 5 (A1) S=1:10 (A3)	F-01B	モルタル金こて押さえ	S=1: 5 (A1) S=1:10 (A3)	F-01追	防露床 (1F土間ア7)	S=1: 5 (A1) S=1:10 (A3)	F-04A	タイル張り	S=1: 5 (A1) S=1:10 (A3)	F-05A	ビニル床タイルなど 1	S=1: 5 (A1) S=1:10 (A3)	F-06A	フローリングボード・ 複合フローリング	S=1: 5 (A1) S=1:10 (A3)	F-08B	畳	S=1: 5 (A1) S=1:10 (A3)	F-09	フリーアクセスフロア	S=1: 5 (A1) S=1:10 (A3)
<p>(備考) 1. 特記なき限り金こて仕上げとする。 2. 土間コンクリートの場合は10mm増打しない。 3. 土間コンクリートの目地は別図による。</p>			<p>(備考) 特記なき限り大面積の場合は縦横1.8m程度、廊下の場合は3.6m程度に押し目地を設ける。</p>			<p>(備考) ※構造特記による。</p>						<p>(備考) 1. 特記なき限り長尺塩ビシートの継目は溶接工法とする。 2. ○印を適用する。</p>			<p>(備考) ○印を適用する。</p>								
WF-03			WF-04B			W-01B			W-02追			W-11A追											
<p>(備考) H寸法は仕上表による。</p>									<p>(備考) 1. 仕上げ・寸法は別図による。 2. ボードは、合板 t6.0、ケイ酸カルシウム板 t6とする。</p>			<p>(備考) 工法は特記仕様による。</p>											
W-03B			W-01追			CW-01A			CW-02			CW-07D											
<p>(備考) 仕上げは仕上表による。</p>						<p>(備考) 1. *はLGS 65を示す 2. 仕上・寸法は別図による。</p>			<p>(備考) 1. *はLGS 65を示す 2. 仕上・寸法は別図による。</p>			<p>(備考) 1. ○印を適用する。 2. 廻縁の仕様は仕上表による。</p>			<p>(備考) 1. ○印を適用する。 2. 廻縁の仕様は仕上表による。</p>								
W-07B			WD			WE			WR(防)			C-03B			C-03D			C-09追					
<p>(備考) 1. 仕上げ・寸法は別図による。 2. ○印を適用する。 3. 特記なき限りせつこうボード t1=2.5、けい酸カルシウム板 t=()とし、下地張りのある場合は下地ボードはせつこうボード t=9.5、仕上ボードはせつこうボード t=12.5とする。 4. 「下地不燃」が必要な場合は下地張りのせつこうボードも不燃とする。 2. 湿気のある室のせつこうボードは耐水せつこうボードとする。</p>			<p>(備考) 1. *はLGS 65を示す 2. 仕上・寸法は別図による。</p>			<p>(備考) 1. *はLGS 65を示す 2. 仕上・寸法は別図による。</p>			<p>(備考) 1. *はLGS 65を示す 2. 耐火構造 (1時間) FP060NP-0199</p>			<p>(備考) 1. 仕上げは別図による。</p>			<p>(備考) 1. 仕上げ・仕様は別図による。 2. 内装制限で下地共不燃の場合は下地せつこうボード共不燃とする。</p>								



1階平面図 1/100

■凡例

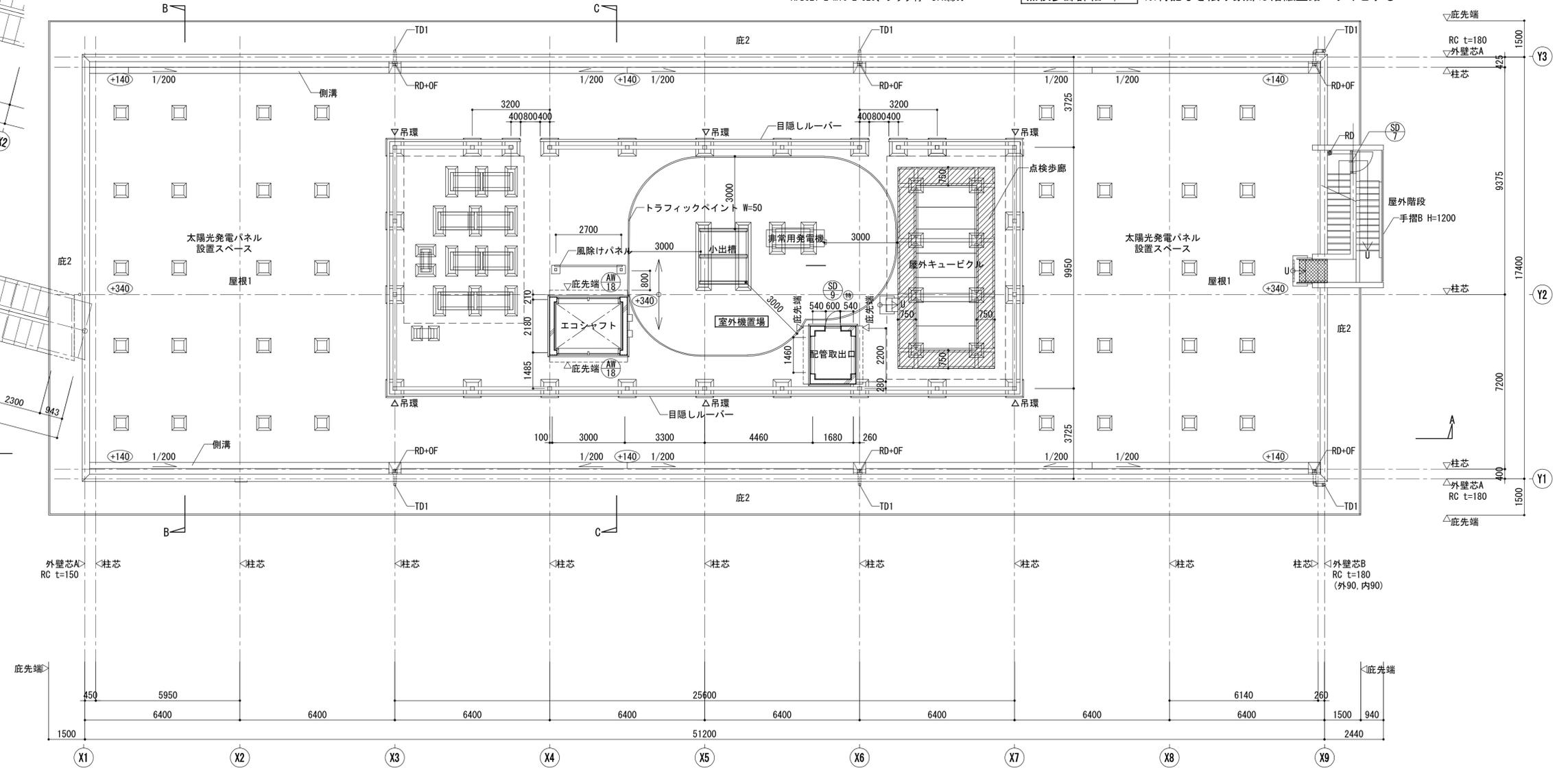
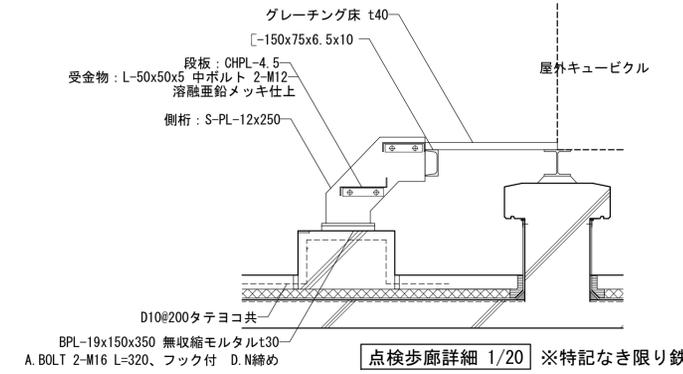
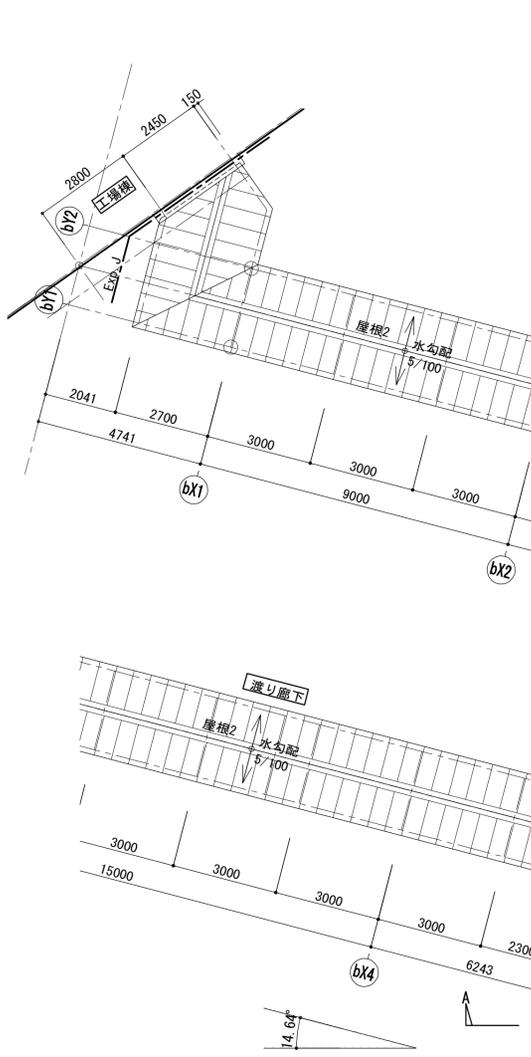
(±0)	FLからのレベル	TD*	壁樋 ※仕上表参照	△吊環	SUS吊環	D-201	外壁芯A	内部	備考
W*	壁記号	中継RD	中継ドレイン ※サイズは壁樋による	Exp. J	渡り廊下接続部	D-404	t1:RC躯体壁厚	外部	・シーリング D-707
消	消火器ボックスA ※仕上表による	RD+OF	横型ルーフドレイン	点字ブロック1	※仕上表参照		t2:増打ち	外部	・緊急排水槽 D-305
▲	出入口	RD	ルーフドレイン	設備基礎1	L1050xW800xH300		又は仕上	内部	・自動ドア安全柵 D-609
M	床下点検口 600角 SUS枠ポルト式 防水防臭タイプ、仕上床同材 下部SUSタラップ #350以下 5段		キッチン	設備基礎2	L890 xW800xH300		又は仕上	外部	・受付カウンター D-801
			ミニキッチン	※配筋 D10@200 (タテヨコ共)					



2階平面図 1/100

■凡例

(±0)	FLからのレベル	○TD*	壁樋 ※仕上表参照	△吊環	SUS吊環 D-201	外壁芯A t1: RC躯体壁厚 t2: 増打ち 又は仕上	備考 ・シーリング D-707 ・庇1 D-501 ・庇2 D-101 ・リサイクルアート D-801 ・リサイクルウォール D-801
(W*)	壁記号 W-01=道	○中継RD	中継ドレイン ※サイズは壁樋による	Exp. J - - -	渡り廊下接続部 D-404	外壁芯B t1: RC躯体壁厚 t2: 増打ち 又は仕上	
消	消火器ボックス A ※仕上表による	RD+OF	横型ルーフトレイン オーバーフロー管 D-201 D-401	点字ブロック1 ※仕上表参照			
▲	出入口	○RD	ルーフトレイン D-201	SUSグレーチング蓋細目 (歩行用) ノンスリップ			
M	床下点検口 600角 SUS枠ポルト式 防水防臭タイプ、仕上床同材 下部SUSタラップ @350以下 5段	○キッチン	キッチン D-705				
		○ミニキッチン	ミニキッチン D-704				



屋根伏図 1/100

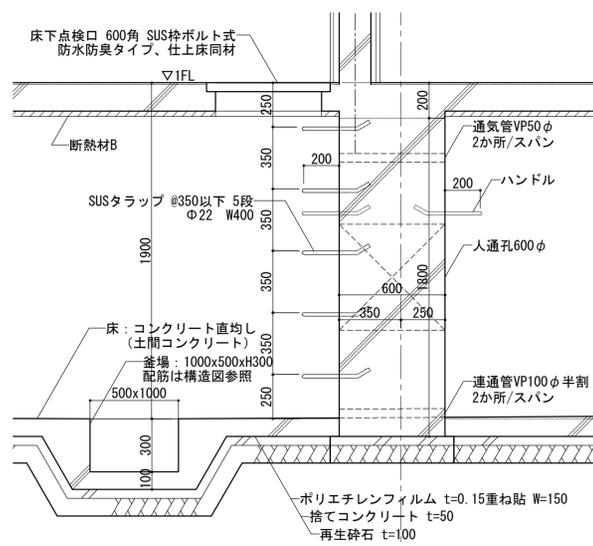
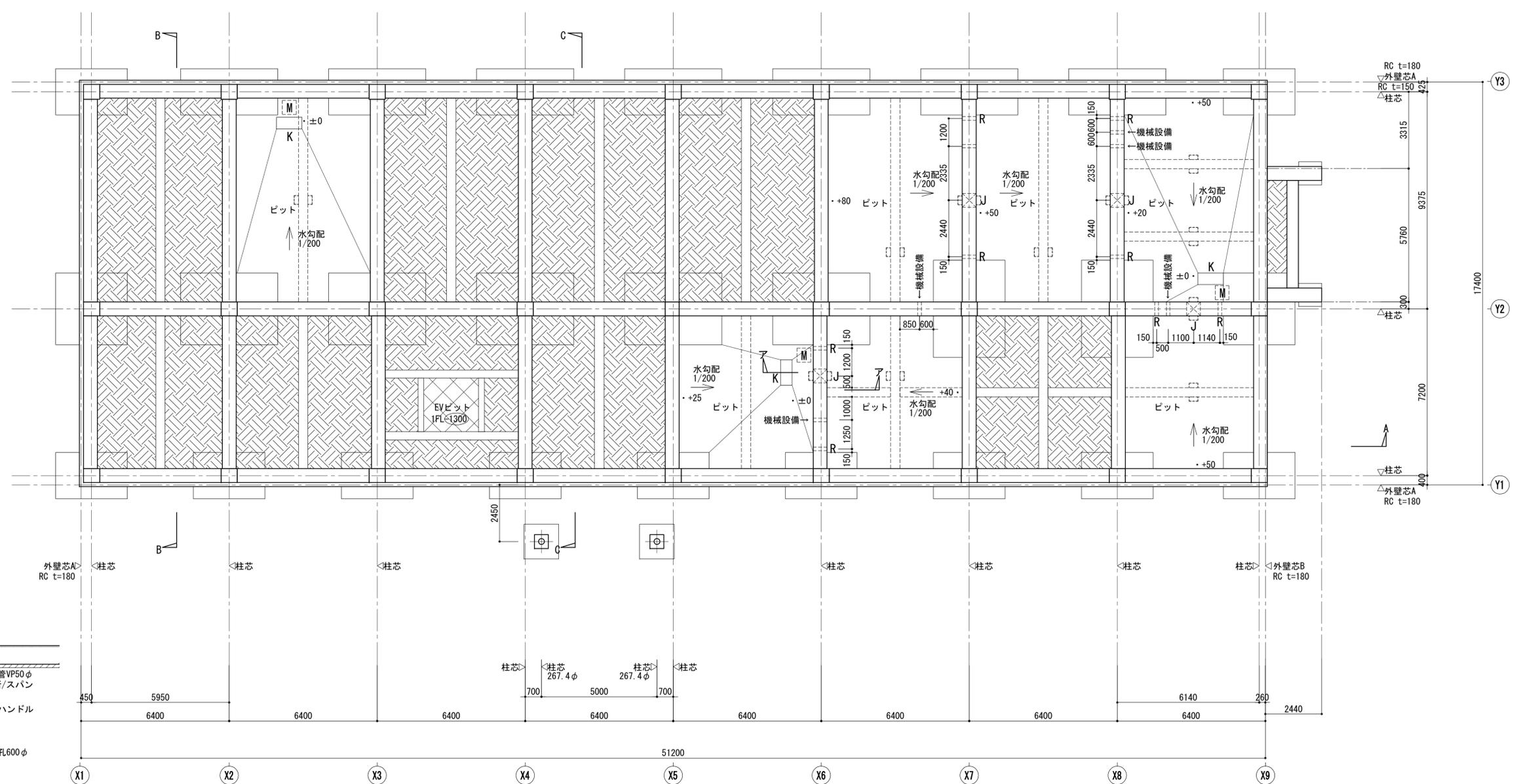
■凡例

±0	FLからのレベル	TD*	壁種 ※仕上表参照	△吊環	SUS吊環 D-201	外壁芯A t1:RC躯体壁厚 t2:増打ち 又は仕上	内部 外部	備考
W*	壁記号 W-01-道	中継RD	中継ドレイン ※サイズは壁種による	Exp. J	渡り廊下接続部 D-404	外部	外部	・エコシャフト D-201
消	消火器ボックスA ※仕上表による	RD+OF	横型ルーフトレイン オーバーフロー管 D-201 D-401	点字ブロック1 ※仕上表参照	設備基礎 D-403	外部	外部	・点検歩廊 グレーチング床t40 ※仕上表による
▲	出入口	RD	ルーフトレイン D-201			外部	外部	
M	床下点検口 600角 SUS枠ポルト式 防水防臭タイプ、仕上床同材 下部SUSタラップ @350以下 5段		キッチン D-705			外部	外部	
			ミニキッチン D-704			外部	外部	

■基礎リスト

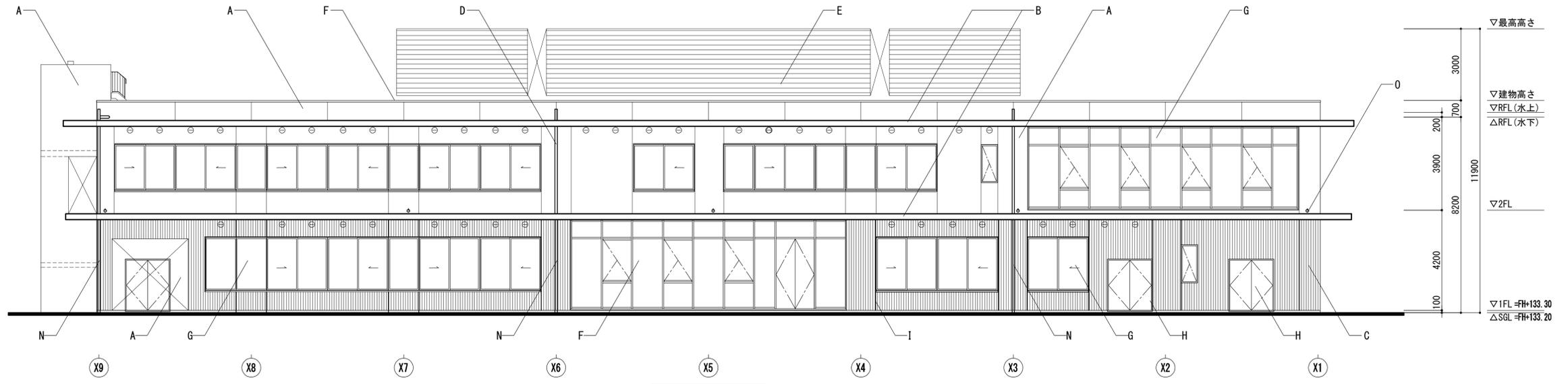
設備機器	L	W	H	か所数	設備機器	規格	L	か所数
空調室外機	1050	300	800	12	空調室外機	H-150x150x7x10	1360	8
	620	300	800	2			1100	8
	400	250	800	2			750	12
	400	250	800	2			700	2
キュービクル	400	400	800	8	キュービクル	H-150x150x7x10	450	2
	400	400	800	2			4000	4
非常用発電機	400	2570	800	2	非常用発電機	H-150x150x7x10	2100	6
	400	1090	800	2			675	8
太陽光発電	400	400	800	40	非常用発電機	H-150x150x7x10	2000	3
目隠しルーバー	500	500	800	24			1700	2

■架台リスト



ピット平面図 1/100

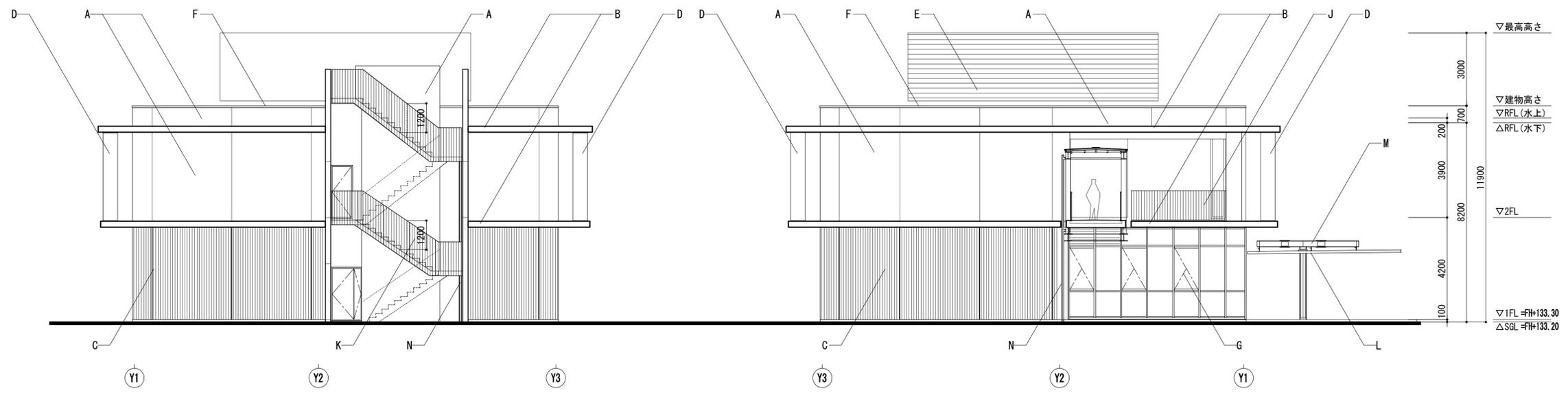
凡例	
±0	1FLからのレベル
埋戻し	埋戻し
M	上部床下点検口600角+SUSタラップ @350以下 5段
K	釜場: 1000x500xH300 ※釜場の位置は設備工事と調整すること
J	人通孔600φ
R	連通管VP100φ半割 (下部)+通気管VP50φ (上部)
□	ハンドル SUS HL Φ20 W400



東立面図 1/100

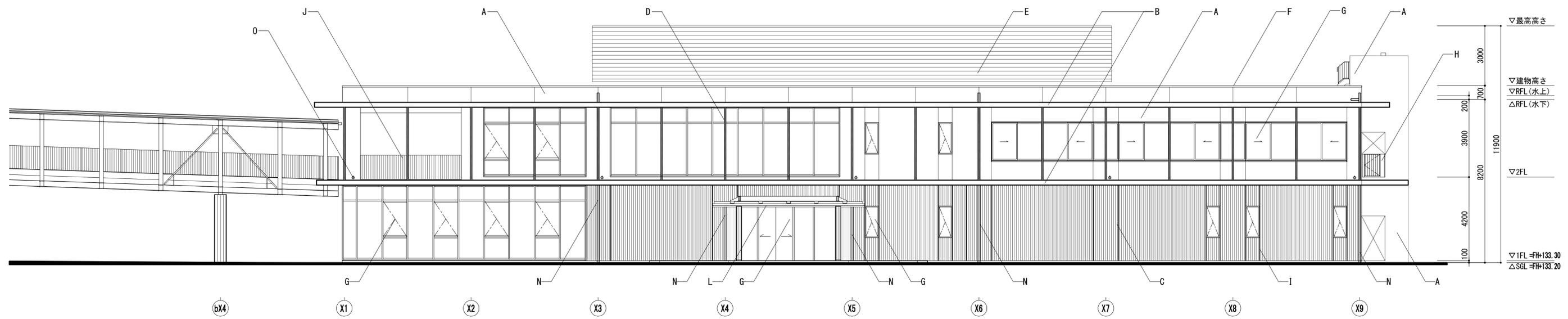
■外部仕上表

A	外壁：C打放しの上、吹付A
B	庇：C打放しの上、吹付A（水平面：P防水B） 庇軒裏：吹付B 庇軒先：C打放しの上、吹付A
C	外壁：D打放しの上、吹付C
D	縦ルーバー：ECP-A（DP）
E	外壁：目隠しルーバー（BA-2）、鉄骨下地
F	笠木：AL（BA-2）
G	開口部：AW（BA-2）
H	開口部：SD（DP）
I	化粧目地
J	手摺A：溶融亜鉛メッキ仕上
K	手摺B：溶融亜鉛メッキ仕上
L	車寄せ庇屋根：アルミ庇A（F-BE）
M	車寄せ庇フレーム：S（DP）
N	縦樋
O	吊環
○	ベンドキャップ（機械設備工事）（指定色）

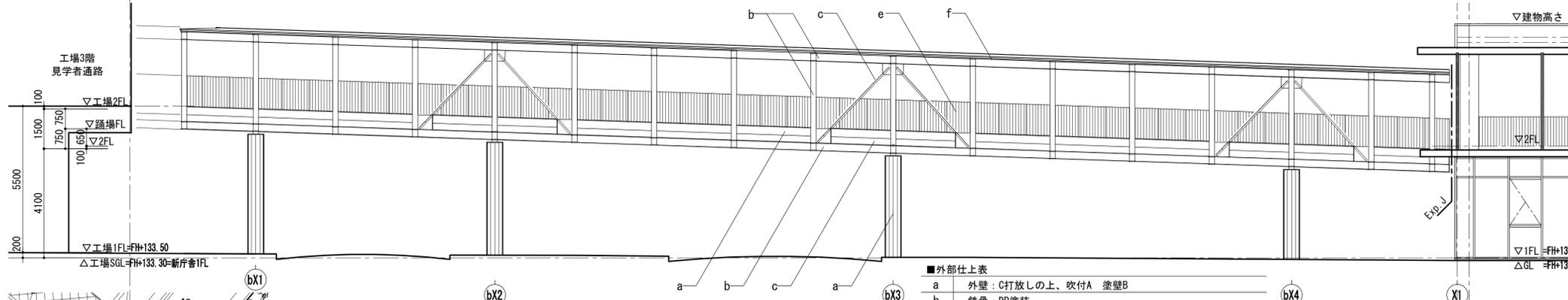
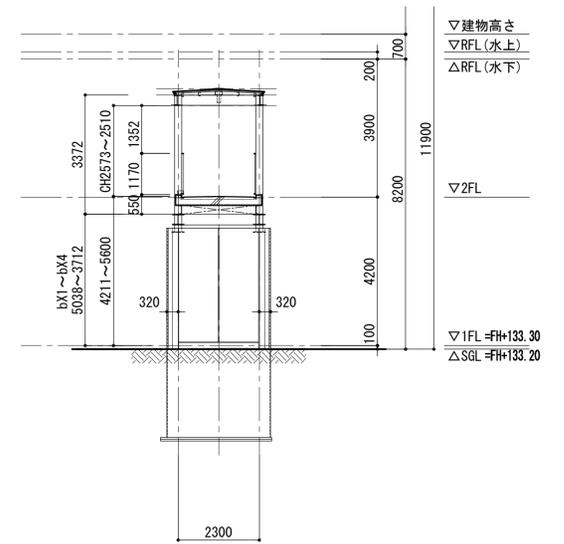
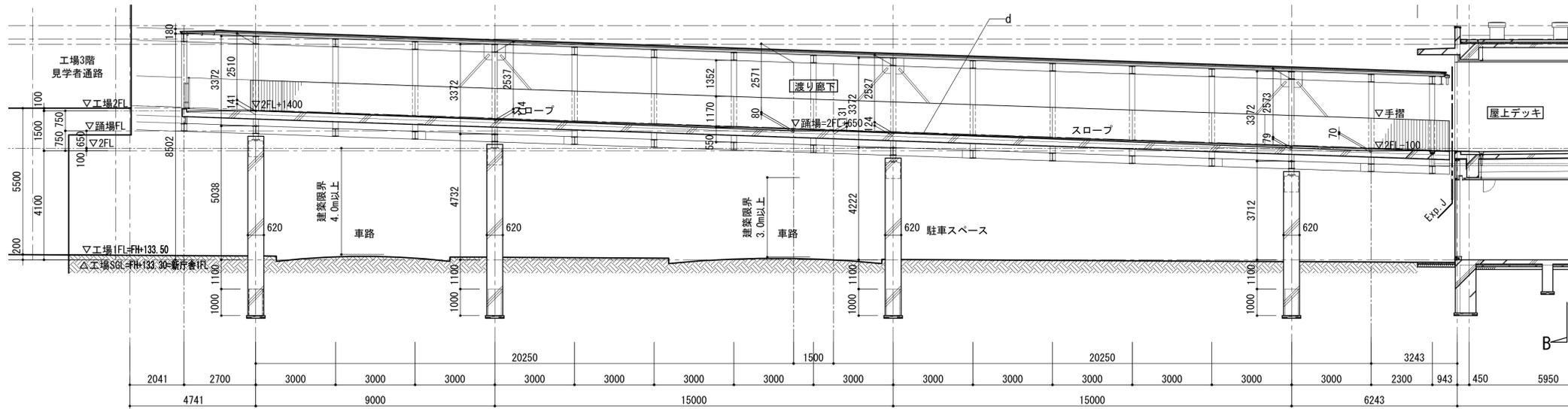


南立面図 1/100

北立面図 1/100

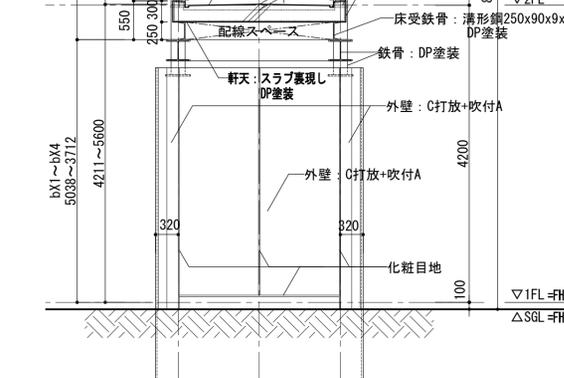
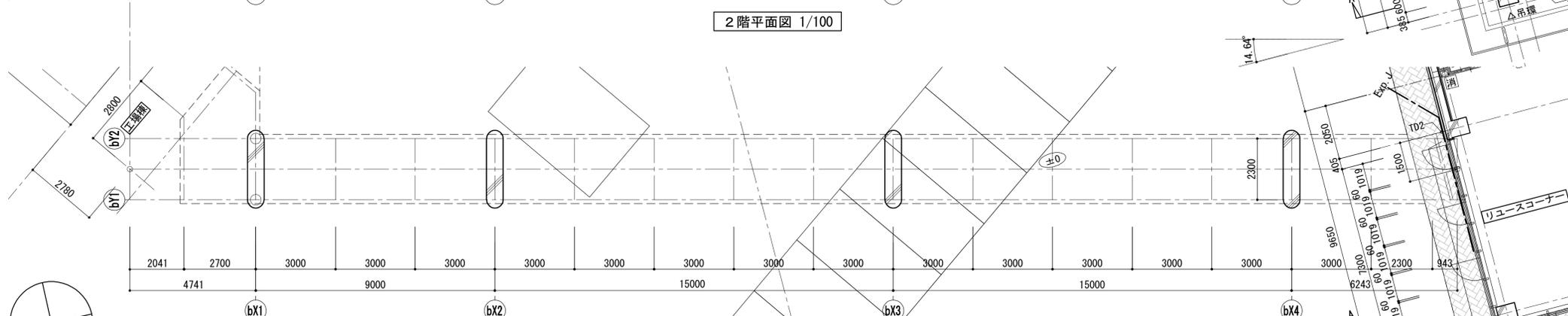
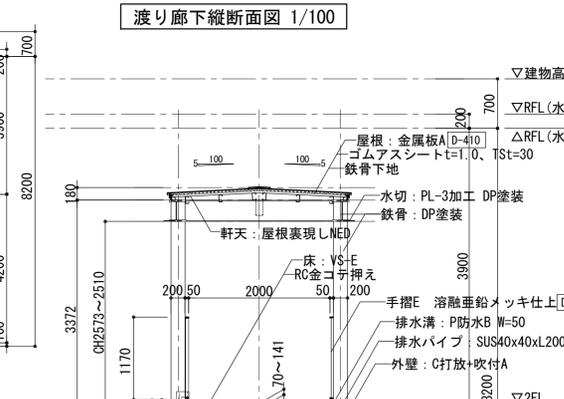
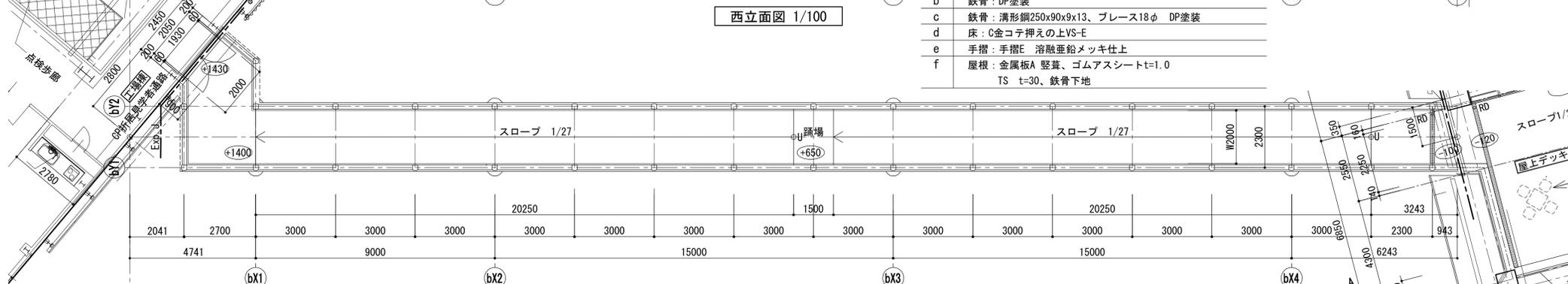


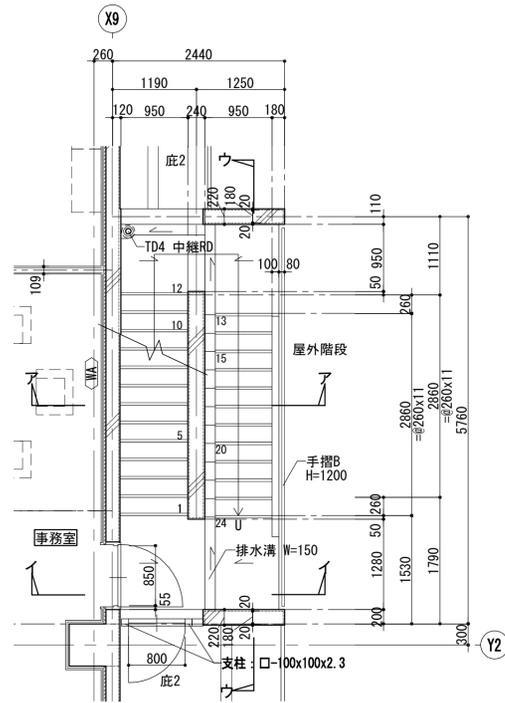
西立面図 1/100



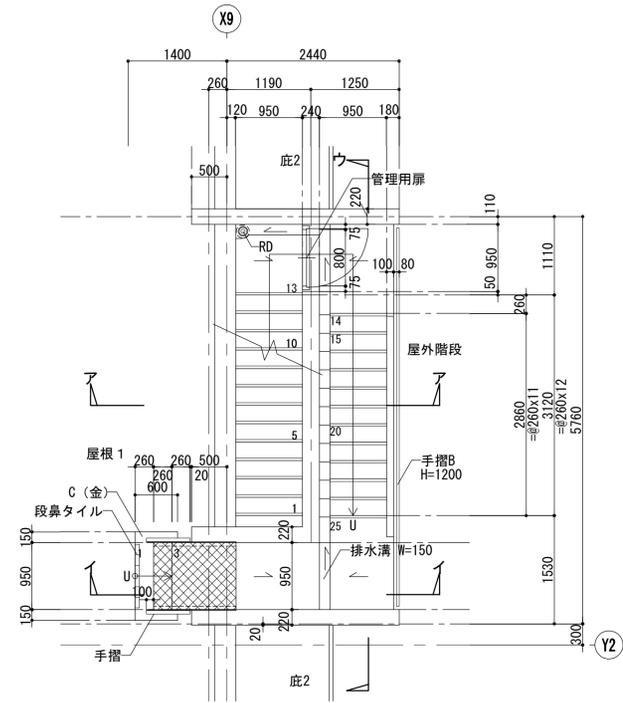
■外部仕上表

a	外壁：C打放しの上、吹付A 塗壁B
b	鉄骨：DP塗装
c	鉄骨：清形鋼250x90x9x13、ブレース18φ DP塗装
d	床：C金コテ押えの上VS-E
e	手摺：手摺E 溶融亜鉛メッキ仕上
f	屋根：金属板A 縦葺、ゴムアシートt=1.0 TS t=30、鉄骨下地

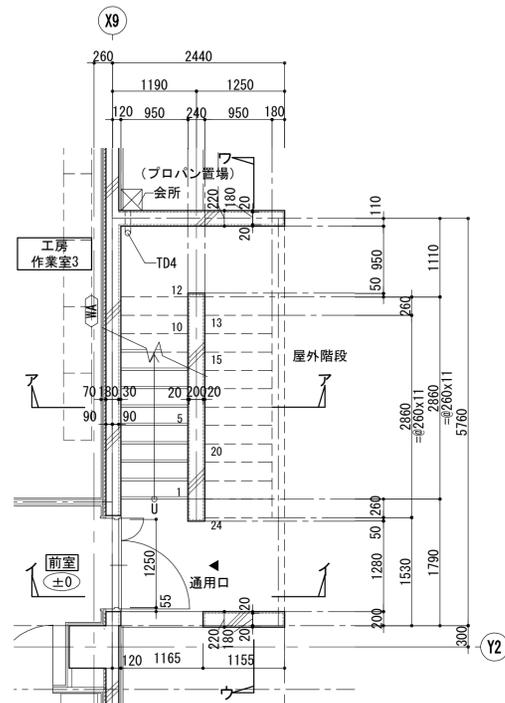




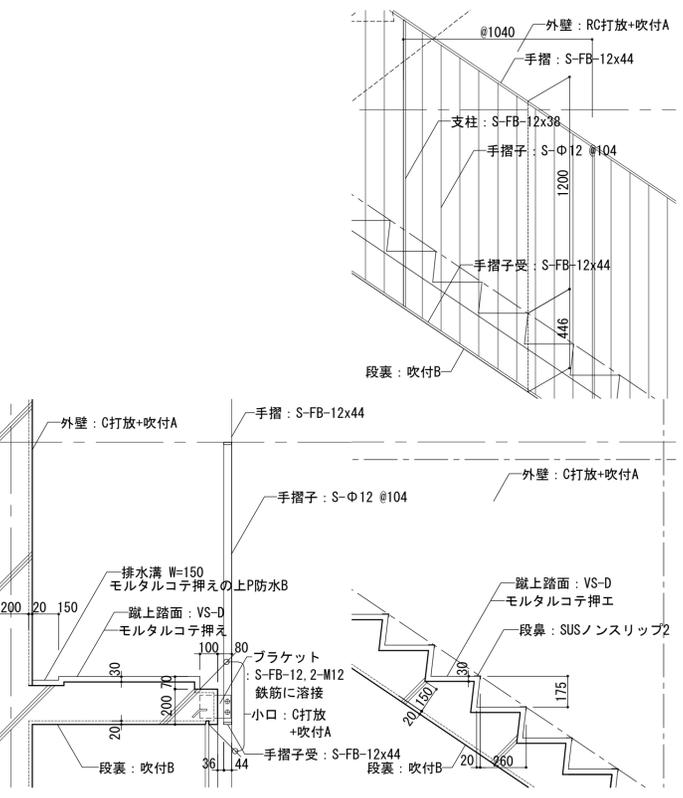
2階平面詳細図 1:50



R階平面詳細図 1:50

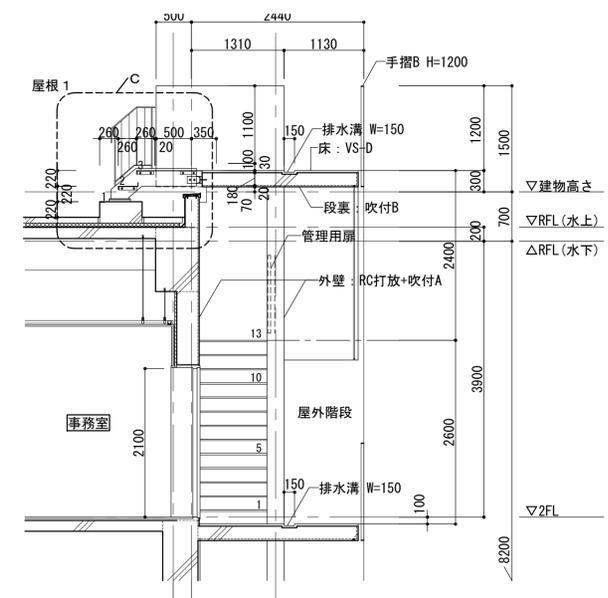


1階平面詳細図 1:50

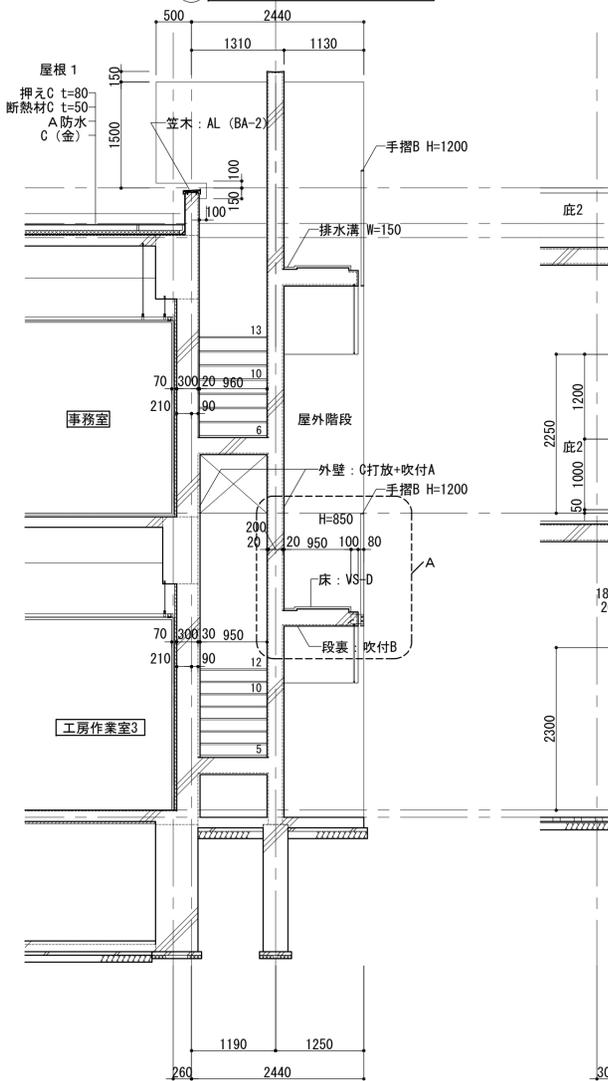


A部分(手摺B)詳細図 1:20

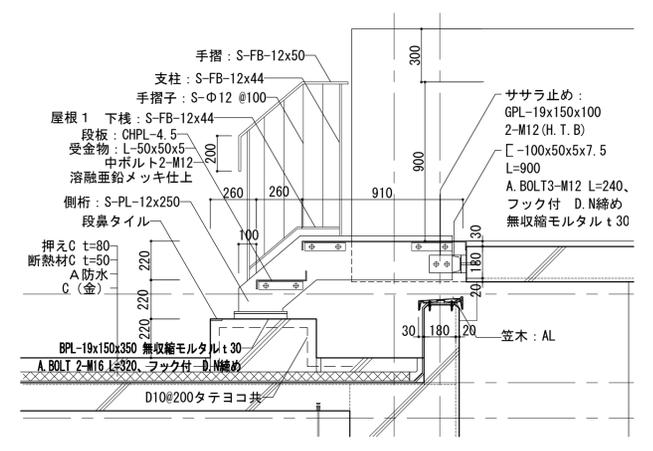
B部分(手摺B)詳細図 1:20



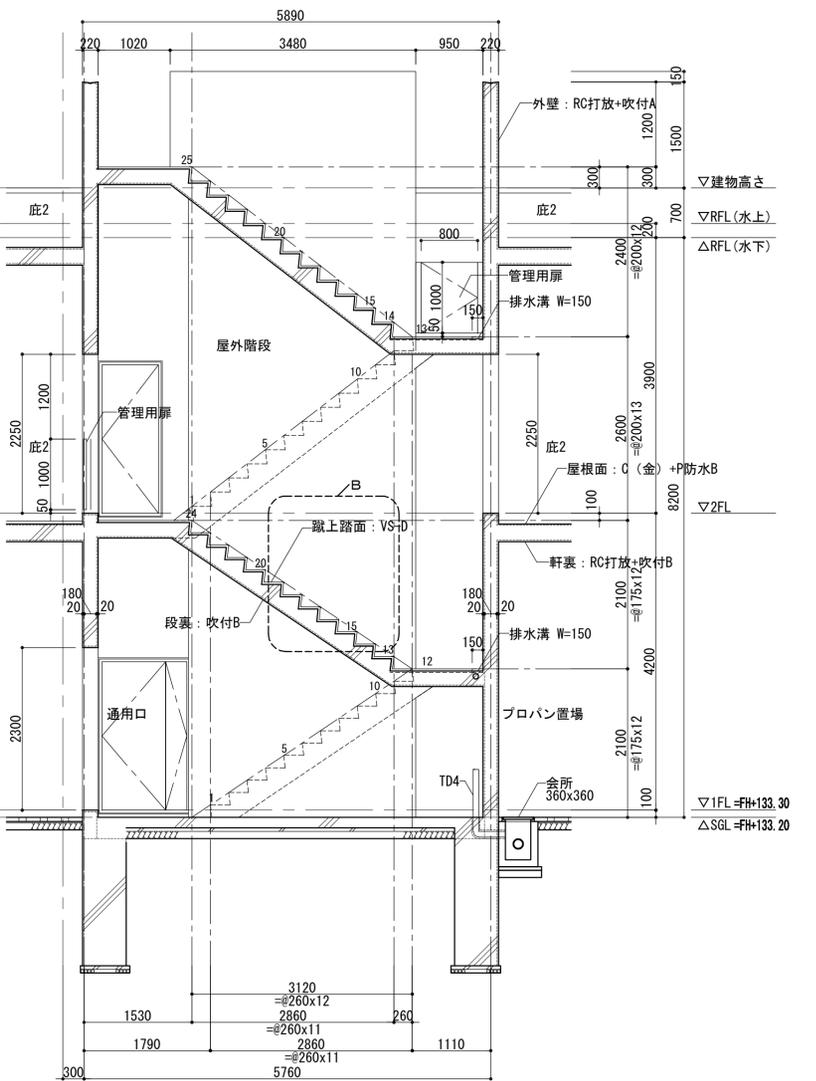
イーイ断面詳細図 1:50



アーア断面詳細図 1:50



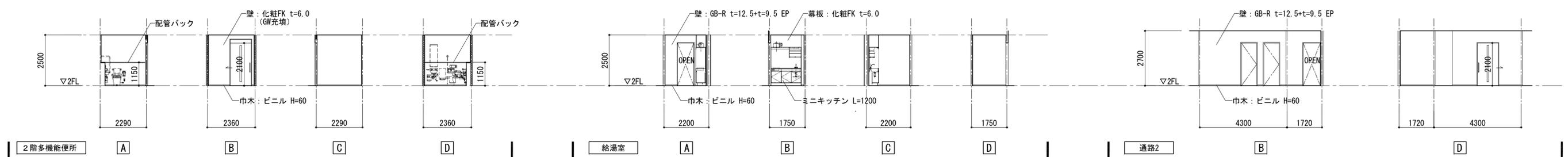
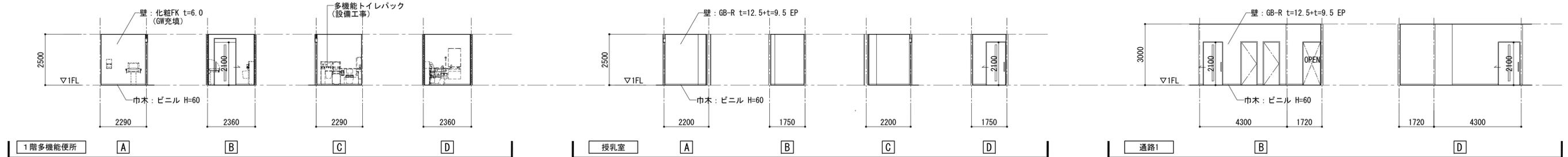
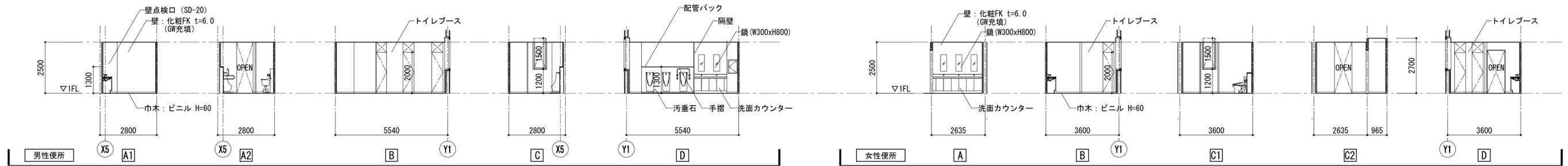
C部分詳細図 1:20



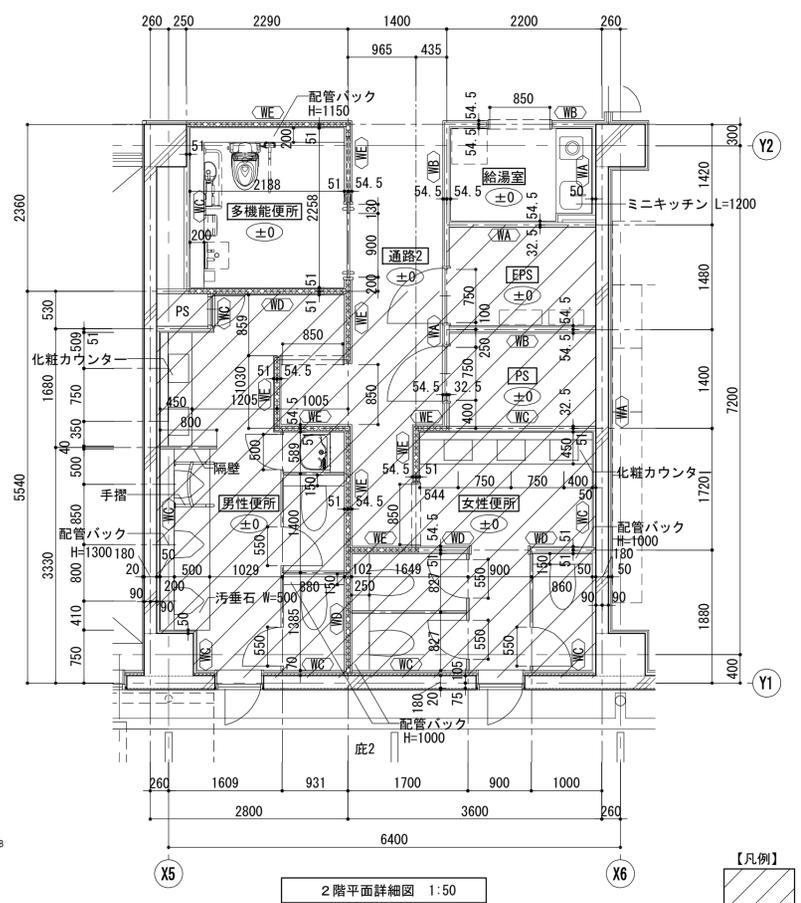
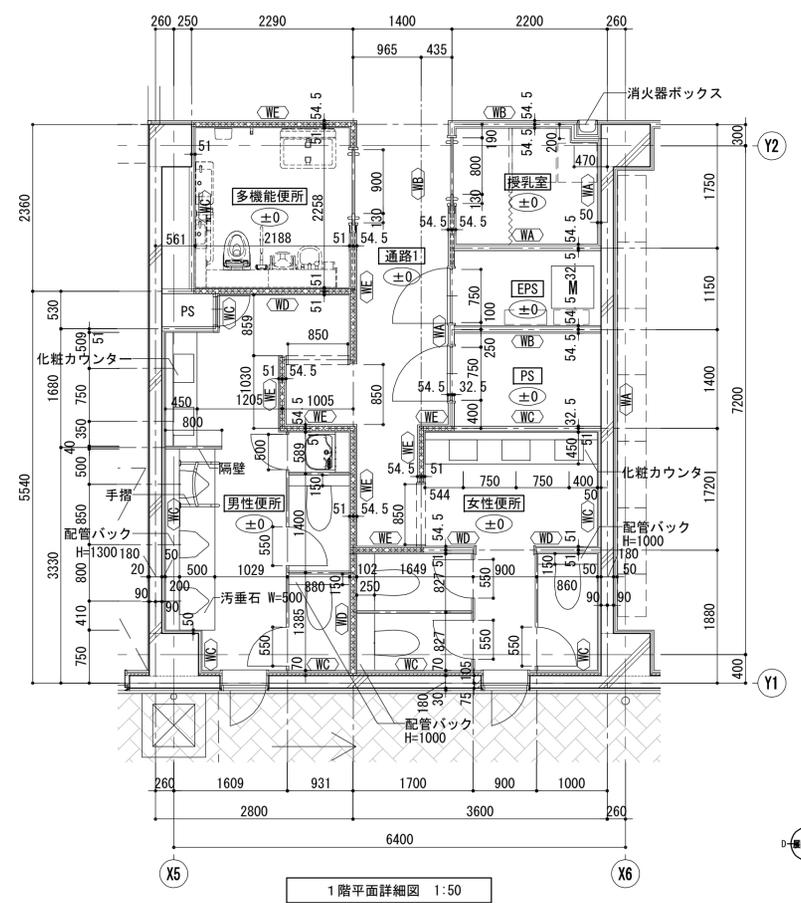
ウーウ断面詳細図 1:50

※特記なき限り鉄部は溶融亜鉛メッキ仕上とする。

竣工年月日	2022. 3	監理者	城南衛生管理組合	設計者	株式会社 大建設計	DATE	2022. 3	PROJ. NO.	0-2021-056	FINAL TITLE	城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	A	
施工者						CHECK				DRAW. TITLE	階段詳細図 (2)	DRAW. NO.	025
											SCALE	1/50 (A1) 1/100 (A3)	

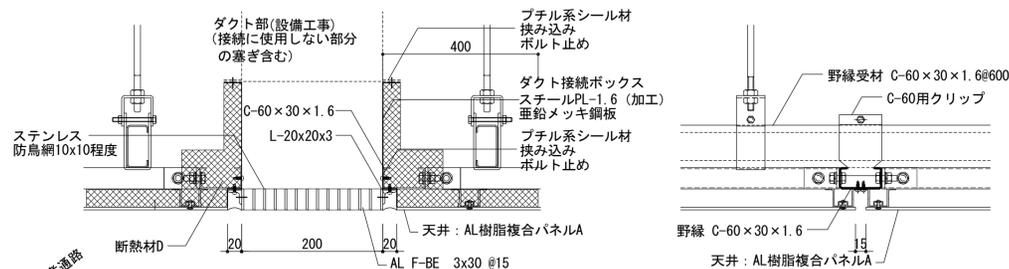


展開図 1:100



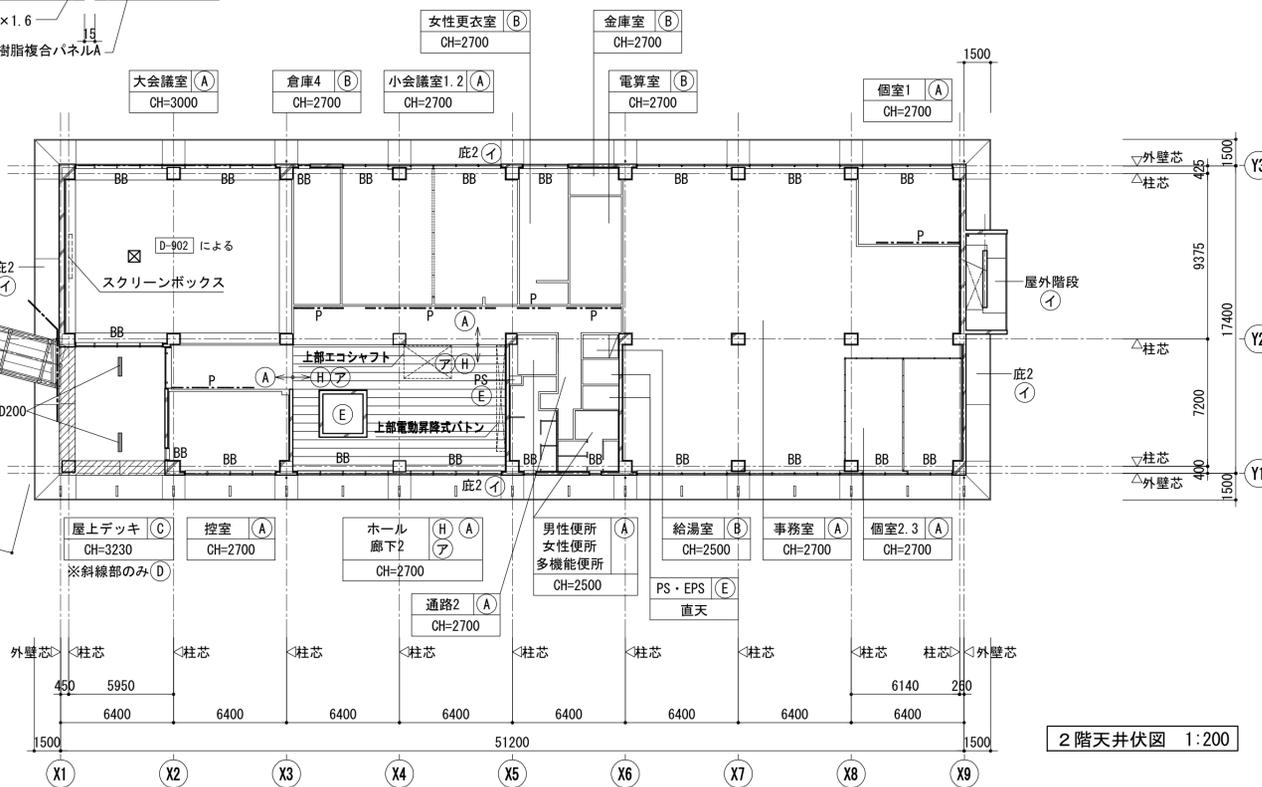
備考	
・シーリング	D-707
・SK詳細	D-701
・トイレブース	D-702
・洗面カウンター	D-703
・配管バック	D-703

【凡例】
 : 1階と同じ範囲を示す。

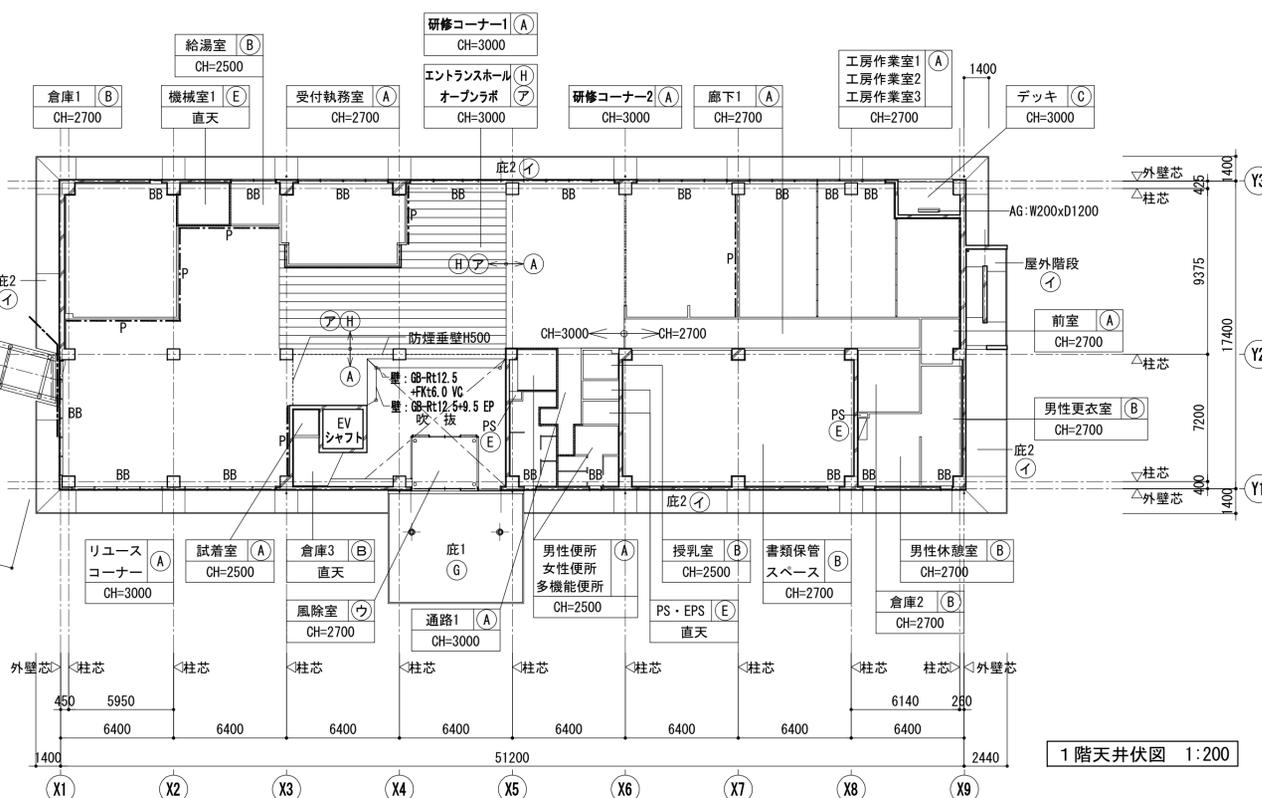


屋上デッキ天井、軒天ガリ詳細図1:5

※特記なき限り D-602 による



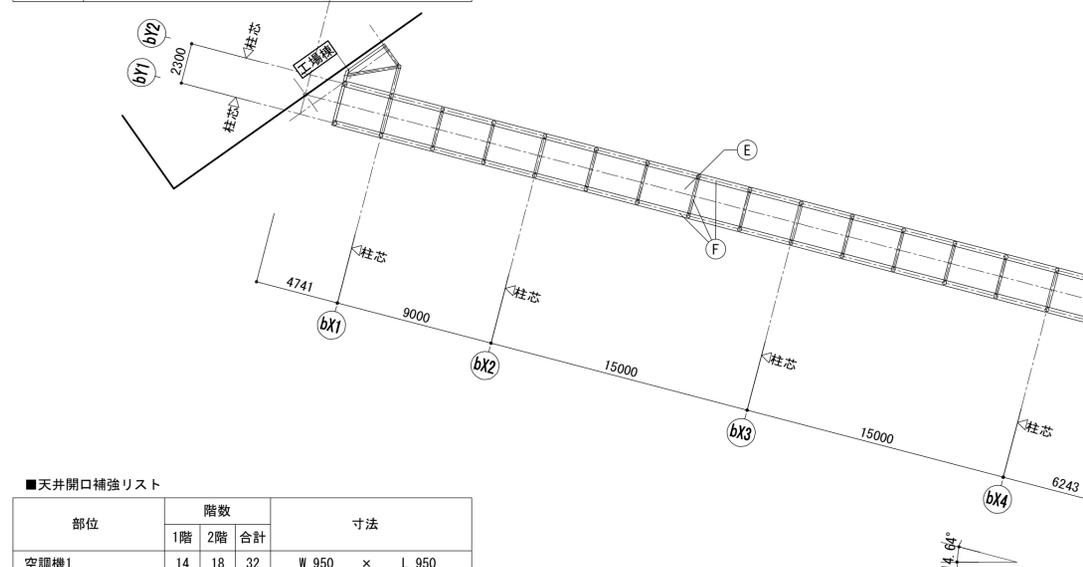
2階天井伏図 1:200



1階天井伏図 1:200

凡例	
(A)	DR t=12+GB-NC t=9.5 (LGS下地)
(B)	GB-NC t=9.5 (LGS下地)
(C)	FK t=6 AEP (LGS下地)
(D)	AL樹脂複合パネルA (F-BE) D-405
(E)	スラブ裏返し、屋根裏返し
(F)	鉄骨 DP塗装
(G)	車寄せ庇屋根: アルミ庇A (F-BE) D-501
(H)	カラーDR t=12+GB-NC t=9.5 (LGS下地)
(ア)	ルーバーA、ルーバーB D-801
(イ)	軒天: C打放し吹付B
(ウ)	アルミスパンダレル (BA-2)

凡例	
BB	ブラインドボックス D-101 D-201
P	ピクチャーレール (アルミ製) CH-070
AG	軒天ガリ: AL-FB-3x30 @15 開口率 (80%) SUS防虫網
☒	プロジェクター収納 D-706
☒	スクリーンボックス D-607
-----	防煙垂壁 D-610



■天井開口補強リスト

部位	階数			寸法
	1階	2階	合計	
空調機1	14	18	32	W 950 × L 950
空調機2	1	0	1	W 1030 × L 640
全熱交換器	3	6	9	W 700 × L 625
埋込照明1	6	16	22	W 600 × L 600
埋込照明2	0	12	12	W 1235 × L 220

符号	A17 書類保管スペース、男性更衣室、男性休憩室、男性便所、女性便所、倉庫1・4		A18 エコシャフト		SD1 前室		SD2 デッキ		SD3 機械室、倉庫1		SD4 事務室		SD5 EPS、PS		SD6 大会議室		SD7 屋外階段		SD8 PS	
数量	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
形式	縦すべり出し窓		突き出し連続窓		両面フラッシュ親子開き扉		両面フラッシュ両開き扉		両面フラッシュ両開き扉		両面フラッシュ片開き扉		片面フラッシュ片開き扉		両面フラッシュ両開き扉		片開き格子扉		片面フラッシュ片開き扉	
図面																				
扉	見込 - 仕上 AL-BA-2-A2		見込 - 仕上 AL-BA-2-A2		見込 40 仕上 S-DP		見込 40 仕上 S-DP		見込 40 仕上 S-DP		見込 40 仕上 S-DP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 50 仕上 S-DP		見込 40 仕上 S-SOP	
枠	タイプ - 見込 75 仕上 AL-BA-1-A2		タイプ - 見込 75 仕上 AL-BA-1-A2		タイプ A 見込 290 仕上 S-DP		タイプ A 見込 290 仕上 S-DP		タイプ A 見込 300 仕上 S-DP		タイプ A 見込 290 仕上 S-DP		タイプ B 見込 110 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ - 見込 - 仕上 -		タイプ A 見込 110 仕上 S-SOP	
番・窓台	タイプ - 見込 仕上		タイプ - 見込 仕上		タイプ A 見込 290 仕上 ST-HL		タイプ A 見込 290 仕上 ST-HL		タイプ A 見込 300 仕上 ST-HL		タイプ A 見込 290 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ - 見込 - 仕上 -		タイプ A 見込 40 仕上 ST-HL	
水切	見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上	
ガラリ	-		-		-		-		-		-		-		-		-		-	
ガラス	ガラスA (便所4か所のみ乳白シート貼)		ガラスA		TG5 (乳白シート貼)		-		-		-		-		-		-		-	
付属金物	H、クレセント、調整器 付属金物一式、網戸(プリーツタイプ)		H、電動OP (埋込型) 付属金物一式、網戸(固定)		H、L、CL、DC(C)、FB、T、J		H、L、CL、DC(C)、FB、T、J		H、L、CL、DC(C)、FB、T、J		H、L、CL、DC(C)、T		TH、CH、DC		PH、ドアハンドル、CL、DC(C)、FB、T、J		H、L、CL		TH、CH、DC	
防火戸・エアータイト	-		-		SAT		SAT		SAT		SAT		-		-		-		-	
備考	-		GW充填 (枠共)、電気錠		GW充填 (枠共)		GW充填 (枠共)		GW充填 (枠共)		GW充填 (枠共)、ホテル錠		-		T-3		-		-	
符号	SD9 配管取出口		SD10 事務室		SD11 CP折居		SF1 女性便所、男性便所		SF2 給湯室		SF3 各部									
数量	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
形式	両面フラッシュ片開き扉		両面フラッシュ親子開き扉		両面フラッシュ両開き扉		三方枠		三方枠		一方枠									
図面																				
扉	見込 40 仕上 S-DP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-DP		見込 - 仕上 -		見込 - 仕上 -		見込 - 仕上 -		見込 - 仕上 -		見込 - 仕上 -		見込 - 仕上 -		見込 - 仕上 -	
枠	タイプ A 見込 290 仕上 S-DP		タイプ A 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ A 見込 300 仕上 S-DP		タイプ C 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ C 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ C 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ C 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ 見込 仕上		タイプ 見込 仕上		タイプ 見込 仕上	
番・窓台	タイプ A 見込 290 仕上 ST-HL		タイプ A 見込 120 仕上 ST-HL		タイプ A 見込 300 仕上 ST-HL		タイプ - 見込 - 仕上 -		タイプ - 見込 - 仕上 -		タイプ - 見込 - 仕上 -		タイプ - 見込 - 仕上 -		タイプ 見込 仕上		タイプ 見込 仕上		タイプ 見込 仕上	
水切	見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 仕上		見込 仕上		見込 仕上	
ガラリ	-		-		-		-		-		-		-		-		-		-	
ガラス	-		HTG5 (乳白シート貼)		-		-		-		-		-		-		-		-	
付属金物	TH、CH、DC		PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J		H、L、CL、DC(C)、FB、T、J		-		-		-		-		-		-		-	
防火戸・エアータイト	特定防火設備 SAT		-		SAT		-		-		-		-		-		-		-	
備考	GW充填 (枠共)		特定防火設備		GW充填 (枠共)		-		-		-		-		-		-		-	
符号	LD1 研修コーナー2、工房作業室1、工房作業室2		LD2 工房作業室3、研修コーナー2		LD3 受付執務室		LD4 試着室		LD5 多機能便所、授乳室		LD6 倉庫1、書類保管スペース		LD7 倉庫3		LD8 倉庫2		LD9 前室		LD10 男性更衣室	
数量	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1	
形式	両面フラッシュ親子開き扉		両面フラッシュ片開き扉		両面フラッシュ片開き扉		両面フラッシュ片開き扉		両面フラッシュ片引き扉		両面フラッシュ両開き扉		鋼製両面フラッシュ両開き扉		両面フラッシュ親子開き扉		両面フラッシュ親子開き扉		両面フラッシュ片開き扉	
図面																				
扉	見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP		見込 40 仕上 S-SOP	
枠	タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 200 仕上 S-SOP		タイプ C 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 200 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP		タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP	
番・窓台	タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL		タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL	
水切	見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上		見込 - 仕上	
ガラリ	-		-		-		-		-		-		-		-		-		-	
ガラス	TG5 (乳白シート貼)		TG5 (乳白シート貼)		TG5 (乳白シート貼)		TG5 (乳白シート貼)		TG5 (乳白シート貼)		-		-		TG5 (乳白シート貼)		TG5 (乳白シート貼)		TG5 (乳白シート貼)	
付属金物	PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J		PH、L、CL、DC(C)、T		PH、L、CL、DC(C)、T		PH、L、CL、DC(C)、T、使用中表示		ハンガーレール、ハンガー車、セミロング引手 箱錠、ガイドレール、ガイドローラー、使用中表示		PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J		PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J		PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J		PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J		PH、L、CL、DC(C)、T	
防火戸・エアータイト	-		-		-		アンダーカット		-		-		-		-		-		-	
備考	-		-		-		-		-		-		-		-		-		電池錠	

■共通事項

(1) 建具寸法はすべて枠内寸法を示し、製作にあたっては再度現場調整する。

(2) アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。

1. 耐風圧性

- S-1 (800Pa) ・ S-2 (1200Pa) ・ S-3 (1600Pa)
- S-4 (2000Pa) ・ S-5 (2400Pa) ・ S-6 (2800Pa)
- S-7 (3600Pa)

2. 気密性

- A-1 (120等級線) ・ A-2 (30等級線)
- A-3 (8等級線) ・ A-4 (2等級線)

3. 水密性

- W-1 (100Pa) ・ W-2 (150Pa) ・ W-3 (250Pa)
- W-4 (350Pa) ・ W-5 (500Pa)

4. 遮音等級

- T-1 (25等級線) ・ T-2 (30等級線)
- T-3 (35等級線) ・ T-4 (40等級線)

■表面処理

A-1 種・A-2 種・B-1 種・B-2 種

C-1 種・C-2 種・D 種

6. アルミニウム製建具の各種防火戸取扱いについて

○製品は認定品の使用を原則とするが、認定品で対応できない場合は認定品を有するメーカー製品とし、建具寸法とできるだけ認定品に近い寸法とし、かつ認定品と同一の部材を使用し、方立・無目については厚み2mmとする。尚、網入ガラスの取り付けは、パテ (JISA5752の2種金属製建具用ガラスパテ) 又は、認定製品を使用すること。

(3) ステンレス建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。

1. 曲げ加工

- 普通曲げ ○角だし ・ 半角だし

2. 表面仕上

- パフ ○H・L ・ 梨地 ・ 塗装 ・ 電解発色

■建具符号略号

SD .. 鋼製扉

SW .. 鋼製窓

SG .. 鋼製ガラリ

SS .. 鋼製重シャッター

SS .. 鋼製枠

LSD .. 鋼製軽量扉

LSS .. 鋼製軽量シャッター

STD .. ステンレス製扉

STW .. ステンレス製窓

STG .. ステンレス製ガラリ

STS .. ステンレス製シャッター

TD .. 強化ガラス製扉

PG .. プラスチック製ガラリ

STD .. 鋼製パーティション

WD .. 木製扉

WW .. 木製窓

WG .. 木製ガラリ

F .. ふすま

WF .. 戸ふすま

SJ .. 紙障子

SJ .. ステンレス製パーティション

SLW .. スライディングパーティション

■材料・仕上略号

S .. 鋼

AL .. アルミ

ST .. ステンレス

■ガラス略号

SG .. 透明ガラス

FG .. 型板ガラス

TG .. 強化ガラス

PSG .. 磨きガラス

PWG .. 網入磨きガラス

FWG .. 網入型板ガラス

HG .. 熱線吸収ガラス

FL .. フロートガラス

HTG .. 耐熱強化ガラス

Low-E .. Low-Eガラス

ガラスA .. FL6 (Low-E)+AG+FL5

ガラスB .. FL8 (Low-E)+AG+FL8

ガラスC .. FL6 (Low-E)+AG+FL8

ガラスD .. FL6+遮熱フィルム

ガラスE .. FL8+遮熱フィルム

RHL .. ガイロレール仕上

■塗装略号

SOP .. 合成樹脂合ペイント

FE .. フタル酸樹脂エナメル塗り

AEP .. アクリル樹脂系エマルジョン塗料

EP .. 合成樹脂エマルジョン塗料

EP-G .. つやや合成樹脂エマルジョン塗料

EP-M .. 多彩模様塗料

AC .. アクリル樹脂系クリヤー

GWP .. 水系有光沢塗料

BE .. 焼付形塗料

U-BE .. ウレタン焼付形塗料

AE .. アクリル樹脂系塗料

UC .. ポリウレタン樹脂系クリヤー

UE .. ポリウレタン樹脂系塗料

F-BE .. フッ素樹脂系付塗料

aP .. アルミニウムペイント

GP .. 塩化ゴム系塗料

Exp .. エポキシ樹脂系塗料

TEP .. タルエポキシ樹脂系塗料

スチッパル .. スチッパル仕上

RHL .. ガイロレール仕上

■金物略号

H .. 丁番

PH .. ピボットヒンジ

FH .. フローアヒンジ

LH .. ラブドローヒンジ

HC .. ヒンジクローザー

TH .. 点検口用巾吊ヒンジ

AH .. オートヒンジ

DC (C) .. ドアクローザー (コンールドタイプ)

DC .. ドアクローザー

FB .. あげ落とし

AS .. あがり止め

T .. 戸当たり

CH .. ケースハンドル

L .. レバーハンドル

CL .. シリダー本締錠 (サムターン付き)

CL2 .. シリダー本締錠 (サムターン付き)

SPI .. 小型アジャスタ

SP2 .. 小型アジャスタ (錠付)

ML .. 本締付モノロック

JL .. レモン錠

■特記事項

- レバーハンドル・ユニオン UL1051 セミロング引手・ユニオン 6500 CH・ユニオン UKH110-001 ドアハンドル・シブタニ H006-10023-2000 同等品以上
- 両開き、親子開閉にはあけ落としを設け、特定防火設備及び防火設備には開閉調整器を設けること。(扉防火仕様については、確認申請書の平面図例を参照のこと)
- 特記なき限り外部に面するガラリには防鳥網 ステンレス製 (SUS316) を設置すること。
- 特記なき限りアルミ建具に取り付けるアルミ水切は引出型とする。
- アルミ建具枠と窓台・網取付部は絶縁材 (CR-GM12.0) 入りとする。
- 外壁に設けるガラスは「ガラス」接続用金物付き (四層共S-PL-1.6溶融重合処理、裏面ガラス付付付13) とし、ガラス接続部以外には裏面ガラス (S-PL-1.6溶融重合処理裏面ガラス付付付13) を設けること。
- 外壁に設ける建具枠内には気密材を設置すること。
- ドアクローザーはストッパー付き (但し防火設備及び特定防火設備はストッパー無し) とする。
- 建具枠内モルタル詰 : 無塩砂を使用し、塩化物を含む潤滑剤は使用しないこと。
- 建具金物の決定に際しては監督職員の承認を得ること。
- ドアガードはゴム (黒) 付きタイプとする。
- 接理オベレータは指定アルミ製とする (埋込タイプ・収納ボックス付)
- Low-E層ガラスは日射遮蔽率 0.60以下とする。
- 出入口の鋼製建具、アルミ製建具には指絡め防止ゴムを設ける (建具と枠の双方に取付ける)

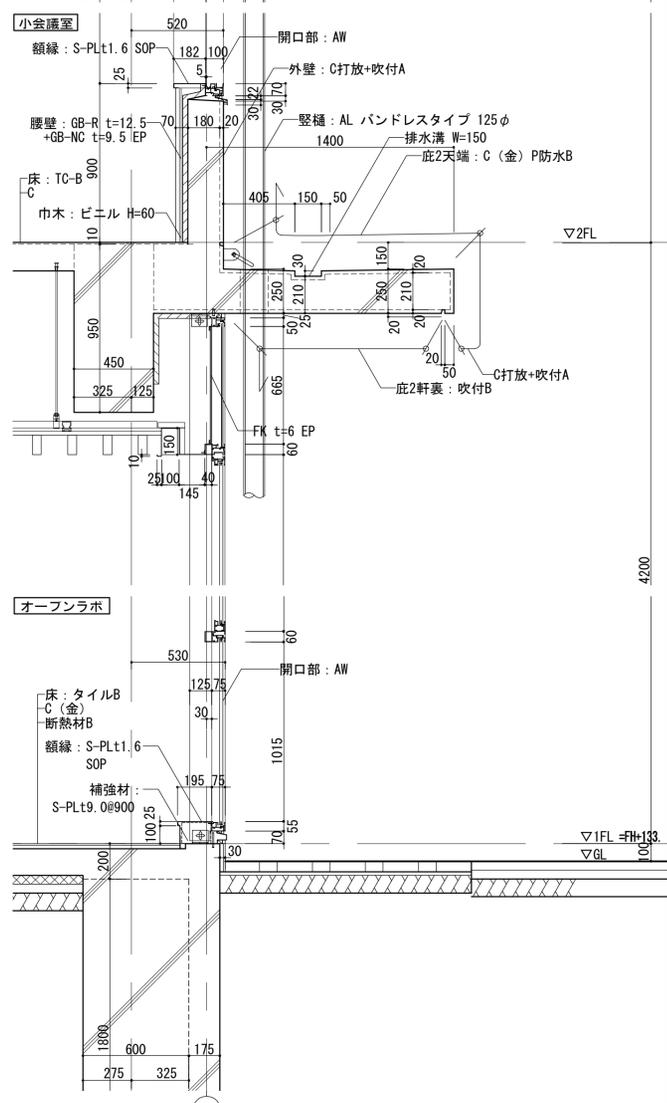
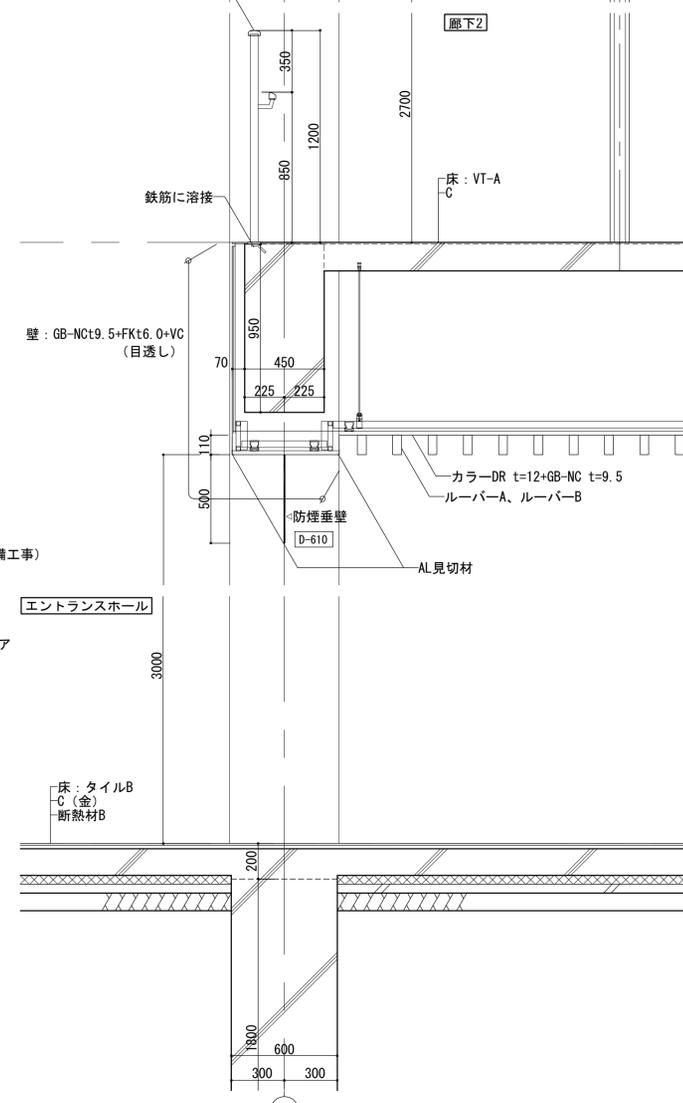
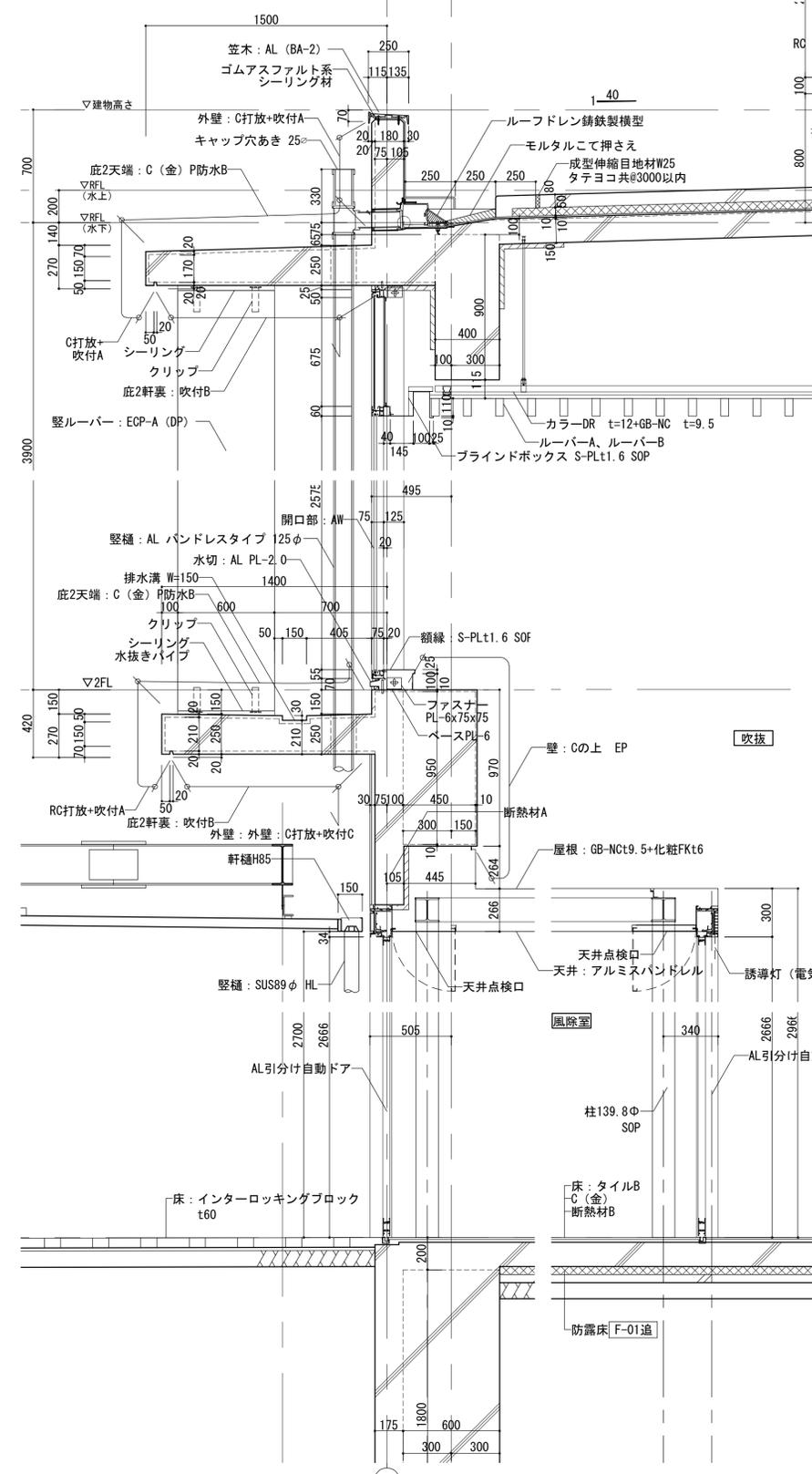
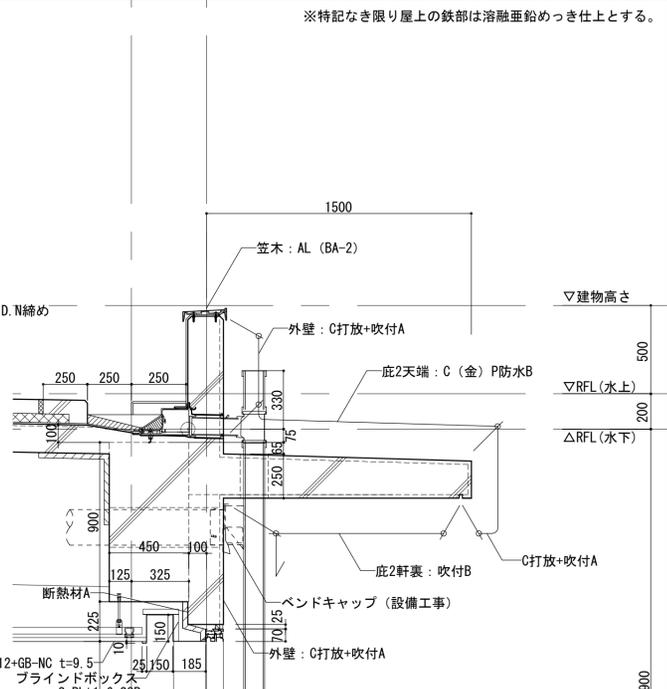
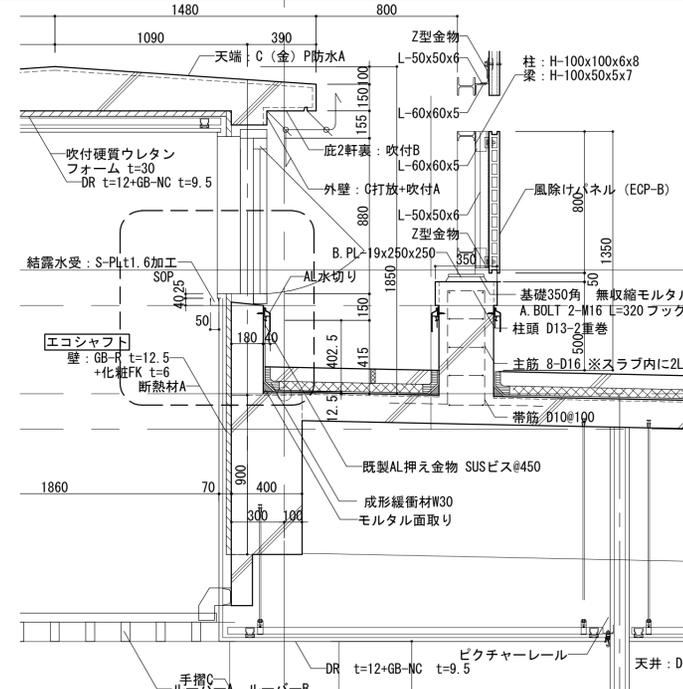
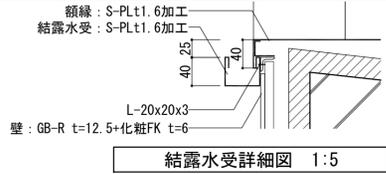
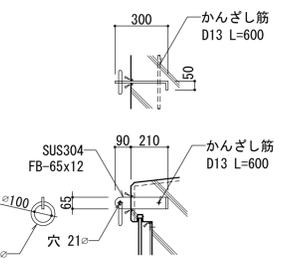
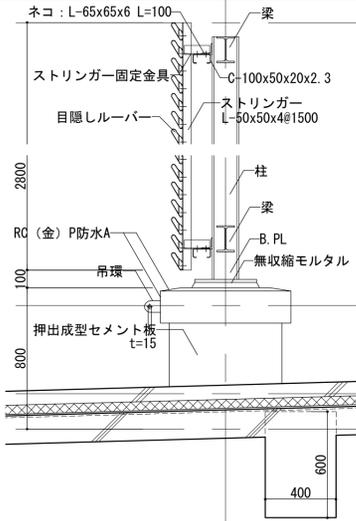
符号	⑬ 金庫	⑭ 電算室	⑬ 個室 (1)	⑭ 小会議室1・2、控室	⑬ 倉庫4	⑬ 女性更衣室
数量	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
形式	両面フラッシュ片開き扉	両面フラッシュ親子開き扉	両面フラッシュ片開き扉	両面フラッシュ親子開き扉	両面フラッシュ両開き扉	両面フラッシュ片開き扉
図						
扉	見込 40 仕上 S-SOP					
枠	タイプ B 見込 120 仕上 S-SOP					
番・窓台	タイプ C 見込 40 仕上 ST-HL					
水切	見込 - 仕上 -					
ガラリ	-	-	-	-	-	-
ガラス	-	TG5(乳白シート貼)	TG5(乳白シート貼)	TG5(乳白シート貼)	-	TG5(乳白シート貼)
付属金物	PH、L、CL、DC(C)、T	PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J	PH、L、CL、DC(C)、T	PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J	PH、L、CL、DC(C)、FB、T、J	PH、L、CL、DC(C)、T
防火戸・エアータイト	-	-	-	-	-	-
備考	ホテル錠	ホテル錠	-	-	-	電池錠

符号	⑬ 衣服工房作業室	⑬ 個室2、個室3	⑬ 受付執務室
数量	1 2	0 1 2	1 2
形式	スチールパーティション (遮音タイプ)	スチールパーティション (遮音タイプ)	引違い連続窓+FIX窓
図			
項目	部材	材料 (板厚mm)	部材
骨材	天井レール	冷間圧延鋼板 1.0mm <焼付塗装仕上>	天井レール
	巾木レール	冷間圧延鋼板 1.2mm <焼付塗装仕上>	巾木レール
	ポール (支柱)	冷間圧延鋼板 1.2mm <焼付塗装仕上>	ポール (支柱)
	上横・下横	冷間圧延鋼板 1.0mm <焼付塗装仕上>	上横・下横
	壁面レール	冷間圧延鋼板 1.0mm <焼付塗装仕上>	壁面レール
	壁面レール充填材	ウレタンフォーム	壁面レール充填材
	コーナーカバー	アルミ押出形材 <焼付塗装仕上>	コーナーカバー
	コーナー用カバー	冷間圧延鋼板 1.0mm <焼付塗装仕上>	コーナー用カバー
	コーナーレール	冷間圧延鋼板 1.0mm <焼付塗装仕上>	コーナーレール
枠	ドア枠	冷間圧延鋼板 1.2mm <焼付塗装仕上>	ドア枠
	ドア気密材	エチレン・プロピレンゴム (ブラック色)	ドア気密材
パネル	パネル表面材	垂れめっき鋼板 0.5mm <焼付塗装仕上>	パネル表面材
	芯材	せっこうボード 12.5mm	芯材
	充填材	グラスウール 32kg/m ³ 厚さ25mm	充填材
			パネル表面材
			芯材
			吊金具
			フランジ
			ドアクローザ
			ロック
			戸高り
			床付戸高り
			※上記参考品番とし、同等品以上とする。

符号	⑬ 研修コーナー1、2	⑬ 小会議室1、2
数量	1 2	1 2
形式	スライディングウォール (遮音タイプ)	スライディングウォール (遮音タイプ)
図		
レール仕様	レール	スチール、アルミ押出型材(アルマイト処理)
		合成ハンガーレール
		間仕切り部天井戸当たり
ランナー仕様	走行輪	多軸多輪(2軸4輪)
	吊ボルト	M 24
パネル仕様	表面仕上	塗装下地用クロス貼の上 EP塗装(内装工事)
	表面材	繊維混入せっこう板 8mm
充填材	グラスウール	32K 50mm
骨組	鉄骨造	
フレーム	アルミ押出形材 (アルマイト処理)	
		※パネル断面詳細図の特記部分は焼付塗装
壁面シールド	機械駆動式	
上部シールド	機械駆動式	
下部シールド	機械駆動式	
		※SPT1、SPT2共通とする

■共通事項	■器具符号略号	■材料・仕上略号	■塗装略号	■金物略号	■枠タイプ	■特記事項
(1) 建具寸法はすべて枠内寸法を示し、製作にあたっては再度現場調整する。	SD ・ 鋼製扉	TD ・ 強化ガラス製扉	SOP ・ 合成樹脂合ペイント	H ・ ・ ・ 丁番	A	レバーハンドル・ユニオン UL1051 セミロング引手・ユニオン 6500 CH・ユニオン UKH110-001 ドアハンドル・シブタ H006-10023-2000 同等品以上
(2) アルミニウム建具の仕様は、特記仕様書および共通仕様書によるほか下記による。	SW ・ 鋼製窓	PG ・ プラスチック製ガラリ	FE ・ フタル酸樹脂エマルジョン塗	PH ・ ・ ・ ビボットヒンジ	B	・ 開閉、親子開閉にはあげ落としを設け、特定防火設備及び防火設備には開閉調整器を設けること。(扉防火仕様については、確認申請書の平面図凡例を確認のこと)
1. 耐風圧性	SG ・ 鋼製ガラリ	ST ・ ステンレス	AEP ・ アクリル樹脂系エマルジョン塗	FH ・ ・ ・ フロアヒンジ	C	・ 特記なき限り外部に面するガラリには防鳥網 ステンレス製 (SUS316) を設置すること。
・ S-1 (800Pa) ・ S-2 (1200Pa) ・ S-3 (1600Pa)	SS ・ 鋼製重量シャッター	■ガラス略号	EP ・ ・ ・ つやや合成樹脂エマルジョン塗	LH ・ ・ ・ ラバトリーヒンジ	D	・ 特記なき限りアルミ建具に取り付けるアルミ水切は押出型材とする。
・ S-4 (2000Pa) ・ S-5 (2400Pa) ・ S-6 (2800Pa)	SS ・ 鋼製枠	SG ・ 透明ガラス	EP-G ・ ・ ・ つやや合成樹脂エマルジョン塗	HC ・ ・ ・ ヒンジローゼー		・ アルミ建具枠と窓台・額縁取合部は絶縁材 (CR-GUM12.0) 入りとする。
2. 気密性	LSD ・ 鋼製軽量扉	FG ・ 型板ガラス	EP-M ・ ・ ・ 多層樹脂系塗	TH ・ ・ ・ 点検口用中心吊ヒンジ		・ 外壁に設ける建具枠戸当たりには気密材を設置すること。
・ A-1 (25等級線) ・ A-2 (30等級線)	LSS ・ 鋼製重量シャッター	TG ・ 強化ガラス	AC ・ アクリル樹脂系クリヤー	CH ・ ・ ・ オートヒンジ		・ ドアクローザはストッパー付き (但し防火設備及び特定防火設備はストッパー無し) とする。
・ A-3 (8等級線) ・ A-4 (2等級線)	STD ・ ステンレス製扉	PSG ・ 磨きガラス	GMP ・ ・ ・ 水系有光沢塗	DC (C) ・ ・ ・ ドアクローザ (コンシールドタイプ)		・ 建具枠廻りモルタル詰 : 無塩砂を使用し、塩化物を含む潤滑剤は使用しないこと。
3. 水密性	STW ・ ステンレス製窓	PWG ・ 網入磨きガラス	BE ・ ・ ・ 焼付形塗料	L ・ ・ ・ レバーハンドル		・ 建具金物の決定に際しては監督官の承認を得ること。
・ W-1 (100Pa) ・ W-2 (150Pa) ・ W-3 (250Pa)	STG ・ ステンレス製ガラリ	FWG ・ 網入型板ガラス	U-BE ・ ・ ・ ウレタン焼付形塗料	CL ・ ・ ・ シリンダー本締錠 (サムターン付き)		・ ドアガードはゴム (黒) つきタイプとする。
・ W-4 (350Pa) ・ W-5 (500Pa)	STJ ・ ステンレス製シャッター	HG ・ 熱線吸収ガラス	AE ・ アクリル樹脂系塗料	CL2 ・ ・ ・ シリンダー本締錠 (サムターン付き破断錠)		・ 扉埋めガラスは日射遮断型とする。(埋込タイプ・収納ボックス付)
4. 遮音等級	STD ・ ステンレス製シャッター	FL ・ フロートガラス	UC ・ ・ ・ ポリウレタン樹脂系クリヤー	ML ・ ・ ・ 本締付モロック		・ Low-e層ガラスは日射遮断型とする。また日射取得率 $\alpha=0.60$ 以下とする。
・ T-1 (25等級線) ・ T-2 (30等級線)	STD ・ ステンレス製シャッター	HTG ・ 耐熱強化ガラス	UE ・ ・ ・ ポリウレタン樹脂系塗料	GL ・ ・ ・ 本締付モロック		・ 出入口の鋼製建具、アルミ製建具には指絡め防止ゴムを設ける (建具と枠の双方に取付ける)
・ T-3 (35等級線) ・ T-4 (40等級線)	STD ・ ステンレス製シャッター	Low-E ・ ・ ・ Low-Eガラス	F-BE ・ ・ ・ フッ素樹脂系焼付塗料	J ・ ・ ・ 扉調整器		
		AW ・ アルミ製窓	aIP ・ アルミニウムペイント			
		AG ・ アルミ製ガラリ	GP ・ ・ ・ 塩化ゴム系塗料			
		F ・ ・ ・ FIX窓	Exp ・ ・ ・ エポキシ樹脂系塗料			
		SPT ・ スチールパーティション	TEP ・ ・ ・ タールエポキシ樹脂系塗料			
		SLW ・ スライディングパーティション	スチッパル ・ ・ ・ スチッパル仕上			
			RHL ・ ・ ・ ・ ・ ガイラシ仕上			

竣工年月日	2022. 3	PRJ. NO.	0-2021-056	PRJ. TITLE	城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	NO. NO.	A
監理者		PRJ. TITLE	建具表 (3)	SCALE	1/100 (A1) 1/200 (A3)	NO. NO.	030
施工者							



※特記なき限り屋上の鉄部は溶融亜鉛めっき仕上とする。

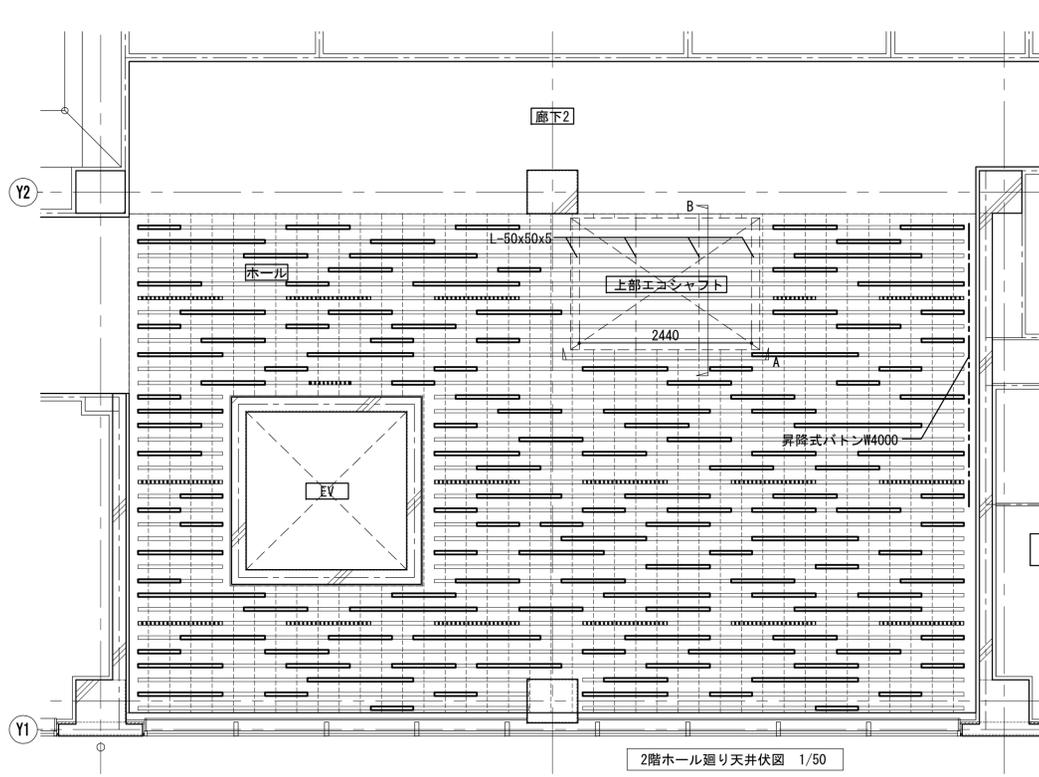
竣工年月日	
監理者	
施工者	

城南衛生管理組合

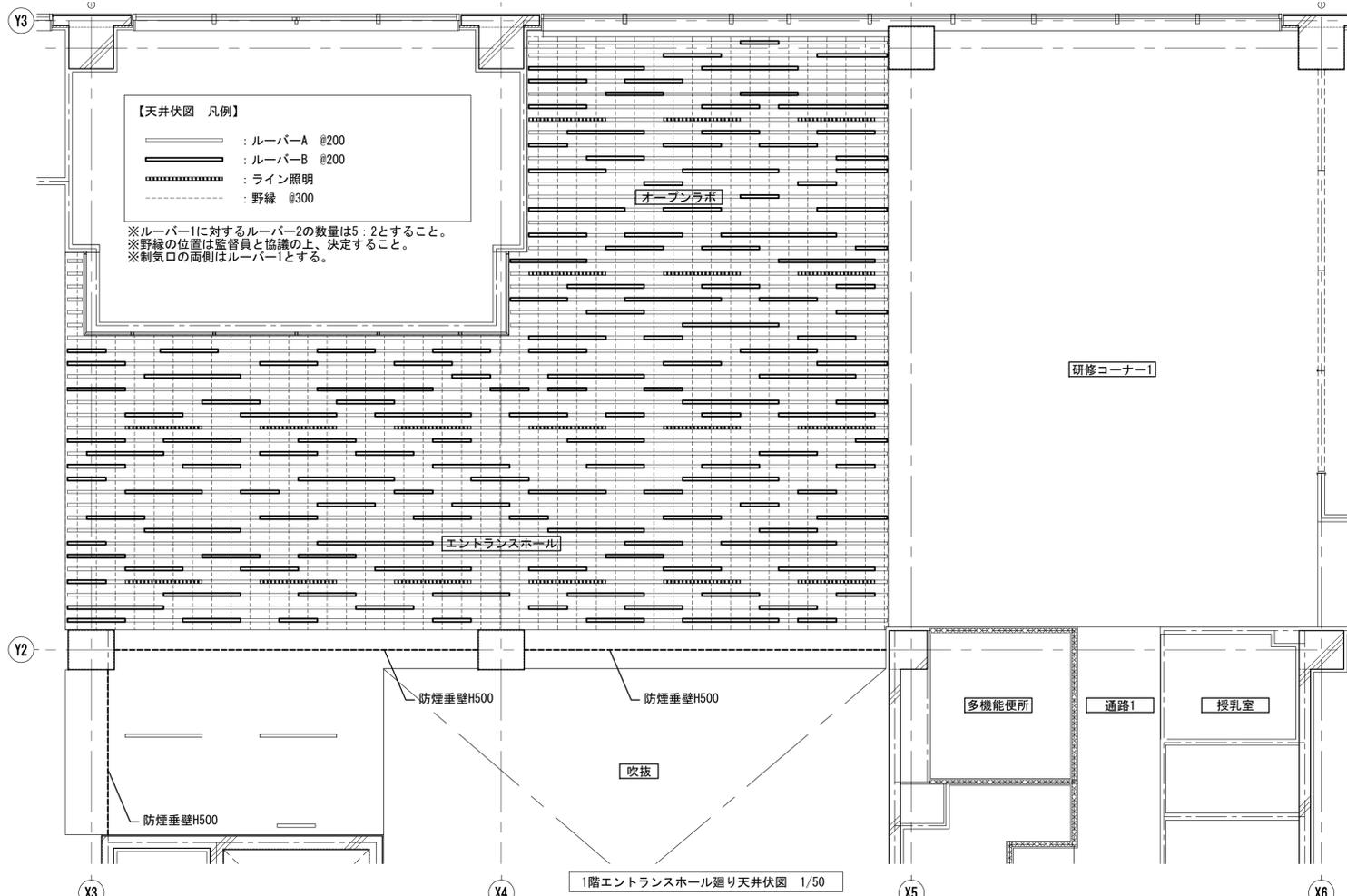
株式会社 大建設計

DATE	2022. 3
PRJL NO	0-2021-056
CHECK	

PRJL TITLE	城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	A
DRW TITLE	部分詳細図(2)	
DRW NO	図示(A1) 図示(A3)	032



2階ホール廻り天井伏図 1/50

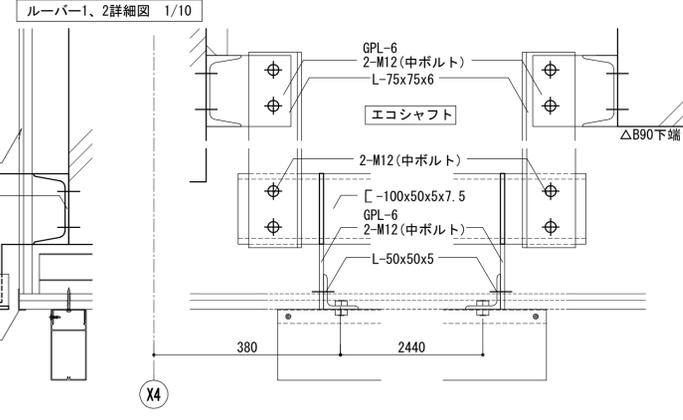
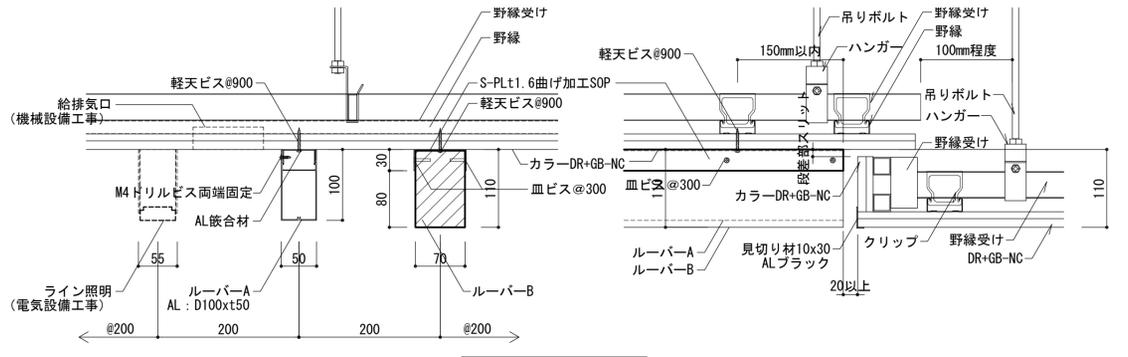


1階エントランスホール廻り天井伏図 1/50

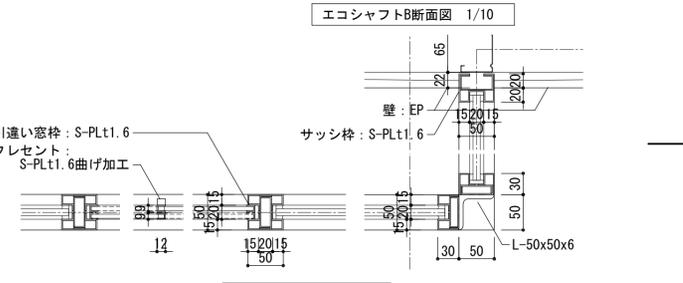
【天井伏図 凡例】

- : ルーバーA @200
- : ルーバーB @200
- : ライン照明
- : 野緑 @300

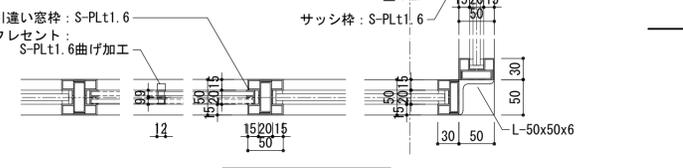
※ルーバー1に対するルーバー2の数量は5:2とすること。
 ※野緑の位置は監督員と協議の上、決定すること。
 ※制気口の両側はルーバー1とする。



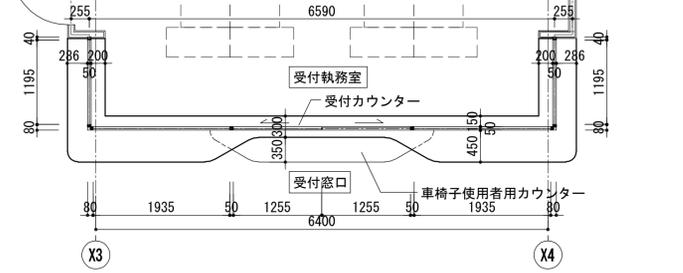
エコシャフトA断面図 1/10



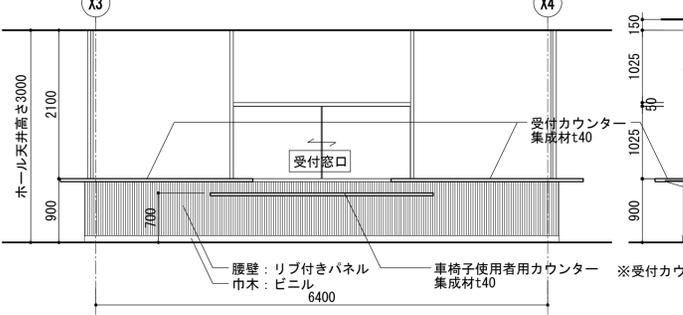
エコシャフトB断面図 1/10



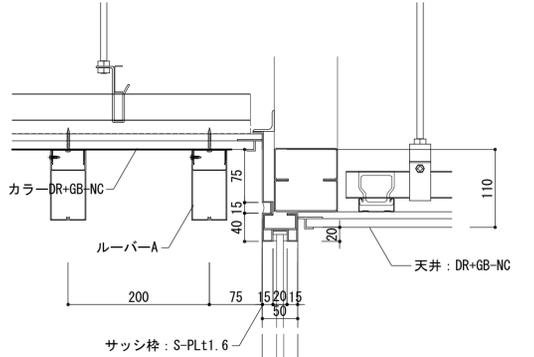
SW-1平面詳細図 1/10



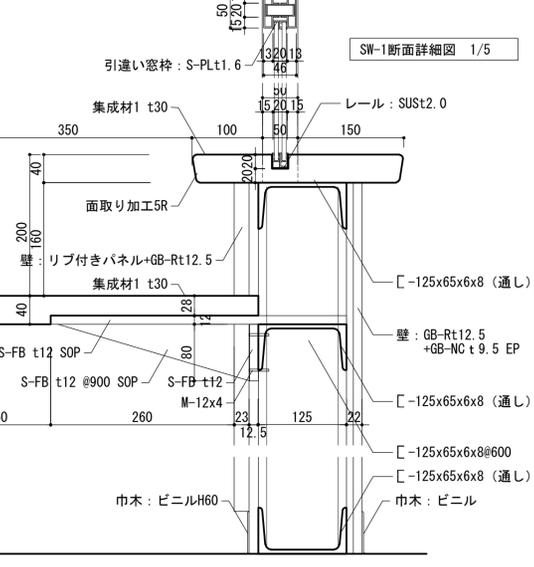
受付カウンター平面図 1/50



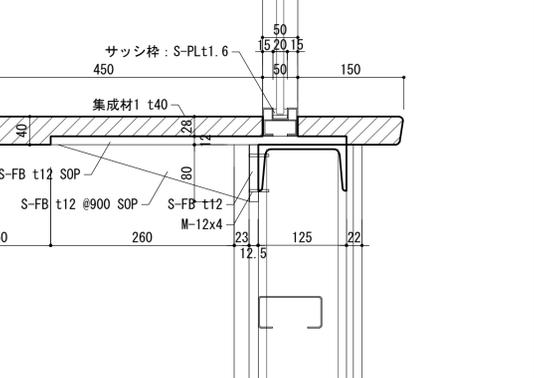
受付カウンター展開図 1/50



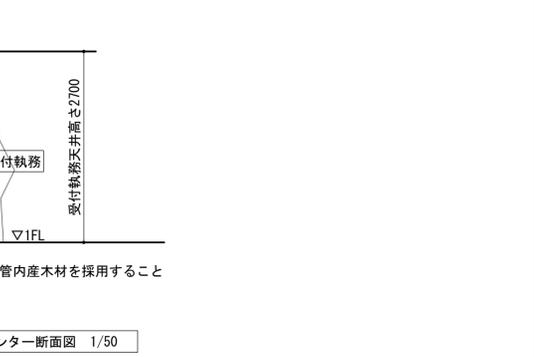
SW-1断面詳細図 1/5



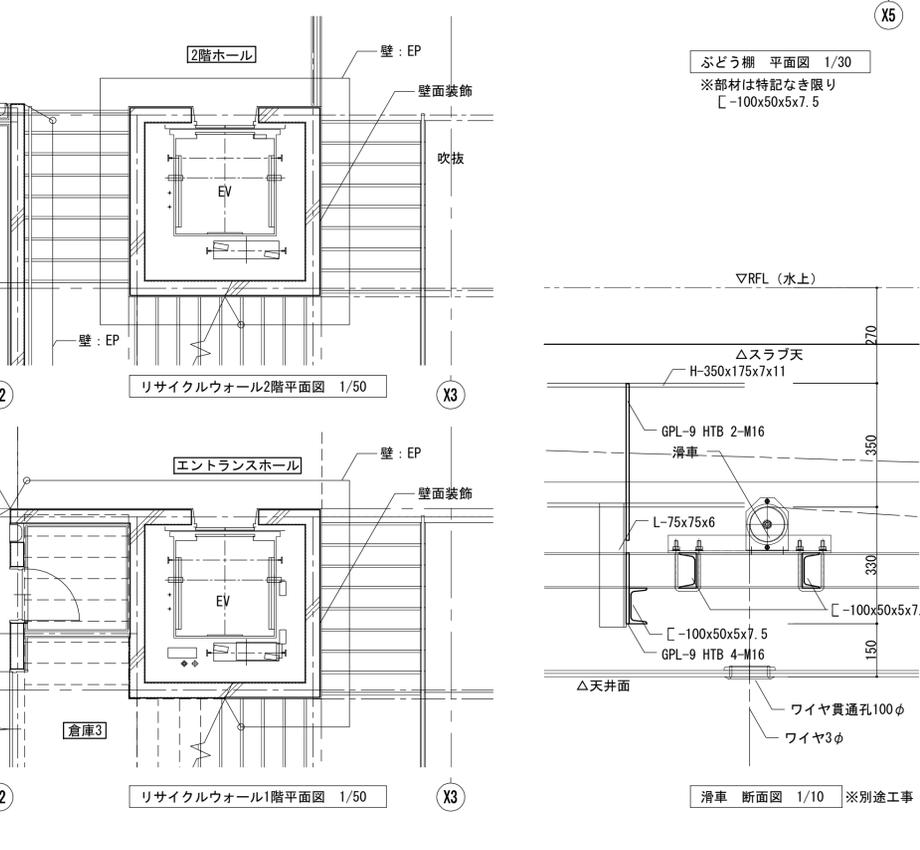
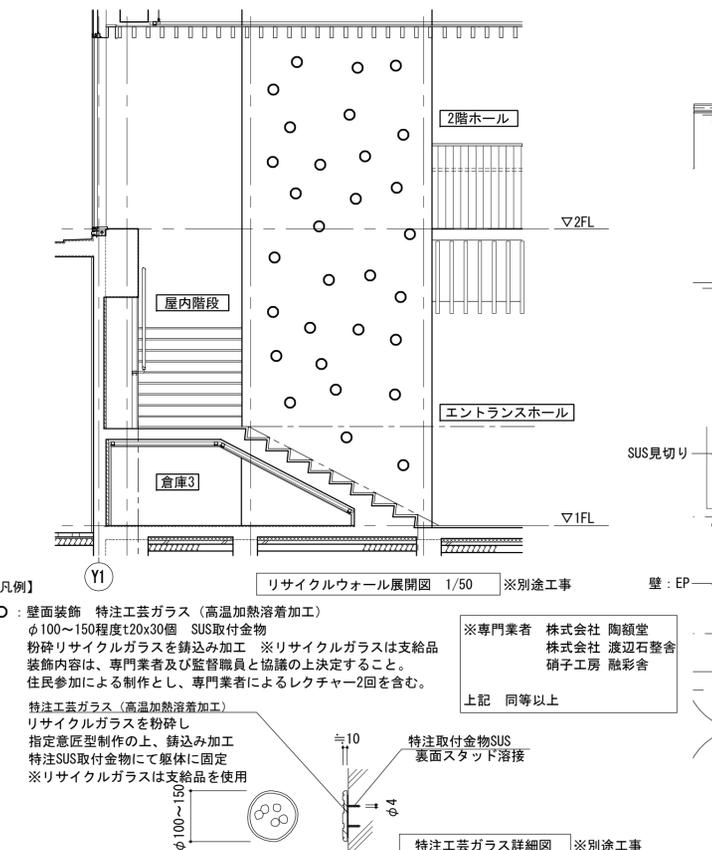
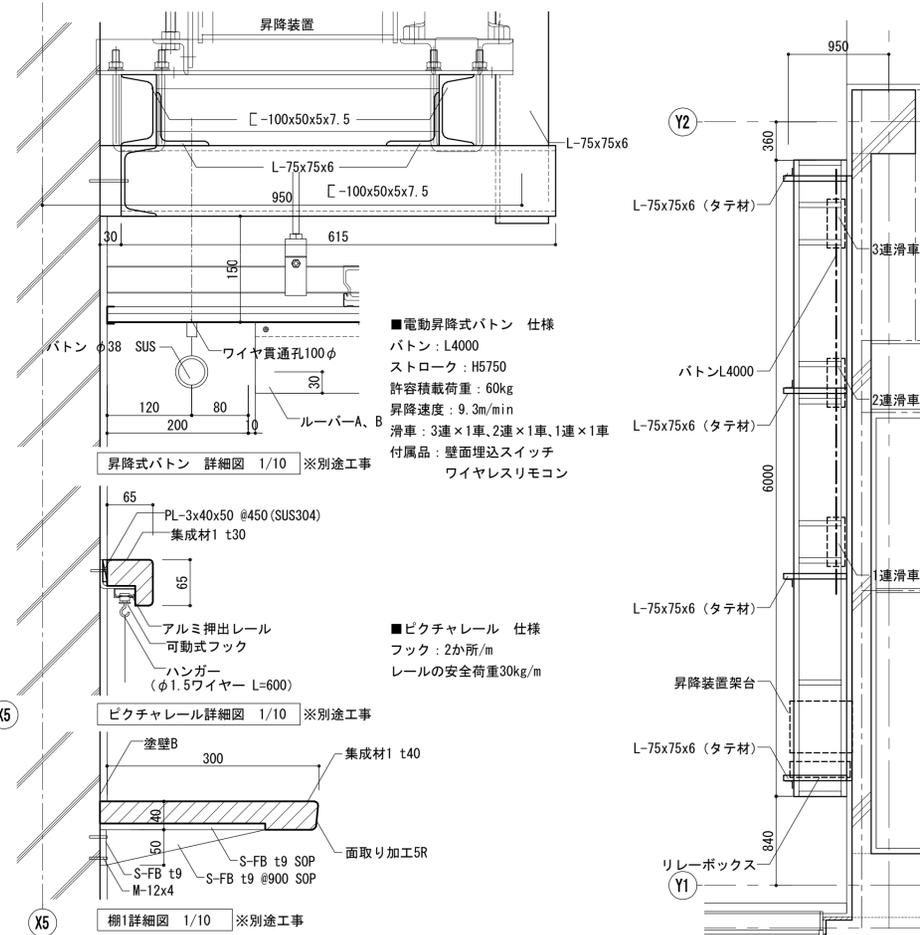
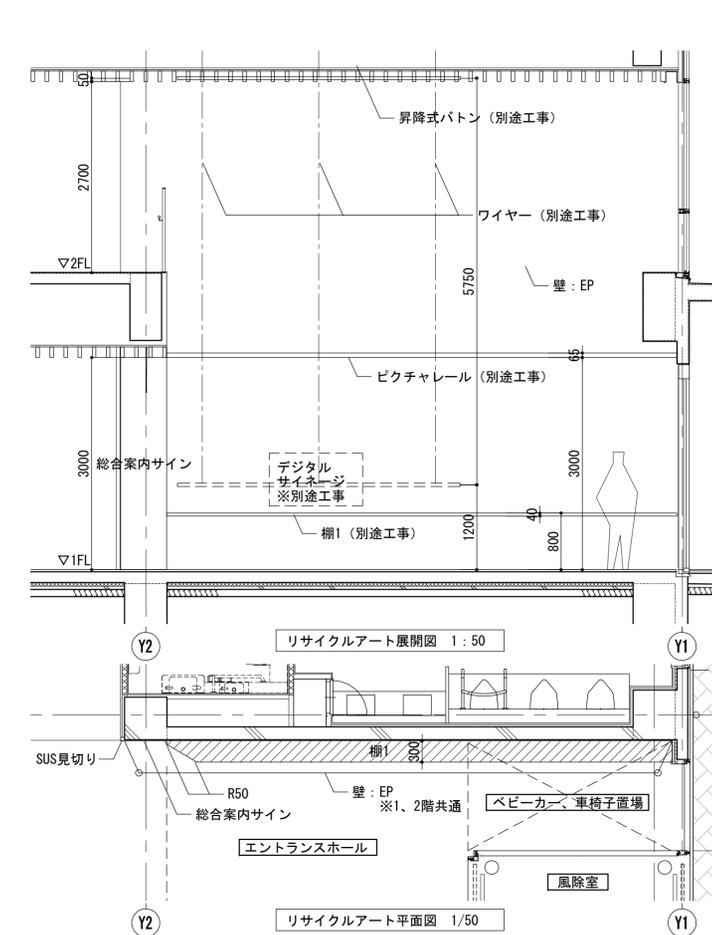
車椅子使用者用カウンター詳細図 1/5



受付カウンター詳細図 1/5



受付カウンター断面図 1/50



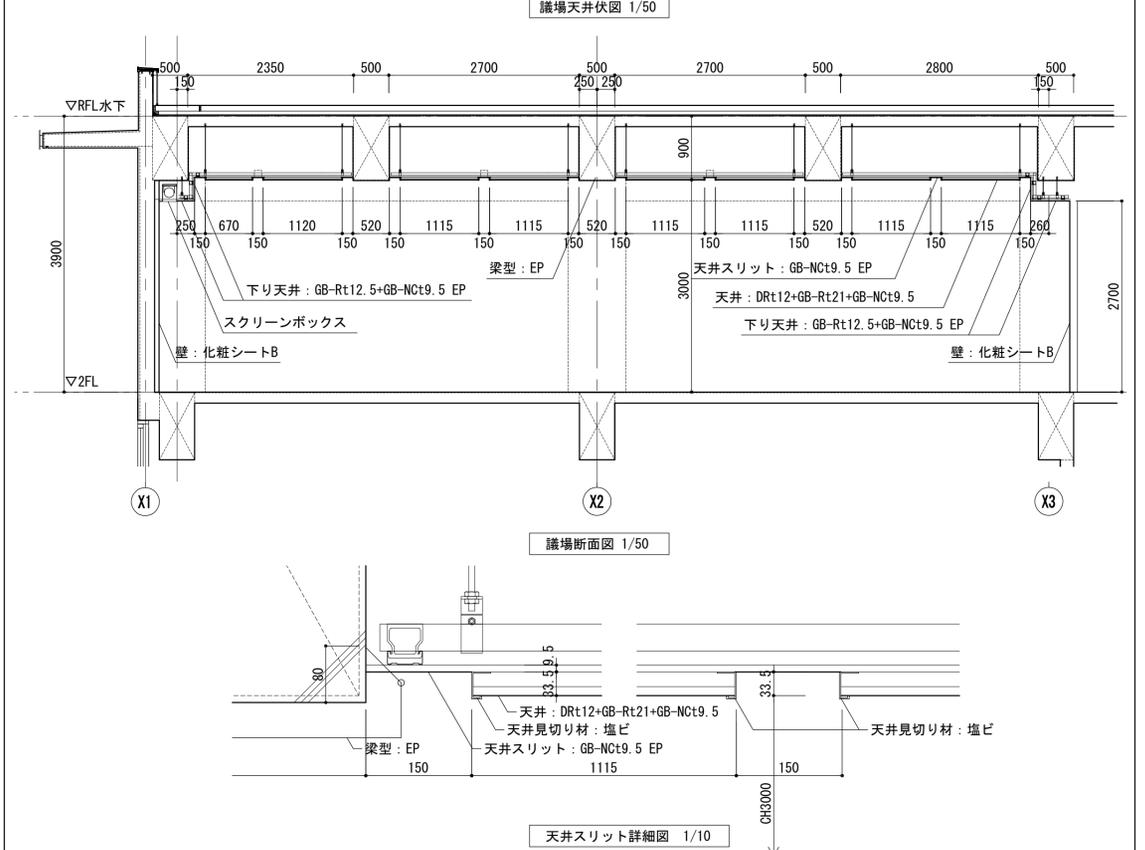
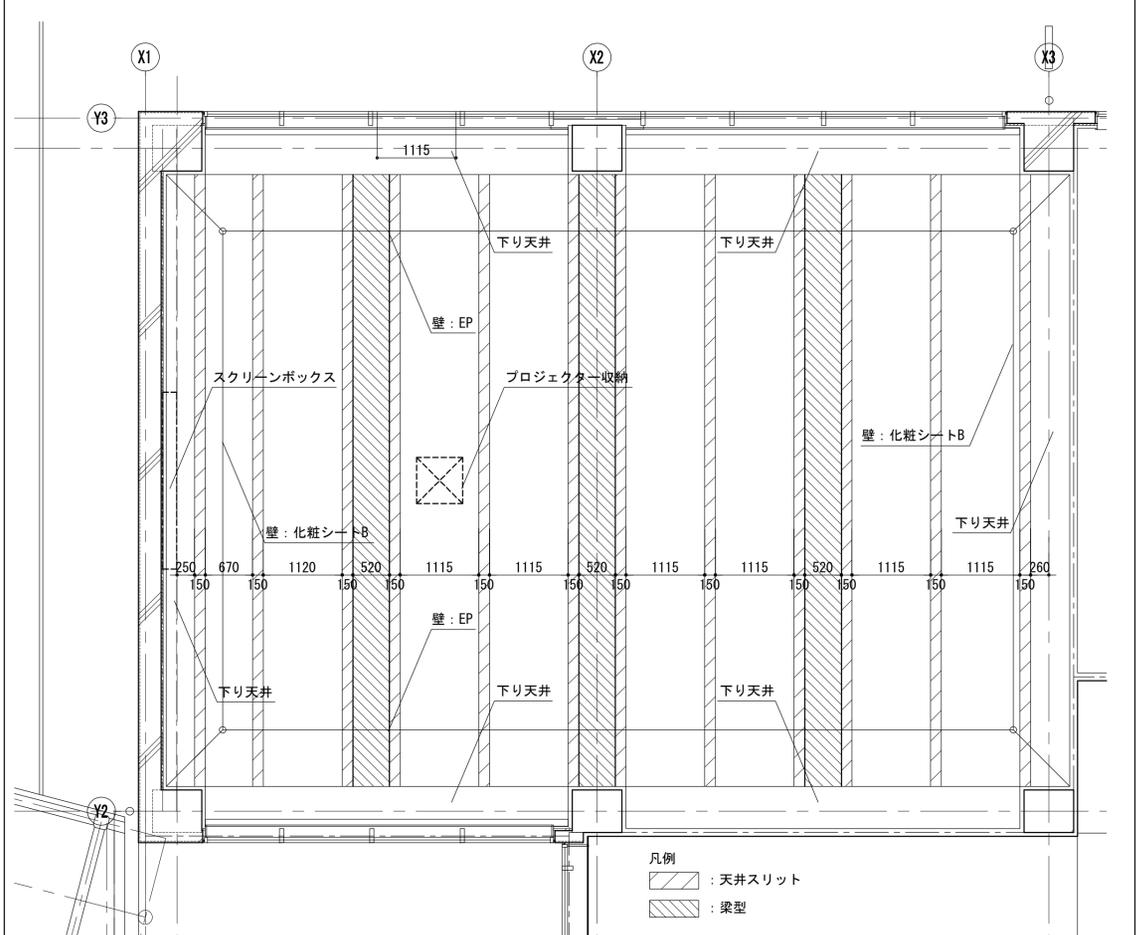
【凡例】
 ○：壁面装飾 特注工芸ガラス（高温加熱溶着加工）
 φ100～150程度t20x30個 SUS取付金物
 粉砕リサイクルガラスを錆込み加工 ※リサイクルガラスは支給品
 装飾内容は、専門業者及び監督職員と協議の上決定すること。
 住民参加による制作とし、専門業者によるレクチャー2回を含む。
 特注工芸ガラス（高温加熱溶着加工）
 リサイクルガラスを粉砕し
 指定意匠型制作の上、錆込み加工
 特注SUS取付金物にて躯体に固定
 ※リサイクルガラスは支給品を使用

※専門業者 株式会社 陶顔堂
 株式会社 渡辺石整舎
 硝子工房 融彩舎

上記 同等以上

特注取付金物SUS
 裏面スタッド溶接

特注工芸ガラス詳細図 ※別途工事

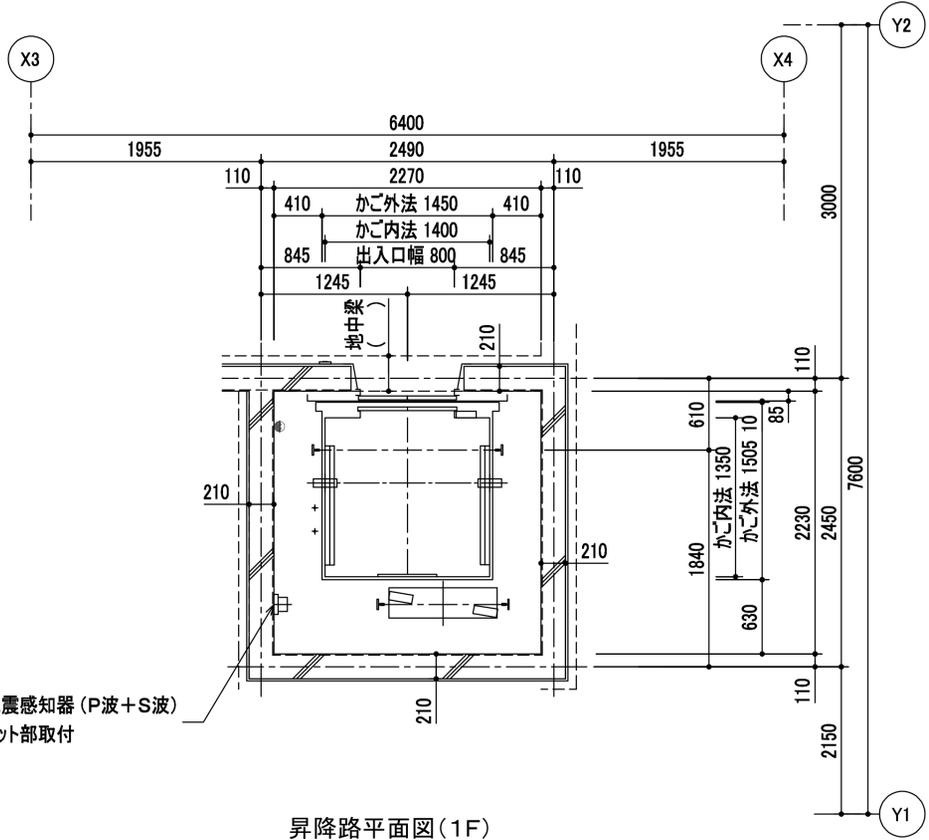
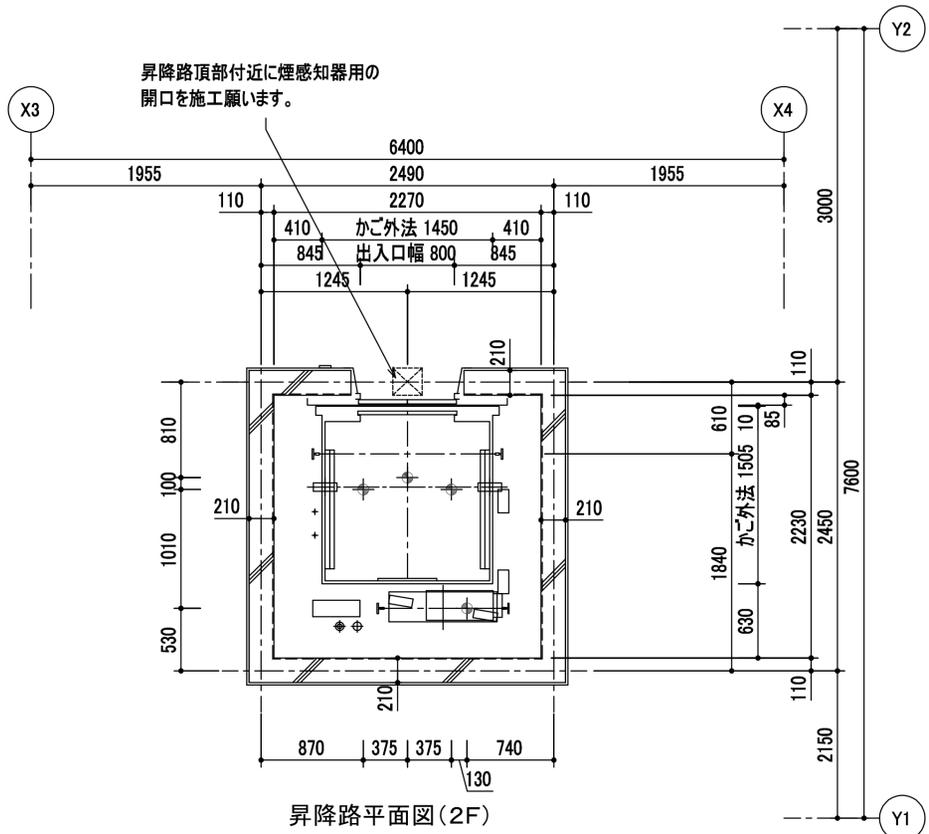


凡例
 天井スリット
 梁型

天井：DRt12+GB-Rt21+GB-NCt9.5
 天井見切り材：塩ビ
 天井スリット：GB-NCt9.5 EP

天井：DRt12+GB-Rt21+GB-NCt9.5
 天井見切り材：塩ビ
 天井スリット：GB-NCt9.5 EP

天井スリット詳細図 1/10



天井フック(材料エレベーター支給) ・荷重: (A部) 9.8 kN (B部) 19.6 kN	(建築工事)
電源引込み(受電盤への接続) ・動力・照明・接地線 最上停止階FL- 1350 mm 引出長さ 3 m	(電気工事)
配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階FL- 650 mm 引出長さ 3 m	(電気工事)

レール反力リスト(地震時作用荷重)		No. 1	
	かご側一般階	Px	4.20 kN
		Py	2.10 kN
	かご側最上階	Px	4.60 kN
		Py	3.20 kN
	おもり側一般階	Px	6.50 kN
		Py	3.30 kN
おもり側最上階	Px	9.80 kN	
	Py	6.60 kN	

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。

電源設備		(1台1回線)	
		(低圧)	
号機名	No. 1		
電源設備容量	動力	200 V	5 kVA
	照明	100 V	1.5 kVA
最大電流	29.8 A		
動力線サイズ(mm ²)	5.5	8	14
最大引込み距離(m)	54	84	147
建屋側MCCB	40 A		
接地線最小サイズ	3.5 mm ²		
インターホン用配線	φ 0.9 × 10 本		
電話用配管・配線	φ 19 配管・電話線 1 P		
ピットコンセント容量	1 kVA/台		

●	ピット点検用コンセント	(電気工事)
---	-------------	--------

エレベーター除外工事

- [1] 建築関係
- 各階乗場出入口周り(押ボタン用穴を含む)の穴明工事 (昇降路壁は5cm切り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とする)
 - 乗場関係機器取付後の出入口周りの壁及び床仕上げ工事、耐火処理工事
 - 各階乗場出入口枠周辺のモルタル又はロックウール詰め工事
 - ピット内防水工事、及びピットが深い場合の埋戻し工事
 - ピット床下部使用の場合の建築対策工事
 - ピットに段差がある場合、転落防止柵又は壁の設置工事
 - 昇降路天井フック又はトローリーム設置工事(安全率5を確保する)
 - 通過階がある場合の昇降路出入口の設置工事(W 750×H1200以上)
 - 昇降路内機器取付用フラスナー、ビーム、柱等の設置工事
 - 昇降路内建築構造の耐火被覆工事
 - 乗場関係機器取付用鋼材の設置工事
 - 開放廊下などの外気と接する乗場雨水よけ対策工事
 - 乗場戸に近接して設ける防火シャッター等の防火区画工事
 - 昇降路の壁または囲いは隙間無きものとする
 - その他建築に関する工事

- [2] 電気関係
- ピット点検用コンセントの設備工事(照明用AC 100Vとは別系統とする)
 - 昇降路内頂部の煙感知器設置工事(昇降路外部から保守点検できる構造)
 - 昇降路制御盤までの動力電源・照明電源・接地線の引込工事(つなぎ込み工事含む)
 - 昇降路制御盤までのインターホン用及び監視用配管・配線工事(昇降路制御盤から外部取付位置まで)
 - 昇降路制御盤までの遠隔監視保守システム用配管・電話線工事
 - 昇降路制御盤までの火災信号用の配管・配線工事
 - 昇降路制御盤までのかご内防犯カメラ用の配管・配線工事
 - 昇降路制御盤までのかご内放送スピーカー用の配管・配線工事
 - 昇降路制御盤までの故障接点支給用の配管・配線工事
 - エレベーターと防火シャッター等の連動を要する場合は、接点信号の配管・配線の引込工事

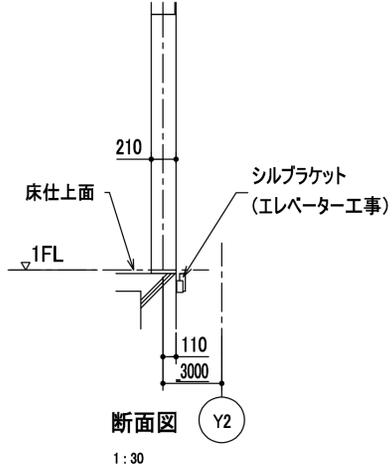
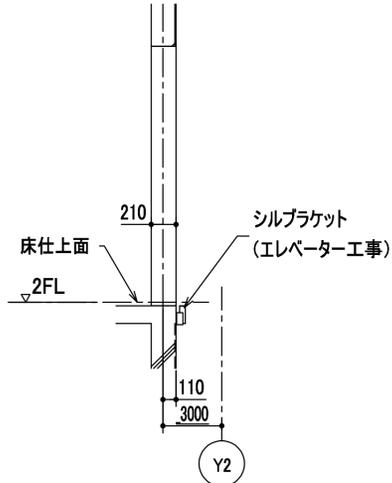
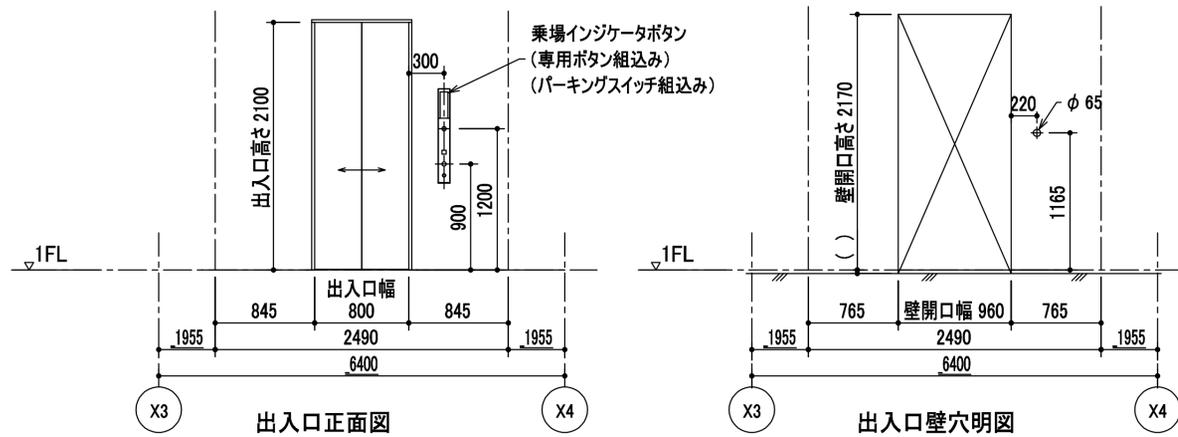
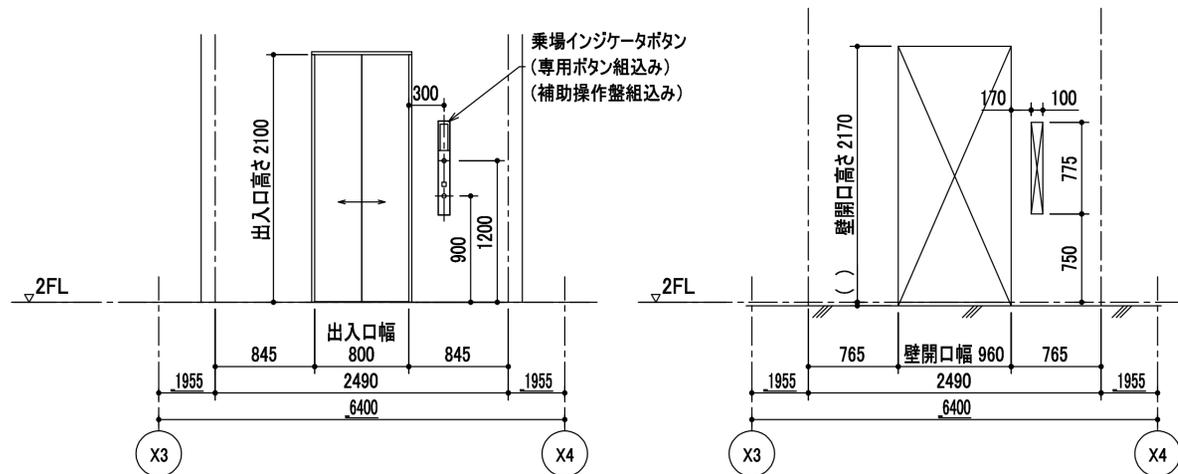
- 遮煙のりばドア設置上の注意事項
- 遮煙のりばドアの設置条件として建物の火災信号が必要で、自動火災報知器の火災代表信号をエレベーター制御盤に供給してください(無電圧a接点 回路電圧 DC24V 接点容量 DC30V 0.3A)
 - 自動火災報知器の設置義務のない建物では、自動火災報知器に代わるものから火災信号を供給してください
例) 煙感知器+防火扉連動制御盤の火災信号など
 - 遮煙のりばドアを設置する階の火災信号をエレベーター制御盤に供給してください ※接点仕様は自動火災報知器に準じます

- [3] 確認事項
- 昇降路壁・床等は、機器取付や反力等に十分な強度を有する構造で施工ください(コンクリート強度は21N/mm²以上とする)
 - 昇降路の壁または囲いは隙間無きものとする
 - 昇降路内法はピットから昇降路頂部までの昇降路全域にわたり確保して施工ください
 - 雨水対策として強風雨時、乗場機器や昇降路内へ雨水が浸入しない様以下の対策をお願いします
・乗場前面又は側面に雨除け用スクリーンの設置
・乗場前面床の水勾配または排水溝の設置
 - 昇降路壁には、設備配管等を埋込まないでください
 - 昇降路内に他用途の配管・ダクト等が露出しないようにしてください(建築基準法施行令第129条の2の4第1項第3号)
 - 昇降路内法の内部に建築金物等(ALCクリップ等)が突出しないよう施工ください(突出する場合は、エレベーター機器と干渉する恐れがあるためエレベーター側と協議してください)
 - 受電電圧の変動は、受電端において動力用は±10%以内、照明用は±5%以内とし、動力用の電圧不平衡率は5%以内としてください
 - 電源引込み計画時は、エレベーター側と協議してください
 - エレベーターから発生する高調波漏洩電流と高調波ノイズにより他設備に影響を受ける恐れがあるため以下の対策をお願いします
・エレベーター動力と通信機器やOA機器等弱電機器の電源線通信線を1m以上分離する
・エレベーターを含む動力の電源トランスと通信機器やOA機器等弱電機器の電源トランスを分離する(エレベーター照明用電源は弱電機器トランスと分離不要)
・エレベーターを含む機器アース線と通信機器やOA機器等弱電機器のアース線の分離配線と設置線の分離をする
 - 外部からの影響により、昇降路内の温度が40℃を超える場合は換気設備を設けてください
 - 換気設備を設置する場合は昇降路外部から保守可能な位置構造とし設置環境により雨水等の防水対策を実施してください
 - 台車などで搬出入可能な荷重は台車を含む荷重となります
 - エレベーターの保守・点検・緊急対応のため、外部階段から最上階のエレベーターホールへアクセス出来る経路を確保してください
また、個人宅や占有部、鍵が必要な場所を経由しないようにしてください

【エレベーター遠隔監視メンテナンス】
 ※ このエレベーターは、遠隔監視メンテナンス契約可能対応機種です。
 ※ 遠隔監視メンテナンスでは、エレベーターの遠隔診断・遠隔監視が可能ですが、※上配サービスに必要な機器は、保守会社との遠隔監視メンテナンス契約時に貸与されます。

エレベーター仕様

概略仕様	号機名(台数)	No. 1 (1台)		
	用途(形式)	乗用 (SP11-CO60) 車いす仕様		
	積載量(定員)	750 kg (11人)		
	速度	60 m/min		
	制御方式	交流インバータ制御方式(回生無)		
	操作方式	乗合全自動方式		
	停止ヶ所・出入口方向	(1.2F) 2ヶ所 1方向		
	かご内法(WxDxH)	1400 mm X 1350 mm X 2250 mm		
	出入口寸法(WxD)	800 mm X 2100 mm		
	ドア方式	2枚戸中央開き(電動式)		
電源	電動機出力	AC- 4.5 kW (ギヤレス)		
	動力	三相3線	200 V 60 Hz	
		照明	単相 100 V 60 Hz	
		地震時	有 (P波+S波感知器(3段検知)リスタート機能付)	
管制運転	火災時	有		
	自家発時	無		
	浸水時/冠水時	有 全自動形(ピット冠水時(指定階))		
停電時自動着床装置	有			
耐震クラス	A14			
かご内連絡装置	24V同時通話インターホン			
基本仕様及び標準仕様	ローラーガイド(かご、おもり)	照明・換気装置自動休止機能		
	長周期地震対策	2D多光軸(マルチビーム)ドアセフェイ		
乗場仕様	基本仕様	反転時呼び一括キャンセル機能	戸開放時間自動設定	
		先行階取消し機能	気配リアナウンス機能(非常時4ヶ国語対応)	
	イオン発生装置	故障時最寄階自動着床運転	いし開きまじレス	広角ミラー付操作盤
	戸開走行保護装置			
	三方枠	全階	小枠	ステンレス製パイプレーション仕上
	ドア	全階		ステンレス製パイプレーション仕上
	敷居	全階		硬質アルミ製
	乗場ボタン	ボタン	全階	抗菌凸矢印ボタン(SIAA認証)
		インジケータ	全階	デジタル階床表示式
	ボタン	フェースプレート	全階	板曲げ ステンレス製ヘアライン仕上 (一部樹脂製)
かご仕様	天井照明	テラックスLED天		
	換気装置	ファン		
	リターンパネル	ステンレス製ヘアライン仕上		
	出入口柱	ステンレス製ヘアライン仕上		
	ドア	化粧鋼板		
	幕板	化粧鋼板		
	側板	化粧鋼板		
	幅木	化粧鋼板		
	床	ビニタイル (t2)		
	敷居	硬質アルミ製		
操作盤	ボタン	全階	抗菌凸文字ボタン(SIAA認証)	
	インジケータ	全階	液晶(カラーユニバーサルデザイン認証)	
	フェースプレート	全階	標準(広角ミラー付) ステンレス製ヘアライン仕上	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> テラックス照明 機械式ドアセフェイ(両側) 非常呼びボタンカバー付(透明樹脂製) 非常呼びボタン応答付付 かご内防犯カメラ付(映像信号制御盤渡し) 非常放送用スピーカー付 磁石式保護マット付(分割形、3面、H1800mm) 床マット付 音声案内装置付 点字銘板付 故障検出回路(無電圧1a接点支給) 高調波対策(パッシブキャンセラ) 			
	(0184417) V.18.10 (FC)			
車いす仕様	専用乗場ボタン	かご内専用(主・副)操作盤(ステンレス製)		
		かご側面手摺(ステンレス製(φ38)円形ブラケット、2方向)		
積込み荷重制限	荷重条件	250kg (4輪台車を使用するものとし、台車の重量を含む)		
		重量物の積込みは、一回当り荷重条件以下で積込み下さい。 ※フォークリフトの使用はできません。		



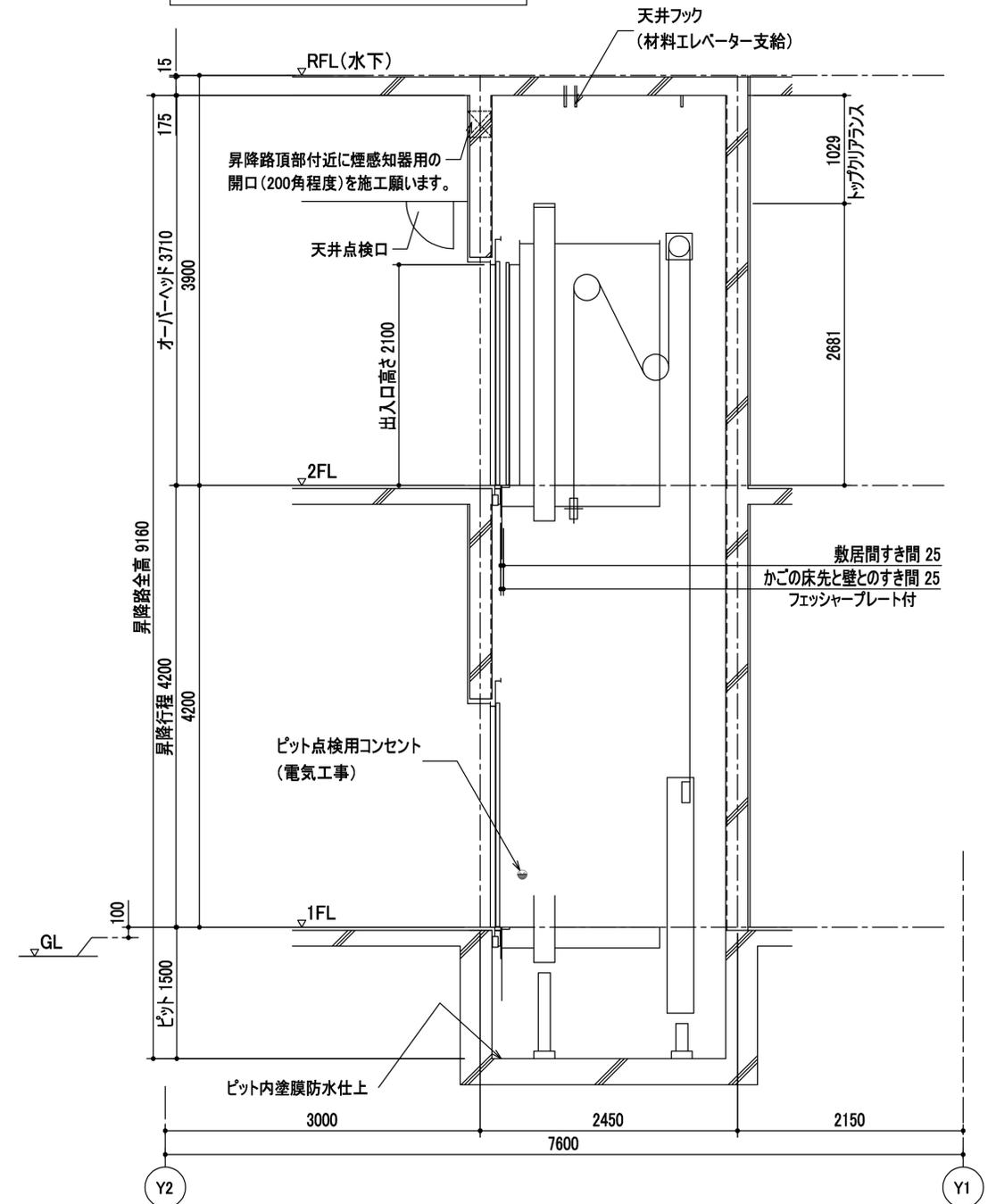
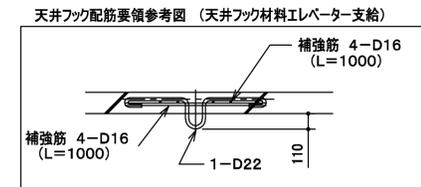
煙感知器詳細

施設装置付点検扉
 1.5mm以上の鋼板製(電気工事)
 リミットスイッチ付(エレベーター工事)
 昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。
 屋外の場合は、防水形点検扉とする。

点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用用品として下さい。

- ・ホーチキ (KUS-1C(W))
- ・能美防災 (FXS J001A-HU)
- ・ニッタン (NID-T-G)
- ・パナソニック (BV95351+BV95381H)

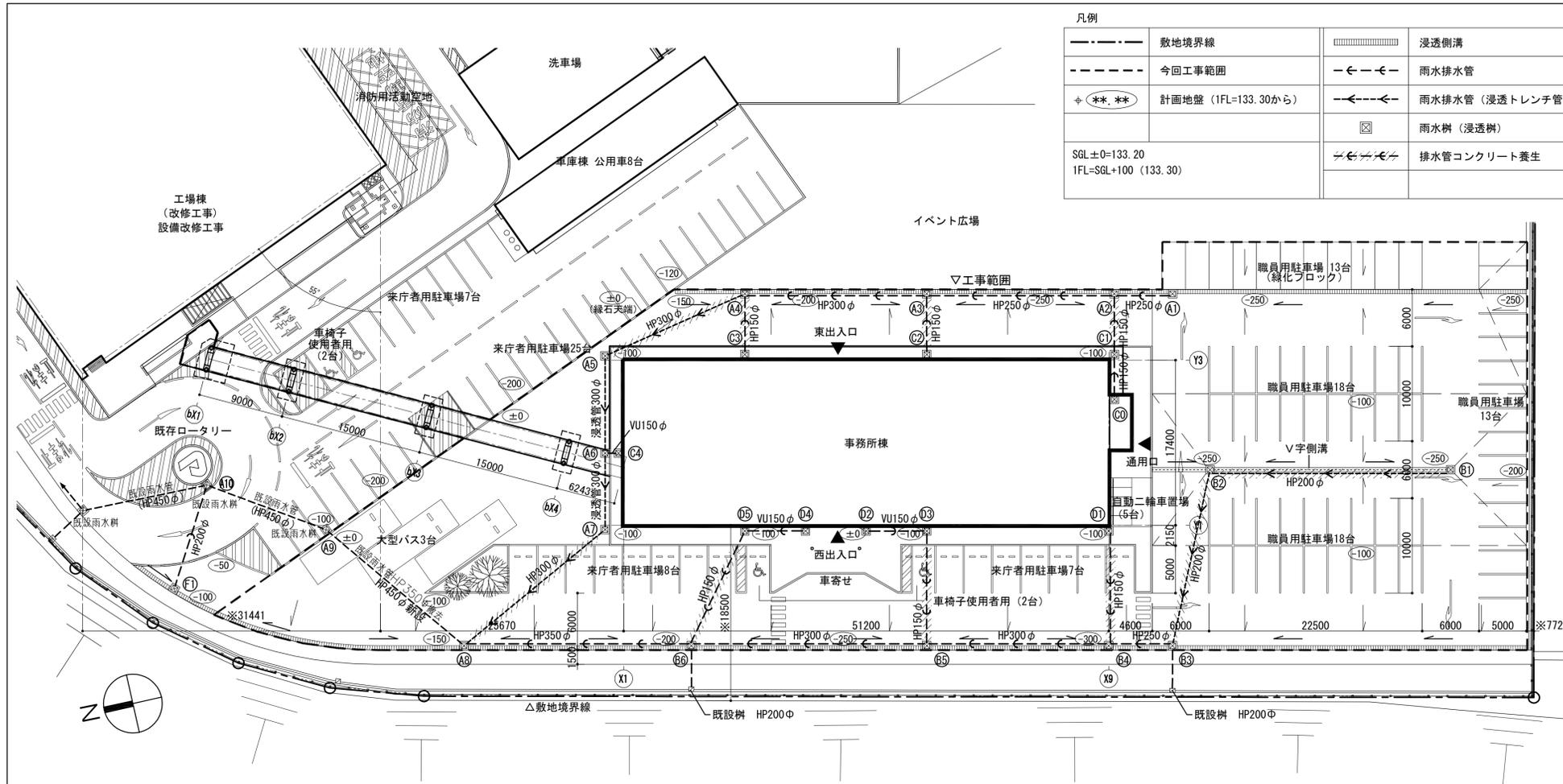
製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります



No. 1		
ピット反力		74.10 kN
ピット衝撃荷重	かご側	76.60 kN
	C/W側	60.50 kN

※点検用タラップはピットに保管

昇降路縦断面図



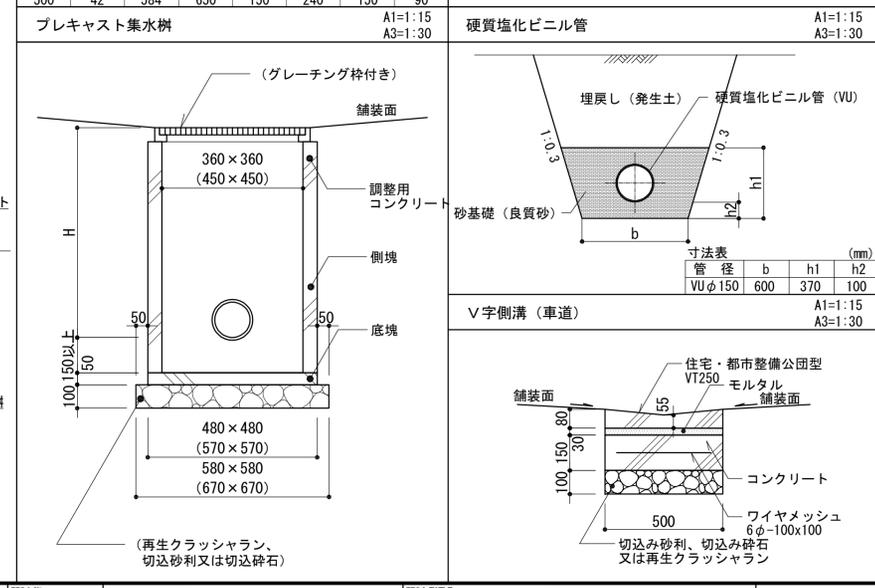
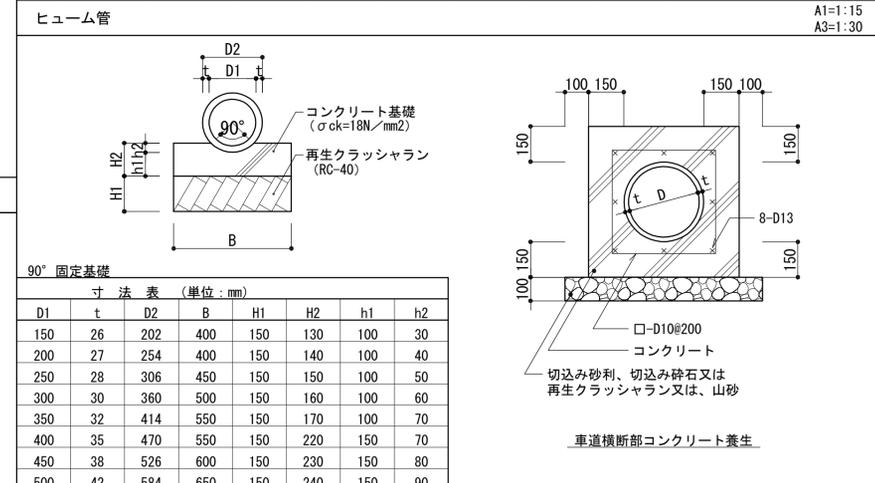
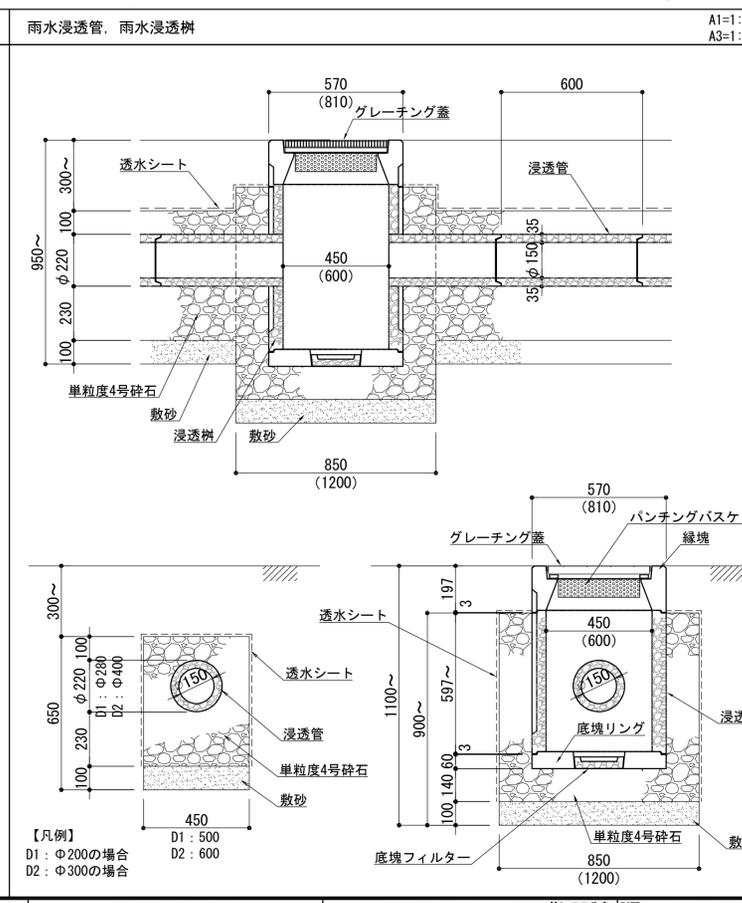
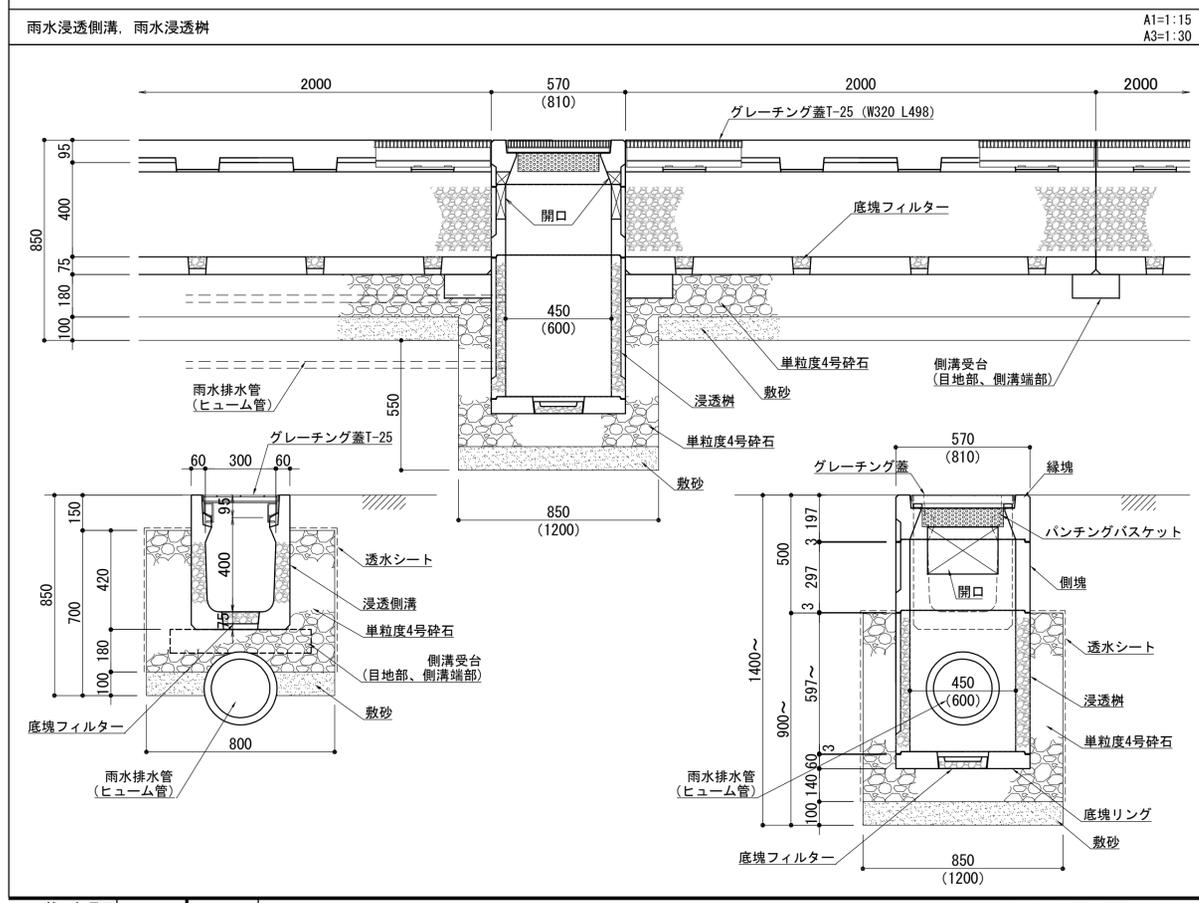
凡例

-----	敷地境界線		浸透側溝
- - - - -	今回工事範囲	← ← ← ←	雨水排水管
⊕ (**, **)	計画地盤 (IFL=133.30から)	← ← ← ←	雨水排水管 (浸透トレンチ管)
		☒	雨水樹 (浸透樹)
		≡ ≡ ≡ ≡	排水管コンクリート養生

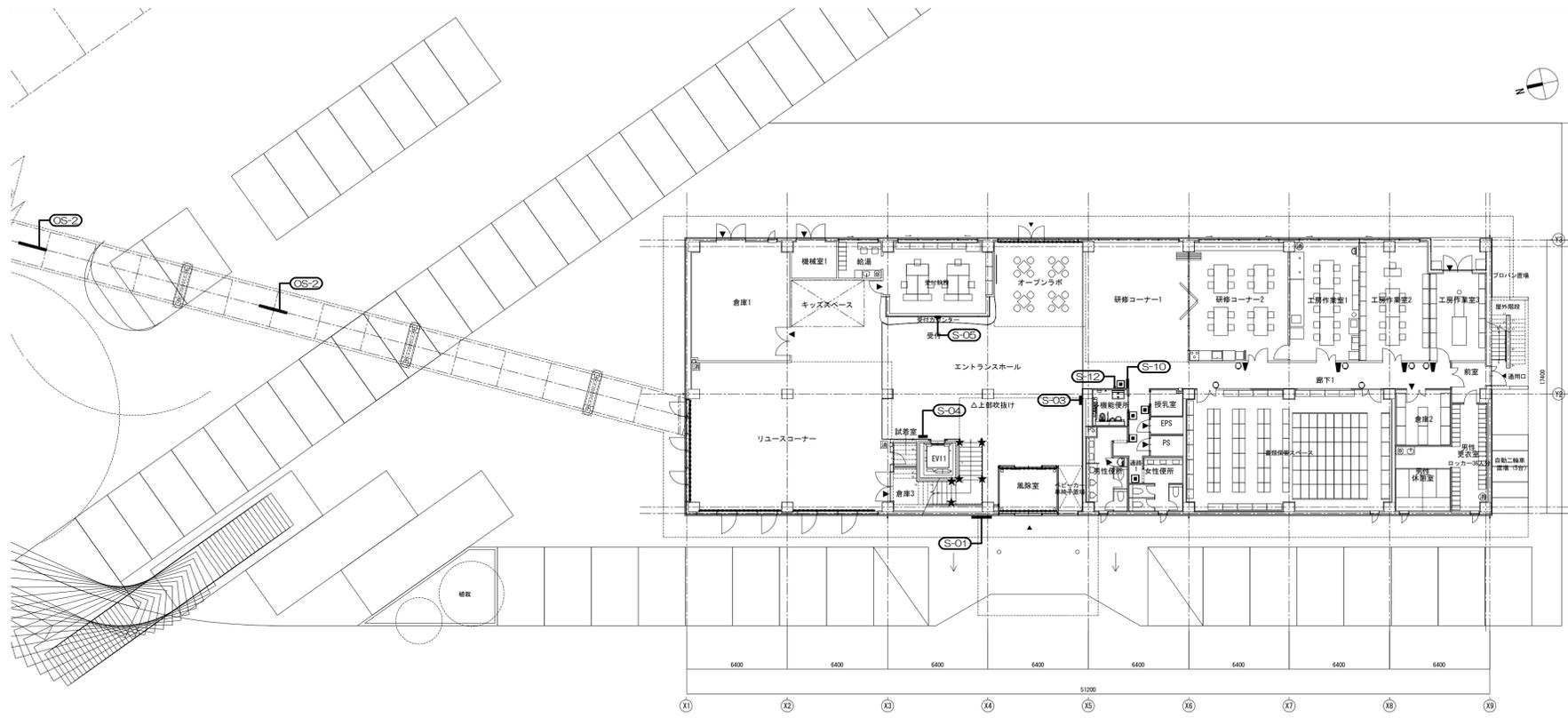
SGL±0=133.20
IFL=SGL+100 (133.30)

雨水樹リスト

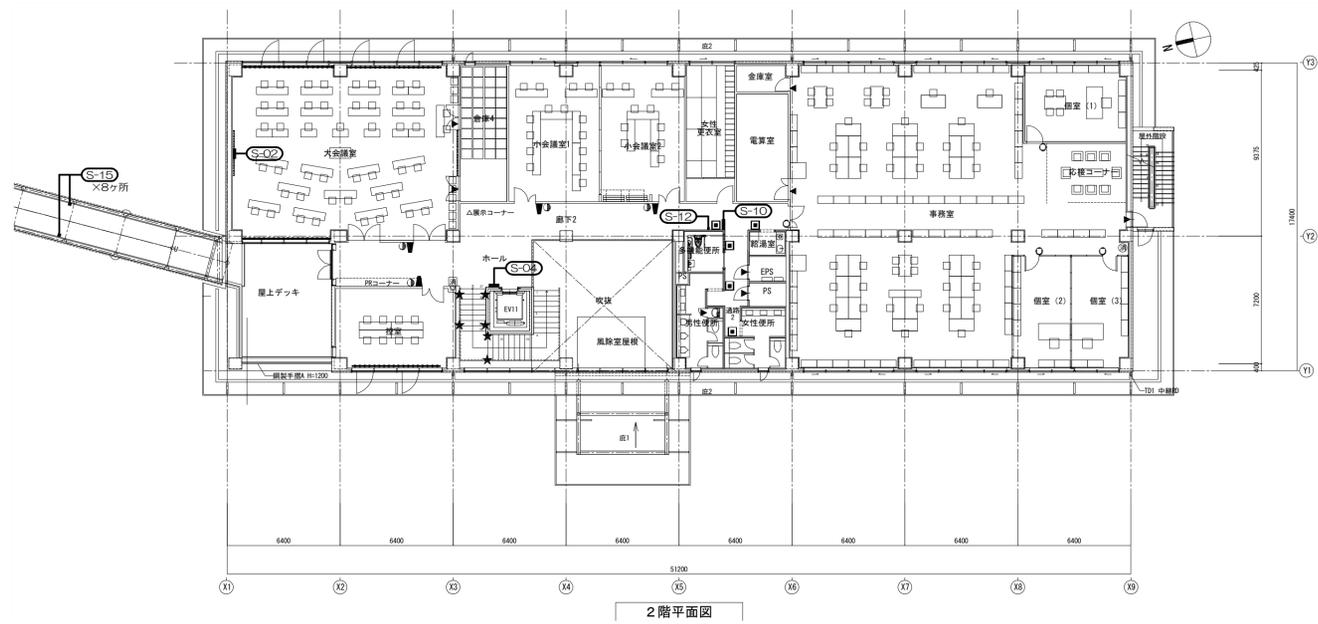
記号	種類	蓋	大きさ	深さ	蓋天端レベル	流出管底	次樹距離 (m)	接続管	備考
A1	P C 浸透樹	G (T-2)	450 □	1100	-0.25	-1.20	5.60	250 φ	C1から流入
A2	P C 浸透樹	G (T-2)	450 □	1100	-0.25	-1.23	19.20	250 φ	C2から流入
A3	P C 浸透樹	G (T-2)	450 □	1250	-0.25	-1.33	18.60	300 φ	C3から流入, 浸透トレンチ管接続
A4	P C 浸透樹	G (T-2)	600 □	1400	-0.20	-1.43	15.50	300 φ	浸透トレンチ管接続
A5	P C 浸透樹	G (T-2)	600 □	1600	-0.10	-1.51	9.65	300 φ	C4から流入, 浸透トレンチ管接続
A6	P C 浸透樹	G (T-2)	600 □	1600	-0.10	-1.56	7.45	300 φ	浸透トレンチ管接続
A7	P C 浸透樹	G (T-2)	600 □	1800	-0.10	-1.60	18.60	300 φ	
A8	P C 浸透樹	G (T-2)	600 □	1800	-0.20	-1.70	18.56	450 φ	B6から流入, 既設雨水管へ接続
A9	(既設樹)		(1000 □)		0.00	-1.88	13.67	(450 φ)	
A10	(既設樹)		(1000 □)	2180	0.05	-1.98	13.39	(450 φ)	
B1	P C 浸透樹	G (T-2)	450 □	1100	-0.25	-0.85	24.70	200 φ	
B2	P C 浸透樹	G (T-2)	450 □	1100	-0.25	-0.98	18.40	200 φ	
B3	P C 浸透樹	G (T-2)	450 □	1100	-0.30	-1.25	6.20	250 φ	
B4	P C 浸透樹	G (T-2)	600 □	1400	-0.30	-1.29	18.50	300 φ	
B5	P C 浸透樹	G (T-2)	600 □	1400	-0.25	-1.39	24.30	300 φ	D3から流入
B6	P C 浸透樹	G (T-2)	600 □	1600	-0.20	-1.52	23.40	350 φ	D5から流入, A7へ接続
C0	P C 樹	G (歩行用)	360 □	600	-0.10	-0.55	4.20	150 φ	
C1	P C 樹	G (歩行用)	450 □	630	-0.10	-0.58	5.80	150 φ	A2へ接続
C2	P C 樹	G (歩行用)	360 □	600	-0.10	-0.55	5.80	150 φ	A3へ接続
C3	P C 樹	G (歩行用)	360 □	600	-0.10	-0.55	5.80	150 φ	A4へ接続
C4	P C 樹	G (歩行用)	360 □	600	-0.10	-0.55	0.85	150 φ	A6へ接続
D1	P C 樹	G (歩行用)	360 □	600	-0.10	-0.55	11.60	150 φ	B4へ接続
D2	P C 樹	G (歩行用)	360 □	600	-0.05	-0.50	5.80	150 φ	
D3	P C 樹	G (歩行用)	360 □	580	-0.10	-0.53	11.60	150 φ	B5へ接続
D4	P C 樹	G (歩行用)	360 □	600	-0.05	-0.50	5.80	150 φ	
D5	P C 樹	G (歩行用)	360 □	580	-0.10	-0.53	12.80	150 φ	B6へ接続
F1	P C 浸透樹	G (T-25)	450 □	900	0.00	-0.75	10.80	200 φ	既設A9へ接続



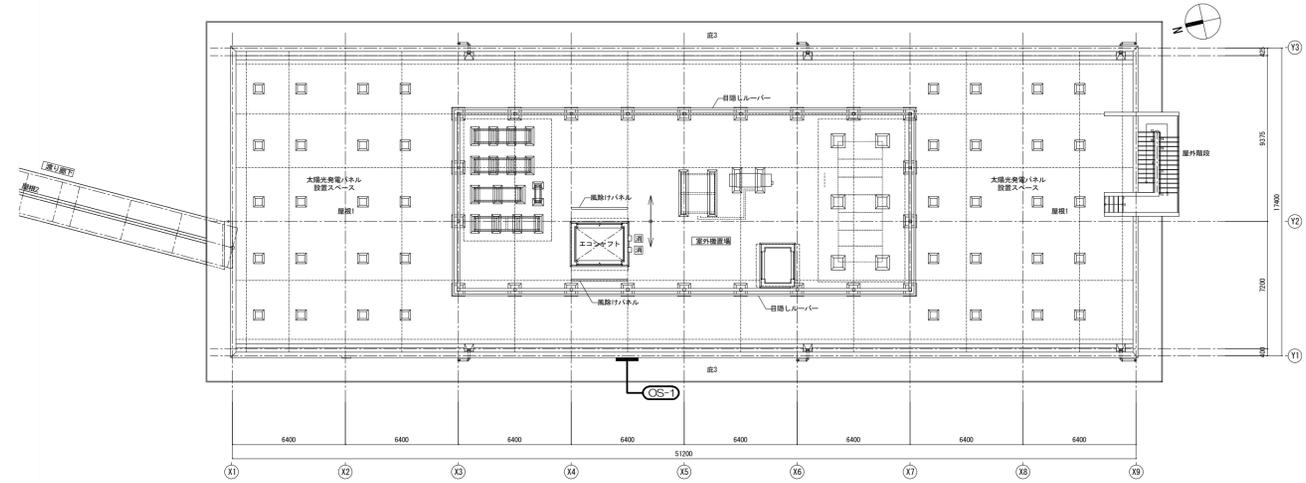
サイン員数表						
凡例	記号	サイン名	1F	2F	RF	合計
	OS-1	外壁施設ロゴマークサイン (箱文字)			1	1
	OS-2	安全バー	2			2
	S-01	施設名称サイン (切文字)	1			1
	S-02	大会議室ロゴサイン		1		1
	S-03	総合案内サイン	1			1
	S-04	フロア案内サイン	1	1		2
	S-05	室名サイン (切文字)	1			1
▲	S-06	室名サイン (突出)	4	4		8
○	S-07	室名サイン (平付)	6	4		10
◐	S-08	室名サイン (在空中)		4		4
▲	S-09	室名サイン (バックヤード)	10	8		18
	S-10	ピクトサイン (突出)	1	1		2
□	S-11	ピクトサイン (壁付)	5	5		10
	S-12	トイレ触知サイン	1	1		2
★	S-13	手摺点字サイン	6	6		12
→	S-14	衝突防止サイン	32.5m	21m		53.5m
	S-15	渡り廊下手摺 注意喚起サイン		8		8



1階平面図



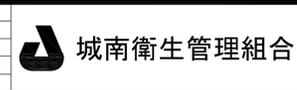
2階平面図



屋根伏図

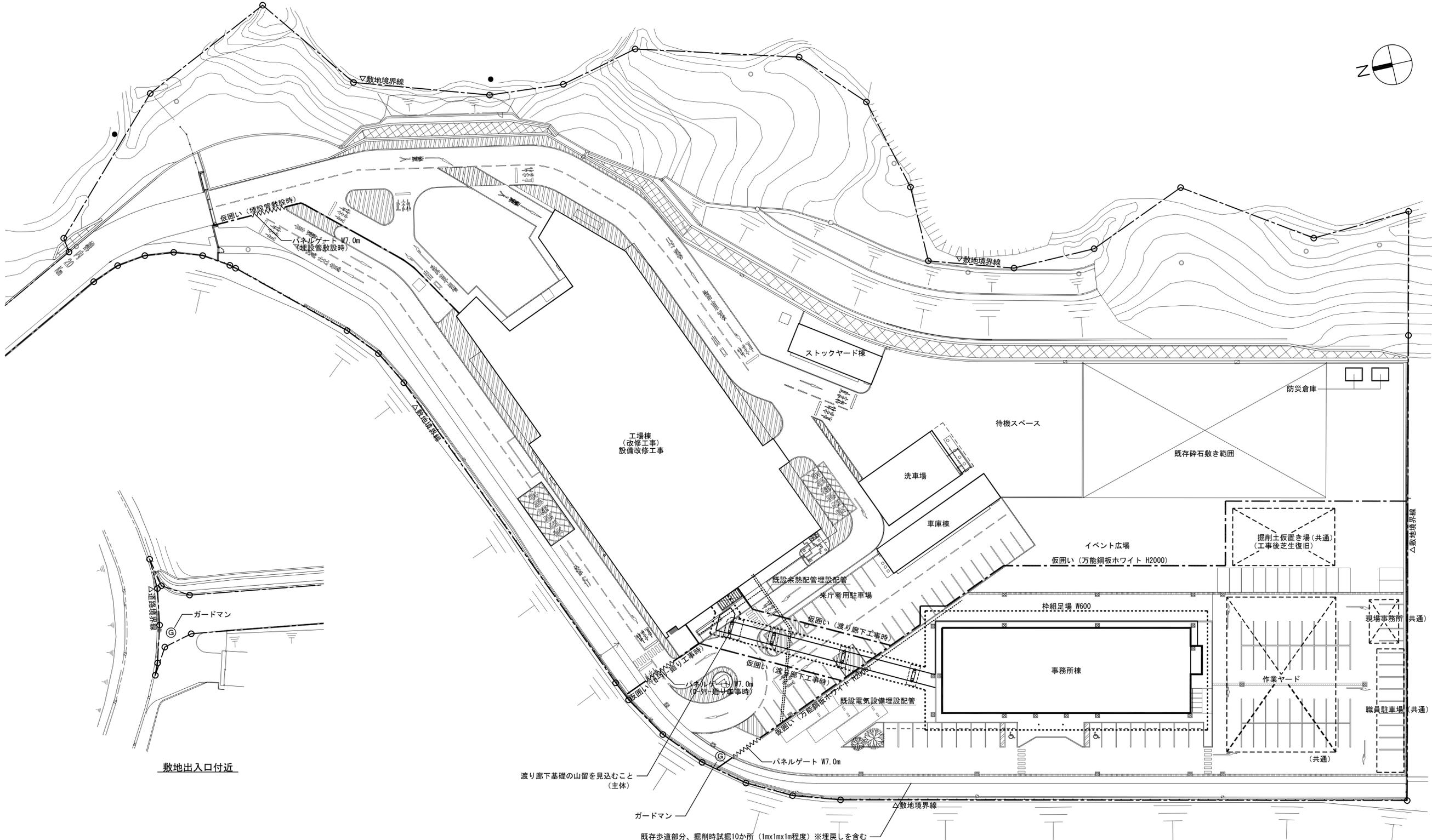
code	title	code	title	code	title	code	title
S-12	トイレ触知サイン	S-13	手摺点字サイン	S-14	衝突防止サイン	S-15	渡り廊下手摺 注意喚起サイン
<p>表示板/透明アクリル板3.0t 表示/裏面:インクジェットシート出力裏貼り 表面:UV点字加工 台板/アルミ複合板3.0t ■ Scale:1/5</p>		<p>ベース:透明圧着シート 表示:シルク印刷(指定色) UV点字加工 ■ Scale:1/2</p>		<p>表示板/SUS PL-1.5t HL仕上げ 表示/エッチング加工色入れ ■ Scale:1/2</p>		<p>ベース:透明圧着シート 表示:シルク印刷(指定色) ■ Scale:1/3</p>	

竣工年月日	...
監理者	...
施工者	...



DATE	2022. 3	PROJ. NO.	0-2021-056
CHECK			

PROJ. TITLE	城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	DWG. NO.	A
DWG. TITLE	サイン詳細図(2)(参考図)	SCALE	NS (A1) NS (A3)
			047



凡例

--- 敷地境界線	--- 仮囲い (万能鋼板ホワイト H2000) (主体) パネルゲート共
- - - 今回工事範囲 桜組足場 (主体)
	ⓐ ガードマン (主体)
	芝貼 (主体)

※工事で発生する排水は適宜見込むこと。(主体)
 ※仮設計画は共通とし、関連工事と協議すること。(共通)

1. 共通事項

- A. 適用範囲
設計図に記載がない場合、本配筋基準図を適用する。
- B. 凡例
(1) d ---- 異形鉄筋の径（呼び名に用いた数値）。
(2) ho ---- 柱の内のり高さ。
(3) lo ---- 有効スパン。
(4) L ---- 継手 定着長さ及び帯筋の溶接長さ。
(5) ---- 継手及び余長。
- C. 鉄筋の種類は JIS による。

2. 鉄筋の末端部及び中間部の加工

- 異形鉄筋の末端部には次の場合フックをつける。
- 柱の四隅にある主筋（下図の●印）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
 - 梁の主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の面端（下図の●印）にある場合。ただし、基礎梁を除く。
-
- (3) 衝突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
(4) 杭基礎のベース筋。
(5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)		
		SD295A, SD295B, SD345	SD390	
180°		D16以下	D19~D38	D19~D38
135°		3d以上	4d以上	5d以上
90°				
135°及び90°				

注) 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

3. 鉄筋の継手及び定着

A. 鉄筋の重ね継手
鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	鉄筋の重ね継手の長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24 27	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24 27	40d	30d
SD390	18	50d	35d
	21	50d	35d
	24 27	45d	30d

注) 1) L1, L1h : 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2) フックありの場合の L1hは、右図に示すようにフック部分を含む。
3) 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

B. 隣合う継手の位置
隣合う継手の位置は下表による。但し、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。

重ね継手	隣合う継手の位置	
	フックありの場合	フックなしの場合
圧接継手		
溶接継手		
機械式継手		

C. 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは下表による。

表1. 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	直線定着の長さ			フックあり定着の長さ		
		L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h
		小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d		35d	30d	
	21	40d	35d		30d	25d	
	24 27	35d	30d		25d	20d	
SD345	18	50d	40d	10d	35d	30d	10d
	21	45d	35d	10d	30d	25d	10d
	24 27	40d	35d	150mm以上	25d	20d	10d
SD390	18	50d	40d		35d	30d	
	21	50d	40d		35d	30d	
	24 27	45d	40d		30d	25d	

- 注) 1) L1, L1h : 2) 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2) L2, L2h : 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3) L3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。)なお、片持ち小梁及び片持ちスラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4) L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5) フックありの場合は(2)に示すようにフック部分を含む。
また、中間部での折曲げは行わない。
6) 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

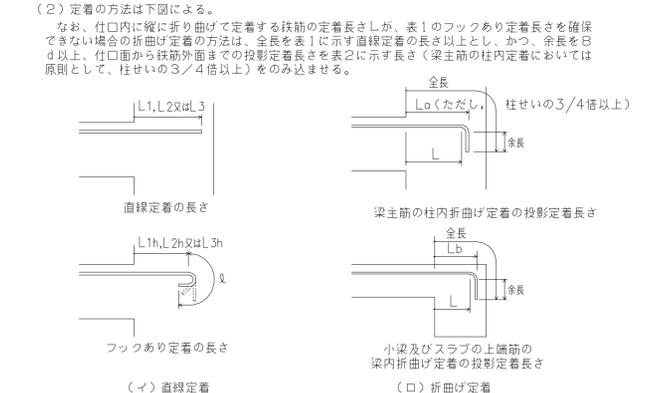
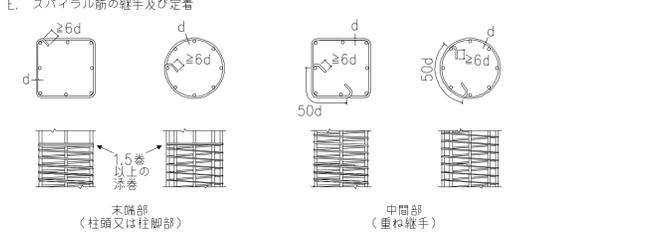
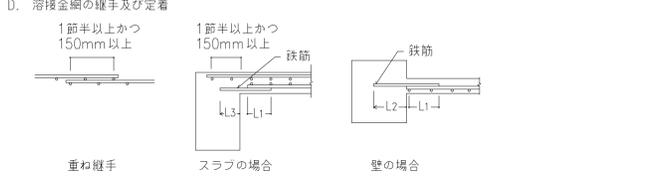


表2. 投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24 27	20d	15d
SD390	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24 27	20d	15d

- 注) 1) La : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
2) Lb : 割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
3) 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

A. 鉄筋のかぶり厚さ

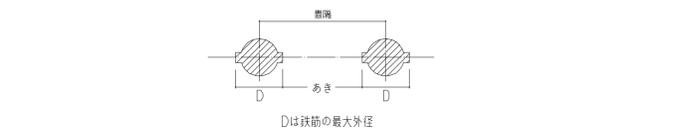
(1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。
(2) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
(3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

鉄筋の最小かぶり厚さ (単位: mm)

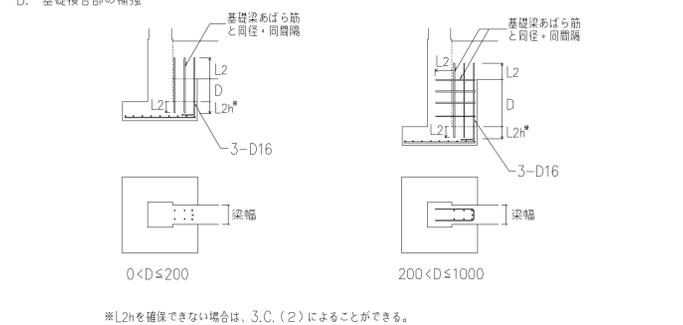
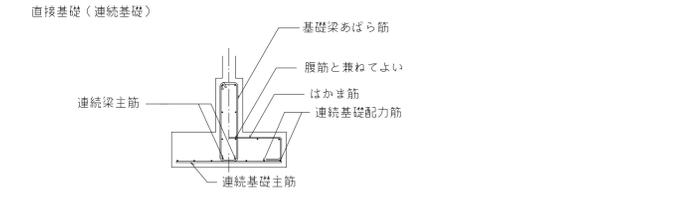
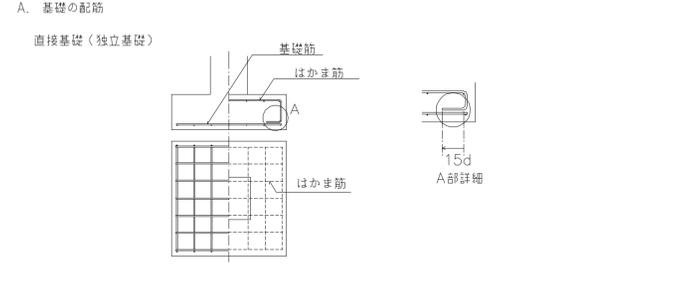
構 造 部 分 の 種 別	最小かぶり厚さ		
	仕上げあり	仕上げなし	
土に接しない部分	スラブ	20	
	耐力壁以外の壁	30	
	柱・梁	屋 内	30
		屋 外	40
		基礎	40
	土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ	40
柱、梁、スラブ、壁		*40	
基礎、擁壁、耐圧スラブ		*60	
衝突等高熱を受ける部分		60	

- 注) 1) *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
2) 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(土塗材、塗装等)のものを除く。
3) スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、裕コンクリートの厚さを含まない。
4) 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5) 損害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

- B. 鉄筋の相互のあき
鉄筋相互のあきは、次の値のうち最大のもの以上とする。但し、機械式継手及び溶接継手の場合は、特記による。
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 - 25mm
 - 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名に用いた数値d)の1.5倍
 - 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合は、主筋と平行する鉄骨とのあきは、上記(1)~(3)の最大のもの以上とする。

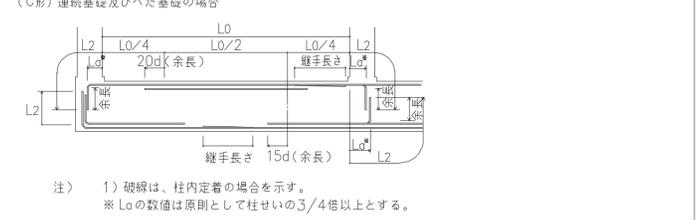
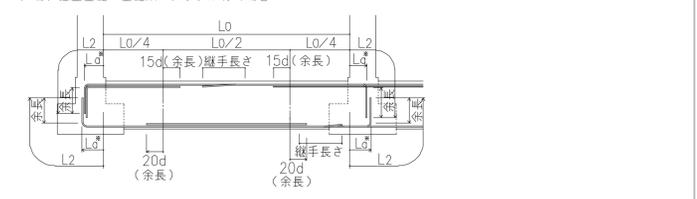
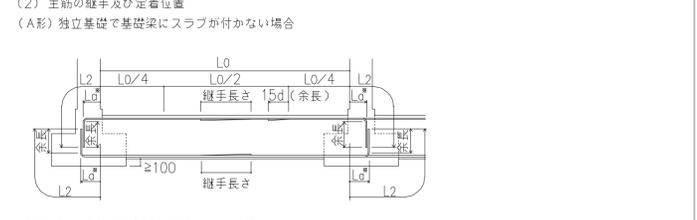


5. 基礎



6. 基礎梁

- A. 基礎梁筋の継手及び定着
- (1) 一般事項
- 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。但し、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
 - 梁筋を柱内に定着する場合は、「B. 大梁」の項による。

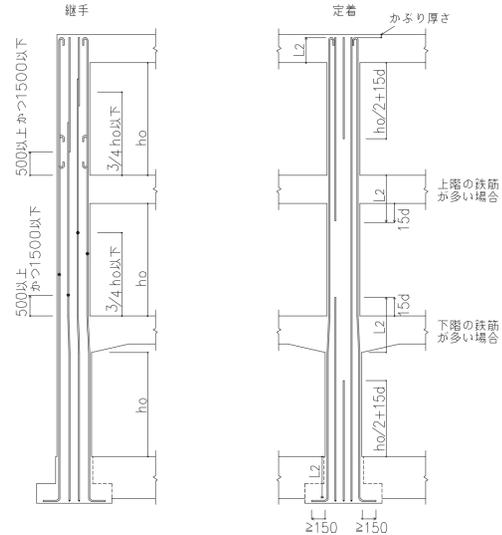


- B. あばら筋
- (1) あばら筋組立ての形及びフックの位置は、「B. 大梁」の項による。但し、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5m以上の場合は下図によることができる。
-
- (一般の場合) (重ね継手とする場合)
- (2) あばら筋の割付、腰筋 及び 幅止め筋は「B. 大梁」の項による。

7. 柱

A. 柱主筋の継手、定着及び余長

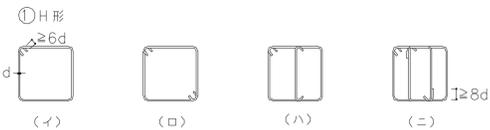
- 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ $3/4 h_o$ 以下とする。
- 継手、定着及び余長は、下図による。



- 注) 1) 2. (1) で定めた鉄筋にはフックをつける。
2) 隣合う継手の位置は3-Bによる。

B. 帯筋の形状

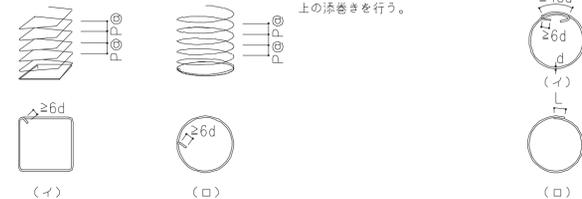
- 帯筋組立ての形はH形とする。
- H形の135°曲げのフックが困難な場合はW-I形とする。
- 溶接する場合の溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- フック及び継手の位置は、交互とする。



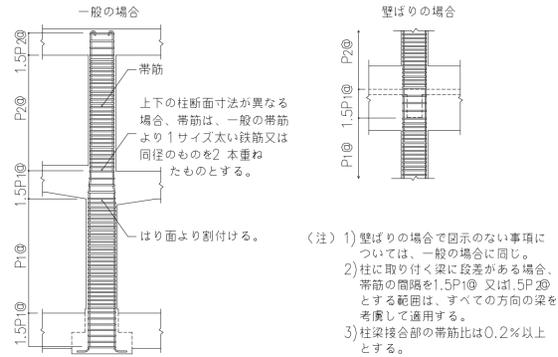
- ② W-I形 (注) 溶接は、鉄筋の組立て前に行う。



- ③ SP形 (スパイラル筋) (注) SP形において、柱筋及び柱脚の端部は、1.5巻以上の巻きを行う。



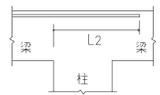
C. 帯筋の割付け



8. 大梁

A. 大梁主筋の継手及び定着

- 一般事項
 - 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(2)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず、梁内に定着する場合は、右図による。



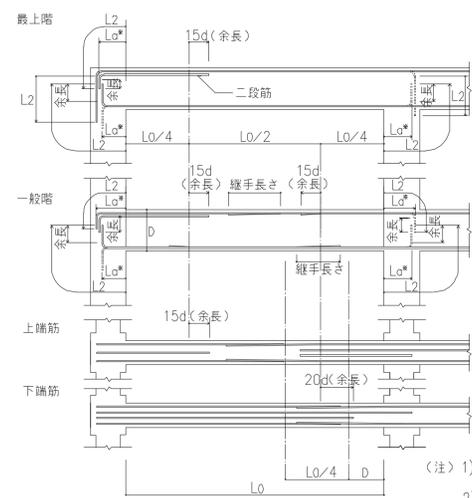
- 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。なお、定着の方法は、3.C.(2)による。
 - 上端筋 - 曲げ降ろす。
 - 下端筋 - 原則として曲げ上げる。



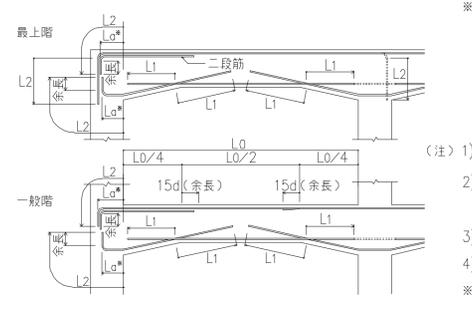
吊上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ大きい鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

- 段違い梁は、右図によることができる。

2. ハンチのない場合の重ね継ぎ手、定着及び余長



3. ハンチのある場合の定着及び余長

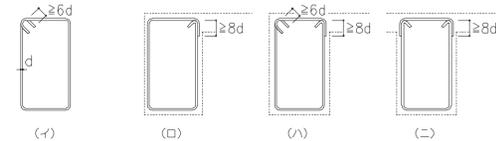


B. あばら筋、腹筋及び幅止め筋

- 一般事項
 - 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
 - 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

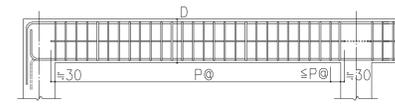
2. あばら筋組立ての形及びフックの位置

- 形は、(イ)とする。但し、L形梁の場合は(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は(ロ)~(ニ)とすることができる。
- フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブのつく割、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合はスラブのつく割を90°折曲げとする。

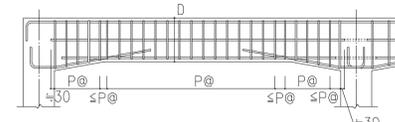


3. あばら筋の割付け

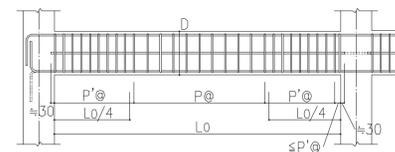
- 間隔が一律でハンチのない場合



- 間隔が一律でハンチのある場合

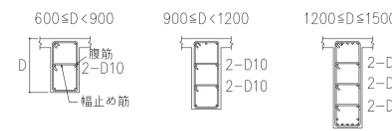


- 梁の端部で間隔の異なる場合



- (注) 1) あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2) 図のP@, P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4. 腹筋及び幅止め筋

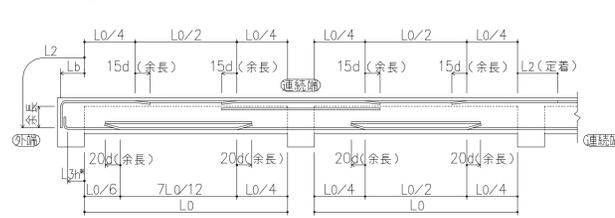


- (注) 1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1000@程度とする。

9. 小梁及び片持梁

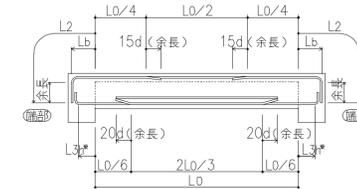
A. 小梁主筋の継手、定着及び余長

- 連続小梁



- (注) 図示のない事項は「B. 大梁」の項による。
※ L3hを確保できない場合は、3.C.(2)によることができる。

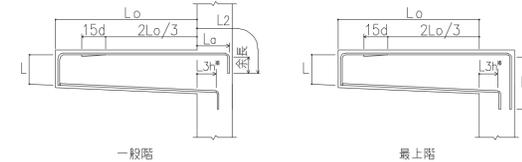
- 単独小梁



- (注) 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
図示のない事項は「B. 大梁」の項による。
※ L3hを確保できない場合は、3.C.(2)によることができる。

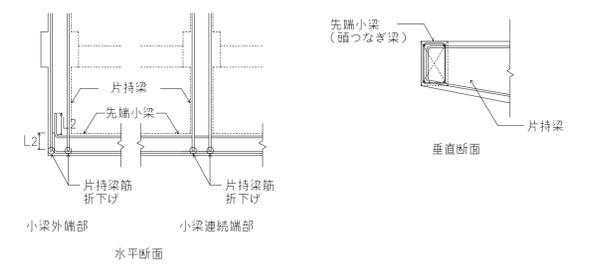
B. 片持梁主筋の定着及び余長

- 先端に小梁のない場合



- (注) 1) 図示のない事項は、「B. 大梁」の項による。
2) 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
※ L3hを確保できない場合は、3.C.(2)によることができる。

2. 先端に小梁がある場合



- (注) 1) 図示のない事項は、上記 1.による。
2) 先端小梁連続端部の主筋は片持梁内に水平定着する。
3) 先端小梁の連続端は片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

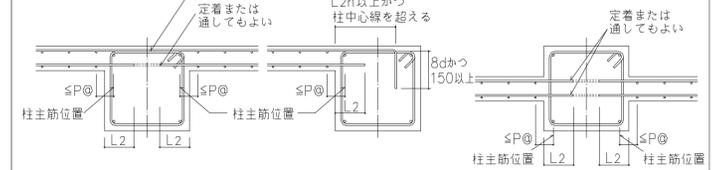
10. 壁

A. 一般事項

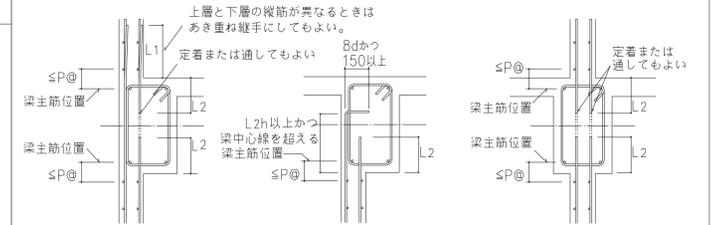
- 壁配筋の重ね継ぎ手はL1、定着長さはL2とする。
- 幅止め筋は、縦、横ともD10-1,000@程度とする。

B. 壁筋の配筋

- 柱への定着



- 梁への定着



- (注) 1) P@は壁筋間隔を示す。

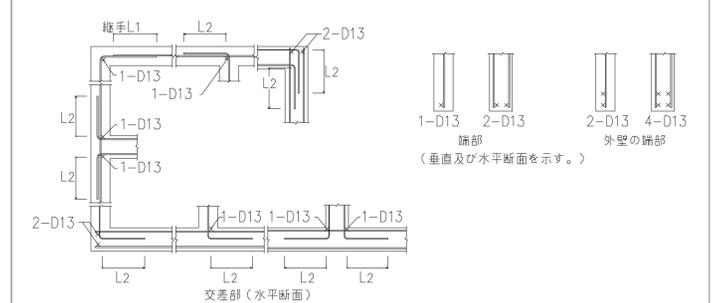
C. 階段受け壁

片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

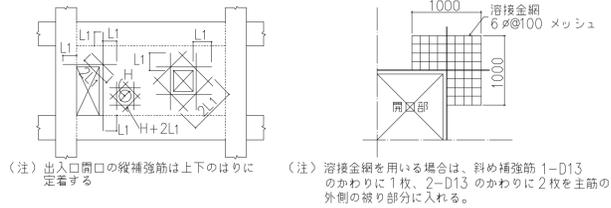
配筋種別	壁厚 t(mm)	壁配筋	階段の配筋種別
KW1	180	縦筋 D13-200@ (ダブル)	KA1
		横筋 D10-200@ (ダブル)	
KW2	200	縦筋 D13-150@ (ダブル)	KA2
		横筋 D10-200@ (ダブル)	

- (注) 1) 縦筋は横筋の外側に配筋する。
2) 階段の配筋種別は1.2.Aによる。

D. 交差部及び端部の配筋



E. 壁開口部の補強 (耐震壁を除く)

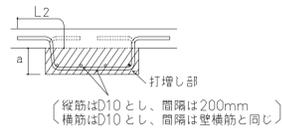


壁の種類	A 形補強筋		B 形補強筋	
	縦、横	斜め	縦、横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13	2-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13	4-D13	2-D13

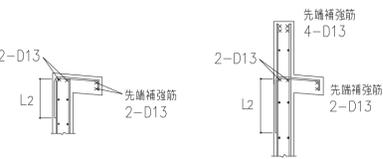
(注) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は補強を省略することができる。

F. 打増し補強筋

- aが50mm未満の打増しの場合は、補強不要とする。
- aが200mmを越える場合は特記による。



G. パラベット配筋



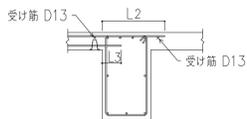
11. スラブ

A. 一般事項

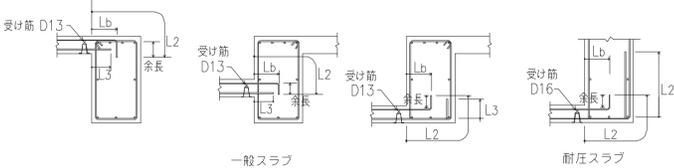
- 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
- 鉄筋の重ね継手長さは、L1 とする。

B. 定着長さ及び受け筋

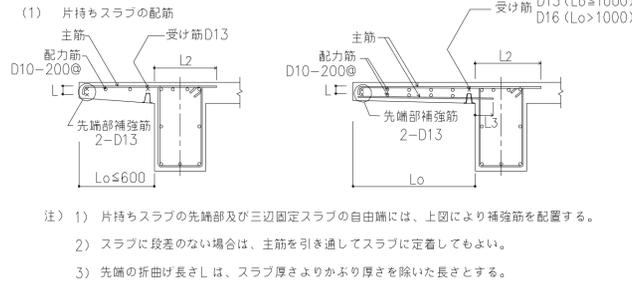
- 鉄筋を引き通す場合



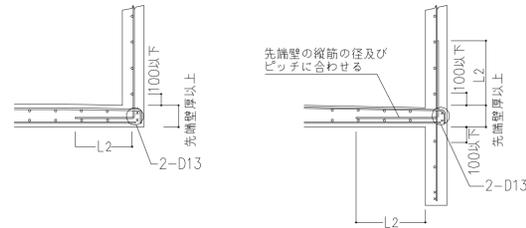
- 鉄筋を引き通す事が出来ない場合



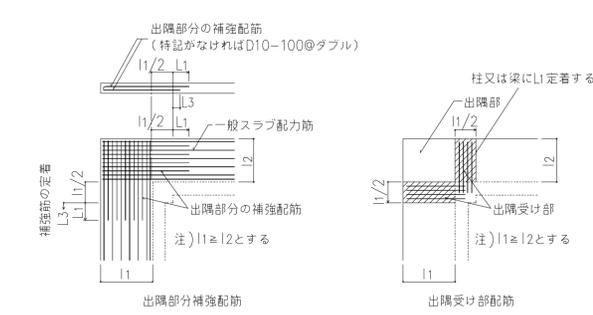
C. 片持ちスラブ



- 先端に壁が付く場合

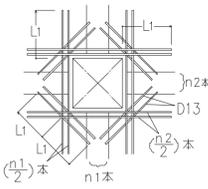


- 出隅部の補強



D. スラブ開口部の補強

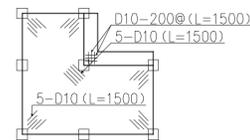
- スラブ開口の最大径が 700mm 以下の場合は、右図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部は斜め方向に 2-D13 (L=2L1) シングルを、上下筋の内側に配筋する。
- スラブ開口の最大径が、700mm をこえる場合は、特記による。
- スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



E. その他の補強

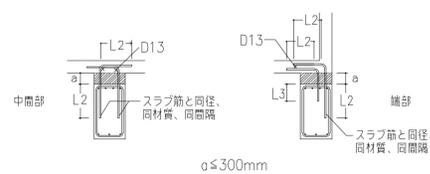
1. 屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

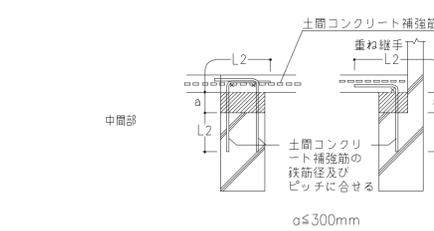


- 土間スラブ (土に接する構造スラブ) の打継ぎ補強筋

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記がない場合は下図による。

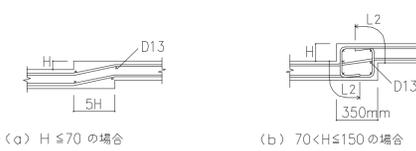


- 土間コンクリート (床荷重を直接支持地盤へ伝達できるもの) の補強筋



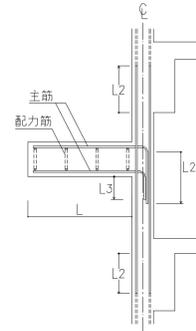
- 段差のあるスラブの補強

150mm以下の段差のあるスラブの補強は、特記がない場合は下図による。



12. 階段

A. 片持ちスラブ階段



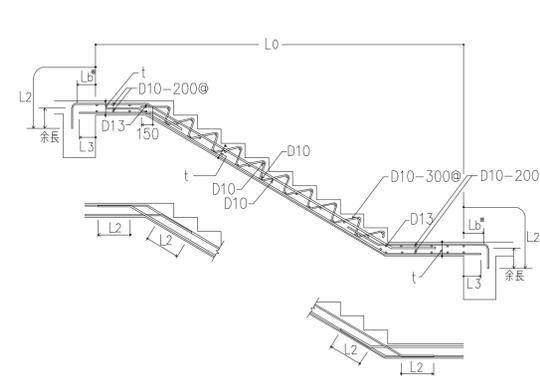
- 壁配筋は、10、Cによる。
- 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
- 階段配筋の継手及び定着長さは、3、C(1)のL3(スラブ)とする。

片持ちスラブ階段の基準配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
許容スパン (mm)	L ≤ 1500	L ≤ 2000

(注) 許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

B. 二辺固定スラブ階段



二辺固定スラブ形階段基準配筋

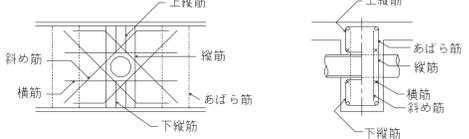
配筋種別	スラブ厚さ t(mm)	上端筋、下端筋とも(全域)	許容スパン (mm)
KB1	150	D13-200@	L ≤ 3000
KB2	150	D13-150@	L ≤ 3500
KB3	150	D13-100@	L ≤ 4000
KB4	180	D13, D16-150@	L ≤ 4500
KB5	180	D16-150@	L ≤ 5000
KB6	180	D16-125@	L ≤ 5500
KB7	200	D16-100@	L ≤ 6000

(注) 許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

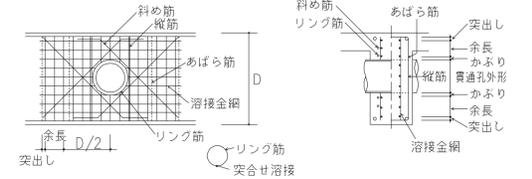
13. 梁貫通孔の補強

- 梁貫通孔補強筋の名称などは下図による。

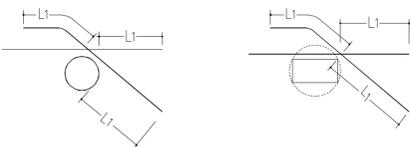
- H形



- MH形及びM形



- 孔の径は、梁せい1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3D(Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
- 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
- 孔が並列する場合の中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、下図による。



- 孔の径が梁せい1/10以下かつ150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 溶接金網に付けるリング筋は、溶接金網に4面以上溶接する。
- 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下割とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- 補強形式は次表による。

H形配筋

R/C梁	配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
φ ≤ 75	H1	なし	なし	なし	なし	
φ ≤ 100	H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
φ ≤ 150	H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
φ ≤ 200	H4	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
φ ≤ 250	H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
φ ≤ 300	H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
	H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
	H8	4-3-D25	4-4-D13	2-2-D13	6-4-D13	

(注) は、一般部分のあばら筋を示す。

M形筋					
SRC梁	配筋種別	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
$\phi \leq 75$	M1	2-2-D13	なし	なし	
$\phi \leq 100$	M2	4-2-D13			
$\phi \leq 150$	M3	4-2-D13	2-6 ϕ -100@	13 ϕ	
$\phi \leq 200$	M4	6-2-D13			

(注) 〃は、一般部分のあばら筋を示す。

MH形配筋						
RC梁、SRC梁	配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
$\phi \leq 75$	MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
$\phi \leq 100$	MH2		2-2-D13			
$\phi \leq 150$	MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6 ϕ -100@	13 ϕ	
$\phi \leq 200$	MH4	4-2-D13				
$\phi \leq 250$	MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-6 ϕ -100@	13 ϕ	
$\phi \leq 300$	MH6	4-2-D16				
	MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6 ϕ -100@	13 ϕ	

(注) 〃は、一般部分のあばら筋を示す。

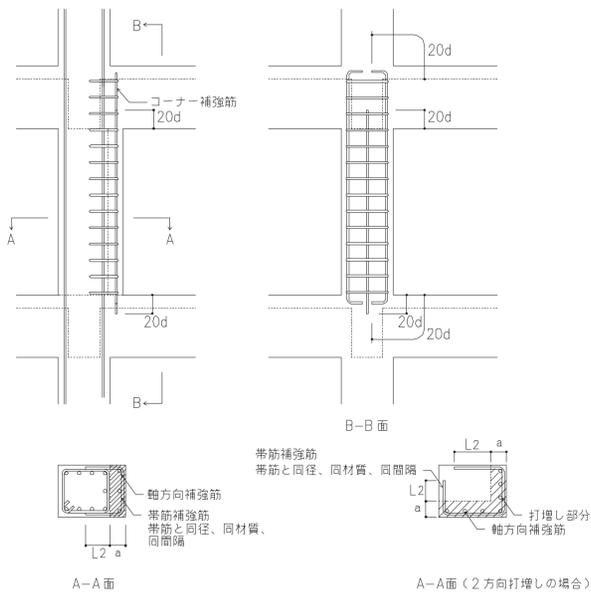
13. 梁貫通補強筋は、監督職員の承諾を受けて、既製品と入れ替える事ができる。

14. 柱、梁の打増しコンクリート補強

A. 柱の打増しコンクリート補強筋

梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは打増し部分を除いて算定する。

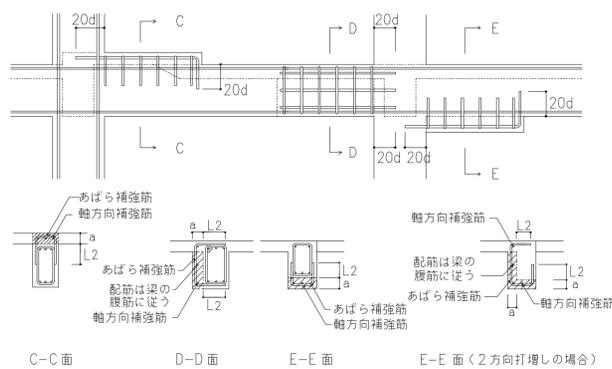
- $\alpha < 70$ 打増し補強筋不要
- $70 \leq \alpha \leq 200$ 軸方向補強筋 D16-300@
- $200 < \alpha \leq 300$ 軸方向補強筋 D19-300@



B. 梁の打増しコンクリート補強筋

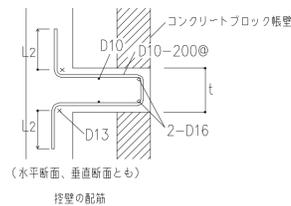
あばら補強筋は、あばら筋と同径、同材質、同間隔とする。

- $\alpha < 70$ 打増し補強筋不要
- $70 \leq \alpha \leq 200$ 軸方向補強筋 D16-300@
- $200 < \alpha \leq 300$ 軸方向補強筋 D19-300@



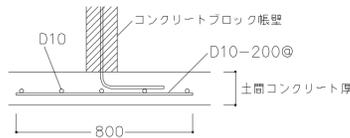
15. コンクリートブロック帳壁

1. 帳壁の控壁



2. 土間コンクリートの補強

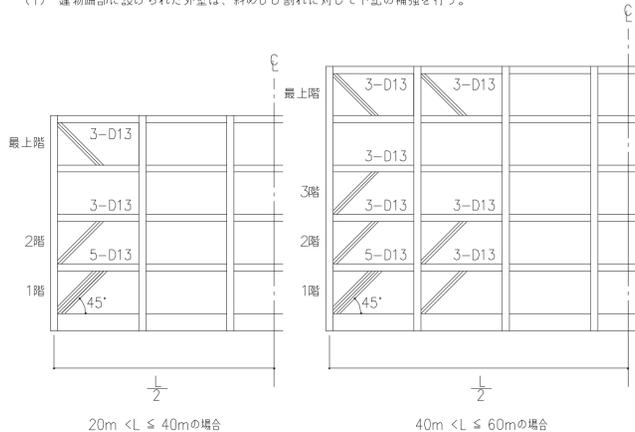
帳壁が、土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



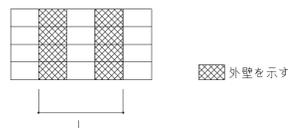
16. 壁のひびわれ対策

A. 建物端部に設けられた外壁の補強

(1) 建物端部に設けられた外壁は、斜めひび割れに対して下記の補強を行う。

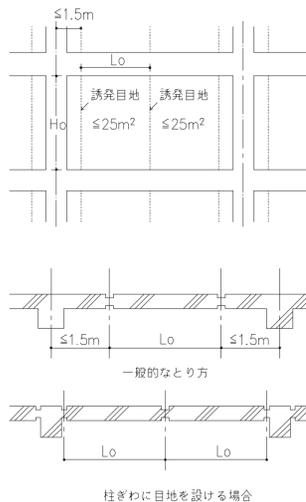


(2) 外壁が建物の端部以外の部分に設けられている場合、壁より外側のフレームを除いた長さLにより前項を適用する。



B. 誘発目地

(1) 特に対策を講ずる場合以外は、原則として周囲を柱・はり・床組・誘発目地などで囲まれた1枚の壁の面積を25m²以下とする。誘発目地間隔は3m以内とし、位置は意匠図による。



(2) 架構より突出したバルコニー、腰壁、垂れ壁等には原則として3m程度以内の間隔で誘発目地を設ける。

(3) 誘発目地は、原則として目地による壁断面の欠損率を施工時の実壁厚に対して 1/5-1/4とし、壁の面から欠き込むものとする。ただし、耐震壁に目地を設ける場合、欠損率は1/5程度にとどめるものとする。



(4) 誘発目地部分の鉄筋は目地底より最小かぶり厚を確保するものとする。

C. その他

(1) 壁に配管類などを埋め込む場合、管径は壁板内配筋の中間に収まる寸法とし、配管類に対するかぶり厚さおよび配管類間のあきは、30mm以上とする。

1. 一般事項

1.1 溶接方法

溶接方法は原則としてアーク溶接とし、溶接方法の種類は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、エレクトロスラグ溶接及びアークスタッド溶接とする。

1.2 溶接継手

溶接継手の種類は、完全溶込み溶接、隅肉溶接、部分溶込み溶接及びフレア溶接とし、完全溶込み溶接の継手形状の種類は、突合わせ継手、T形継手及びかど継手とする。

1.3 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分 類		記号
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接 セルフシールドアーク半自動溶接	H
	サブマージアーク自動溶接	A
	エレクトロスラグ溶接	E
溶接継手	完全溶込み溶接	B
	突合わせ継手	T
	T形継手	T
	かど継手	L
溶接面	隅肉溶接	F
	部分溶込み溶接	P
	フレア溶接	FL
溶接面	片面溶接	1
	両面溶接(注)	2

(注) 両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表側と裏側の両面より溶接を行うことをいう。

1.4 溶接の補助記号

区 分	補助記号
現 場 溶 接	▶
全 周 溶 接	○
全 周 現 場 溶 接	◐
断続溶接の長さ及び間隔	L-P

1.5 溶接記号の記載方法

溶接記号の記載方法は下図またはJISによる。ただし、溶接工法又は溶接面の指定を行わない場合は、溶接継手のみの記入とする。尚、JISによる場合の、完全溶込み溶接に対する溶接継手の記号は、 ∇ で代表させる場合がある。

(注) 基準線及び引出線は、溶接記号(JIS Z 3021)に準ずる。

(記載例) 溶接記号の記載は、下図に従い、溶接方法、溶接継手及び溶接面の記号を記入する。

1.6 その他

- 設計図書に記載なき場合は、本基準図に従うものとする。
- 本基準図に記載なき場合は、「鉄骨工事技術指針(日本建築学会編)」による。
- 精度に関しては「鉄骨精度測定指針(日本建築学会編)」によるとともに、告示12-1464第二号イ(3)の規定も満足すること。
- 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し、監督職員の承認を得ること。
- 本鉄骨基準図に示す溶接形状、開先角度、ルート間隔及びルートフェース等は標準を示すもので、鉄骨加工業者が、施工設備、経験により、独自の基準を有する場合は、「鉄骨工事施工要領書」にその基準及びその根拠を示すデータ、検査結果、検査要領等を添付し、監督職員の承認を得た場合に限り、その基準による事ができる。

2. 完全溶込み溶接開先標準

(単位: mm)

(アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)		(サブマージアーク自動溶接)	
HB1(片面溶接)	HB2(両面溶接)	AB1(片面溶接)	AB2(両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

突合わせ継手(B)

隅肉溶接(F)

部分溶込み溶接(P)

フレア溶接(FL)

片面溶接(1)

両面溶接(2)

ハンチ部等の溶接

ハンチ部等のT形継手において、溶接板が直交しない場合の開先標準は、下図による。

(単位: mm)		
(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)	HT2(両面溶接)	
HT1(片面溶接)	$6 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$

3. 隅肉溶接基準

(単位: mm)

隅肉溶接(F)

(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)

F1(片面溶接)

$t \leq 16$

F2(両面溶接)

$t \leq 16$ $16 < t \leq 40$

隅肉溶接のサイズ (単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12

注) 1) 隅肉溶接の長さ

設計図書(図面及び仕様書)に示す断続隅肉溶接

長さは、右図の有効長さ(L)とし、隅肉のサイズ(S)の10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点(La)及びクレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。

(La及びLb ≥ S)

4. 部分溶込み溶接開先標準

(単位: mm)

部分溶込み溶接(P)

(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)

P1(片面溶接)

$12 \leq t \leq 40$

P2(両面溶接)

$16 \leq t \leq 40$

注) 1) 部分溶込み溶接のうち片面溶接においては、原則として開先をとらない側にも補強隅肉溶接を行う。

5. フレア溶接基準

(単位: mm)

フレア溶接(FL)

(アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接及びセルフシールドアーク半自動溶接)

FL1(丸鋼等片面溶接)

FL2(丸鋼等両面溶接)

FL3(軽量形鋼V形溶接)

FL4(軽量形鋼V形溶接)

注) 1) スタッド溶接はアークスタッド溶接方式による直接溶接とし、溶接姿勢は下向きを原則とする。

2) スタッド溶接用材料はJIS B1198(鋼付スタッド)の規格品とし、適用呼び名は、13mm、16mm、19mm及び22mmの4種類とする。

3) スタッド溶接は、デッキプレート上から行ってはならない。ただし、デッキプレート厚1.6mm以下で、あらかじめ施工試験で良好な溶接が得られることが確認された場合は、この限りではない。

4) スタッドの間隔、ゲージ等の寸法

項 目	寸 法
間 隔 (P)	呼び名の7.5倍以上かつ600mm以下
最小ゲージ (G)	呼び名の5倍以上
へりあき (e1)	40mm以上
呼び長さ (L)	呼び名の4倍以上。デッキプレートが介在する場合は、呼び名の4倍以上で、かつ、デッキプレート高さ(Hd)に30mmを加えたもの以上とする。
コンクリートかぶり厚 (dc)	30mm以上。土に接する部分及び外壁仕上なしの部分は、40mm以上とする。

鋼管分岐継手

鋼管分岐継手における支管は、主管外径より鉛直のものを使用し、その開先標準は下図による。ただし、自動機械により開先加工を行う場合は、これ以外の形状をとることができる。

適用管厚 $3.2\text{mm} \leq t \leq 12\text{mm}$

交角 $30^\circ \leq \theta \leq 150^\circ$

主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

A部断面 B部断面 C部断面

6.3 焼抜き栓溶接

1) 焼抜き栓溶接

項目	
溶接工資格	JIS Z 3801 基本級以上
溶接棒及び溶接材料	JIS D 4316, 5016に定める低水素系被覆アーク溶接棒 φ4mm
溶接機	交流アーク溶接機AW300A以上 エンジン溶接機280A以上
附属設備	ケーブル箱：38mm以上
電源容量	溶接機1台につき24KVA
デッキ板厚 (mm)	1.2~1.6
はりフランジ板厚 (mm)	6~9未満 9以上
溶接電流 (A)	230~250 270~300
溶接電圧 (V)	
アークタイム (sec)	5~8 (溶接時間 10~18)
余盛り径 (mm)	25~30

2) 自動焼抜き栓溶接

項目	
溶接工資格	JIS Z 3841 基本級以上
溶接棒及び溶接材料	ワイヤ：YCW11, 12 φ 1.2 ガス：CQ
溶接機	専用溶接機 (350A)
附属設備	アークシールド、ガス供給装置、ワイヤ供給装置
電源容量	溶接機1台につき18KVA (1台当り発電機35KVA以上)
デッキ板厚 (mm)	1.2 1.6
はりフランジ板厚 (mm)	6~9未満 9以上 6~9未満 9以上
溶接電流 (A)	300~320 300~320 300~320 300~320
溶接電圧 (V)	33~35 33~35 34~36 34~36
アークタイム (sec)	3.0~4.0x1度打ち 3.5~4.0x2度打ち 3.5~4.5x1度打ち 4.0~4.5x2度打ち
余盛り径 (mm)	25±3

7. 鉄骨加工要領

7.1 溶接材料

1) 溶接材料は下表より、母材の種類、寸法及び溶接条件に相応したものを選定する。

種類	規格番号	規格名称
被覆アーク溶接棒	JIS Z3211	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒
	JIS Z3214	耐候性鋼用被覆アーク溶接棒
ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z3312	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
	JIS Z3315	耐候性鋼用のマグ溶接及びミグ溶接用ソリッドワイヤ
	JIS Z3320	耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
サブマージアーク溶接用材料	JIS Z3183	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接金属の品質区分
	JIS Z3351	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3352	サブマージアーク溶接用フラックス
エレクトロスラグ溶接用材料	JIS Z3353	軟鋼及び高張力鋼用のエレクトロスラグ溶接ワイヤ及びフラックス
スタッド溶接用材料	JIS B1198	噴付スタッド 上に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた溶接材料

- 引張強さ490N/mm²以上の鋼材、及び厚さ25mm以上の仮付け、及び初層には低水素系溶接棒を使用する。
- 使用する溶接棒の最大径は1層目4mm、2層目以降は6mmとする。

7.2 加工

- 切断：自動ガス切断とし、シャーリングは板厚9mm以下とする。
- 開先加工：自動ガス加工、及び切削加工とする。
- 穴明：ドリル明けとし、ガス及びパンチングは不可とする。

7.3 組立て

1) 仮付け溶接は、原則としてショートビートをさけ、その長さは下表による。

板厚 (mm)	手溶接	サブマージ自動溶接
t ≤ 25	40以上	50以上
t > 25	50以上	70以上

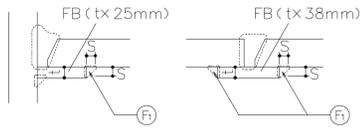
2) 予熱：材料の種類、板厚及び母材の温度などにより、適当な予熱を行う。
(溶接線を中心に片側100mmずつ行う)

7.4 裏はつり

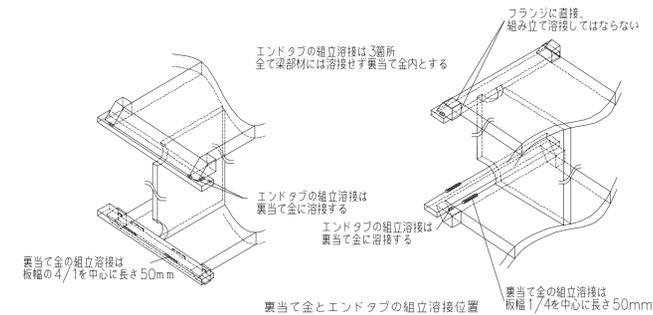
完全溶込み溶接における面溶接は、原則として裏はつりを行う。裏はつりは、健全な着着部分が見られるまではつり取った後、裏溶接を行う。ただし、自動溶接において完全溶込みが得られたことが超音波探傷試験等で確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。

7.5 裏当て金

- 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は、下図による断続的隅肉溶接とし、溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。
- 裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上とする。

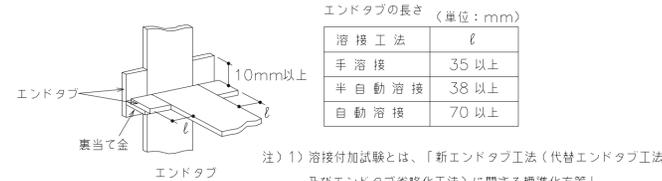


裏当て金の厚さ (単位: mm)		溶接のサイズ (単位: mm)	
溶接工法	t	裏当て金の厚さ	S
手溶接	6以上	t ≤ 9	5
半自動溶接	9以上	t > 9	9
自動溶接	12以上		



7.6 エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は同厚・同間先のものを用い、長さは、下図及び下表のとおりとする。ただし、あらかじめ溶接付加試験によって溶接端部に欠陥が生じないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合は、この限りではない。



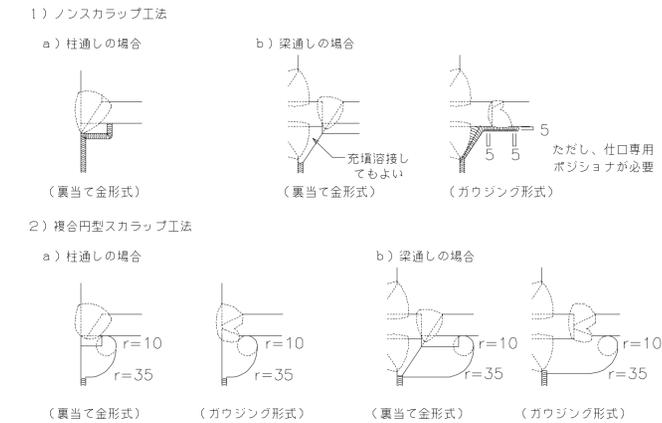
エンドタブの長さ (単位: mm)	
溶接工法	ℓ
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

注) 1) 溶接付加試験とは、「新エンドタブ工法 (代替エンドタブ工法) 及びエンドタブ省略工法」に関する標準化方策 (日本鋼構造協会) にもとづいて実施するものをいう。

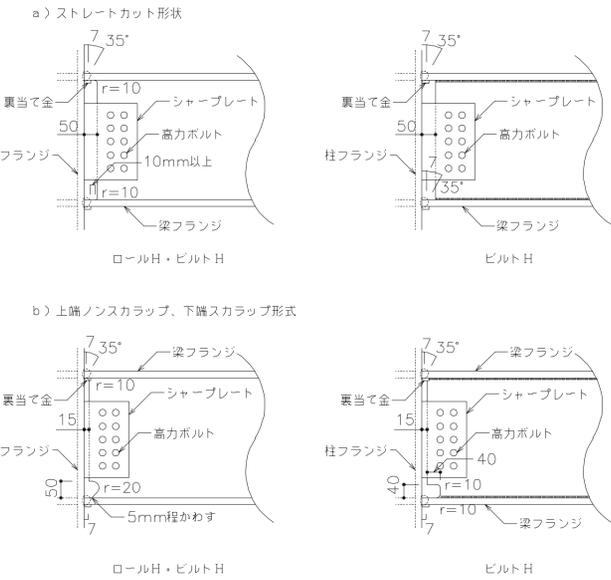
- エンドタブを切断する場合は下記による。
- エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から、1~5mmを残して、部材断面を欠損しないように直線上に切断する。
なお、切断線が交差する場合には、交差部をアール状に加工する。
 - 切断面は、グラインダー掛けにより、粗さ100μm Rを程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下に仕上げる。

7.7 柱梁完全溶込み溶接部の形状

柱梁接合部のうち梁端溶接部の梁フランジを完全溶込み溶接する際の形状は以下による。



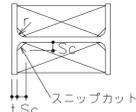
3) 現場溶接の場合の梁端形状



7.8 スニップカット

溶接の交差部をスニップカット (Sc) で、処理する場合の標準寸法は、鋼板の板厚及び材の板厚に応じて下表によるものとし、スニップカット部は、溶接により埋めることとする。ただし、既製形鋼のスニップカットは Sc=r+2t より求めるものとする。

スニップカット (単位: mm)	
t	6 9 12 16以上
Sc	10 12 14 15



7.9 余盛り

突合わせ継手、かど継手、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部には、余盛りを行う。その高さの上限は、下表による。

溶接継手	溶接方法	余盛りの限度 (単位: mm)	
		手溶接	半自動溶接
突合わせ継手	手溶接	3	4
かど継手	手溶接	4	4
隅肉溶接	手溶接	3	3
フレア溶接	半自動溶接	3	3

7.10 溶接板の段差

板厚が異なる場合の突合せ継手の溶接部の形状は、次による。

- 低力高サイクル疲労を受けやすい部位は特記により、その形状は、厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、間先部分で薄い方と同じ高さにする。



- (1) 以外で板厚差による段差が薄い方の板厚の1/4を超えるか又は10mmを超える場合は、T継手に準じた高さの余盛りを設ける。
- 板厚差による段差が薄い方の板厚の1/4以下、かつ、10mm以下の場合は、溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へ滑らかに移行するように溶接する。

7.11 開先精度

開先角度の精度は -0°及び +5°とし、ルート間隔精度は ±1.5mmとする。

ボルト接合

1. ボルト孔の径

ボルトの種類	ねじの呼び	(単位: mm)						
		M12	M16	M20	M22	M24	M27	M30
高力ボルト (F10T, S10T)		14.0	18.0	22.0	24.0	26.0	30.0	33.0
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当) ※1		14.0	18.0	22.0	24.0	26.0	30.0	33.0
普通ボルト	※2	13.0	17.0	21.5	23.5	25.5		

※1 国土交通大臣認定条件による。
※2 母屋、鋼筋類の取付用ボルトの場合は、ボルトの径+1.0mmとすることができる。

2. ボルトの締付け長さに加える長さ

ボルトの種類	ねじの呼び	(単位: mm)						
		M12	M16	M20	M22	M24	M27	M30
JIS形		25	30	35	40	45	50	55
トルシア形	※1	25	30	35	40	45	50	50

※1 国土交通大臣認定条件による。

3. 縁端距離及びボルト間隔

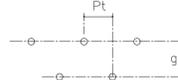
縁端距離及びボルト間隔は、下表の値を標準とする。ただし引張材の接合部分において、せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、ボルト軸径の2.5倍以上とする。

ねじの呼び	(単位: mm)	
	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

4. 千鳥打ちのゲージ及び間隔

千鳥打ちのゲージ及び間隔は、下表の値を標準とする。

ゲージ	(単位: mm)	
	千鳥打ちの間隔 (Pt)	
9	ねじの呼び	
	M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	—	40



5. 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、下表の値を標準とする。

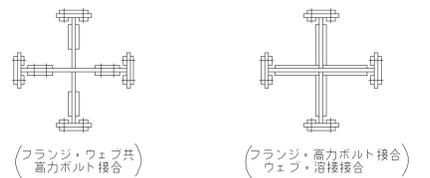
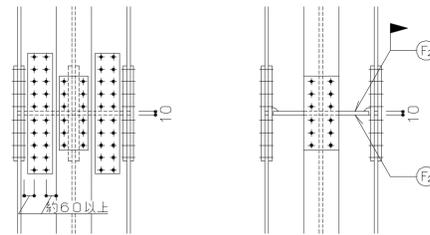
		(単位: mm)								
A又はB	91	92	最大軸径	B		最大軸径	B		最大軸径	
				91	92		93	93		
40	22		10	100*	56		16	40	24	10
45	25		12	125	75		16	50	30	12
50	28		16	150	90		22	65	35	20
60	35		16	175	105		22	70	40	20
65	35		20	200	120		24	75	40	22
70	40		20	250	150		24	80	45	22
75	40		22	300	150	40*	24	90	50	24
80	45		22	350	140	70	24	100	55	24
90	50		24	400	140	90	24			
100	55		24							
125	50	35	24	1.H形鋼のB=300は、千鳥打ちとした時のゲージ標準である。						
130	50	40	24							
150	55	55	24	2.*印の欄のg、および最大軸径の値は、強度上支障がない場合で、最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。						
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1 千鳥打ちとした場合

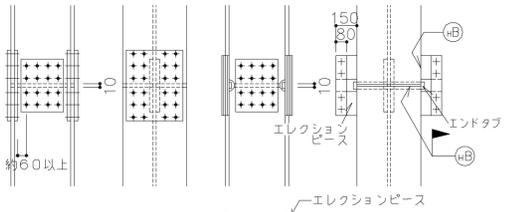
継手部詳細

1 柱の継手

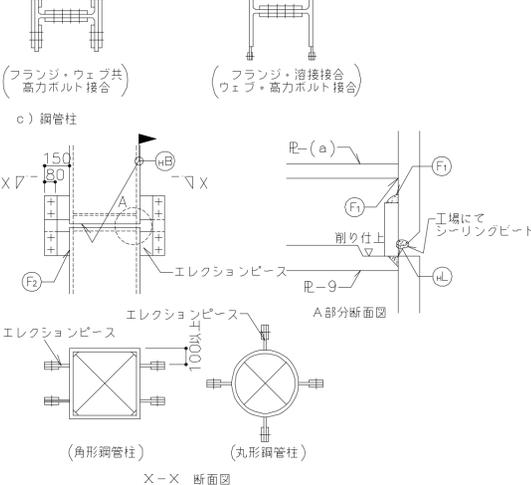
a) 十字形柱



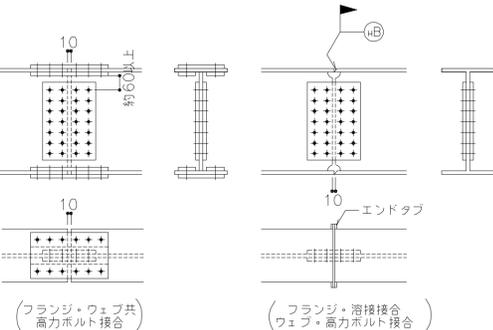
b) H形柱



c) 鋼管柱



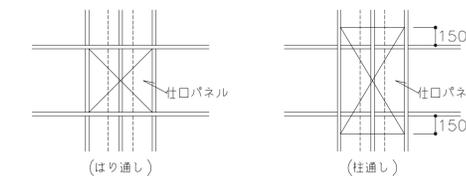
2 はりの継手



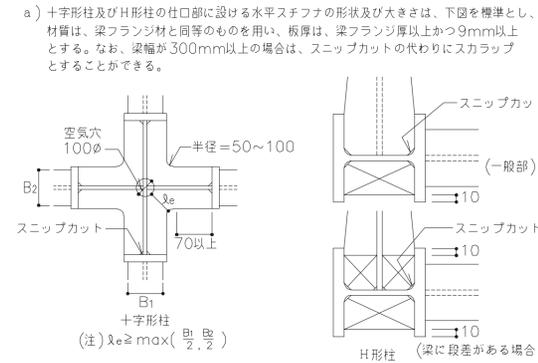
仕口パネルその他

1 仕口パネル

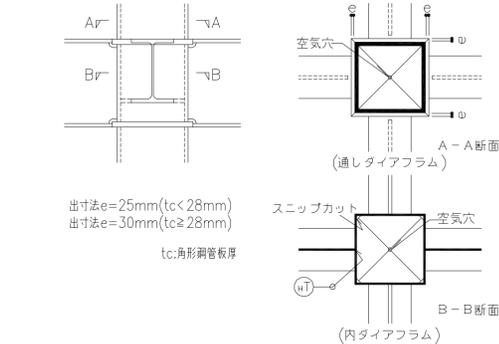
仕口パネルの範囲は、下図を標準とし、材質は、取付く梁及び柱のウェブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものを用い、板厚は、いずれか厚いもの以上かつ9mm以上とする。



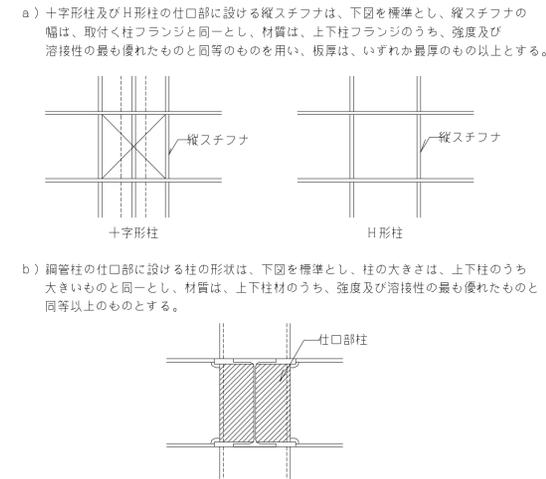
2 水平スチフナ



b) 鋼管柱の仕口部に設けるダイヤフラムの形状及び大きさは下図を標準とし、通しダイヤフラムの場合の材質は、取付く梁フランジ材及び柱材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上のものを用い、板厚は、同じレベルに集まる梁フランジ板厚の2サイズアップ以上（又はフランジ板厚+6mm以上）、かつ柱の板厚以上とする。また、内ダイヤフラムの場合の材質は、梁フランジ材と同等以上のものを用い、板厚は、同じレベルに集まる梁フランジのうち最厚のもの以上かつ9mm以上とする。ダイヤフラム中心部には、最上部を除いて空気穴（直径30mm程度）を設ける。ただし、スニップカットの代わりにスクラップを設ける場合には、空気穴を省略することができる。

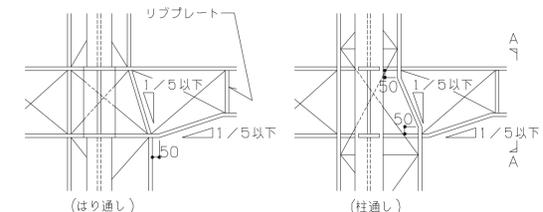


3 縦スチフナ

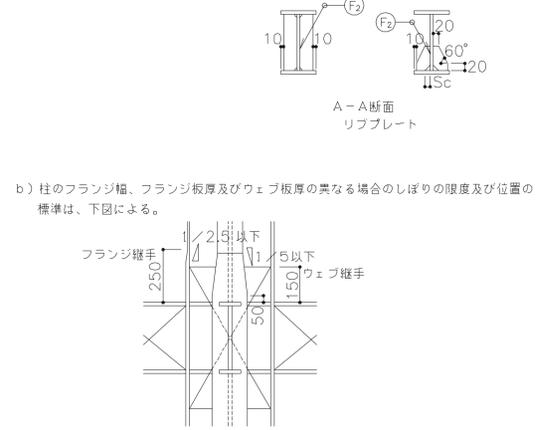


4 はり及び柱のしほり

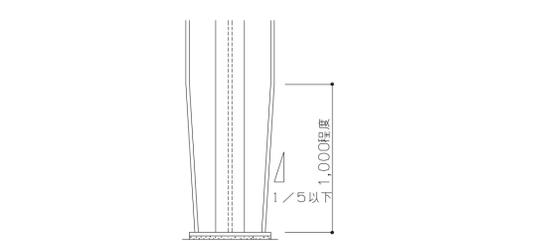
a) はり通し及び柱通しのしほりの限度及び位置の標準は、下図により、梁ハンチ部にリブプレートをつけるものとし、板厚はウェブと同厚以上とする。ただし、リブプレートの大きさはスリップ等の納りを考慮して小さくすることができる。



b) 柱のフランジ幅、フランジ板厚及びウェブ板厚の異なる場合のしほりの限度及び位置の標準は、下図による。



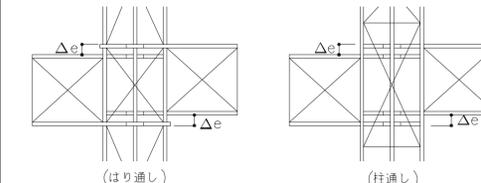
c) 柱脚部のしほりの限度及び位置の標準は、下図による。



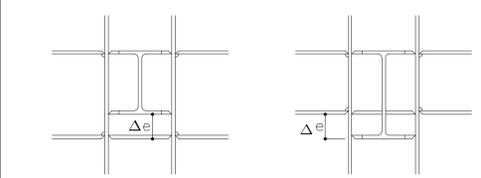
5 はりの段差

柱に取り付くはりに段差を設ける場合の寸法(Δe)は、溶接性を考慮して、150mm以上かつ6t以上(tは柱の板厚)を確保する。ただし、溶接及び超音波探傷検査に支障がない場合は、この限りではない。

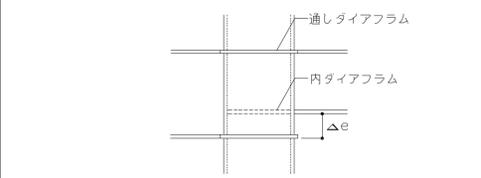
a) 十字柱



b) H形柱

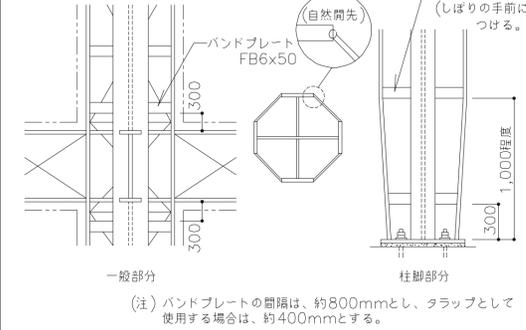


c) 鋼管柱



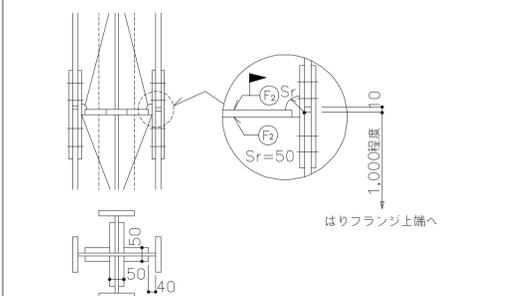
6 バンドプレート

バンドプレートは、特に柱・はり接合部においては配筋上の支障とならずに、取り付けないこととする。ただし、ウェブ厚が薄く、溶接、運搬及び建方の際に変形のおそれのある場合又は施工上トラップとして必要な場合は、施工性を考慮して下図の位置及び大きさで取り付けることとする。



7 ウェブ継手現場溶接用隔板

現場で柱ウェブ材を溶接する場合の隔板の標準は、下図により、材質は、上下柱ウェブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものを用いるものとし、板厚は、9mm以上とする。



8 フィラープレート(SS400)

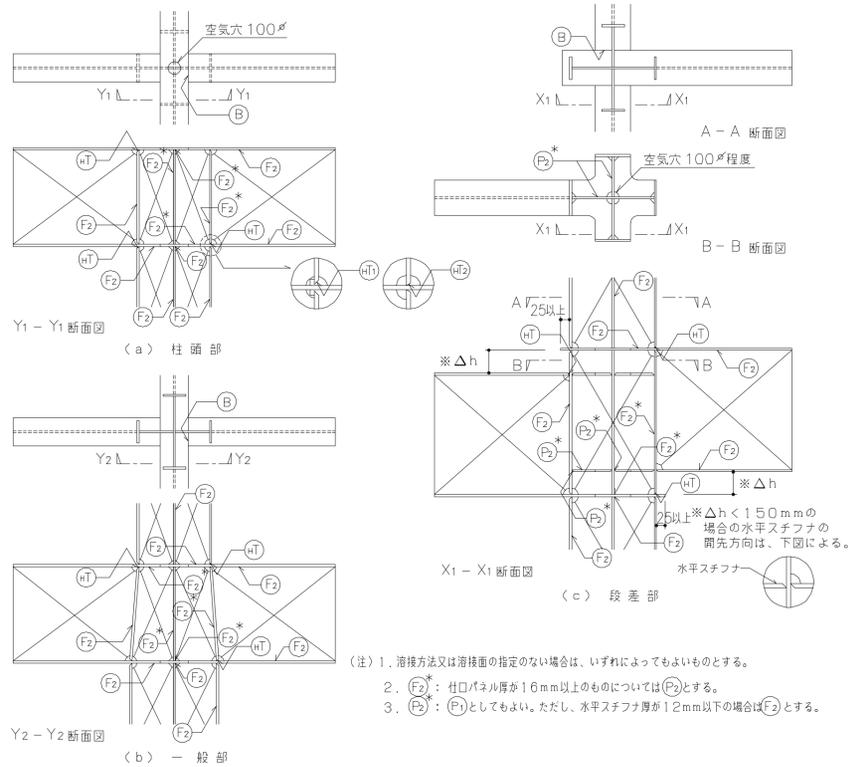
継手	T3又はT4	フィラープレート厚 (mm)
	< 1	無
	≤ 2	1.6
	≤ 3	2.3
	≤ 5	4.5
	≤ 7	6
	≤ 10	9
	≤ 13	12
	≤ 17	16
	≤ 20	19
	≤ 23	22

(注) 1. フィラープレートは1mmを超えるはだきに対して挿入する。
2. フィラープレートの厚みは1.6mm以上とする。

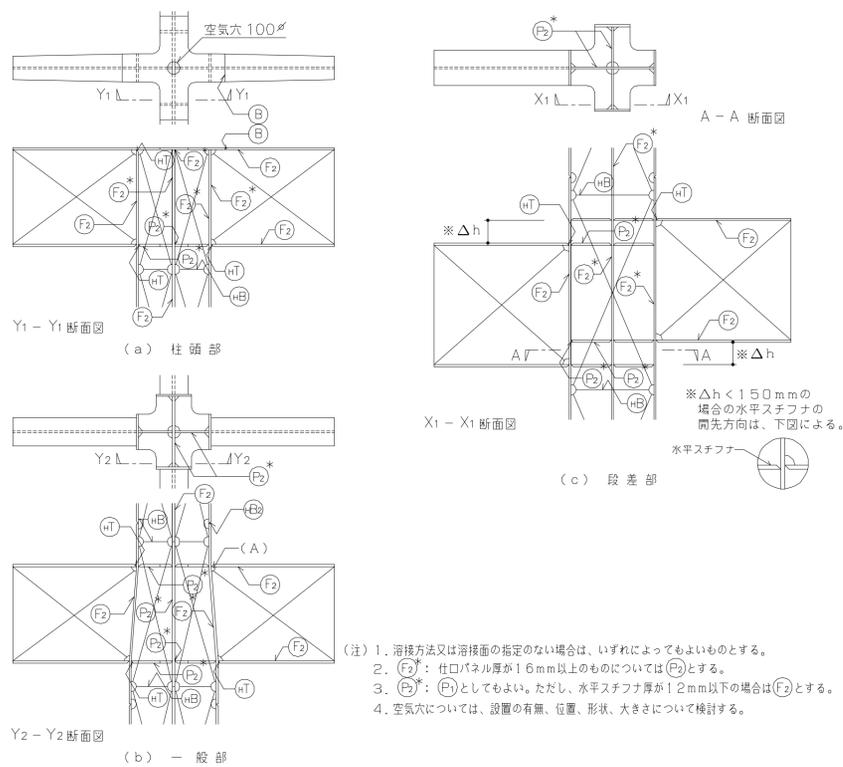
仕口部詳細図

十字形柱

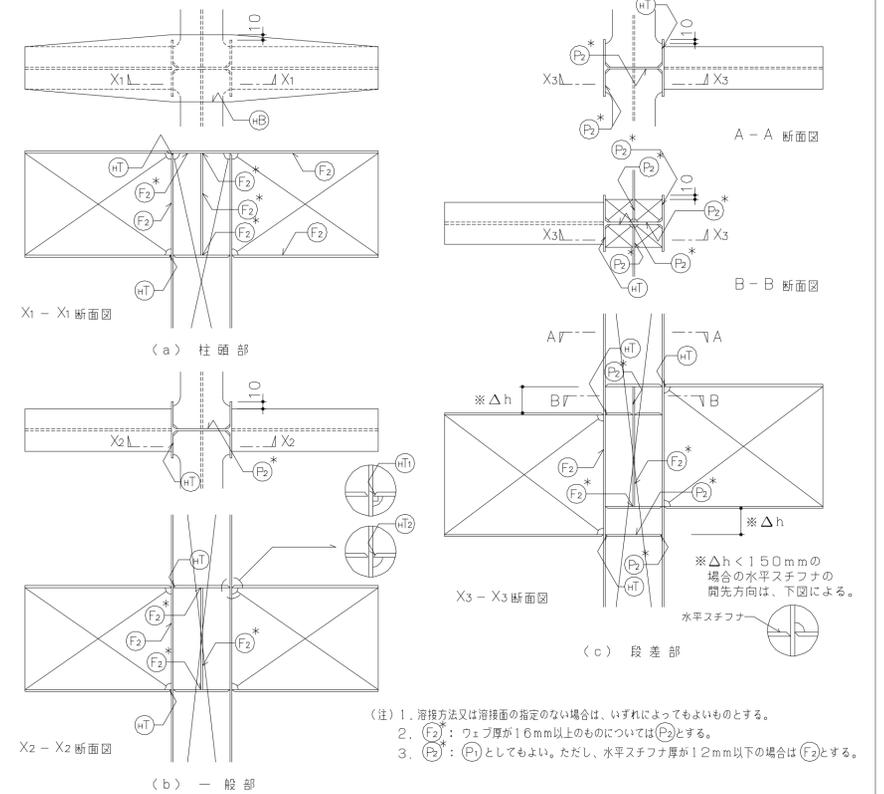
はり通し



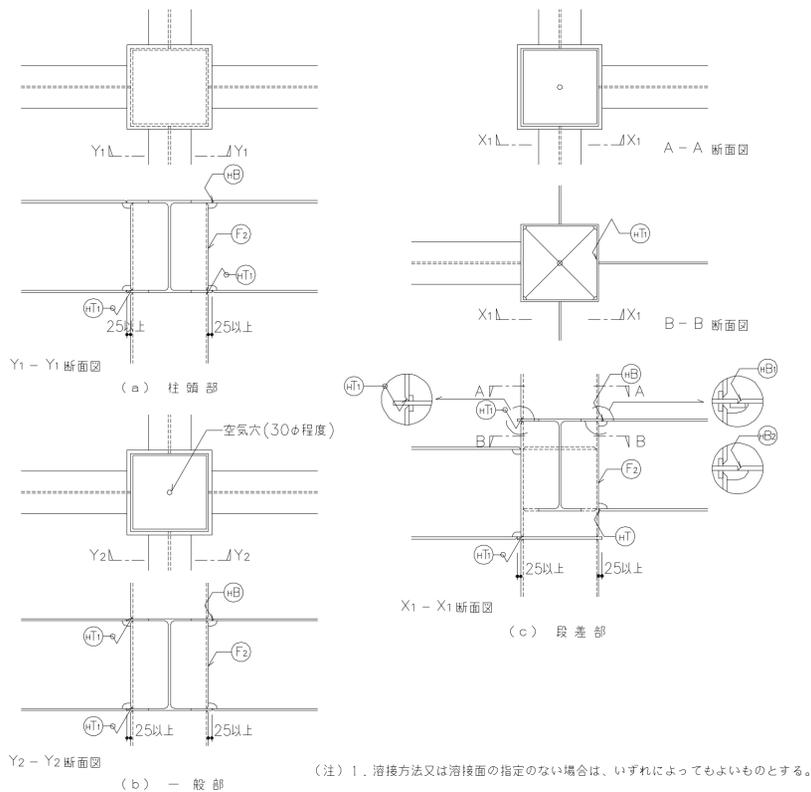
柱通し



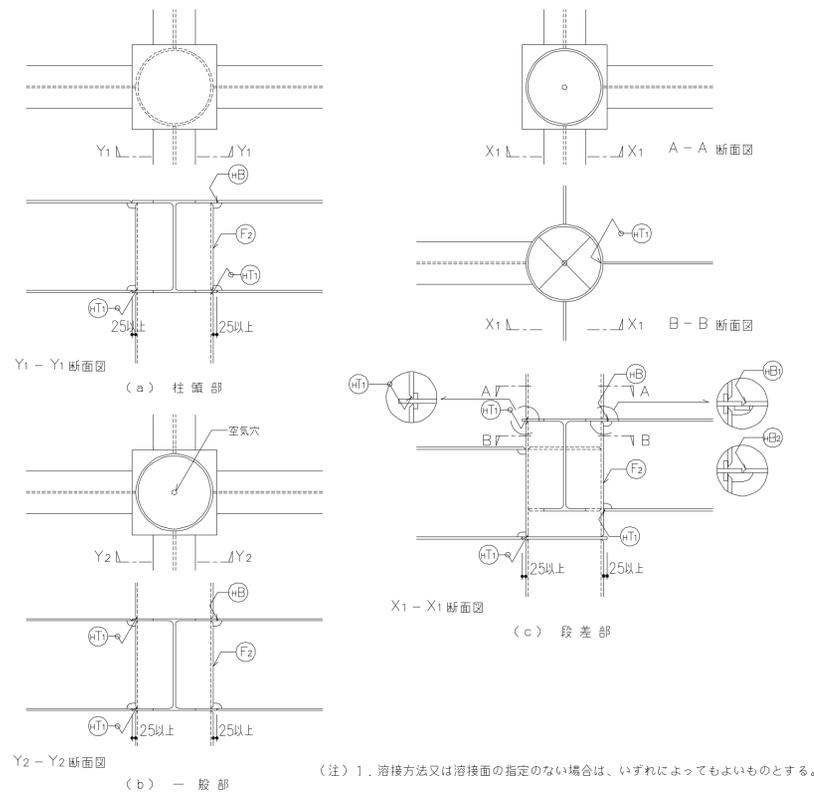
H形柱



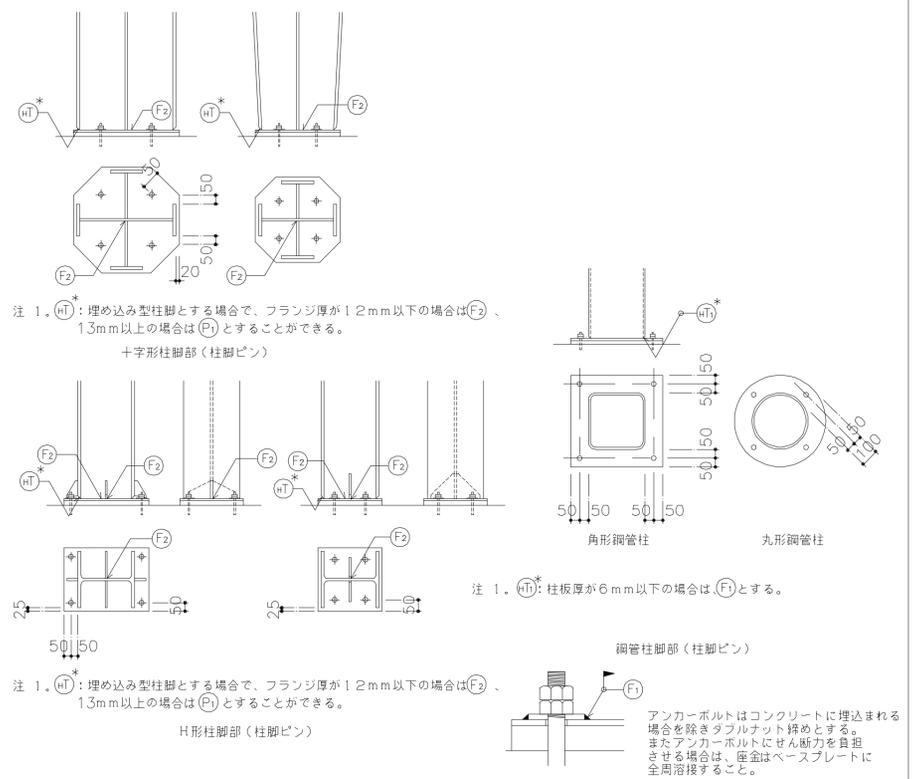
角形鋼管柱



鋼管柱



柱脚部詳細図



竣工年月日	
監理者	
施工者	

城南衛生管理組合

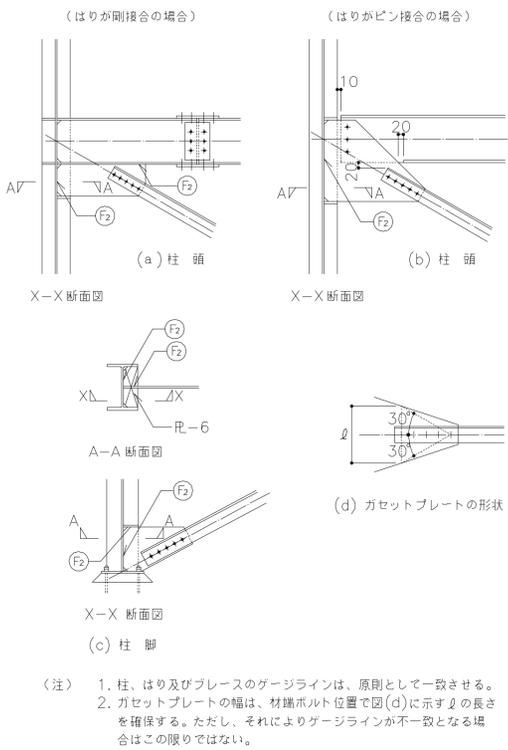
株式会社 大建設

後にごろせ	DATE	2022 3	PROJ. NO.	0-2021-056
	CHECK			

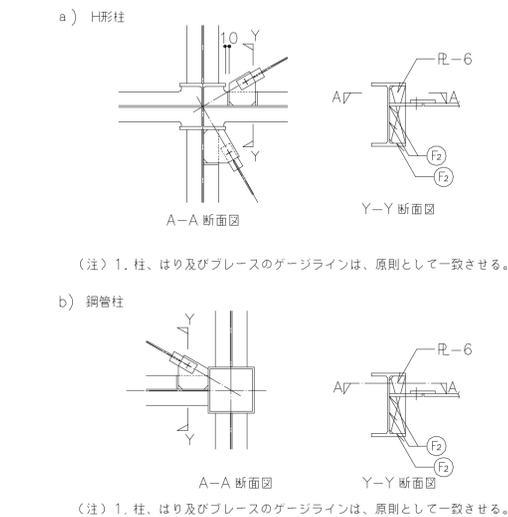
PROJ. TITLE	城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	S
DWG. TITLE	鉄骨標準詳細図 (2)	DWG. NO.
	1/ NS (A1)	010
	SCALE 1/ NS (A3)	

各部詳細

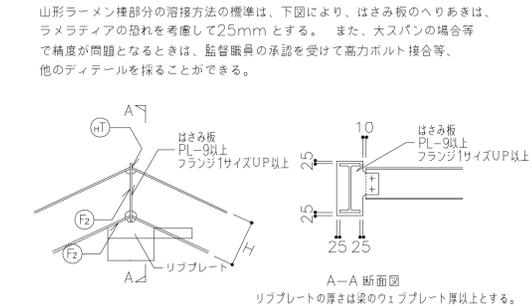
1 鉛直ブレースの仕口部



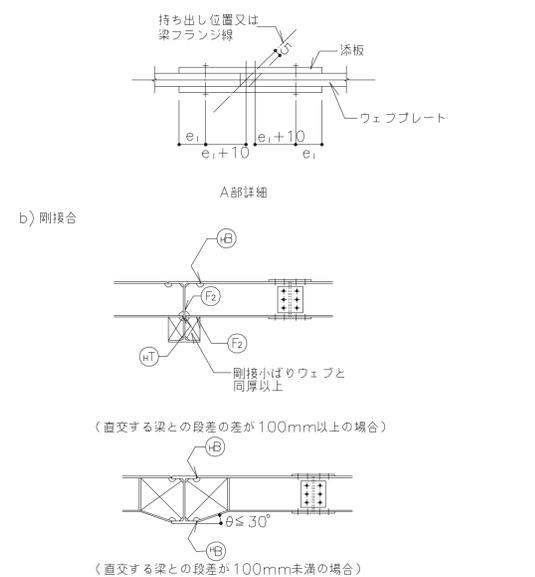
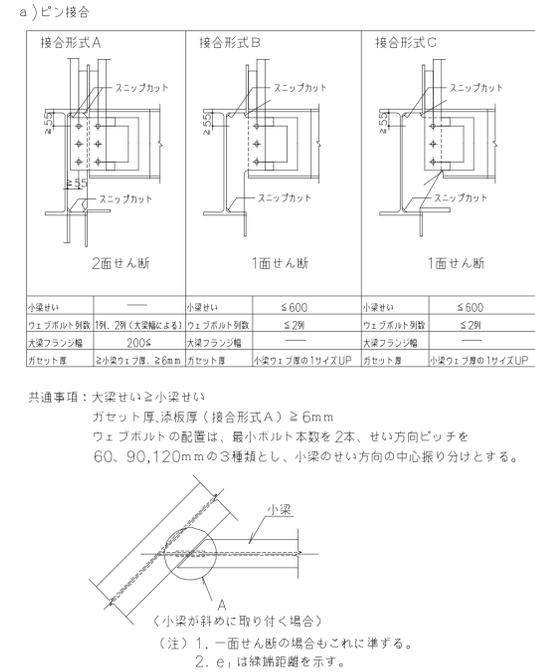
2 水平ブレースの仕口部



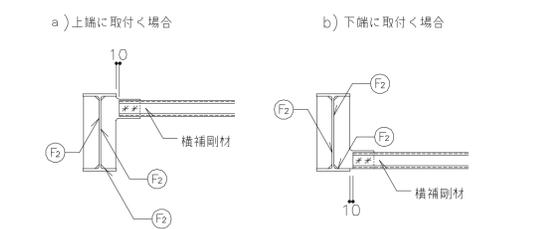
3 山形ラーメン横部



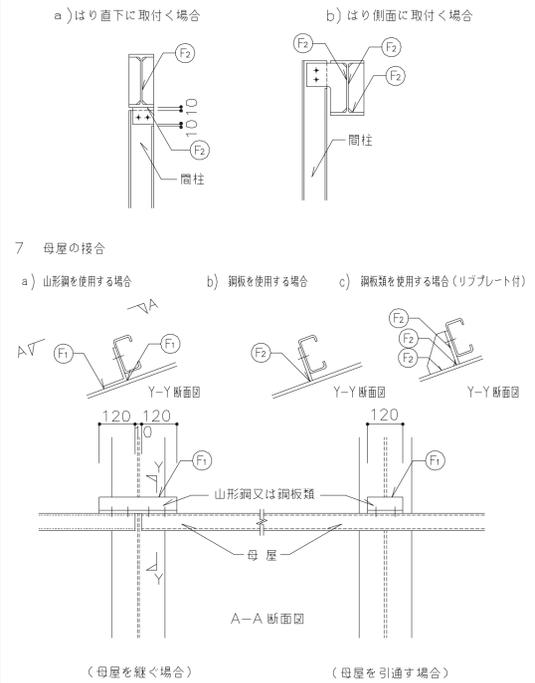
4 小はり接合



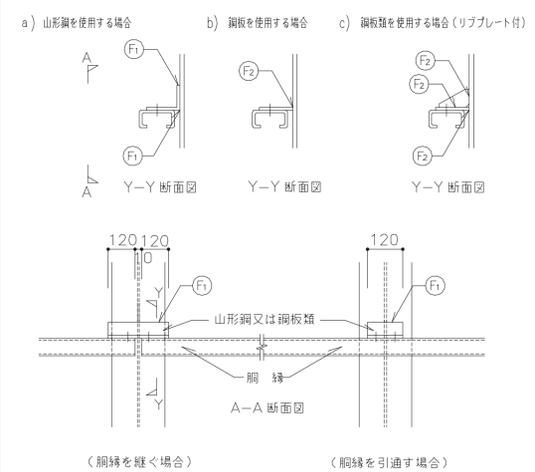
5 横補剛材の接合



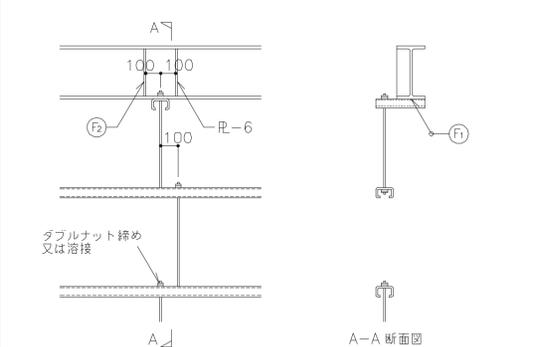
6 間柱の接合



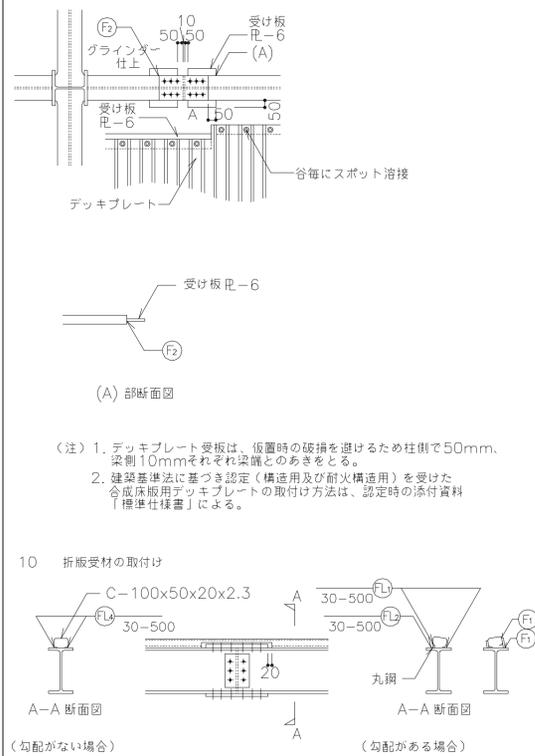
8 胴縁の接合



c) 胴縁材を用いる場合



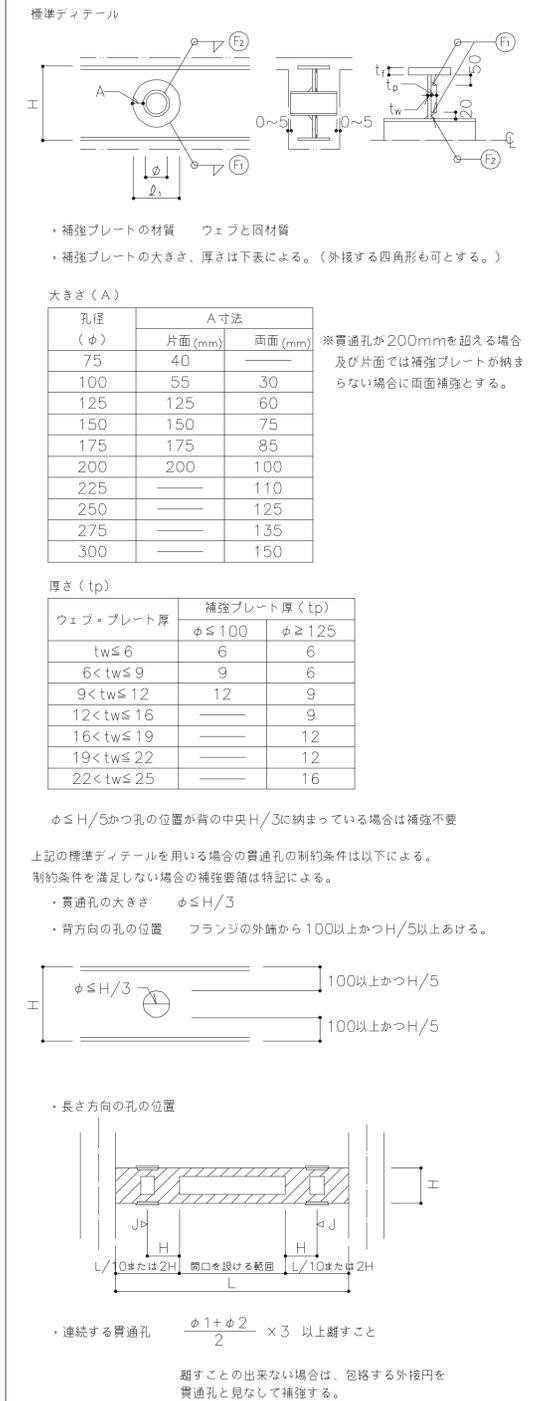
9 デッキプレートの取付け



10 折版受材の取付け



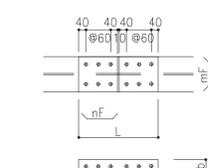
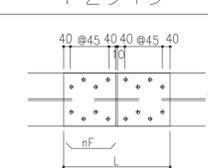
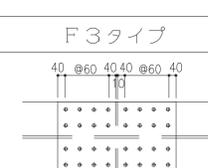
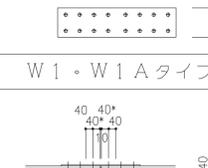
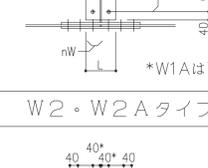
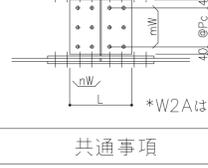
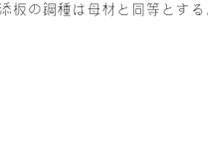
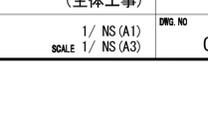
はり貫通孔の補強要領



鋼管スリーブ

鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の鋼管スリーブは、下表による。
鉄骨造の場合は鋼管スリーブは不要とする。

スリーブ径	鋼管 (STK400)	スリーブ径	鋼管 (STK400)
50 φ	φ 60.5 × 3.2	200 φ	φ 216.3 × 5.8
65 φ	φ 76.3 × 3.2	250 φ	φ 267.4 × 6.6
80 φ	φ 89.1 × 4.2	300 φ	φ 318.5 × 6.9
100 φ	φ 114.3 × 4.5	350 φ	φ 355.6 × 7.9
125 φ	φ 139.8 × 5.0	400 φ	φ 406.4 × 7.9
150 φ	φ 165.2 × 5.0	450 φ	φ 457.2 × 7.9
175 φ	φ 190.7 × 5.3		

シリーズ	部 材	梁 継 手 (SCSS-H97準拠) (H)										柱 継 手 (SCSS-H97準拠) (H)										凡 例						
		400N/mm ² 級用					490N/mm ² 級用					400N/mm ² 級用					490N/mm ² 級用											
		フランジ継手		ウェブ継手			フランジ継手		ウェブ継手			フランジ継手		ウェブ継手			フランジ継手		ウェブ継手									
径	タイプ	H.T.B. nFxmF	外面添板 (txL) 内面添板 (txb)	タイプ	H.T.B. mWxnW	Pc	添板 (txbxL)	径	タイプ	H.T.B. nFxmF	外面添板 (txL) 内面添板 (txb)	タイプ	H.T.B. mWxnW	Pc	添板 (txbxL)	径	タイプ	H.T.B. nFxmF	外面添板 (txL) 内面添板 (txb)	タイプ	H.T.B. mWxnW	Pc	添板 (txbxL)					
細幅系列	200X100	H-200X100X 5.5X 8	M16	F1	2 X 2	16 X 290	W1	2 X 1	60	6x140x170	M16	F1	3 X 2	16 X 410	W2	2 X 2	60	6x140x290	M16	F1	2 X 2	16 X 290	W2	2 X 2	60	6x140x290	<p>F1タイプ</p> 	
	250X125	H-248X124X 5X 8	M16	F1	3 X 2	12 X 410	W2	2 X 2	90	6x170x290	M16	F1	4 X 2	12 X 530	W2	2 X 2	90	6x170x290	M16	F1	3 X 2	12 X 410	W2	2 X 2	90	9x170x290		<p>F2タイプ</p> 
		H-250X125X 6X 9	M16	F1	3 X 2	12 X 410	W2	2 X 2	90	6x170x290	M16	F1	4 X 2	12 X 530	W2	2 X 2	90	6x170x290	M16	F1	3 X 2	12 X 410	W2	2 X 3	60	9x140x410		
	300X150	H-298X149X 5.5X 8	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 59	W1	2 X 1	120	6x200x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 59	W1	3 X 1	60	6x200x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 59	W2	2 X 2	120	6x200x290		<p>F3タイプ</p> 
		H-300X150X 6.5X 9	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 60	W1	2 X 1	120	6x200x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 60	W1	3 X 1	60	6x200x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 60	W2	2 X 2	120	6x200x290		
	350X175	H-346X174X 6X 9	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 69	W1	3 X 1	90	6x260x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 69	W1	3 X 1	90	6x260x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 69	W1	4 X 1	60	6x260x170		<p>F1タイプ</p> 
		H-350X175X 7X 11	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W1	3 X 1	90	6x260x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W1	3 X 1	90	6x260x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W1	4 X 1	60	6x260x170		
	400X200	H-396X199X 7X 11	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 79	W1	4 X 1	60	6x260x170	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 79	W2	3 X 2	90	9x260x290	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 79	W2	4 X 2	60	9x260x290		<p>F2タイプ</p> 
		H-400X200X 8X 13	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 80	W1	4 X 1	60	9x260x170	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 80	W2	3 X 2	90	9x260x290	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 80	W2	4 X 2	60	9x260x290		
	450X200	H-446X199X 8X 12	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 79	W1	5 X 1	60	9x320x170	M20	F1	4 X 2	12 X 530 12 X 79	W2	3 X 2	120	9x320x290	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 79	W1	5 X 1	60	9x320x170		<p>F3タイプ</p> 
		H-450X200X 9X 14	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 80	W1	5 X 1	60	9x320x170	M20	F1	4 X 2	12 X 530 12 X 80	W2	3 X 2	120	9x320x290	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 80	W1	5 X 1	60	9x320x170		
	500X200	H-496X199X 9X 14	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 79	W1	5 X 1	60	9x320x170	M20	F1	4 X 2	12 X 530 12 X 79	W1	6 X 1	60	9x380x170	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 79	W1	6 X 1	60	9x380x170		<p>F1タイプ</p> 
H-500X200X 10X 16		M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 80	W1	5 X 1	60	9x320x170	M20	F1	4 X 2	12 X 530 12 X 80	W1	6 X 1	60	9x380x170	M20	F1	4 X 2	12 X 410 12 X 80	W1	6 X 1	60	9x380x170			
600X200	H-596X199X 10X 15	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 79	W2	4 X 2	120	9x440x290	M20	F1	4 X 2	12 X 530 12 X 79	W2	6 X 2	60	12x380x290	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 79	W2	5 X 2	90	9x440x290	<p>F2タイプ</p> 		
	H-600X200X 11X 17	M20	F1	3 X 2	12 X 410 12 X 80	W2	4 X 2	120	9x440x290	M20	F1	4 X 2	12 X 530 12 X 80	W2	6 X 2	60	12x380x290	M20	F1	4 X 2	12 X 410 12 X 80	W2	5 X 2	90	9x440x290			
中幅系列	148X100	H-148X100X 6X 9	M16	F1	2 X 2	16 X 290	W2	1 X 2	-	6x 80x290	M16	F1	3 X 2	16 X 410	W2	1 X 3	-	6x 80x410	M16	F1	2 X 2	16 X 290	W2	1 X 3	-	9x 80x410	<p>W1・W1Aタイプ</p> 	
	200X150	H-194X150X 6X 9	M16	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 60	W1A	2 X 1	60	6x140x230	M16	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 60	W2A	2 X 2	60	6x140x350	M16	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 60	W2A	2 X 2	60	6x140x350		
	250X175	H-244X175X 7X 11	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W1	2 X 1	60	9x140x170	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W2	2 X 2	60	9x140x290	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W2	2 X 2	60	9x140x290		
	300X200	H-294X200X 8X 12	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 80	W1	3 X 1	60	9x200x170	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 80	W2	2 X 2	120	6x200x290	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 80	W1	3 X 1	60	9x200x170		
	350X250	H-340X250X 9X 14	M20	F1	4 X 2	12 X 530 12 X 100	W2	3 X 2	60	9x200x290	M20	F1	5 X 2	12 X 650 12 X 100	W2	3 X 2	60	9x200x290	M20	F1	4 X 2	12 X 410 12 X 100	W2	3 X 2	60	12x200x290		
	400X300	H-390X300X 10X 16	M22	F2	3 X 2	12 X 350 12 X 110	W1	3 X 1	90	9x260x170	M22	F2	4 X 2	12 X 440 12 X 110	W2	3 X 2	90	9x260x290	M22	F2	3 X 2	12 X 350 12 X 110	W1	4 X 1	60	9x260x170		
	450X300	H-440X300X 11X 18	M22	F2	4 X 2	12 X 440 12 X 110	W1	5 X 1	60	9x320x170	M22	F2	5 X 2	12 X 530 12 X 110	W1	5 X 1	60	9x320x170	M22	F2	4 X 2	12 X 440 12 X 110	W1	5 X 1	60	9x320x170		
	500X300	H-482X300X 11X 15	M22	F2	4 X 2	12 X 440 12 X 110	W1	5 X 1	60	12x320x170	M22	F2	5 X 2	12 X 530 12 X 110	W1	6 X 1	60	9x380x170	M22	F2	4 X 2	12 X 440 12 X 110	W1	6 X 1	60	9x380x170		
	600X300	H-488X300X 11X 18	M22	F2	4 X 2	12 X 440 12 X 110	W1	5 X 1	60	12x320x170	M22	F2	5 X 2	12 X 530 12 X 110	W1	6 X 1	60	9x380x170	M22	F2	4 X 2	12 X 440 12 X 110	W1	6 X 1	60	9x380x170		<p>W2・W2Aタイプ</p>
		H-582X300X 12X 17	M22	F2	4 X 2	12 X 440 16 X 110	W1	7 X 1	60	9x440x170	M22	F2	5 X 2	12 X 530 16 X 110	W2	5 X 2	90	9x440x290	M22	F2	4 X 2	12 X 440 16 X 110	W1	7 X 1	60	12x440x170		
	700X300	H-588X300X 12X 20	M22	F2	4 X 2	12 X 440 16 X 110	W1	7 X 1	60	9x440x170	M22	F2	5 X 2	12 X 530 16 X 110	W2	5 X 2	90	9x440x290	M22	F2	4 X 2	12 X 440 16 X 110	W1	7 X 1	60	12x440x170		<p>W1・W1Aタイプ</p>
		H-692X300X 13X 20	M22	F2	5 X 2	19 X 530 19 X 110	W1	9 X 1	60	9x560x170	M22	F2	7 X 2	19 X 710 19 X 110	W2	6 X 2	90	12x530x290	M22	F2	5 X 2	19 X 530 19 X 110	W1	9 X 1	60	9x560x170		
800X300	H-700X300X 13X 24	M22	F2	5 X 2	19 X 530 19 X 110	W1	9 X 1	60	9x560x170	M22	F2	7 X 2	19 X 710 19 X 110	W2	6 X 2	90	12x530x290	M22	F2	5 X 2	19 X 530 19 X 110	W1	9 X 1	60	9x560x170	<p>W2・W2Aタイプ</p>		
	H-792X300X 14X 22	M22	F2	5 X 2	19 X 530 19 X 110	W1	10 X 1	60	12x620x170	M22	F2	7 X 2	19 X 710 19 X 110	W2	7 X 2	90	12x620x290	M22	F2	5 X 2	19 X 530 19 X 110	W1	10 X 1	60	12x620x170			
900X300	H-800X300X 14X 26	M22	F2	5 X 2	19 X 530 19 X 110	W1	10 X 1	60	12x620x170	M22	F2	7 X 2	19 X 710 19 X 110	W2	7 X 2	90	12x620x290	M22	F2	5 X 2	19 X 530 19 X 110	W1	10 X 1	60	12x620x170	<p>W1・W1Aタイプ</p>		
	H-890X299X 15X 23	M22	F2	5 X 2	16 X 530 19 X 110	W1	12 X 1	60	12x740x170	M22	F2	7 X 2	16 X 710 19 X 110	W2	10 X 2	60	16x620x290	M22	F2	5 X 2	16 X 530 19 X 110	W2	8 X 2	90	12x710x290			
広幅系列	100X100	H-100X100X 6X 8	M16	F1	2 X 2	16 X 290	W2A	1 X 2	-	9x 50x350	M16	F1	3 X 2	16 X 410	W2A	1 X 2	-	9x 50x350	M16	F1	2 X 2	16 X 290	W2A	1 X 2	-	9x 50x350	<p>共通事項</p>	
	125X125	H-125X125X 6.5X 9	M16	F1	3 X 2	12 X 410	W2A	1 X 2	-	6x 80x350	M16	F1	4 X 2	12 X 530	W2A	1 X 3	-	6x 80x470	M16	F1	3 X 2	12 X 410	W2A	1 X 2	-	6x 80x350		
	150X150	H-150X150X 7X 10	M16	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 60	W2A	1 X 3	-	9x 80x470	M16	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 60	W2A	1 X 3	-	9x 80x470	M16	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 60	W2A	1 X 3	-	9x 80x470		
	175X175	H-175X175X 7.5X 11	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W2	1 X 2	-	9x 80x290	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W2	1 X 2	-	9x 80x290	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 70	W2	1 X 3	-	9x 80x410		
200X200	H-200X200X 8X 12	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 80	W1A	2 X 1	60	6x140x230	M20	F1	3 X 2	9 X 410 9 X 80	W2A	2 X 2	60	6x140x350	M20	F1	2 X 2	9 X 290 9 X 80	W1A	2 X 1	60	6x140x230			
250X250	H-250X250X 9X 14	M20	F1	4 X 2	12 X 530 12 X 100	W2	2 X 2	60	9x140x290	M20	F1	5 X 2	12 X 650 12 X 100	W2	2 X 2	60	9x140x290	M20	F1	4 X 2	12 X 410 12 X 100	W2	2 X 2	60	9x140x290			
300X300	H-300X300X 10X 15	M22	F2	3 X 2	9 X 350 12 X																							

山形鋼継手																
軸ブレース・床ブレース																
床ブレース																
縦りボルト																
G1																
部材	径	2面継手				径	1面継手				径	1面継手				
		高力ボルト 数量	継手	ガセットプレート 最小B	厚さ		高力ボルト 数量	継手	ガセットプレート 最小B	厚さ		高力ボルト 数量	継手	ガセットプレート 最小B	厚さ	
L- 65x 65x 6	M16	5	G1	165	9	M16	5	G1	90	9	M20	2	G1	80	9	
L- 75x 75x 6	M16	5	G1	190	9	M16	5	G1	95	9	M20	2	G1	100	9	
L- 75x 75x 9	M20	5	G1	205	12	M16	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9	
L- 90x 90x 7	M20	5	G1	205	12	M20	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9	
L- 90x 90x10	M20	5	G1	270	12	M20	5	G1	165	9	M20	4	G1	140	9	
L-100x100x 7	M20	5	G1	225	12	M20	4	G1	135	9	M22	3	G1	140	9	
L-100x100x10	M20	6	G1	305	12	M20	5	G1	185	9	M22	4	G1	160	9	
L-100x100x13	M20	8	G1	385	12	M20	6	G1	185	12	M22	5	G1	200	9	

小梁継手		高力BOLT				高力BOLT				高力BOLT				高力BOLT			
シリーズ	部材	高力BOLT		継手	@P	高力BOLT		継手	@P	高力BOLT		継手	@P	高力BOLT		継手	@P
		径	数量			径	数量			径	数量			径	数量		
150x 75	150x 75x 5x 7	M16	2x2	W1	60	2PL-	9x290x120	M16	2	WG1	60	PL-	9x150x120				
175x 90	175x 90x 5x 8	M16	2x2	W1	60	2PL-	9x290x140	M16	2	WG1	60	PL-	9x150x140				
200x100	198x 99x4.5x 7 200x100x5.5x 8	M16	2x4	W3	60	2PL-	9x290x140	M16	4	WG3	60	PL-	9x150x140				
250x125	248x124x 5x 8 250x125x 6x 9	M16	2x4	W3	90	2PL-	9x290x170	M16	3	WG2	60	PL-	9x 90x200				
300x150	298x149x5.5x 8 300x150x6.5x 9 346x174x 6x 9 350x175x 7x11	M20	2x3	W2	60	2PL-	6x170x200	M20	3	WG2	60	PL-	9x 90x200				
350x175	346x174x 6x 9 350x175x 7x11	M20	2x4	W2	60	2PL-	6x170x260	M20	4	WG2	60	PL-	9x 90x260				
400x200	396x199x 7x11 400x200x 8x13	M20	2x6	W3	90	2PL-	9x290x260	M20	5	WG2	60	PL-	9x 90x320				
450x200	446x199x 8x12 450x200x 9x14	M20	2x5	W2	60	2PL-	9x170x320	M20	6	WG2	60	PL-	9x 90x380				
500x200	496x199x 9x14 500x200x10x16	M20	2x5	W2	60	2PL-	9x170x320	M20	7	WG2	60	PL-	9x 90x440				
600x200	596x199x10x15 600x200x11x17	M20	2x7	W2	60	2PL-	9x170x440	M20	8	WG2	60	PL-	9x 90x500				
150x100	148x100x 6x 9	M16	2x2	W1	60	2PL-	9x290x100	M16	2	WG1	60	PL-	12x150x100				
200x150	194x150x 6x 9	M20	2x2	W2	60	2PL-	6x170x140	M20	4	WG3	60	PL-	9x150x140				
250x175	244x175x 7x11	M20	2x4	W3	60	2PL-	12x290x140	M20	3	WG2A	60	PL-	9x 90x190				
300x200	294x200x 8x12	M20	2x3	W2	60	2PL-	9x170x200	M20	3	WG2	60	PL-	9x 90x200				
350x250	340x250x 9x14	M22	2x6	W3	60	2PL-	12x290x200	M22	4	WG2	60	PL-	9x 90x260				
400x300	390x300x10x16	M22	2x4	W2	60	2PL-	9x170x260	M22	6	WG3	90	PL-	9x150x260				
450x300	440x300x11x18	M22	2x5	W2	60	2PL-	9x170x320	M22	5	WG2	60	PL-	9x 90x320				
500x300	482x300x11x15 488x300x11x18	M22	2x6	W2	60	2PL-	9x170x380	M22	6	WG2	60	PL-	9x 90x380				
600x300	582x300x12x17 588x300x12x20	M22	2x7	W2	60	2PL-	12x170x440	M22	8	WG2	60	PL-	9x 90x500				
700x300	700x300x13x24	M22	2x9	W2	60	2PL-	9x170x560										
800x300	800x300x14x26	M22	2x12	W3	90	2PL-	12x290x530										
900x300	900x300x16x28	M22	2x16	W3	90	2PL-	9x290x710										
100x100	100x100x 6x 8	M16	2x2	W1	60	2PL-	12x290x 65	M16	2	WG1	60	PL-	16x150x 65				
125x125	125x125x6.5x 9	M16	2x2	W1	60	2PL-	12x290x 90	M16	2	WG1	60	PL-	12x150x 90				
150x150	150x150x 7x10	M20	2x2	W1	60	2PL-	12x290x100	M20	2	WG1	60	PL-	12x150x100				
175x175	175x175x7.5x11	M20	2x2	W1	60	2PL-	9x290x120	M20	2	WG1	60	PL-	12x150x120				
200x200	200x200x 8x12	M20	2x2	W2	60	2PL-	9x170x140	M20	4	WG3	60	PL-	12x150x140				
250x250	250x250x 9x14	M20	2x4	W4	60	2PL-	12x290x160	M20	3	WG2A	60	PL-	9x 90x190				
300x300	300x300x10x15	M22	2x3	W2	60	2PL-	9x170x200	M22	6	WG3	60	PL-	12x150x200				
350x350	350x350x12x19	M22	2x6	W3	60	2PL-	16x290x200	M22	8	WG3	60	PL-	9x150x260				
400x400	400x400x13x21 414x405x18x28 428x407x20x35	M22	2x6	W3	90	2PL-	12x290x260	M22	10	WG3A	60	PL-	9x150x310				

間柱柱脚				
部材	アンカーボルト		ベースプレート	
	径	数量	P1	P2
H-150x 75x 5x 7	M16	2	100	
H-175x 90x 5x 8	M16	2	100	
H-198x 99x4.5x 7 H-200x100x5.5x 8	M16	2	100	
H-248x124x 5x 8 H-250x125x 6x 9	M20	2	110	
H-298x149x5.5x 8 H-300x150x6.5x 9	M24	2	120	
H-346x174x 6x 9 H-350x175x 7x11	M24	2	120	
H-396x199x 7x11 H-400x200x 8x13	M20	4	120	200
H-446x199x 8x12 H-450x200x 9x14	M20	4	120	225
H-496x199x 9x14 H-500x200x10x16	M24	4	120	250
H-596x199x10x15 H-600x200x11x17	M24	4	120	300
H-148x100x 6x 9	M16	2	100	
H-194x150x 6x 9	M20	2	110	
H-244x175x 7x11	M20	2	110	
H-294x200x 8x12	M24	2	120	
H-125x125x6.5x 9	M16	2	100	
H-150x150x 7x10	M20	2	110	

特記事項・凡例

- ・適用範囲の母材の鋼種は、SS400,SM400,SN400とする。
- ・プレートの鋼種は母材と同等とする。
- ・アンカーボルトの材質は、特記なき限りSS400とする。

JIS建築用ターンバックル筋かい (TB)													
特記なきはJIS・A・5540(建築用ターンバックル) 5541(建築用ターンバックル綱)による。													
*1 L=L1+L2の場合は、Ld+2Sとする。													
	高力ボルト	T	e1	f	P	La	Lb	R	G.R.	S	Ls	Ld	x1
M12	1-M16	6	40	12		40		17	6	6	60	42	
M14	1-M16	6	40	12		50		17	6	6	61	43	
M16	1-M16	6	45	14		55		17	9	8	80	56	
M18	1-M20	9	50	16		60		21.5	9	8	80	56	
M20	1-M20	9	50	16		75		21.5	9	8	97	65	
M22	1-M22	9	55	18		85		23.5	12	10	100	70	
M24	2-M20	9	50	20	60		85	21.5	12	10	112	76	
M27	2-M20	9	50	22	60		90	21.5	12	10	145	93	
M30	2-M22	12	55	28	60		95	23.5	12	10	177	109	

・高力ボルトは、原則としてF10Tとし、溶融亜鉛メッキ処理を行う場合は、溶融亜鉛メッキボルト (FBT相当) とする。
・継手は建築構造設計指針2010(東京都建築構造行政連絡会)による。

溝形鋼継手 (LG)													
部材	径	ウェブ		G1	G2								
		高力ボルト 数量	継手			ガセットプレート 厚さxL							
C-100x 50x 5	M16	2	G1	PL- 6x100									
C-125x 65x 6	M20	2	G1	PL- 9x100									
C-150x 75x6.5	M16	2	G2	PL- 9x140									
C-150x 75x 9	M20	2	G2	PL- 9x140									
C-180x 75x 7	M20	2	G2	PL- 9x140									
C-200x 80x7.5	M22	2	G2	PL- 9x140									
C-200x 90x 8	M22	2	G2	PL- 9x140									
C-250x 90x 9	M20	3	G2	PL- 9x200									
C-250x 90x11	M20	3	G2	PL-12x200									

特記事項

- ・適用範囲の母材の鋼種は、SS400,SM400,SN400とする。
- ・プレートの鋼種は母材と同等とする。
- ・高力ボルトは、F10T(S10T)とする。
- ・継手耐力は、SCSS-H97に準拠する。
- ・継手耐力は、母材せん断耐力の50%以上とする。

小梁継手		高力BOLT				高力BOLT				高力BOLT			
シリーズ	部材	高力BOLT		継手	@P	高力BOLT		継手	@P	高力BOLT		継手	@P
		径	数量			径	数量			径	数量		
150x 75	150x 75x 5x 7	M16	2x2	W1	60	2PL-	9x290x120	M16	2	WG1	60	PL-	9x150x120
175x 90	175x 90x 5x 8	M16	2x2	W1	60	2PL-	9x290x140	M16	2	WG1	60	PL-	9x150x140
200x100	198x 99x4.5x 7 200x100x5.5x 8	M16	2x4	W3	60	2PL-	9x290x140	M16	4	WG3	60	PL-	9x150x140
250x125	248x124x 5x 8 250x125x 6x 9	M16	2x4	W3	90	2PL-	9x290x170	M16	3	WG2	60	PL-	9x 90x200
300x150	298x149x5.5x 8 300x150x6.5x 9 346x												

機械式定着板工法基準図

適用範囲

(1) 構造種別

- ①鉄筋コンクリート造
- ②鉄骨鉄筋コンクリート造
- ③柱RC梁S混合構造
- ④柱SRC梁S混合構造
- ⑤プレストレストコンクリート造
- ⑥上記のプレキャストコンクリート造

(2) 使用箇所

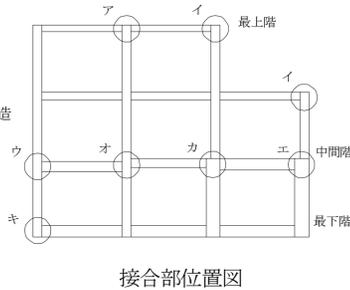
- ①梁主筋および柱主筋の柱梁接合部への定着
- ②梁主筋の梁への定着
- ③柱主筋の基礎部への定着
- ④基礎梁主筋の基礎部への定着
- ⑤壁筋の梁、柱および壁への定着
- ⑥小梁主筋およびスラブ筋の梁への定着
- ⑦アンカーボルトの定着

(3) コンクリート

- ①種類：普通コンクリート
- ②設計基準強度(Fc)：21N/mm²以上、かつ、60N/mm²以下

(4) 鉄筋

- ①鋼種：SD295A、SD345、SD390、SD490
- ②呼び名：D13～D41

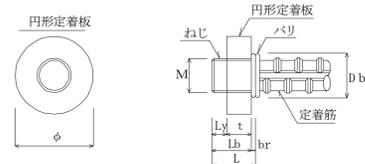


標準寸法、概要図

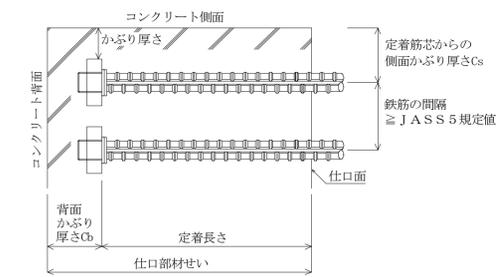
E/G定着板標準寸法

鉄筋呼び名	ねじ						円形定着板			
	呼び径	ねじ長	余長	バリ幅	バリ直径	最大D b	直径	板厚	支圧面積	定着板内面とねじ外端間
	M	L	L y	b r	最大D b	バリ抑え(オプション)	φ	t	mm ²	L b
D13	M16	36	17	5	23	-	36	14	891	31
D16	M20	36	14	6	28	24	40	16	1,058	30
D19	M24	36	11	7	32	28	48	18	1,523	29
D22	M27	39	12	7	35	31	55	20	1,989	32
D25	M30	43	13	8	39	35	63	22	2,610	35
D29	M33	46	14	8	43	38	70	24	3,206	38
D32	M39	50	15	9	51	※44	80	26	4,233	41
D35	M42	55	16	10	53	48	85	29	4,718	45
D38	M45	58	17	10	58	52	95	31	5,948	48
D41	M48	62	18	11	63	57	100	33	6,514	51

※ SD390以下の場合、バリ直径を42mm(ねじ径M36)とすることが可能。

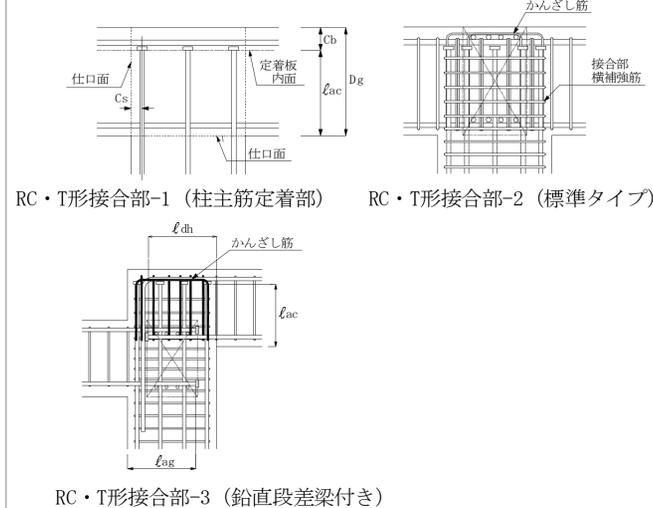


構造規定



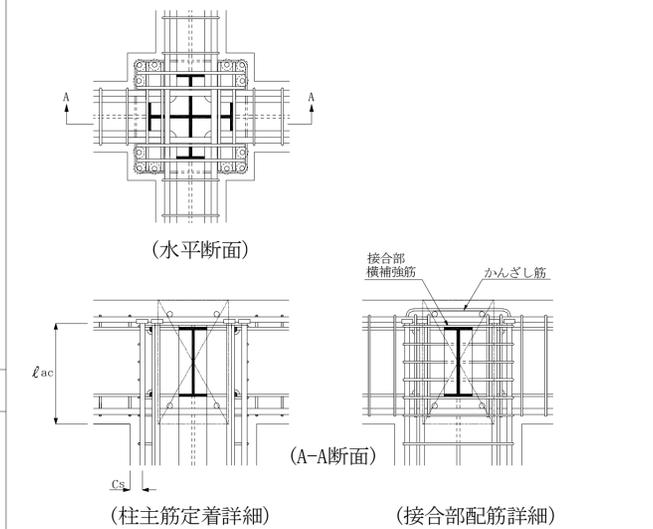
※各規定中のdbは鉄筋の呼び名を示す。

ア T形接合部



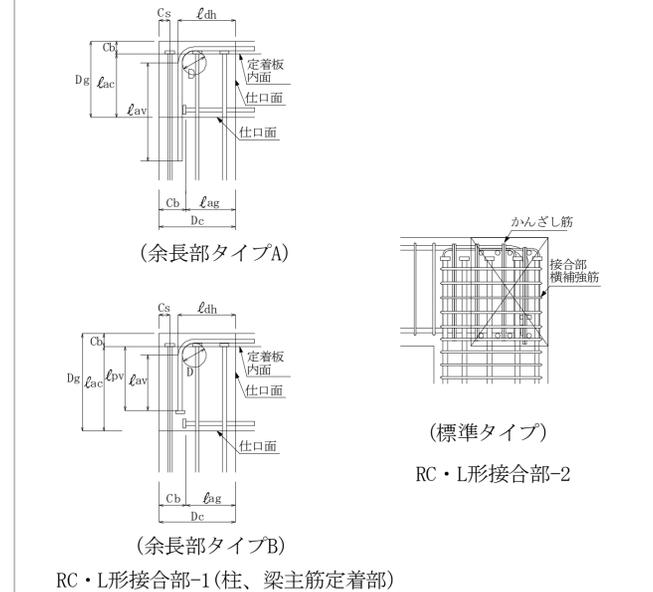
- ①柱主筋定着長さ ℓ_{ac} は、必要定着長さ ℓ_{ao} (※1)以上、 $16db$ 以上、かつ、 $(3/4)Dg$ 以上とする。 db は柱主筋直径(呼び名)、 Dg は梁せいを示す。
- ②柱主筋中心からの側面かぶり厚さ Cs は、 $2db$ 以上とし、定着板内面からの背面かぶり厚さ Cb は、 $3db$ 以上とする。
- ③梁上端筋の投影定着長さ ℓ_{dh} は、 ℓ_{ao} (※1)以上、 $16db$ 以上、かつ、 $(3/4)Dc$ 以上とする。
- ④梁下端筋の定着長さ ℓ_{ag} は、 ℓ_{ao} (※1)以上、 $14db$ 以上、かつ、 $(3/4)Dc$ 以上とする。
- ⑤梁主筋の側面かぶり厚さと背面かぶり厚さの規定は、RC・ト形接合部と同じ。
- ⑥接合部横補強筋比は、0.3%以上とする。ただし、接合部被覆率50%以上の両側直交梁付きの場合は、0.2%以上とする。
- ⑦柱頭補強筋比は、XY両方向にそれぞれ0.25%以上とする。

※1：設計指針8.1節(柱主筋定着長さ)、設計指針8.2節の式(8.1)により算出される必要定着長さ。



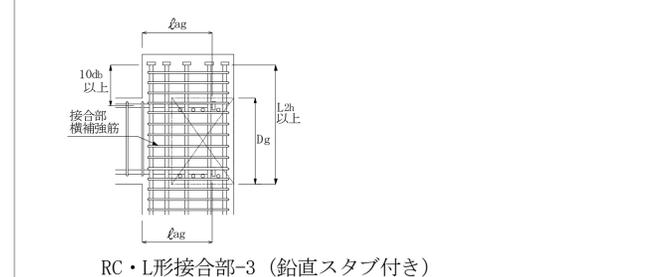
- ①柱主筋定着長さ ℓ_{ac} は、必要定着長さ ℓ_{ao} (※1)以上、 $16db$ 以上、かつ、定着金物底面が梁鉄骨フランジ上面を超える長さ以上とする。
- ②柱主筋中心からの側面かぶり厚さ Cs は、 $2db$ 以上とする。
- ③接合部横補強筋比は、直交鉄骨ウェブに対し梁主筋が非貫通型定着の場合には0.2%以上、貫通型定着の場合には0.1%以上とする。
- ④柱頭補強筋比は、XY両方向にそれぞれ0.15%以上とする。

イ L形接合部

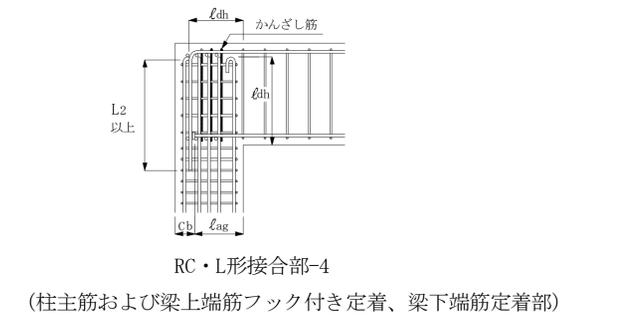


- ①柱主筋定着長さ ℓ_{ac} は、RC・T形接合部と同じ。
- ②柱主筋中心からの側面かぶり厚さ Cs と、定着板内面からの背面かぶり厚さ Cb は、RC・T形接合部と同じ。
- ③梁上端筋の投影定着長さ ℓ_{dh} は、 ℓ_{ao} (※1)以上、 $16db$ 以上、かつ、 $(3/4)Dc$ 以上とする。
- ④梁下端筋の定着長さ ℓ_{ag} は、 ℓ_{ao} (※1)以上、 $14db$ 以上、かつ、 $(2/3)Dc$ 以上(性能検定方式)とする。ただし、技術基準方式と置換え方式の場合は、 $(3/4)Dc$ 以上とする。
- ⑤梁主筋の側面かぶり厚さと背面かぶり厚さの規定は、RC・ト形接合部と同じ。
- ⑥接合部横補強筋比は、RC・T形接合部と同じ。
- ⑦柱頭補強筋比は、RC・T形接合部と同じ。
- ⑧余長部タイプAの場合、余長部折曲げ終点からの定着長さ ℓ_{av} は、JASS5の直線定着長さ $L2$ 以上とする。
- ⑨余長部タイプBの場合、余長部折曲げ終点からの定着長さ ℓ_{pv} は $12db$ 以上とする。

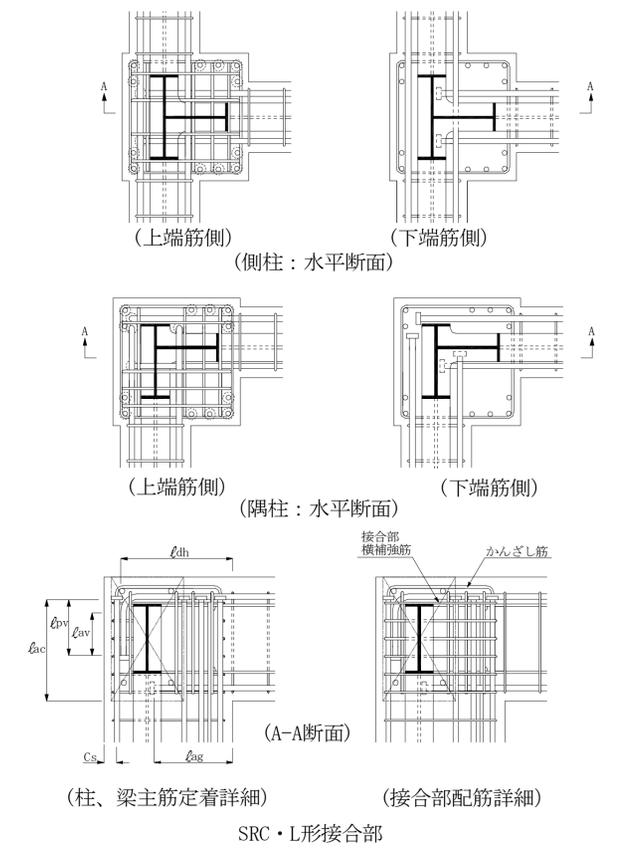
「性能検定方式」は設計指針4章～8章の終局強度設計の検定を指し、「技術基準方式」は設計指針10章(1)1)の技術基準解説書に準拠した終局強度設計の検定を指す。「置換え方式」は、設計指針10章(1)2)に示すように、技術基準解説書に従い、一貫構造計算プログラムによって折曲げ定着による柱梁接合部のせん断検定を行い、設計指針10章(2)の構造規定を満足することを確認し、折曲げ定着を機械式定着に置き換える検定を指す。



- ①柱主筋定着長さ ℓ_{ac} は、JASS5のフック付き定着長さ $L2h$ 以上とし、梁上端筋中心から柱主筋定着板内面までの長さは $10db$ 以上とする。 db は柱主筋直径(呼び名)を示す。
- ②柱主筋中心からの側面かぶり厚さ Cs は、 $2db$ 以上とし、柱主筋定着金物のかぶり厚さは、JASS5の設計かぶり厚さ以上とする。
- ③梁上端筋の定着長さ ℓ_{ag} は、必要定着長さ ℓ_{ao} (※1)以上、 $16db$ 以上、かつ、 $(3/4)Dc$ 以上とする。
- ④梁下端筋の定着長さ ℓ_{ag} は、必要定着長さ ℓ_{ao} (※1)以上、 $14db$ 以上、かつ、 $(2/3)Dc$ 以上(性能検定方式)とする。ただし、技術基準方式と置換え方式の場合は、 $(3/4)Dc$ 以上とする。
- ⑤梁主筋の側面かぶり厚さと背面かぶり厚さの規定は、RC・ト形接合部と同じ。
- ⑥接合部横補強筋比は、0.2%以上とする。
- ⑦鉛直スタブ内の横補強筋は、当該柱梁接合部に接続する柱頭部の横補強筋と同鋼種、同径かつ同間隔以下とし、鉛直スタブにはかんざし筋を配置しなくてもよい。



- ①柱主筋と梁主筋は、それぞれD25以下であること。
- ②柱主筋の投影定着長さ ℓ_{dh} は、JASS5のフック付き定着長さ $L2h$ 以上とする。
- ③梁上端筋の投影定着長さ ℓ_{dh} は、必要定着長さ ℓ_{ao} (※1)以上、 $16db$ 以上、かつ、 $(3/4)Dc$ 以上とする。
- ④梁下端筋の定着長さ ℓ_{ag} は、必要定着長さ ℓ_{ao} (※1)以上、 $14db$ 以上、かつ、 $(2/3)Dc$ 以上(性能検定方式)とする。ただし、技術基準方式と置換え方式の場合は、 $(3/4)Dc$ 以上とする。
- ⑤梁下端筋の側面かぶり厚さと背面かぶり厚さの規定は、RC・ト形接合部と同じ。
- ⑥接合部横補強筋比は、RC・T形接合部と同じ。
- ⑦柱頭補強筋比は、RC・T形接合部と同じ。



- ①柱主筋定着長さ ℓ_{ac} は、SRC・T形接合部と同じ。
- ②柱主筋中心からの側面かぶり厚さ Cs は、SRC・T形接合部と同じ。
- ③梁上端筋の投影定着長さ ℓ_{dh} は、必要定着長さ ℓ_{ao} (※1)以上、 $16db$ 以上、かつ、 $(3/4)Dc$ 以上とする。折曲げ後の予長は、RC・L形接合部の梁上端筋と同じ。
- ④梁下端筋の定着長さ ℓ_{ag} は、非貫通型定着の場合は、必要定着長さ ℓ_{ao} (※1)以上、 $14db$ 以上、かつ、 $(1/2)Dc$ 以上とし、貫通型定着の場合は、 $14db$ 以上、かつ、 $(1/2)Dc$ 以上とする。
- ⑤梁主筋中心からの側面かぶり厚さ Cs は、上端筋、下端筋ともに、 $3db$ 以上とする。
- ⑥接合部横補強筋比は、SRC・T形接合部と同じ。
- ⑦柱頭補強筋比は、SRC・T形接合部と同じ。

ボーリング柱状図

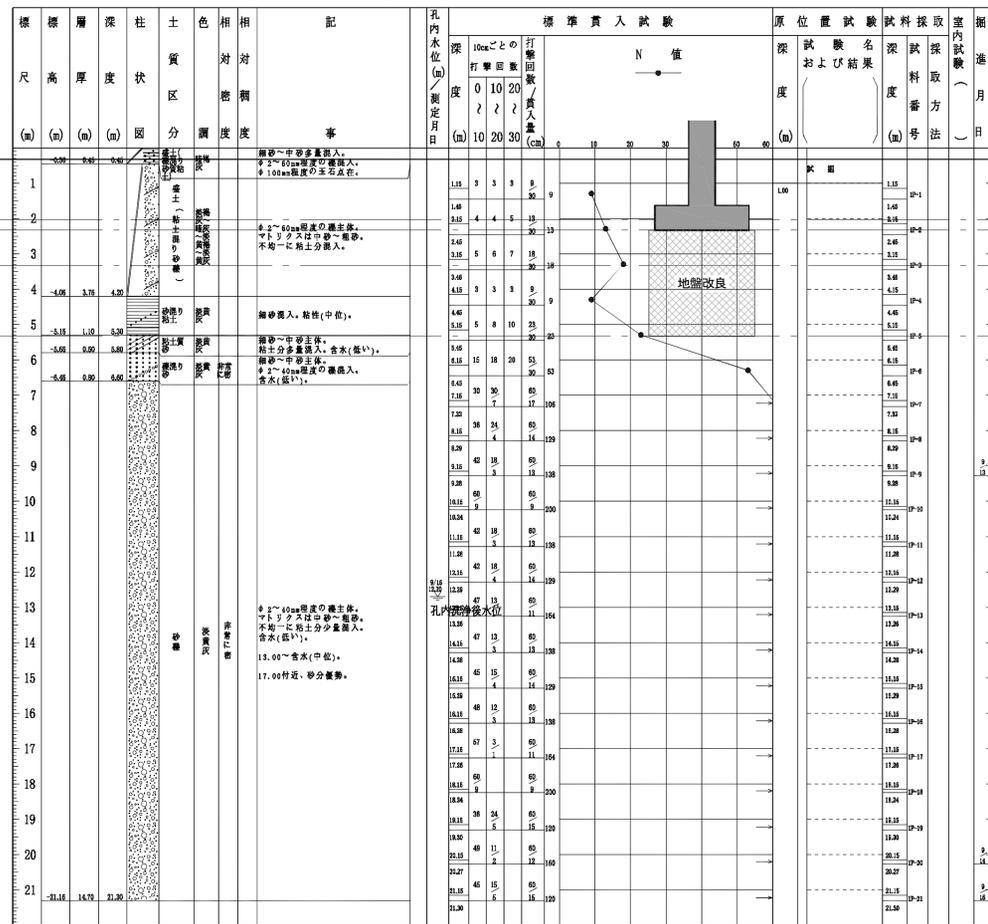
調査名 城南衛生管理組合新庁舎建設基本・実施設計業務委託に伴う地質調査

ボーリング№

事業・工事名

シート№ 21-092

ボーリング名	No.1	調査位置	京都府宇治市宇治折居18番地	北緯									
発注機関	株式会社大建設		調査期間	令和3年9月13日	～	3年9月15日							
調査業者名	株式会社オキココーポレーション 電話(06-6881-1788)	管理技術者	大久保具和	担当技術者	櫻元秀幸	試験観察者	山口瑠聖	ボーリング責任者	上間光彦				
孔口標高	KBM +0.15m	角	180°上 180°下	方	270° 90°	地盤勾配	水平	使用機	試験機	カノ KR-50H	ハンマー	落下用具	ハンマー(半自動)
総掘進長	21.30m	度		向	180°			エンジン	エンジン	ヤンマー NFAD8	ポンプ	カノ V5-P	



注) 孔内洗浄後水位はGL-20.27mまで削孔した翌日に測定。

ボーリング柱状図

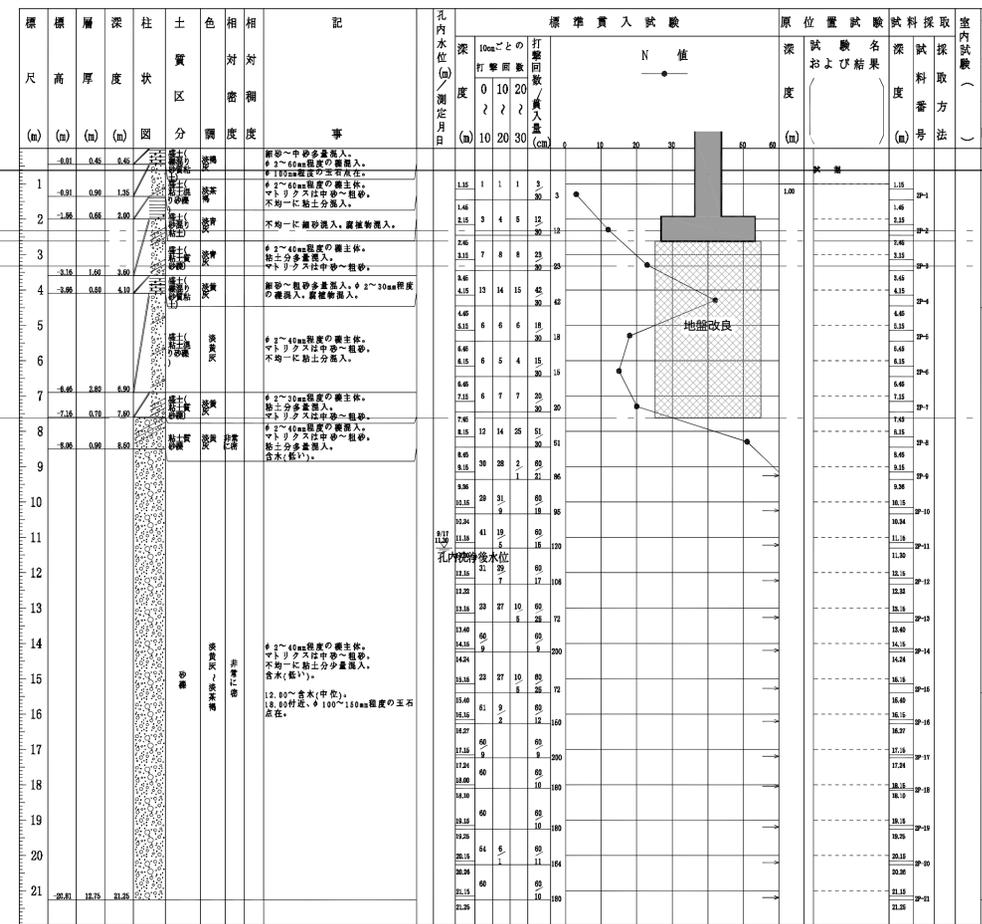
調査名 城南衛生管理組合新庁舎建設基本・実施設計業務委託に伴う地質調査

ボーリング№

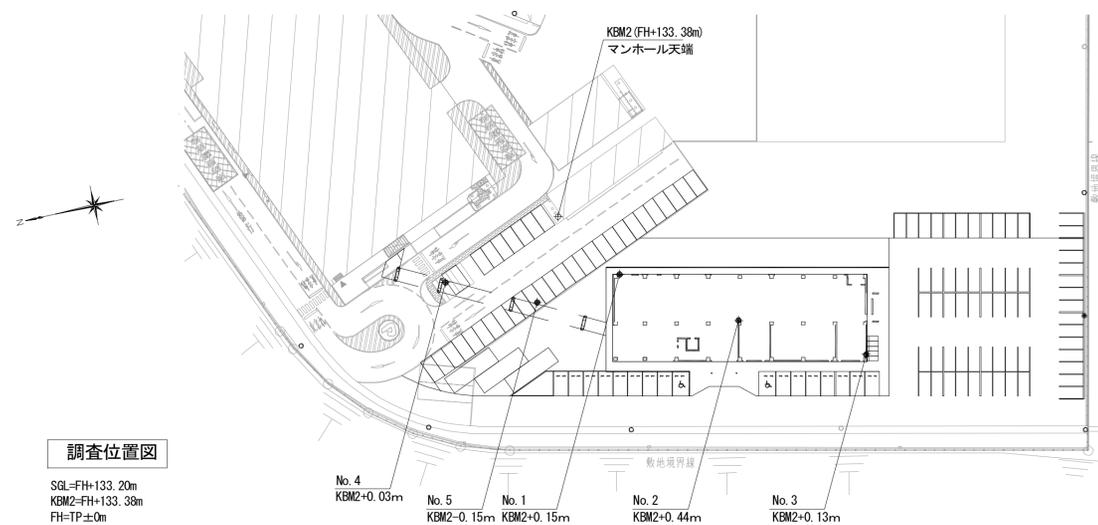
事業・工事名

シート№ 21-092

ボーリング名	No.2	調査位置	京都府宇治市宇治折居18番地	北緯									
発注機関	株式会社大建設		調査期間	令和3年9月15日	～	3年9月17日							
調査業者名	株式会社オキココーポレーション 電話(06-6881-1788)	管理技術者	大久保具和	担当技術者	櫻元秀幸	試験観察者	山口瑠聖	ボーリング責任者	上間光彦				
孔口標高	+0.44m	角	180°上 180°下	方	270° 90°	地盤勾配	水平	使用機	試験機	カノ KR-50H	ハンマー	落下用具	ハンマー(半自動)
総掘進長	21.25m	度		向	180°			エンジン	エンジン	ヤンマー NFAD8	ポンプ	カノ V5-P	



注) 孔内洗浄後水位はGL-15.40mまで削孔した翌日に測定。



調査位置図

ボーリング柱状図

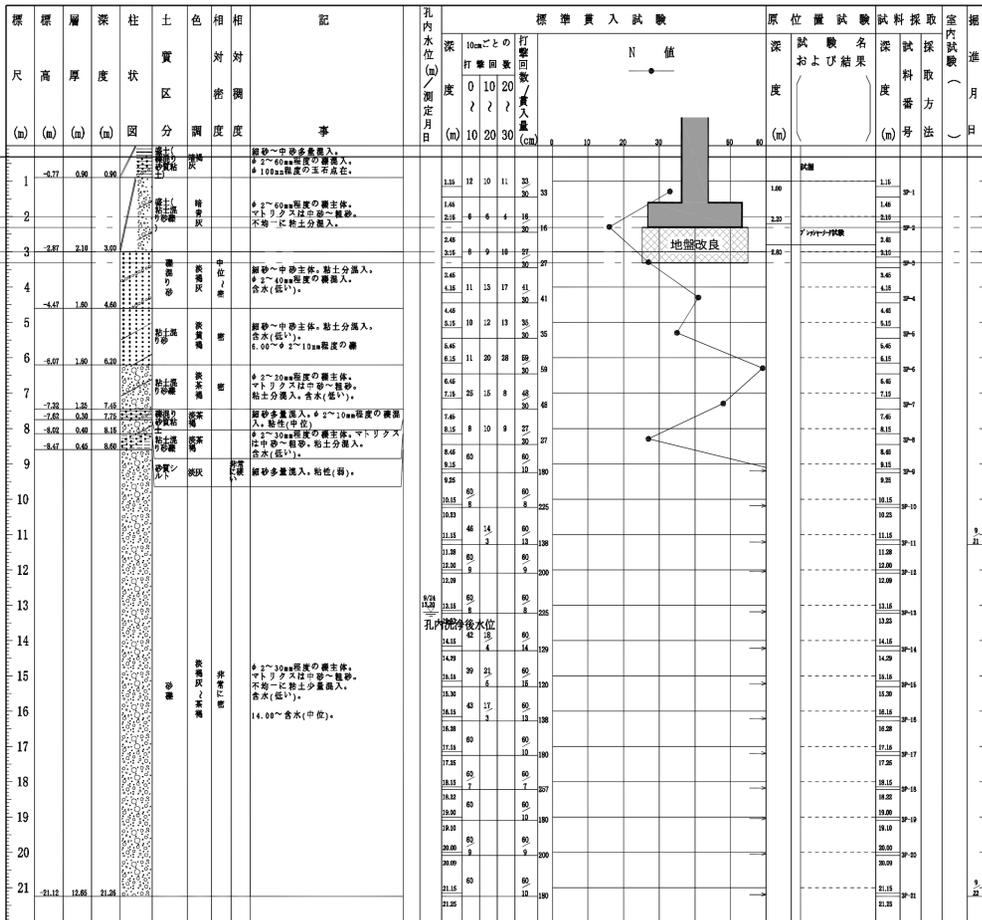
調査名 城南衛生管理組合新庁舎建設基本・実施設計業務委託に伴う地質調査

ボーリング № 21-092

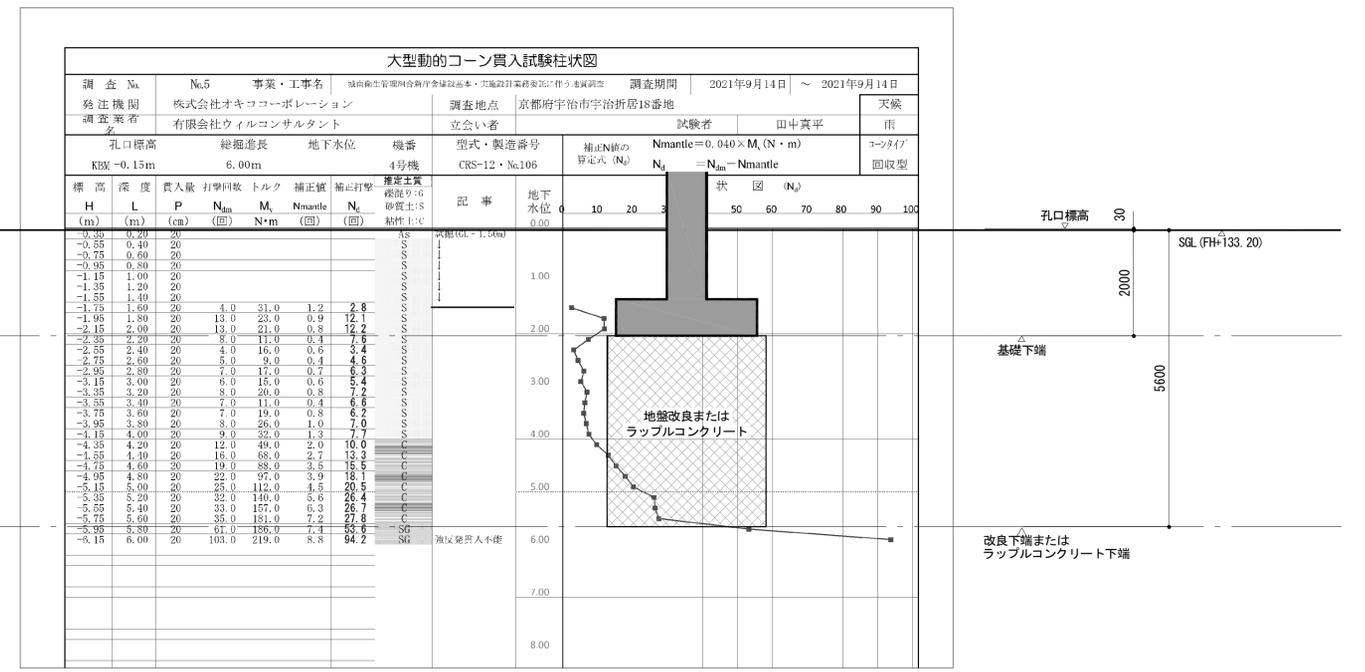
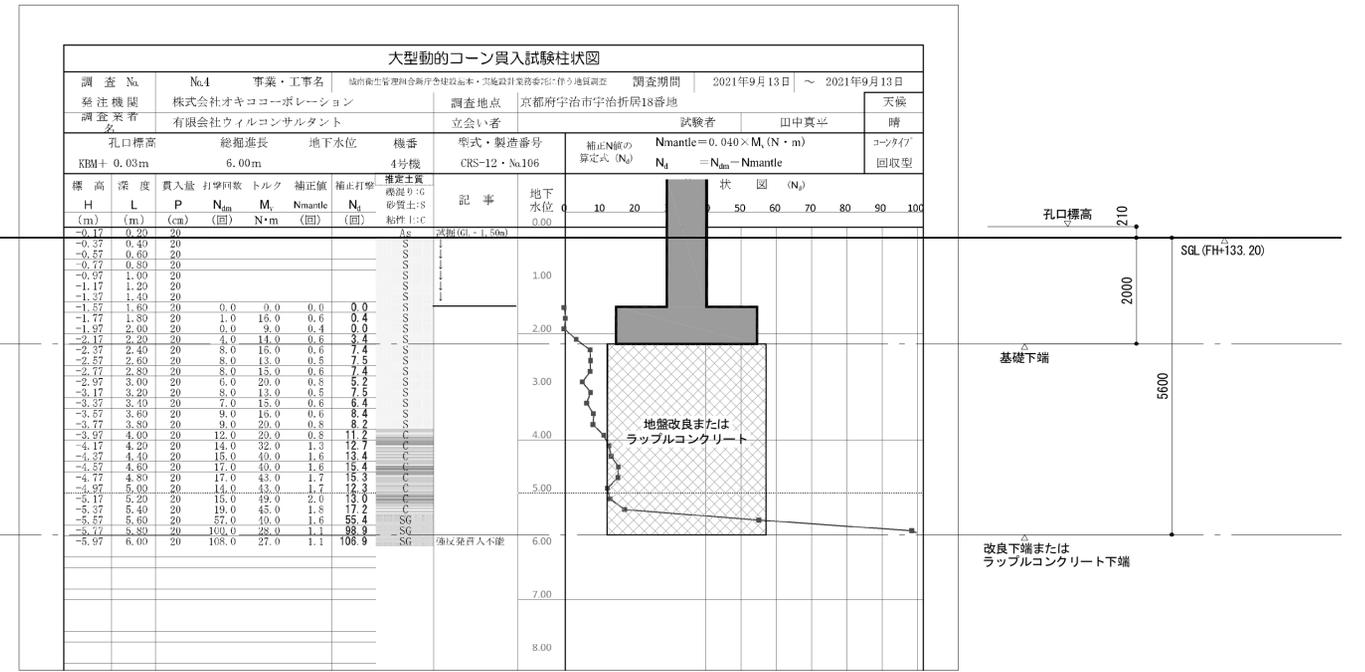
事業・工事名

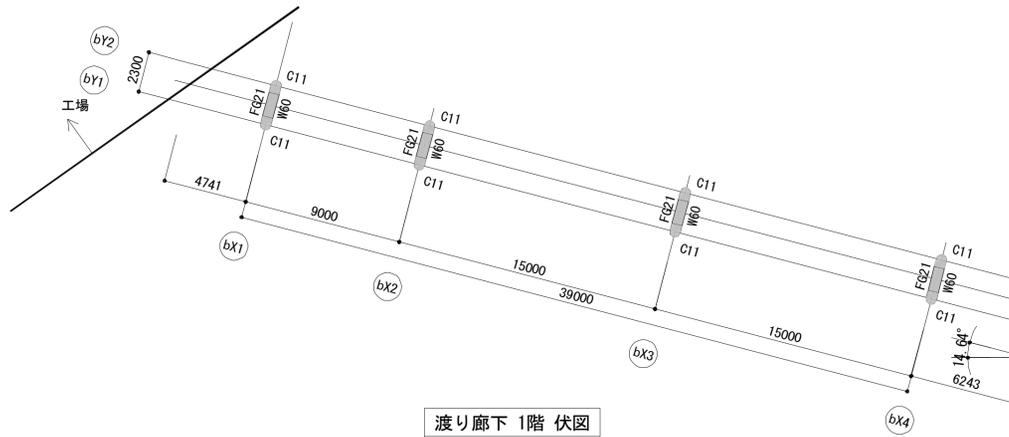
シート № 21-092

ボーリング名	No. 3		調査位置	京都府宇治市宇治折居18番地		北緯	
発注機関	株式会社大建設		調査期間	令和3年9月18日～3年9月24日		東経	
調査業者名	株式会社オキコ	株式会社オキコ	調査者	大久保 和	担当	機元 秀幸	試験者
ボーリング機	CRS-12・No.106		エンジン	ヤンマー NFAD8		ポンプ	カノ V5-P
孔口標高	+0.13m		総掘進長	21.25m		機番	4号機
調査者	株式会社オキコ		立会い者	田中真平		試験者	田中真平
調査者	株式会社オキコ		立会い者	田中真平		試験者	田中真平



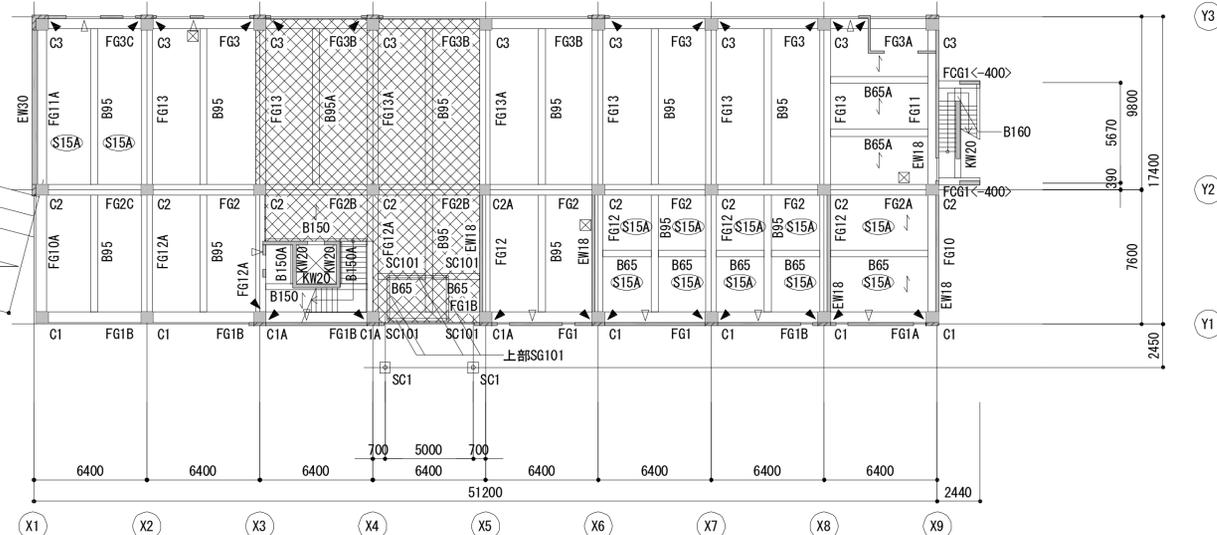
注) 孔内洗浄後水位はGL-2.26mまで削孔した翌日に測定。





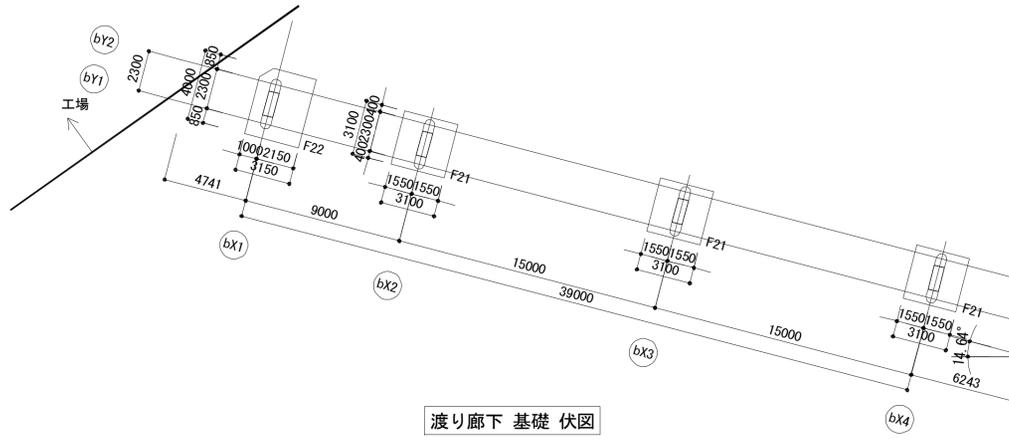
渡り廊下 1階 伏図

- 特記無き限り下記による
- 1FL=SGL+100 (FH+133.30m)とする。
 - 基礎梁天端レベルは1FL-1000とする。



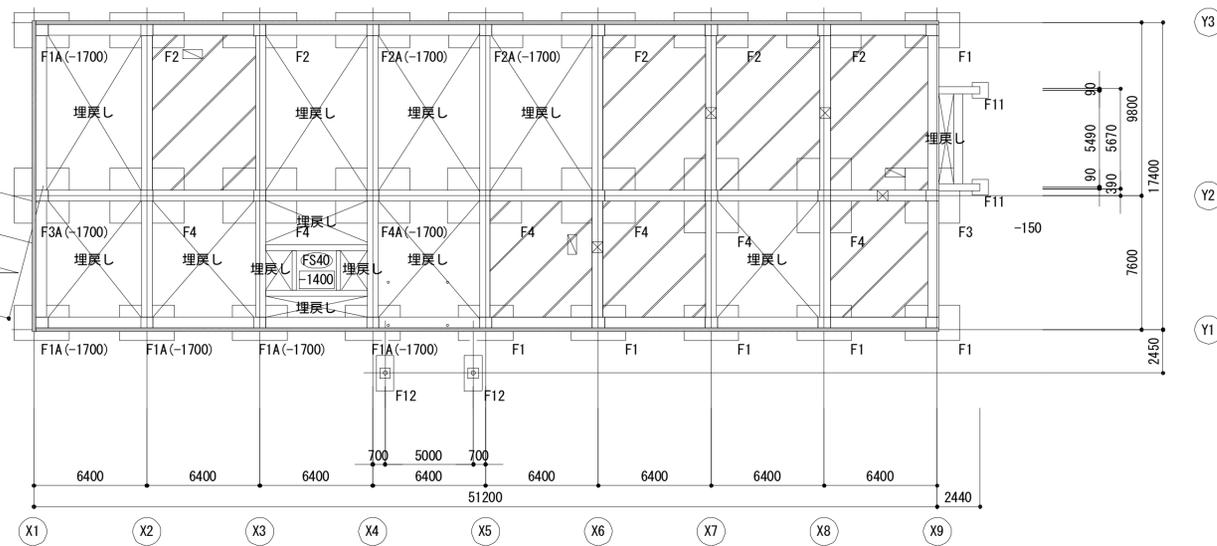
1階 伏図

- 特記無き限り下記による
- 1FL=SGL+100 (FH+133.30m)とする。
 - スラブ符号はS15とする。
 - スラブ天端レベルは1FL-10とする。
 - 範囲内は、スラブ天端レベル1FL-30とする。
 - ±n 内数値は、1FLからのスラブ天端レベルを示す。スラブ天端には床仕上げレベルまで増打ちを施す。
 - ↔ 印は、スラブの主筋方向を示し、特記なき限り ↔ 方向とする。
 - 大梁および小梁天端レベルは1FL-200とする。
 - < >内数値は1FLからの梁天端レベルを示す。
 - 壁符号はW18とする。
 - ▽印は鉛直スリットを、▽印は水平スリットを示す。
 - 印は、増打ちを示す。



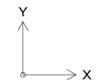
渡り廊下 基礎 伏図

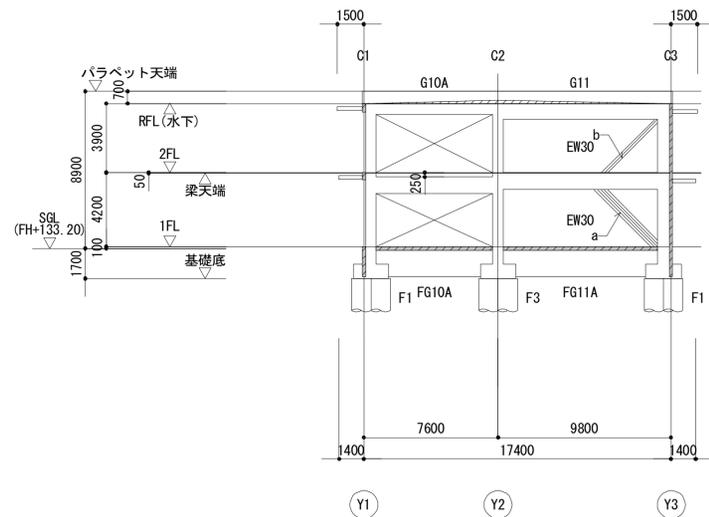
- 特記無き限り下記による
1. SGL=1FL-100 (FH+133.20m)とする。
 - 基礎底レベルはSGL-2000とする。



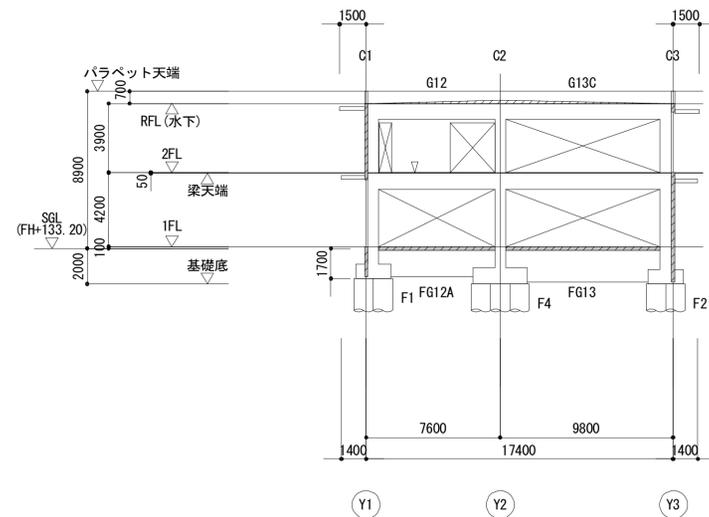
基礎 伏図

- 特記無き限り下記による
1. SGL=1FL-100 (FH+133.20m)とする。
 - 基礎下端レベルは、SGL-2000とする。
 - ()内数値は、SGLからの基礎下端レベルを示す。
 - 土間コンクリート厚さは100mmとし、補強筋はD10@200 (シングルクロス)とする。
 - 印は土間コンクリート範囲を示し、土間コンクリートレベルはSGL-1700とする。
 - 内数値は、SGLからのスラブ天端レベルを示す。
 - 印は、人通孔を示す (径は意匠図による)。
 - 印は、釜場を示す。
 - 水勾配は増打ちとする。
 - 印は、増打ちを示す。

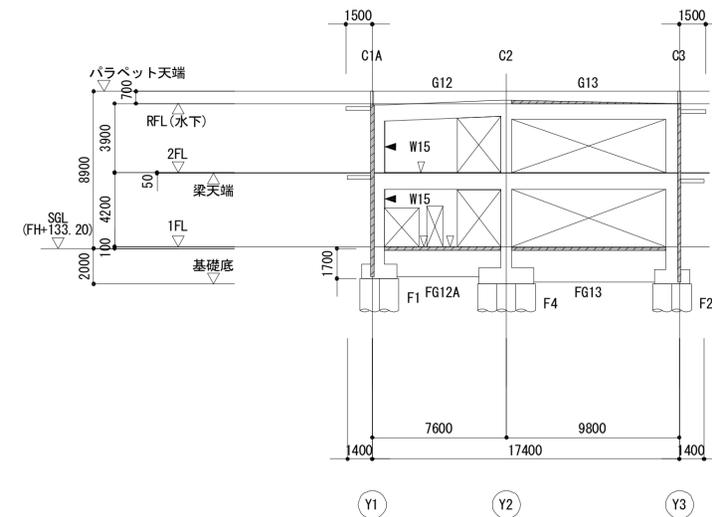




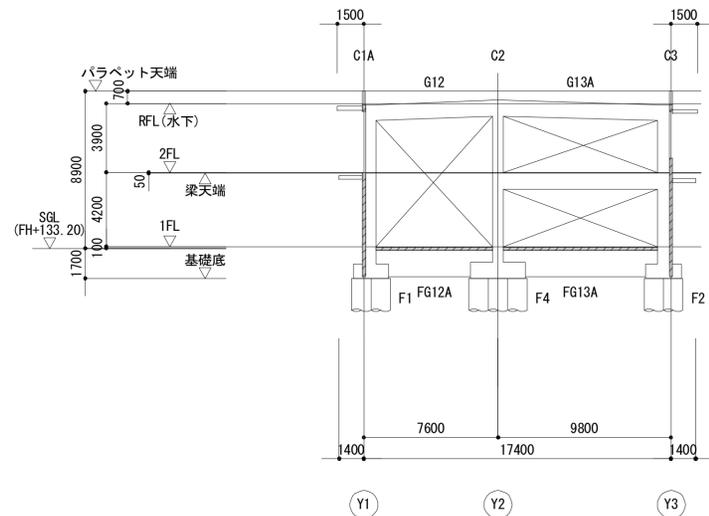
X1通 軸組図



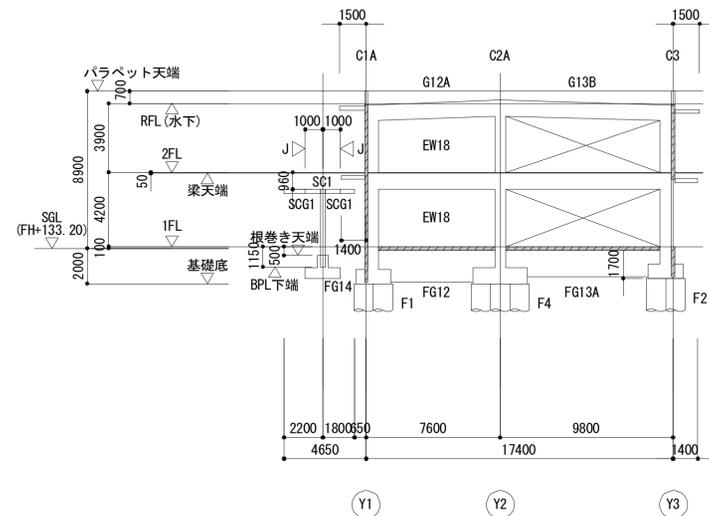
X2通 軸組図



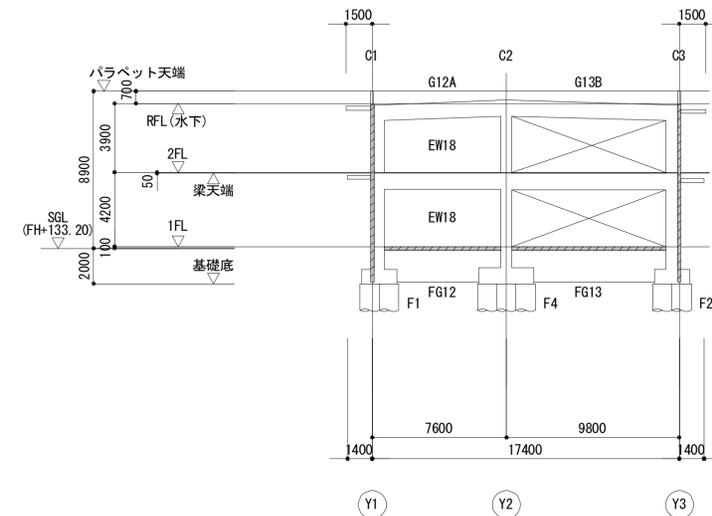
X3通 軸組図



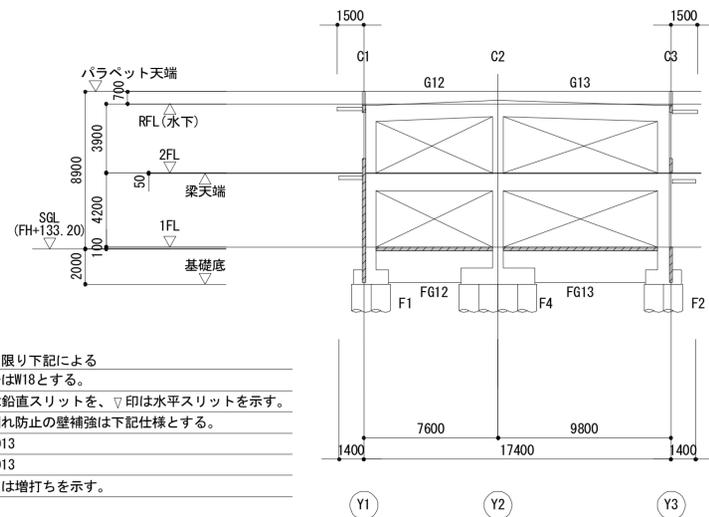
X4通 軸組図



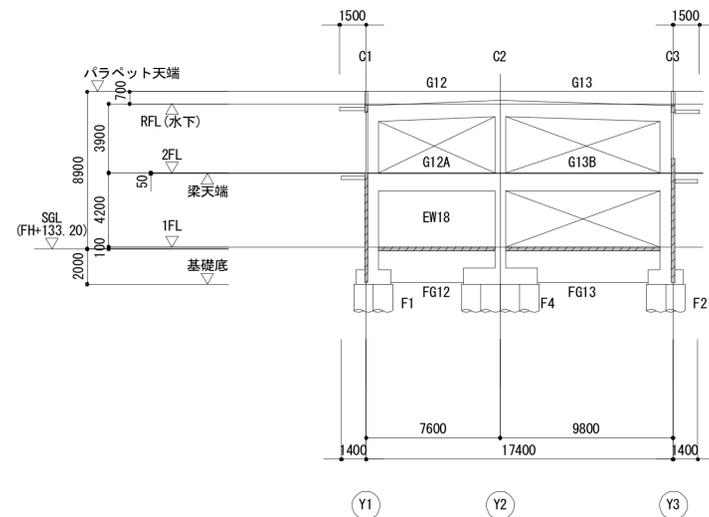
X4+700, X5-700通 軸組図



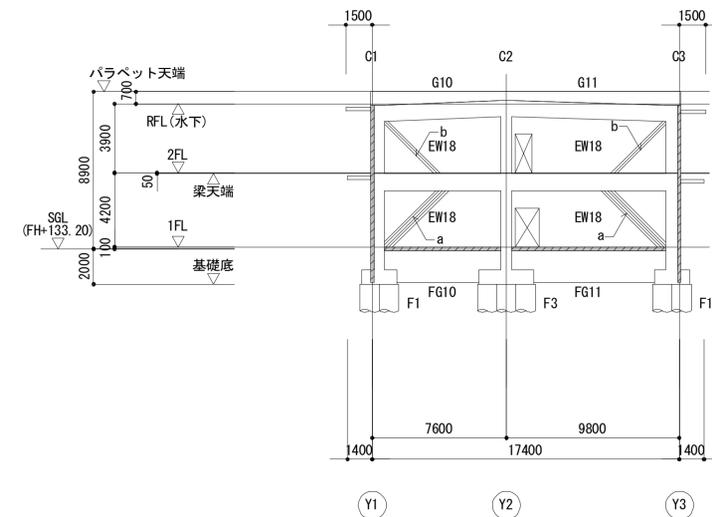
X6通 軸組図



X7通 軸組図



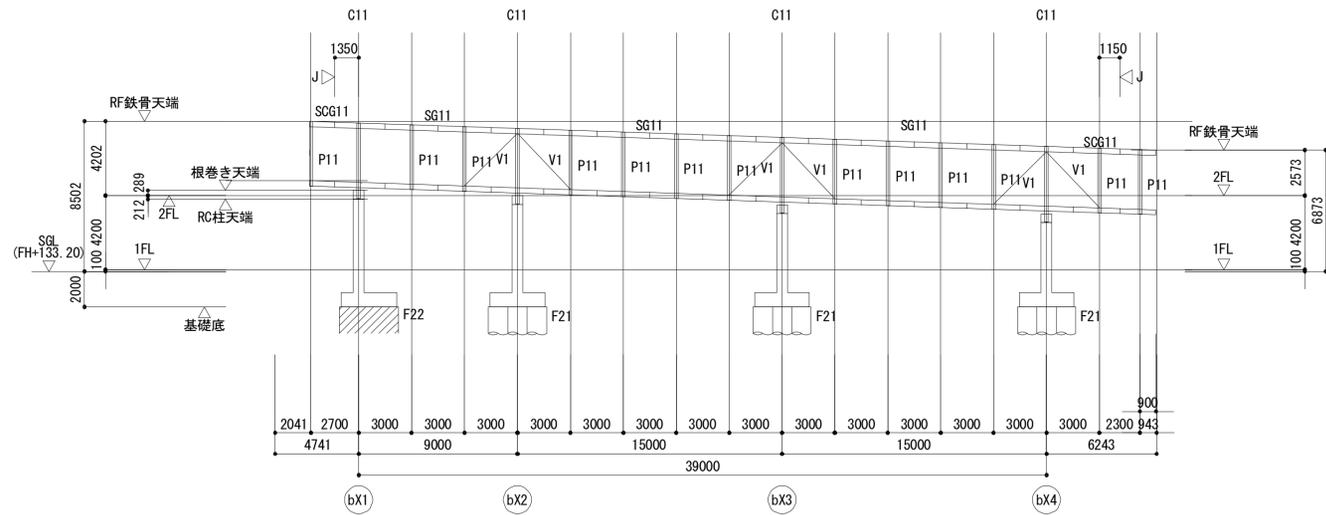
X8通 軸組図



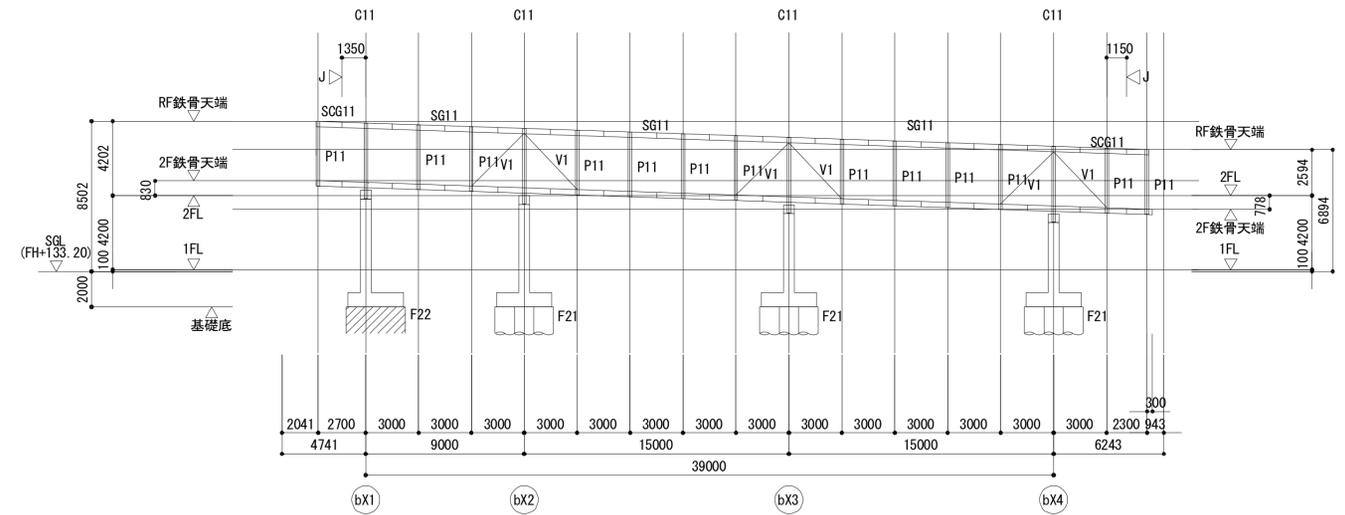
X9通 軸組図

- 特記無き限り下記による
- 壁符号はW18とする。
 - ▼印は鉛直スリットを、▽印は水平スリットを示す。
 - ひび割れ防止の壁補強は下記仕様とする。
a : 5-D13
b : 3-D13
 - 斜線は増打ちを示す。

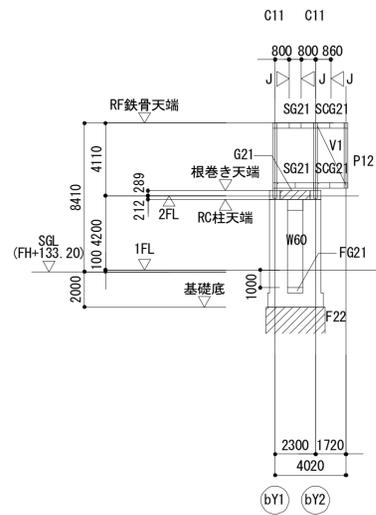
竣工年月日	2022. 3	監理者	城南海衛生管理組合	株式会社 大建設計	DATE	2022. 3	PROJ. NO.	0-2021-056	PROJ. TITLE	城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	S	
施工者					CHECK				DWG. TITLE	軸組図 (2)	DWG. NO.	023
									SCALE	1/200 (A1) 1/400 (A3)		



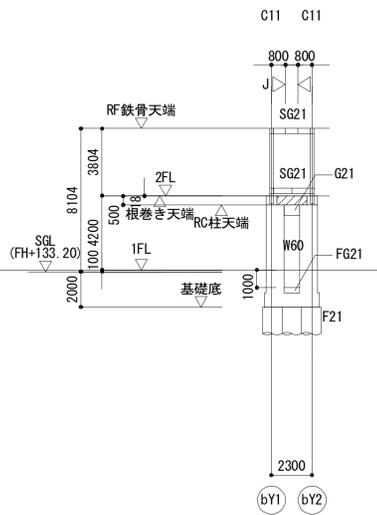
bY1通り 軸組図



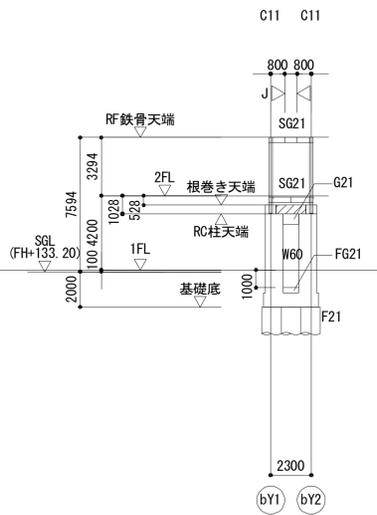
bY2通り 軸組図



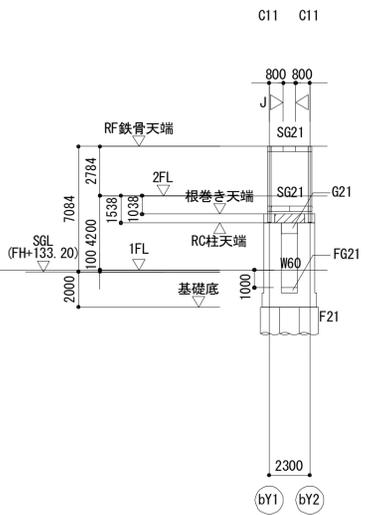
bX1通り 軸組図



bX2通り 軸組図



bX3通り 軸組図

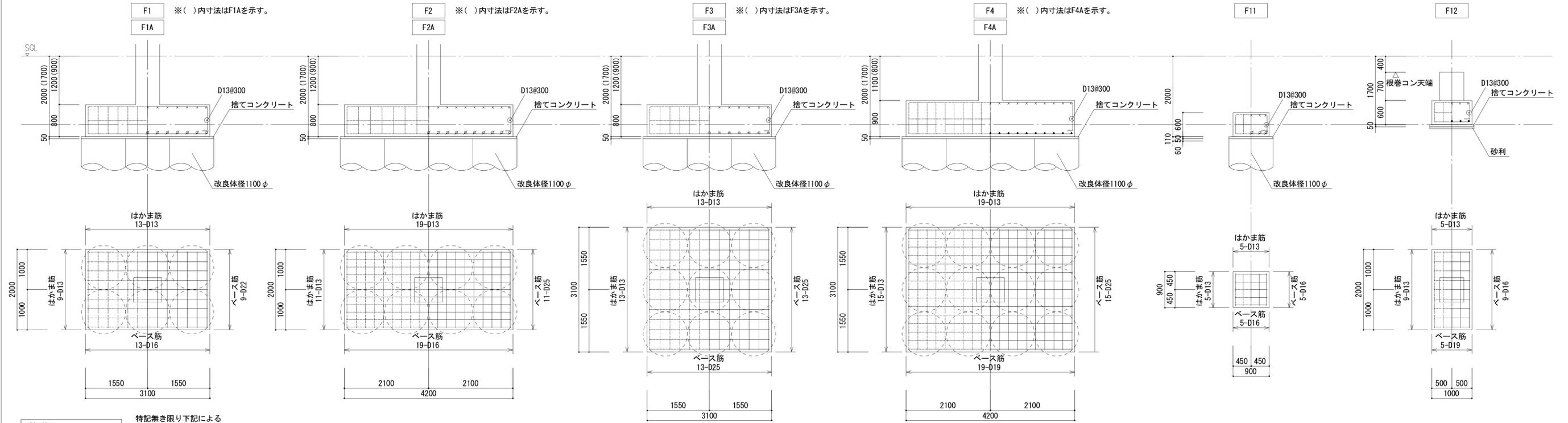


bX4通り 軸組図

- 特記無き限り下記による
1. は増打ちを示す。
 2. 大梁のジョイント位置は柱芯から1500とする。
 3. J印は柱および梁の継手位置を示す。
 4. 印は剛接合を示す。
 5. ひび割れ防止の壁補強は下記仕様とする。
a : 5-D13
b : 3-D13

竣工年月日	...	城南衛生管理組合	株式会社 大建設計	DATE 2022. 3	PROJ. NO. 0-2021-056	PROJ. TITLE 城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	S
監理者	...			CHECK		DWG. TITLE 軸組図 (3)	DWG. NO. 024
施工者	...					SCALE 1/200 (A1) 1/400 (A3)	

基礎リスト 特記無き限り下記による
1. ※はSGLからの基礎下端レベルを示し、値は基礎伏図による。



基礎梁リスト 特記無き限り下記による
1. 主筋の継手位置は、S-003 6. A (2) 「(B)独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合」とする。 2. 幅止め筋 D10@1000以内

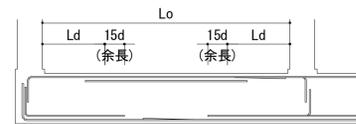
符号	FG1・FG1A	FG2・FG2A	FG3・FG3A	FG1B・FG2B・FG3B	FG2C	FG3C	FG10	FG11	FG10A・FG11A	FG12	FG13	FG12A・FG13A	FCG1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	(X1) 端 他端・中央	(X1) 端 他端・中央	全断面	全断面	全断面	(Y2) 端 他端・中央	(Y2) 端 他端・中央	(Y2) 端 他端・中央	全断面
断面													
B x D	600x1800	600x1800	600x1800	600x1500	600x1500	600x1500	600x1800	600x1800	600x1500	600x1800	600x1800	600x1500	400x1600
上端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	5-D25	7-D25	3-D19
下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	3-D19
Ld						1900							
肋筋	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋	8-D13	8-D13	8-D13	6-D13	6-D13	6-D13	8-D13	8-D13	6-D13	8-D13	8-D13	6-D13	8-D13
備考													

基礎小梁リスト 特記無き限り下記による
1. 巾止筋はD10@1000以下とする。

符号	B150	B150A	B160
位置	端部 中央	全断面	端部 中央
断面			
B x D	350x1500	250x1500	350x1600
上端筋	3-D19	2-D19	3-D19
下端筋	3-D19	2-D19	6-D19
肋筋	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	6-D13	6-D13	6-D13
備考			

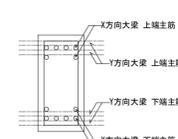
共通事項

・カットオフ配筋要領
梁端部主筋のカットオフ長さは、MAX(Lo/4, Ld)+余長とする。梁リストにLdの記載がないものはLo/4+余長とする。カットオフ長さが重なる場合は、カットオフを設けずに通し配筋とすること。

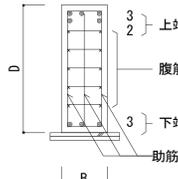


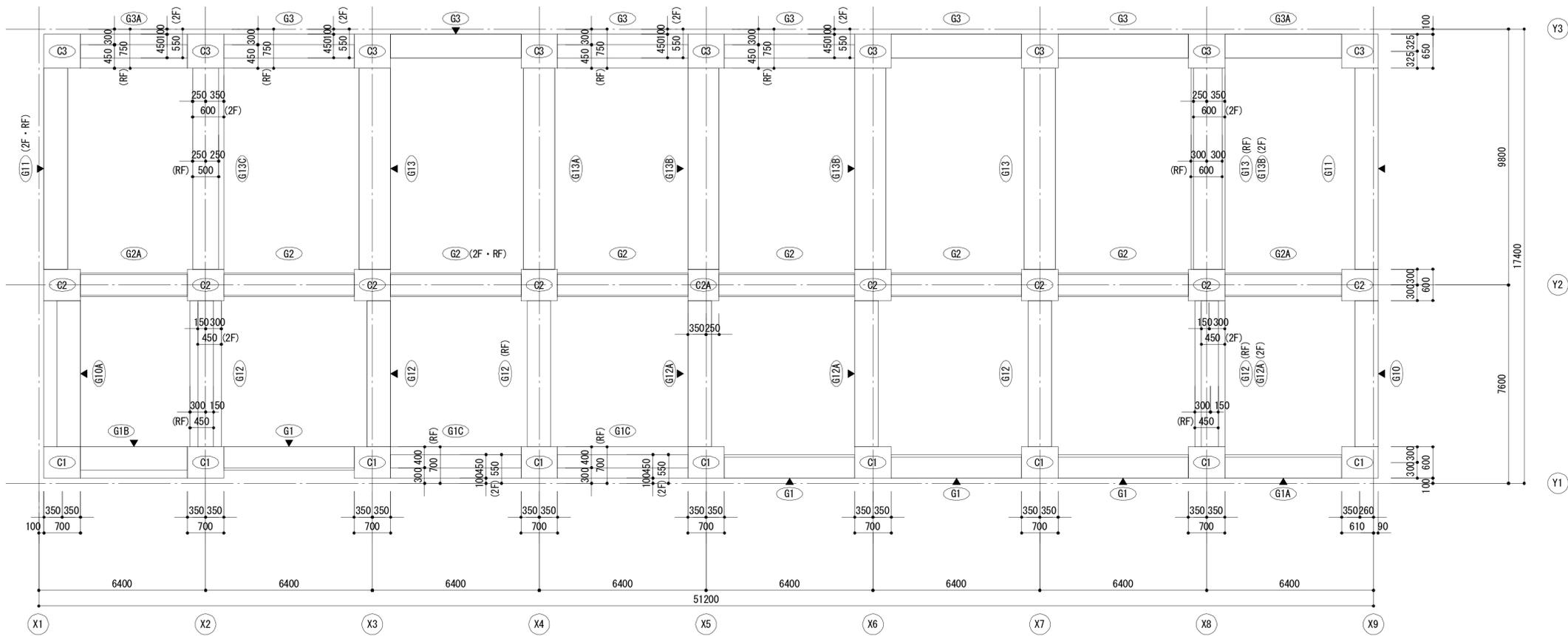
・主筋の上下関係

X方向とY方向の梁主筋レベルが同一の場合は、梁主筋を下図の通り配筋のこと。



・基礎梁凡例





芯線図

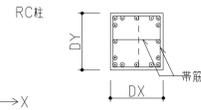
- 特記無き限り下記による
- ▲ 表示は梁の不動面を示す。
▲ 表示がない梁は、通り心と梁心が一致するものとする。

竣工年月日		監理者		城南衛生管理組合	株式会社 大建設計	DATE 2022. 3	PROJ. NO. 0-2021-056	PROJ. TITLE 城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	S
施工者						CHECK		DWG. TITLE 芯線図	DWG. NO. 1/100, 200 (A1) SCALE 1/200, 400 (A3) 026

柱リスト

特記無き限り下記による
1. 外周帯筋は溶接閉鎖型とする。

階	符号	C1	C1A	C2	C2A	C3
2F	柱頭かんざし筋	X 3 $\bar{\text{I}}$ -D16 Y 2 $\bar{\text{I}}$ -D16				
	接合部帯筋	□-D13 $\bar{\text{I}}$ 100				
	断面					
	DX x DY	700x600	700x600	700x600	600x600	700x650
	主筋	18-D22	18-D22	18-D22	16-D22	18-D22
	帯筋	□-D13 $\bar{\text{I}}$ 100				
1F	接合部帯筋	□-D13 $\bar{\text{I}}$ 100				
	断面					
	DX x DY	700x600	700x600	700x600	600x600	700x650
	主筋	18-D22	20-D22	18-D22	16-D22	22-D22
	帯筋	□-D13 $\bar{\text{I}}$ 100				
	接合部帯筋	□-D13 $\bar{\text{I}}$ 100				



小梁リスト

特記無き限り下記による
1. 中止筋はD10 $\bar{\text{I}}$ 1000以下とする。

符号	B50	B60	B60A	B65	B65A		B70
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	両端	中央	全断面
断面							
B x D	200x500	350x600	350x600	350x650	350x650		450x700
上端筋	2-D16	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22
下端筋	2-D16	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	6-D22	5-D22
肋筋	□-D10 $\bar{\text{I}}$ 200		□-D13 $\bar{\text{I}}$ 200				
腹筋	-	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10
備考							

符号	B90		B90A			B95		B95A	
位置	両端	中央	Y2端	中央	他端	Y2端	他端・中央	両端	中央
断面									
B x D	500x900		500x900			500x950		500x950	
上端筋	6-D22	6-D22	8-D22	6-D22	6-D22	7-D22	5-D22	5-D22	5-D22
下端筋	6-D22	11-D22	6-D22	7-D22	6-D22	5-D22	5-D22	5-D22	8-D22
肋筋	□-D13 $\bar{\text{I}}$ 200		□-D13 $\bar{\text{I}}$ 200			□-D13 $\bar{\text{I}}$ 200		□-D13 $\bar{\text{I}}$ 200	
腹筋	4-D10		4-D10			4-D10		4-D10	
備考									

スラブリスト

特記無き限り下記による
1. CS21・CS25に連続するスラブには、CS21・CS25側の上端(CS21・CS25の主筋方向)に下記の補強筋を追加する。
CS21 : D13 $\bar{\text{I}}$ 200 (L=1500) CS25 : D13 $\bar{\text{I}}$ 200 (L=2500)

符号	厚さ	位置	主筋方向		配力筋方向		備考
			端部	中央	端部	中央	
S15	150	上端筋	D10D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
		下端筋	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
S15A	150	上端筋	D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
		下端筋	D10D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
S18	180	上端筋	D10D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
		下端筋	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
CS15	150	上端筋	D10D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
		下端筋	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
CS21	210	上端筋	D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
		下端筋	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
CS25	250	上端筋	D13 $\bar{\text{I}}$ 100	← 同左	D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
		下端筋	D13 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D10 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
FS40	400	上端筋	D16 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D16 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	
		下端筋	D16 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	D16 $\bar{\text{I}}$ 200	← 同左	

壁リスト

特記無き限り下記による
1. 巾止筋はD10 $\bar{\text{I}}$ 1000以下とする。

符号	W15	W18	EW18	EW30	KW20	
断面						
縦筋	D10 $\bar{\text{I}}$ 200 (チドリ)	D13 $\bar{\text{I}}$ 200 (ダブル)	D13 $\bar{\text{I}}$ 200 (ダブル)	D16 $\bar{\text{I}}$ 200 (ダブル)	D13 $\bar{\text{I}}$ 150 (ダブル)	
横筋	D10 $\bar{\text{I}}$ 200 (チドリ)	D13 $\bar{\text{I}}$ 200 (ダブル)	D13 $\bar{\text{I}}$ 200 (ダブル)	D16 $\bar{\text{I}}$ 200 (ダブル)	D10 $\bar{\text{I}}$ 200 (ダブル)	
開口	縦	2-D10	2-D13	2-D16	-	2-D13
	横	2-D10	2-D13	4-D16	-	2-D13
	斜	2-D10	2-D13	2-D16	-	2-D13
備考						

鉄骨柱断面リスト

特記無き限り下記による
1. 鋼材種別は、BCR295とする。

階	符号	位置	断面
2階	SC1	-	-
1階	SC1	○-267.4 x 12.7	STK400
柱脚	断面		
	B x D	600 x 600	
	主筋	12-D16	
	HOOP	□-D13 $\bar{\text{I}}$ 100	
	ベースプレート	350x350x22 (SM490C)	
	アンカーボルト	4-M16 (ABR400, L=320) 2重ナット締め、フック付き	
備考			

鉄骨大梁断面リスト

特記無き限り下記による
1. 鋼材種別は、SN400Bとする。
2. 継手仕様は、S-12 継手基準図(1)による。

階	SG1		SCG1	
	位置	部材	位置	部材
RFL	中央	/	中央	/
	端部	/	端部	/
2FL	中央	H-250 x 125 x 6 x 9	中央	H-250 x 125 x 6 x 9
	端部	/	端部	/

鉄骨造部材リスト

特記無き限り下記による
1. 高力ボルト種別は、F8T相当とする。

符号	断面	備考・接合	
SB1	H-250 x 125 x 6 x 9	SS400	S-13 小梁継手 (1)

大梁リスト

特記無き限り下記による

- 巾止筋はD10@1000以下とする。
- Ldは、配筋基準図(2)8.大梁による。
- D13以上の腹筋は柱内にL2定着を確保する。

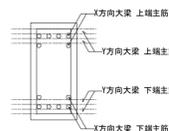
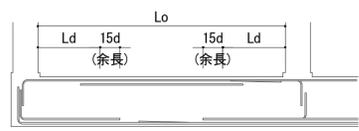
階	符号	G1		G1A		G1B			G1C		G2		G2A			G2B		G3		G3A				
		位置	端部	中央	端部	中央	(X1)端	中央	(X2)端	端部	中央	端部	中央	(X1)・(X9)端	中央	(X2)・(X8)端	端部	中央	端部	中央	(X1)・(X9)端	中央	(X2)・(X8)端	
RFL																								
	B x D		400x900		400x900		600x600			400x900		400x900		400x900			400x900		450x900		450x900			
	上端筋		5-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	7-D22	7-D22	5-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	4-D22	6-D22	4-D22	5-D22	5-D22	5-D22	6-D22
	下端筋		4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	7-D22	5-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	6-D22	6-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22
	Ld	上端筋																						1700
	筋筋		□-D10@200		□-D10@200		□-D13@200			□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200			□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200			
腹筋		4-D10		4-D10		2-D10			4-D10		4-D10		4-D10			4-D10		4-D10		4-D10				
備考																								
2FL																								
	B x D		450x950		450x950		450x950			450x950		450x950		450x950			450x950		450x950		450x950			
	上端筋		7-D22	5-D22	7-D22	5-D22	7-D22	5-D22	7-D22	7-D22	5-D22	7-D22	5-D22	6-D22	5-D22	7-D22	7-D22	5-D22	7-D22	5-D22	8-D22	5-D22	7-D22	7-D22
	下端筋		5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	6-D22	5-D22	5-D22	5-D22
	Ld	上端筋																						1950
	筋筋		□-D10@200		□-D10@200		□-D13@200			□-D10@100		□-D10@200		□-D10@200			□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200			
腹筋		4-D10		4-D10		4-D10			4-D16		4-D10		4-D10			4-D10		4-D10		4-D10				
備考																								

階	符号	G10	G10A		G11	G12			G12A	G13			G13A			G13B			G13C				
		全断面	(Y1)端	中央	(Y2)端	全断面	(Y1)端	中央	(Y2)端	全断面	(Y2)端	中央	(Y3)端	(Y2)端	中央	(Y3)端	(Y2)端	中央	(Y3)端	(Y2)端	中央	(Y3)端	
RFL																							
	B x D	450x900	700x600		450x900	450x900			450x900	600x900			600x900			600x900			500x900				
	上端筋	5-D22	5-D22	9-D22	12-D22	5-D22	4-D22	4-D22	7-D22	4-D22	8-D22	6-D22	5-D22	8-D22	6-D22	5-D22	7-D22	6-D22	5-D22	7-D22	5-D22	5-D22	5-D22
	下端筋	5-D22	5-D22	7-D22	5-D22	5-D22	4-D22	7-D22	4-D22	4-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22
	Ld	上端筋																					2350
	筋筋		□-D13@200		□-D10@200		□-D10@200			□-D10@200		□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200		
腹筋		4-D10		2-D10		4-D10			4-D10		4-D10			4-D10			4-D10			4-D10			
備考																							
2FL																							
	B x D	450x950	450x950		450x950	450x950			450x950	600x950			600x950			600x950			600x950				
	上端筋	5-D22	5-D22	5-D22	7-D22	5-D22	5-D22	7-D22	9-D22	4-D22	11-D22	6-D22	9-D22	6-D22	6-D22	9-D22	11-D22	6-D22	7-D22	11-D22	6-D22	9-D22	
	下端筋	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	5-D22	4-D22	6-D22	7-D22	6-D22	6-D22	7-D22	6-D22	6-D22	6-D22	6-D22	6-D22	6-D22	6-D22	
	Ld	上端筋																					
	筋筋		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200			□-D10@200		□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200		
腹筋		4-D10		4-D10		4-D10			4-D10		4-D10			4-D10			4-D10			4-D10			
備考																							

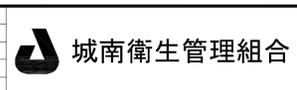
共通事項

・カットオフ配筋要領
梁端部主筋のカットオフ長さは、MAX(Lo/4, Ld)+余長とする。梁リストにLdの記載がないものはLo/4+余長とする。カットオフ長さが重なる場合は、カットオフを設けずに通し配筋とすること。

・主筋の上下関係
X方向とY方向の梁天端レベルが同一の場合は、梁主筋を下図の通り配筋のこと。



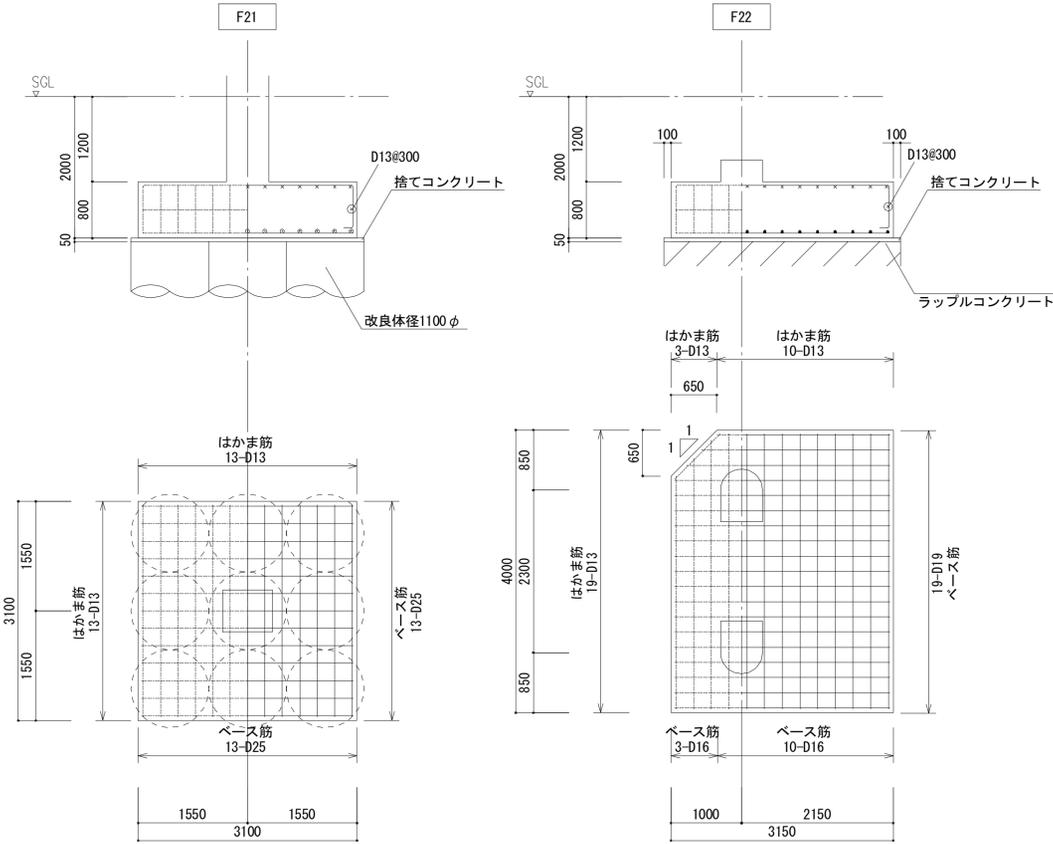
竣工年月日	
監理者	
施工者	



後にごろろ	DATE	2022. 3.
CHECK	PROJ. NO.	0-2021-056

PROJ. TITLE	城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	S
DWG. TITLE	大梁リスト	
SCALE	1/50 (A1) 1/100 (A3)	DWG. NO. 028

基礎リスト



鉄骨造部材リスト

特記無き限り下記による

- 高力ボルト種別は、F8T相当とする。
- 鋼材種別は、SS400とする。

符号	断面	備考・接合
SB11・SCB11	H-300×150×6.5×9	S-13 小梁継手 (⊕)
SB12・SCB12	H-300×150×6.5×9 + [-250×90×9×13	S-13 小梁継手 (⊕) [-250×90×9×13は床受け材とし、小梁上に設置する。
SP11	□-200×200×16	BCR295
SP12	○-216.3x12.7	STK400
V11	M-18	JISターンバックル
HV11	2L-65×65×6	

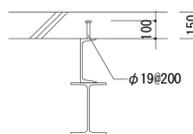
鉄骨大梁断面リスト

特記無き限り下記による

- 鋼材種別は、SM400Bとする。
- 継手仕様は、S-12 継手基準図(1)による。

階	SG11		SG21		SG22		SG11		SG21	
	位置	部材	位置	部材	位置	部材	位置	部材	位置	部材
RFL	中央	H-300×150×6.5×9	中央	H-300×150×6.5×9	中央	H-300×150×6.5×9	中央	H-300×150×6.5×9	中央	H-300×150×6.5×9
	端部		端部		端部		端部		端部	
2FL	中央	H-294×200×8×12	中央	H-294×200×8×12	中央	H-300×150×6.5×9	中央	H-294×200×8×12	中央	H-294×200×8×12
	端部	+ [-250×90×9×13	端部		端部		端部	+ [-250×90×9×13	端部	
備考	[-250×90×9×13は床受け材とし、大梁上に設置する。				[-250×90×9×13は床受け材とし、大梁上に設置する。					

スタッド配置要領



基礎梁リスト

特記無き限り下記による

- 主筋の継手位置は、S-003 6. A (2) 「(A)独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合」とする。
- 幅止め筋 D10@1000以内

符号	F621
位置	全断面
▽IFL	
断面	
B x D	600x1000
上端筋	5-D25
下端筋	5-D25
Ld	
上端筋	
下端筋	
肋筋	□-D13@200
腹筋	4-D13
備考	

壁リスト

特記無き限り下記による

- 巾止筋はD10@1000以下とする。

符号	W60
断面	
縦筋	D16@200 (ダブル)
横筋	D16@200 (ダブル)
開口	縦 -
	横 -
補強筋	斜 -
備考	

大梁リスト

特記無き限り下記による

- 巾止筋はD10@1000以下とする。
- Ldは、配筋基準図(2)8. 大梁による。
- D13以上の腹筋は柱内にL2定着を確保する。

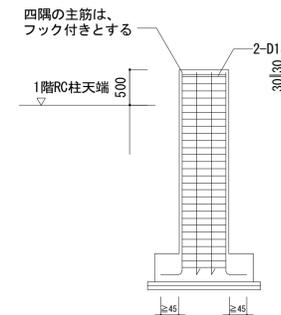
階	符号	G21
	位置	全断面
2FL -950		
	B x D	600x600
	上端筋	4-D19
	下端筋	4-D19
	肋筋	□-D13@200
	腹筋	2-D10
備考		

柱断面リスト

特記無き限り下記による

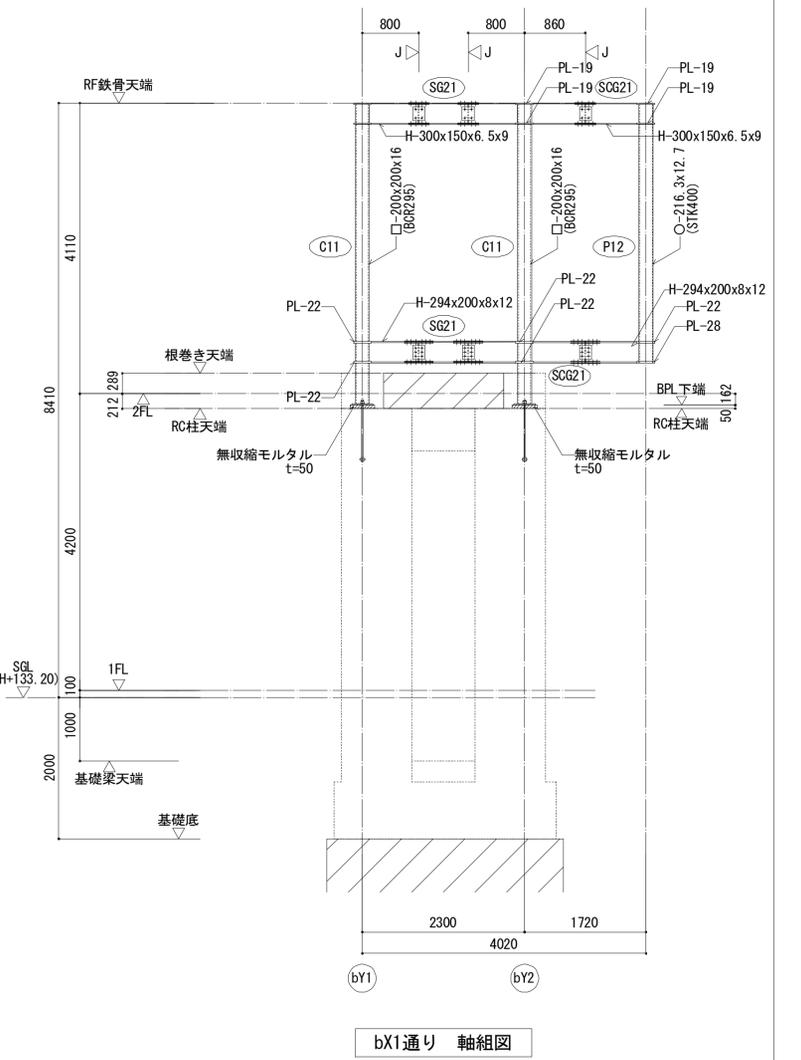
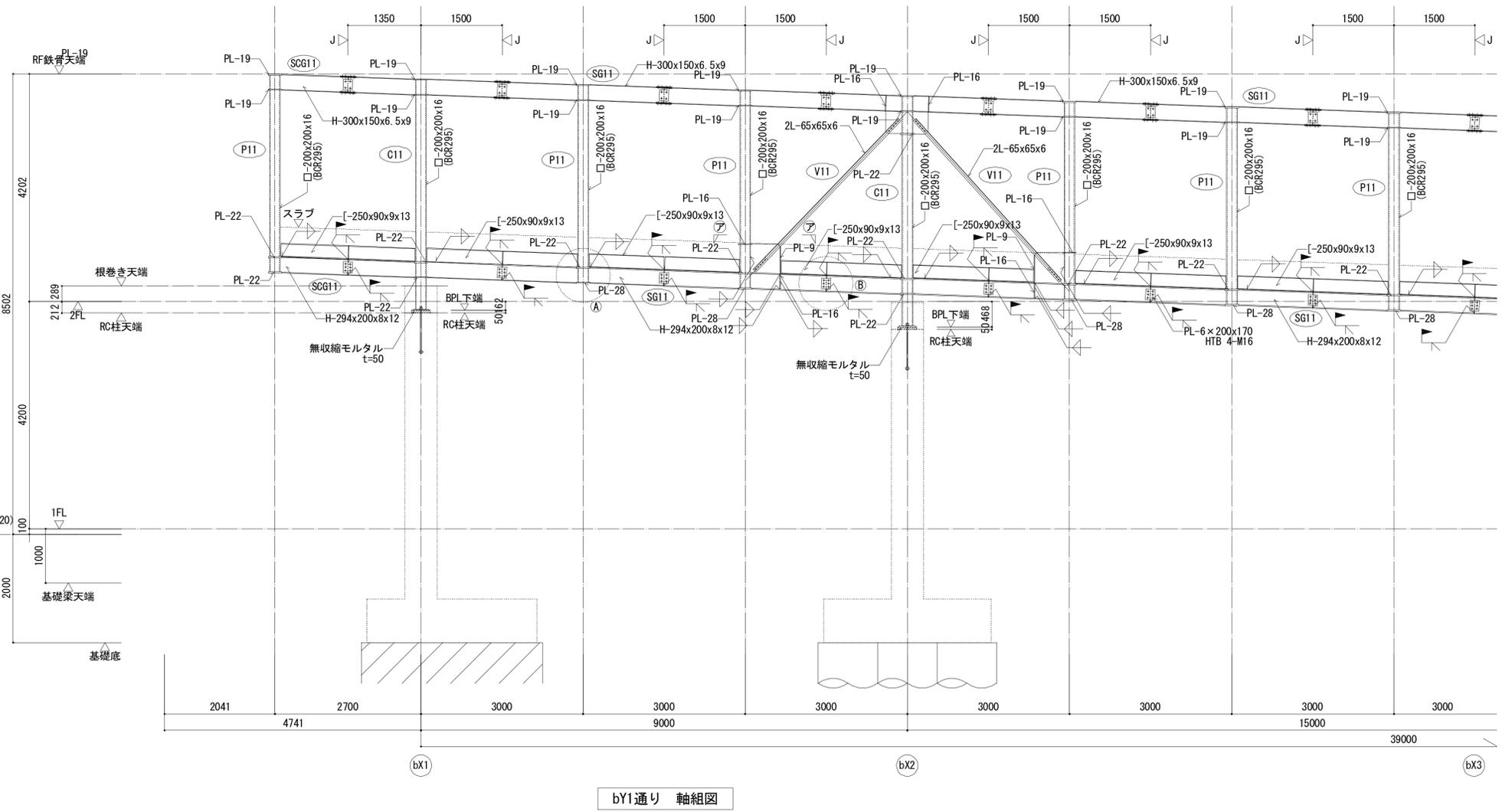
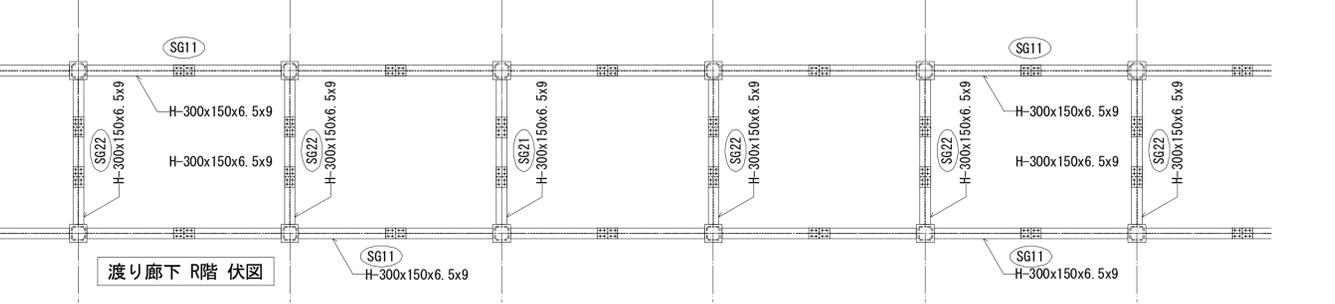
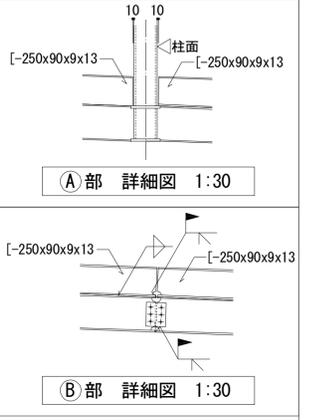
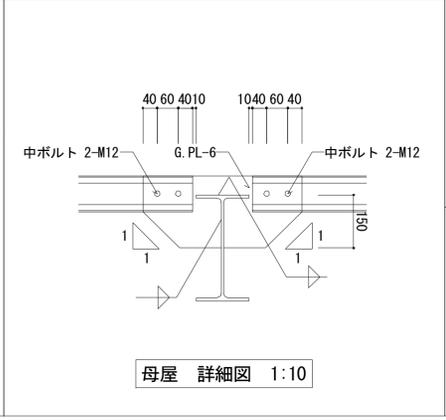
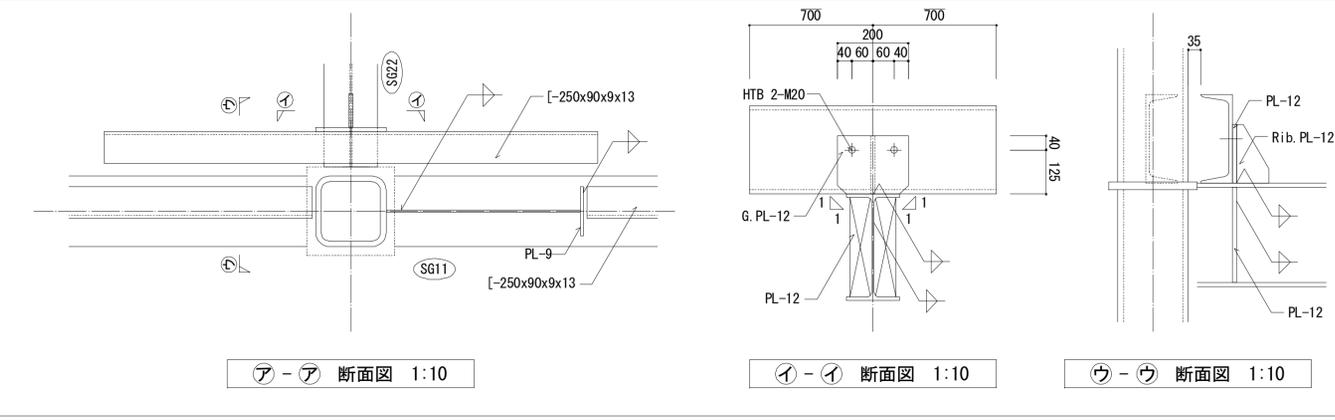
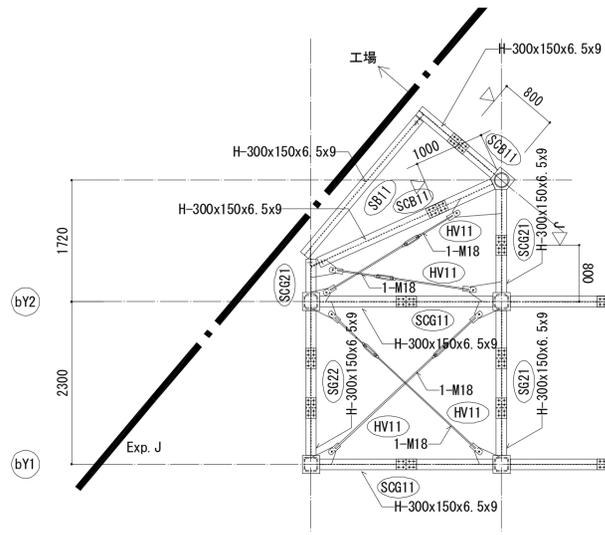
- 鋼材種別は、BCR295とする。

符号	C11	根巻き部配筋要領
2階	鉄骨	□-200×200×16
	断面	
	B x D	φ600
	主筋	12-D16
	HOOP	○-D13@100
	ベースプレート	300x300x22 (SM490C)
1階	アンカーボルト	4-M24 (ABR490, L=480) 2重ナット締め 定着板 PL-75x75x16
	備考	
	接合部帯筋	□-D13@100
	断面	
	DX x DY	φ600 (半円) +600x450
	主筋	18-D25
帯筋	□-D13@100	
接合部帯筋	□-D13@100	
備考		

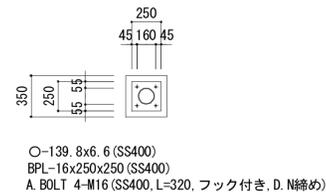
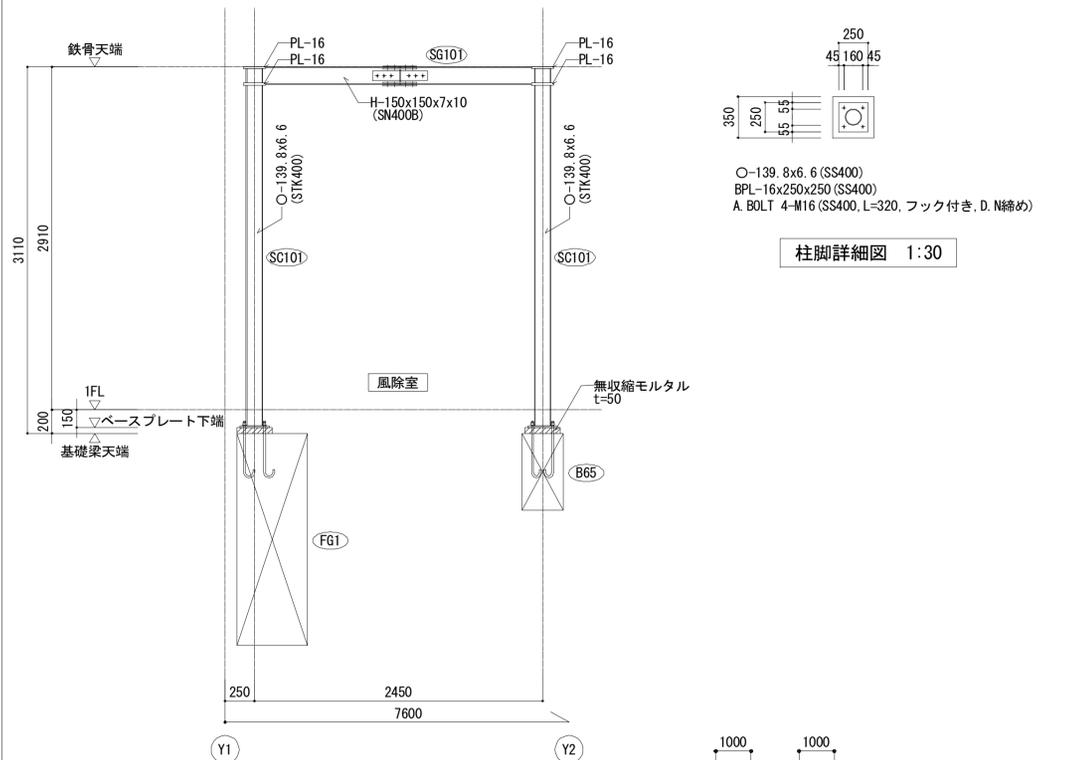


スラブリスト

符号	厚さ	位置	主筋方向		配筋方向		備考
			端部	中央	端部	中央	
S15B	150	上端筋	D10D13@200	← 同左	D10@200	← 同左	型枠用デッキプレート、垂鉛メッキZ12 デッキ板厚 (L<2200mm) t=0.8mm, (2200≤L<2450) t=1.0mm, (2400<L≤2600) t=1.2mm
			下端筋	D10@200	← 同左	D10@200	

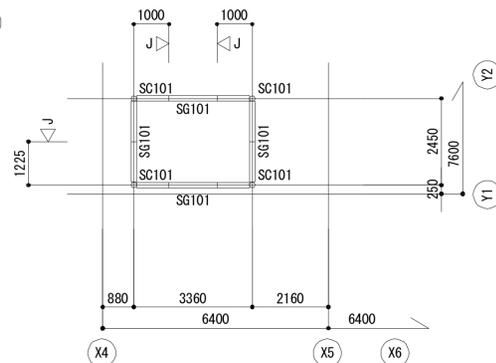


竣工年月日		城南衛生管理組合	株式会社 大建設計	DATE	2022 3	PRDJ. NO.	0-2021-056	PROJ. TITLE	城南衛生管理組合新事務所棟建設工事 (主体工事)	S
監理者				CHECK				DWG. TITLE	鉄骨詳細図	1/50 (A1) SCALE 1/100 (A3)
施工者								DWG. NO.		031



柱脚詳細図 1:30

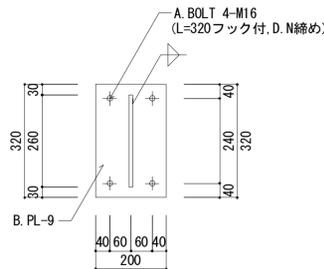
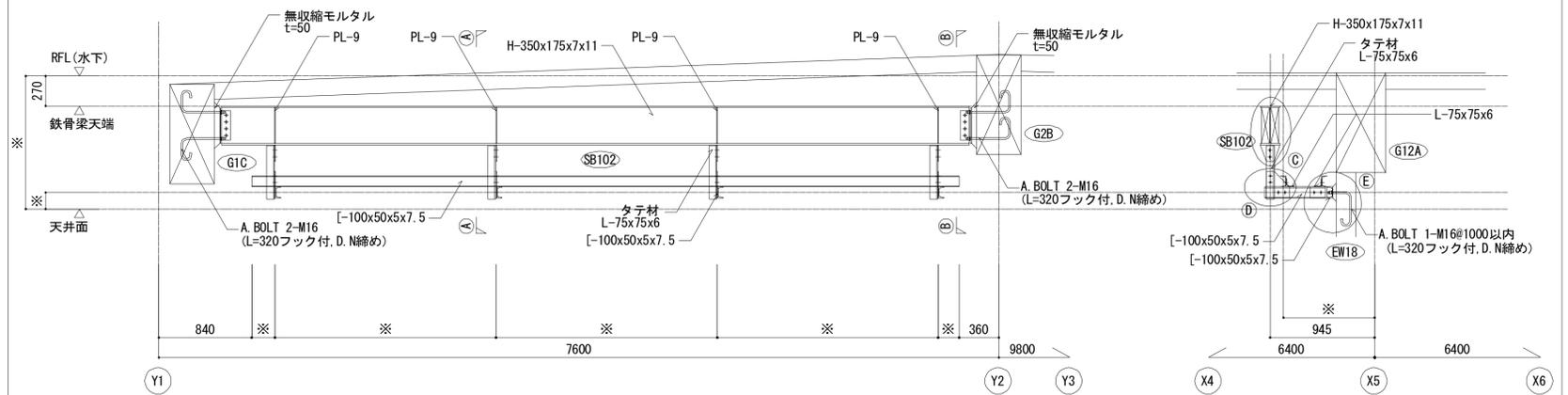
X4通り-880・X5通り-2160 軸組図 1:30



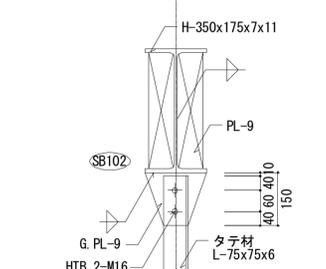
鉄骨リスト

- 特記無き限り下記による
1. 鋼材種別は、SN400Bとする。
2. 継手仕様は、S-12 継手基準図(1)による。

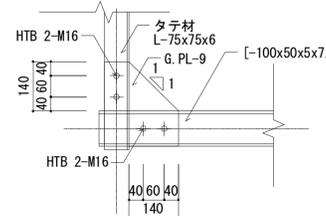
符号	鉄骨部材	材種
SC101	O-139.8x6.6	STK400
SG101	H-150x150x7x10	



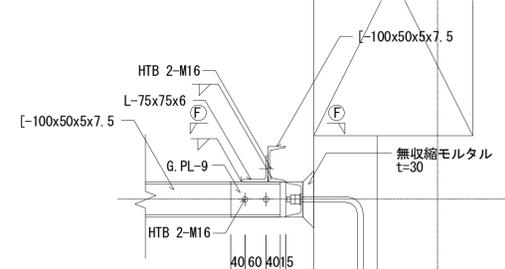
B-B 断面図 1:10



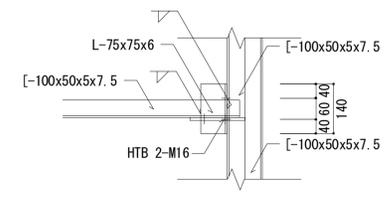
C部 詳細図 1:10



D部 詳細図 1:10

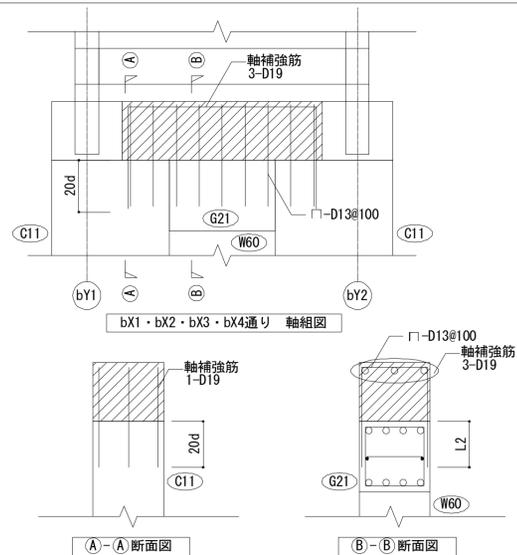


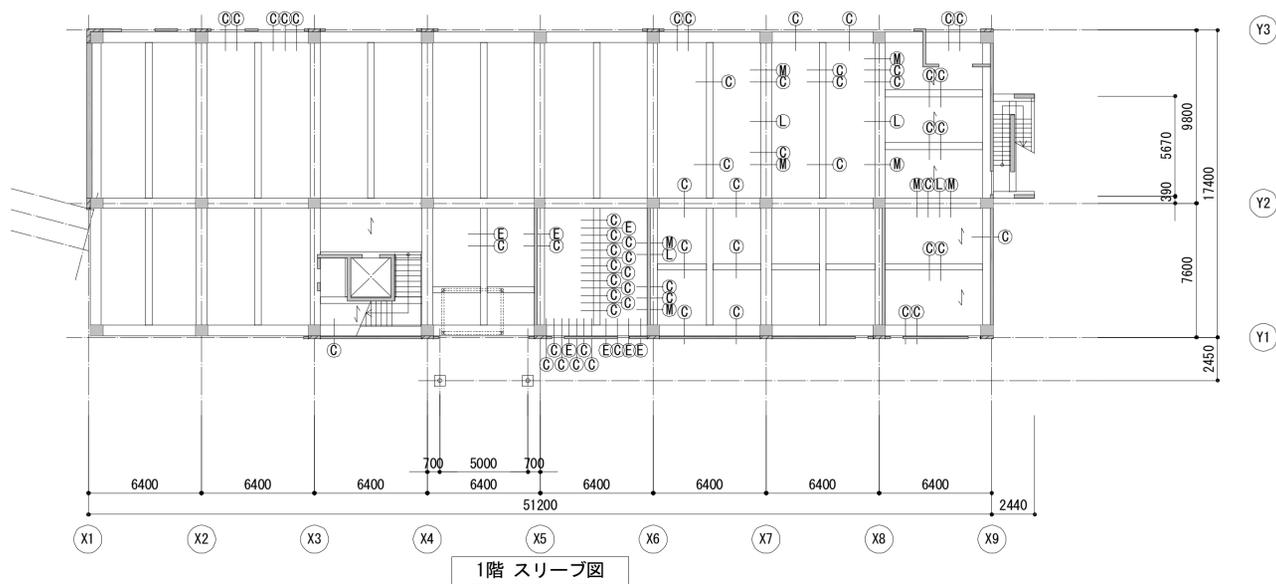
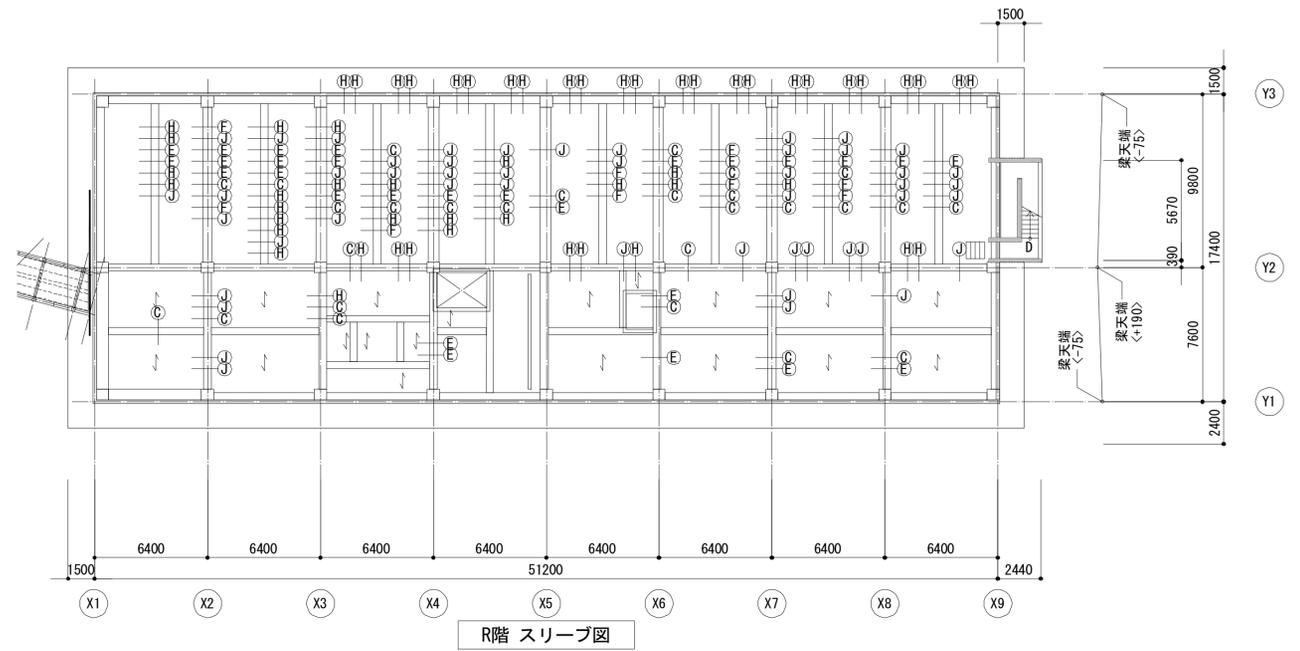
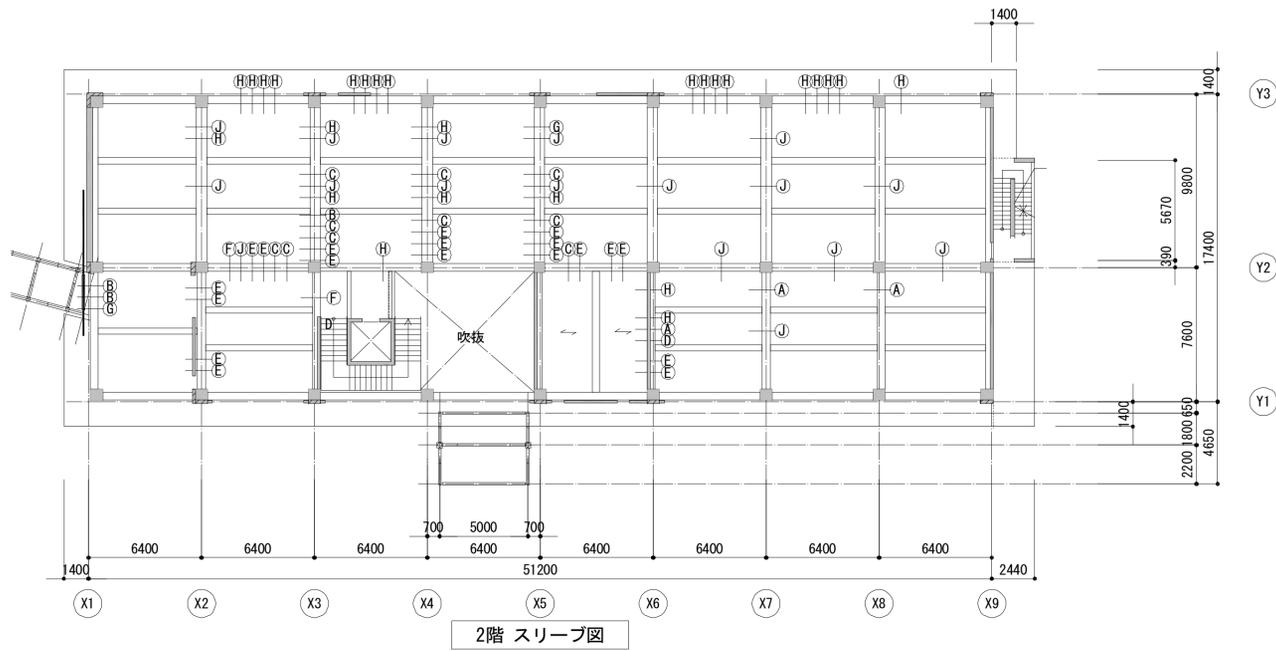
E部 詳細図 1:10



F-F 断面図 1:10

- ・鉄骨はSS400とする。
- ・高力ボルト種別はF10T(S10T)とする。
- ・※印で示す寸法は意匠図による。





- 特記無き限り下記による
- ☒ は人通孔を示す。
 - 図は参考とし、スリーブの位置・口径は現場にて再度検討を行うこと。
 - 貫通孔補強は、S-016梁貫通孔補強標準仕様書による。
- 監督職員の許可を得て、工法の変更は可能とする。

記号	口径	記号	口径	記号	口径
A	50φ	J	300φ	L	600φ (人通孔)
B	80φ			M	上部50φ+下部100φ半割 (通気管+連通管)
C	100φ				
D	125φ				
E	150φ				
F	175φ				
G	200φ				
H	250φ				